

1810迄 (2641件)

- 1801年-08:00|マレーシア| |||<就任>ナニグ 統治者(オラング・カヤ・セリ・ラジヤ・メラ)「ダトウク・アブドゥル・サイド・ビン・オマル」(~1849年)
- 1801年-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>モルッカ諸島イギリス居留者代表「ヘンリー・Webber」(~1803年)
- 1801年-08:00|インドネシア| |||<即位>テルナテ・スルタン「Muhammad Jasin」(~1807年)
- 1801年-08:00|インドネシア| |||<即位>ハンテン王国スルタン「Sultan Abu al-Nashar Muhammad Ishaq Zainulmutaqin」(~1802年)
- 1801年-05:30|インド| |||<死去>マロウ 国統治者(ターケル)「ナハル・チャンド」
- 1801年-05:30|インド/アフガニスタン| |||<就任>アフガニスタン・カシミール総督「ウァキル・カーン」⇒「アブドゥラ・カーン・アロザイ」(2回目~1812年)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>カッチ国統治者(ミルザ・マハラオ)「ラヤタンジ 3世」(2回目~18131030)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>カルダ 国統治者(ターケル)「ウジヤル・シン」(~1848年)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>クランドワト 国統治者(ラオ)「トリンパクラーオ2世アッハ・サヒブ・ハトワルダン」(~1812年)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>ケオントール 国統治者(ラ)「ラウナート・セン」(1回目~1803年)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>サンガリ 国統治者(ラ)「チンタマン・ラオ1世アッハ・サヒブ」ミラージュから分離(~18510715没)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>ニルギリ 国ラジャ「コヒナート・マルドラーシ・ハリチャンドン」(2回目~1802年)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>マニポール 国ラジャ「マトウチャント・ラシン」(~1806年没)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>マロウ 国統治者(ターケル)「サンサル・チャンド」(1回目~1803年)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>ミラージュ 国統治者(ラ)「ガングタル・ラオ1世」(~1819年)
- 1801年-05:30|インド| |||<就任>モハンポール 国統治者(ターケル)「サラムシンジ」(~不明)⇒「ライシンジ」(~1850年)
- 1801年-05:30|インド| |||<即位>ダティア 国統治者(マハラジャ・ラオ・ラジヤ)「ハリチャット・シン」(~不明)
- 1801年-05:30|インド/イギリス| |||ランプール 国のロヒカントはアクトによって英領インドに割譲される/ランプールは英領インドに従属
- 1801年-05:00|ウズベキスタン/ガフラスタン/キルギス/タジキスタン| |||<死去>コーカント・ハン国ベイ「ナルバト・ベイ」
- 1801年-05:00|パキスタン| |||<就任>シンド 国カン「コーラム・アリ・ブン・ソフダル」(~1811年)、「カリム・アリ・ブン・ソフダル」(~1828年)、「モト・アリ・ブン・ソフダル」(~1833年)
- 1801年-05:00|パキスタン| |||<就任>ミルポール 国ミール「アホ・カーン・ブン・モト・アリ」タルポール氏族の分家により建国(~1829年)
- 1801年-05:00|ウズベキスタン/ガフラスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>コーカント・ハン国ハン「アーリム・ハン」(~1810年死去)最初にハンを称する
- 1801年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>タシュケント支配者「Muhammad Khwaja」(~1805年死去)
- 1801年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>カーブル首相(ワズール・イ・アザム)「ファテ・カーン・モハマト・ザイ」(1回目~1803年)
- 1801年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ナフチヴァン汗国ハン「カルブ・アリ・ハーン」(2回目~1804年)
- 1801年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>バケ汗国ハン「フサイン・クリ・ハーン」(2回目~18061006)
- 1801年-04:00|ロシア| |||テレルハントはロシアの宗主権下(~1802年)
- 1801年-03:30|イラン| |||<就任>カラエイ汗国カン「サルダール・エジャク・カーン・カラエイ・トルハティ」建国(~1816年没)
- 1801年-03:00|スーダン| |||<死去>ダルフール・スルタン国スルタン「アブドゥル・アラフマン・アルラント」
- 1801年-03:00|エチオピア| |||<即位>アウサ・スルタン国スルタン「イジュタ・ヒス・ムハンマト・イブン・イジュタ・ヒス」(~1802年)
- 1801年-03:00|スーダン| |||<即位>ダルフール・スルタン国スルタン「ムハンマト 3世アル=ファトル」(~1839年没)
- 1801年-03:00|パレールン/サウジアラビア| |||パレールンはテイルイヤの宗主権下(~1811年)
- 1801年-03:00|サウジアラビア| |||ワッハブ派がカルバラを襲撃し略奪
- 1801年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレッポ・ワリス(総督)「Kataragasi Ibrahim Pasha」(1期目~1803年)
- 1801年-01:00|ドイツ| |||<就任>イゼンブルク=ビュテングェン伯「エルスト・カシミール3世」(⇒1840年イゼンブルク=ビュテングェン侯「エルスト・カシミール1世」(~1848年))
- 1801年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Antonio Ferrero」(~1805年死去)
- 1801年-01:00|カメルーン| |||<即位>マルア・スルタン国スルタン「ハマン・ダマラム」建国(~1846年)
- 1801年-01:00|イタリア| |||<復位>ピオンビノ公「Antonio」(~1805年)
- 1801年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官「ホセ・ジョアキン・デ・スザ・トルヴァン」(~1803年2月)
- 1801年 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>ガ島司令官「Thomas Dinzey」(~1803年)
- 1801年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サンサルバドル管理者代行「ルイス・デ・アルケダ」(~1802年)
- 1801年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ルイジアナ植民地総督「ファン・ヌニョ・デ・サルセド」(~1803年)
- 1801年1月 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>フランス領セネガル総督代行「ド・シャルボンヌ」(~18020702)
- 1801年1月1日-08:00|インドネシア/オランダ| |||オランダの植民地VOCは解散
- 1801年1月1日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「ゲオルク・ウインツェンツ・ヨスト・ルトグイヒ・リュッティマン」Uni(1期目~31日)
- 1801年1月1日-01:00|イタリア| |||イタリアの天文学者ジュゼッペ・ピッツィ(55)が小惑星の「ケレス」を発見/初めての小惑星の発見
- 1801年1月1日 00:00|アイルランド/イギリス| |||イギリス連合王国の艦船に使用するユニオン・ジャックに、アイルランドのセント・パトリック・クロスが加えられて現在のユニオン・ジャックの原型ができる
- 1801年1月1日 00:00|イギリス/アイルランド| |||グレートブリテン王国とアイルランド王国が合同し、グレートブリテンおよびアイルランド連合王国が誕生/グレートブリテン王ジョージ3世が国王(-1820)アイルランド王国は消滅
- 1801年1月2日 04:00|トミニカ共和国/ハイチ| |||トゥサン指導のハイチ黒人武力闘争軍がサント・ドミンゴを制圧
- 1801年1月3日-13:30|キリバス/アメリカ| |||ハナバ島が、米国のジェレット・ガーデナー大尉によって発見され、ロッドマンズ島と名付けられた

1810迄 (2641件)

- 1801年1月3日-01:00|フランス/イタリア| |||フランスはヴェローナに入城
- 1801年1月4日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス領シエラレオネ植民地総督「ウィリアム・トーズ」(3回目~18030215)
- 1801年1月6日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル首相「バルセマ子爵ルイ・ピント・デ・ソサ・Coutinho」(~18040414死去)
- 1801年1月6日-09:00|日本|東京都中央区|寛政12年11月22日|銀座を蠣殻町に移転
- 1801年1月9日-04:00|ジョージア| |||<死去>カトリック教皇「ギオルギ12世」
- 1801年1月9日-04:00|ジョージア| |||<即位>カトリック教皇「ダヴィット・パヴラティオ皇太子」(~6.18)
- 1801年1月10日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・嘉慶5年11月26日|李氏朝鮮が天主教を禁止
- 1801年1月14日 00:00|イギリス| |||イギリスが、北欧武装中立同盟加入国の船舶の港への出入を禁止
- 1801年1月14日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンゴ 総督「フランソワ・ジャック・ルコワト・モンロー」(~1803年)
- 1801年1月15日-09:00|日本|大阪府大阪市|寛政12年12月|<出版>大阪の浮世絵師松好斎半兵衛「戯場楽屋図会」
- 1801年1月16日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ホウズ伯「ジョージ・エドワード・ヘンリー・アーサー・ハーバート」廃絶
- 1801年1月17日-01:00|オランダ| |||<就任>パタゴニア共和国行政長官「ヤン・ヘンドリック・ファン・スウィンデン」(2回目~2.16)
- 1801年1月21日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<死去>ガリツァ総督「Johann Jakob Graf von Gaisruck」
- 1801年1月24日-09:00|日本|東京都|寛政12年12月10日|<死去>仙台藩江戸詰の藩医で経世論家、工藤平助(67)
- 1801年1月26日 04:00|ドミニカ共和国/ハイチ| |||<就任>ハイチ領サント・ミンゴ 総督「ピエール・フランソワ・トミニク・トゥーサン＝ルヴェル」(~18020520)
- 1801年1月26日 04:00|ドミニカ共和国| |||トゥーサン、イスパニョール総督を宣言/奴隷制度を廃止し、黒人奴隷を解放
- 1801年1月26日 04:00|ドミニカ共和国/ハイチ| |||ハイチがサント・ミンゴ 占領(~18020520)、フランス共和国に代わって奴隷制度の廃止を宣言
- 1801年1月28日 00:00|イギリス/イラン| |||ペルシャがイギリスとの攻守同盟と通商条約に調印
- 1801年2月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ガリツァ総督代理「Joseph Franz de Paula Graf von Sweets-Spork」(~1801.8)
- 1801年2月1日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「フランソワ・ピエール・サヴァリ」U-F(1期目~28日)
- 1801年2月3日 06:00|アメリカ| |||アメリカ上院、米仏協定承認
- 1801年2月4日 00:00|イギリス| |||<昇格>エクセター伯「ヘンリー・セル」⇒エクセター侯(~18040501死去)
- 1801年2月4日-09:00|日本|東京都千代田区|寛政12年12月21日|伊能忠敬が蝦夷東南東海岸と奥州街道の略測図を幕府に上呈/日本初の実測地図
- 1801年2月7日-01:00|フランス| |||フランスで、浮浪と略奪を取締る特別治安法廷設置
- 1801年2月9日-01:00|イタリア/オーストリア/フランス| |||オーストリアはライン川の左端をフランスに割譲し、北イタリアなどをフランスの保護国とした
- 1801年2月9日-01:00|イタリア/オーストリア/フランス| |||トスカナはオーストリアから、フランスの手に渡りトスカナ大公国は廃止
- 1801年2月9日-01:00|オーストリア/フランス| |||フランスがオーストリアとリュネヴィルの和を結ぶ
- 1801年2月9日-01:00|ドイツ/フランス| |||リュネヴィル条約により、ライプツィヒはフランスに併合
- 1801年2月9日-01:00|ベルギー/フランス| |||レックハイムを正式にフランスに割譲
- 1801年2月9日-09:00|日本|大分県杵築市|寛政12年12月26日|<死去>松平親盈(75歳)前豊後杵築藩主
- 1801年2月13日-09:00|日本| ||寛政13年|<刊行>関赤城「雲遊後録」(「中山紀行」を含む)
- 1801年2月13日-07:00|ベトナム| ||大越・宝興1年|大越西山朝阮文贊、宝興と改元(-1802)
- 1801年2月13日 06:00|アメリカ| |||J.アダムズ 大統領、1801年裁判所法に署名
- 1801年2月13日-09:00|日本| ||寛政13年1月|<出版>歌川豊国「俳優三階興」
- 1801年2月13日-09:00|日本| ||寛政13年1月|<出版>歌麿「絵本四季花」
- 1801年2月13日-09:00|日本| ||寛政13年1月|<出版>北斎と鳥文斎栄之「女房三十六人歌合」
- 1801年2月13日-09:00|日本| ||寛政13年1月|<出版>鈴木芙蓉「熊野名勝図会」
- 1801年2月14日 04:00|アンティグア・バブーバ/イギリス| |||<就任>リワード・カリブー諸島総司令官・総督「レントン男爵ルフアン」(2回目~18070801)
- 1801年2月16日 00:00|イギリス| |||<辞任>グレートブリテン王国首相「ウィリアム・ピット」(~3.14権限移譲)
- 1801年2月17日-01:00|オランダ| |||<就任>パタゴニア共和国行政長官「アルバート・ウィルム・ハス」(7回目~3.16)
- 1801年2月17日 06:00|アメリカ| |||大統領選挙:決選投票で民主共和党トマス・ジェファソンが当選
- 1801年2月17日-09:00|日本|群馬県伊勢崎市|寛政13年1月5日|<死去>酒井忠温(65歳)前上野伊勢崎藩主
- 1801年2月20日-01:00|マルタ/イギリス| |||<就任>イギリス領マルタ総督代理「ヘンリー・Pigot」(~7.5)
- 1801年2月27日-09:00|日本|岡山県総社市|寛政13年1月15日|<死去>蒔田定静(43歳)前備中浅尾領主
- 1801年2月28日-04:00|ジョージア/ロシア| |||グルジア王国、カトリック教皇は皇帝パヴール1世によってロシア帝国に併合宣言
- 1801年3月2日-01:00|スペイン/ポルトガル| |||スペインがポルトガルに宣戦布告
- 1801年3月4日-04:00|ロシア| |||<就任>全ロシア首相「クニャースのアレクサンドル・ボリソフ・イチ・クレン」(~9.27)
- 1801年3月4日 06:00|アメリカ| |||<就任>アメリカ合衆国第3代大統領「トマス・ジェファソン」民主党(~18090304)
- 1801年3月5日 04:00|ドミニカ共和国/ハイチ| |||<就任>ハイチ領サント・ミンゴ 弁務官「ジャン＝バティスト・ジャック・スタニスラス・トミニク・ド・ガスティン」(6.6からは監督官~1803年)
- 1801年3月8日-02:00|エジプト/イギリス| |||<就任>イギリス軍エジプト司令官「ルファ・アハークロンビ－卿」(~21日)
- 1801年3月9日-01:00|ドイツ/フランス| |||トリアとケルン選帝侯領の一部からラインとモーセルのフランス県形成(~1814年)/トリア選帝侯領とツグアイトリッペン公国の一部からザールのフランス県形成(~1814年)/マインツ選帝侯領の南部、シュハイア司教区とウルムス司教区、プファルツ司教区の一部、ツグアイトリッペン公国からモントネールのフランス県形成(~1814年)/ユリッヒ公国、ゲルダース公国

1810迄 (2641件)

- 、クレーフェ公国、ムール公国、ケルン選帝侯領の一部、ケルンとアヘンの自由都市から7のフランス県形成 (~1814年)
- 1801年3月10日 00:00|イギリス| ||イギリスが第1回国勢調査を実施、人口が1050万人
- 1801年3月11日-01:00|スイス/フランス| ||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「カール・アルブレヒト・フリシグ」Fed (2期目~3日)
- 1801年3月12日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・嘉慶6年1月28日|李氏朝鮮で中央官庁や王室の奴婢を解放
- 1801年3月14日 00:00|イギリス| ||国王ジョージ3世に旧教徒解放を反対されたウィリアム・ピット首相(小ピット)が首相を辞任
- 1801年3月14日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|寛政13年1月30日|<死去>戸田忠寛(63歳)前下野宇都宮藩主、元大坂城代・京都所司代
- 1801年3月15日-09:00|日本| ||享和1年2月|小國重年「長歌詞珠衣」6巻を著す
- 1801年3月15日-09:00|日本|愛媛県今治市|寛政13年2月|今治藩領越智郡国分村の国分寺本堂が落成
- 1801年3月16日 00:00|セントヘレナ/イギリス| ||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「フランス・ロブソン」(~18020310)
- 1801年3月17日-01:00|オランダ| ||<就任>バタヴィア共和国行政長官「アウグスティン・ゲルハルト・ベジエ」(5回目~4.16)
- 1801年3月17日 00:00|イギリス| ||<就任>グレートブリテンおよびアイルランド連合王国第17代首相「ヘンリー・アデントン」トリー党(~18040510)
- 1801年3月18日-01:00|フランス/イタリア| ||フィレンツェ条約、フランスとナポレオンの講和
- 1801年3月19日 05:00|ベルギー/スペイン| ||<就任>ベルギー副王「マヌエル・アントニオ・デ・アルブクエルケ」(大審問院大統領) (~11.5)
- 1801年3月19日-09:00|日本| ||享和1年2月5日|「享和」に改元
- 1801年3月20日 04:00|サン・バルテルミー/イギリス| ||セント・バルテルミー島をイギリスが占領(~18020710)
- 1801年3月21日-02:00|エジプト/イギリス| ||<就任>イギリス軍エジプト司令官「ジョン・ヘリー＝ハッチソン」(~10月)
- 1801年3月21日-02:00|エジプト/フランス/イギリス| ||イギリス軍が、アレクサンドリアでフランス軍を破る
- 1801年3月21日-01:00|イタリア/フランス| ||<建国>エトリア王国(~1809年)トスカナにナポレオンによる傀儡国家として成立;<即位>国王「ブルボン家」ルイ・フィリップ1世(~1830年)
- 1801年3月21日-01:00|フランス/イタリア| ||ヒスパノール公国はフランスに占領される
- 1801年3月23日-04:00|ロシア| ||ロシア暦3月12日|<死去>ロシア皇帝「パヴール1世」退位声明に署名するのを拒んで近衛士官に殺害される/46歳(誕生17541001)
- 1801年3月23日-04:00|ロシア| ||ロシア暦3月12日|<即位>ロシア皇帝「アレクサンドル1世」(~1825年)
- 1801年3月24日-01:00|マルタ| ||<就任>マルタ騎士団総長代行「ニコライ・イワノビッチ・サルトニコフ伯爵」(~18030209)
- 1801年3月24日 04:00|セント・マルテン/イギリス| ||<就任>セント・マルテン司令官「Robert Nicholson」(~18021201)
- 1801年3月24日 04:00|セント・マルテン/サン・マルタン/イギリス| ||サン・マルタン全島をイギリスが占領(~18021201)
- 1801年3月26日 04:00|バルバドス/イギリス| ||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「Francis Humberstone Mackenzie」(~18060725)
- 1801年3月28日-01:00|ドイツ| ||<初演>ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン《バレエ「プロメテウスの創造物」》
- 1801年3月28日-01:00|デンマーク/イギリス| ||イギリスの軍艦がコペンハーゲンを砲撃
- 1801年3月28日-01:00|フランス/イタリア| ||フランスが、ナポリ王国とフィレンツェの和約を結ぶ
- 1801年3月31日 04:00|フォークランド/スペイン| ||<就任>スペイン領フォークランド諸島司令官・総督「Ramon Fernandez de Villegas」(~18020317)
- 1801年4月-01:00|クロアチア/オーストリア| ||<就任>オーストリアのダルマチア総督「カレル・シュテファン男爵フランチェスコ・マリア(市民総督)」(~1802年5月)
- 1801年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジュリアーノ・ベッルツィ」[マリノ・ベルトニ]
- 1801年4月1日-01:00|スイス/フランス| ||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「ジャン・ルドルフ・トルター」U-F (2期目~30日)
- 1801年4月2日-01:00|デンマーク/イギリス| ||ルンデン提督の率いるイギリス艦隊が、コペンハーゲン沖での海戦でデンマーク海軍を撃退
- 1801年4月2日 05:00|バハマ/イギリス| ||<就任>バハマ植民地総督代行「ロバート・ハント」(4回目~18020128)
- 1801年4月3日-01:00|ドイツ| ||プロシヤ軍が、ハンガリーに侵攻
- 1801年4月6日 04:00|チリ/スペイン| ||<就任>チリ総督・司令官代行「ホセ・デ・サンティアゴ・コンチャ・ヒメネス・ロハトン」(~12.31)
- 1801年4月9日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ボスニア総督「ハチ・メフメト・パシャ」(~9.2)
- 1801年4月9日-09:00|日本|福井県福井市|享和1年2月26日|福井城下で火事、侍屋敷42軒・足輕家210軒、町家135軒など焼失
- 1801年4月10日-09:00|日本|東京都|享和1年2月27日|檜屋利兵衛、竜吐水を発明/製造販売の特許取得
- 1801年4月11日-01:00|ドイツ| ||シラーの「オルムの処女」がライプツヒで上演される
- 1801年4月12日-05:30|インド| ||<即位>ハンジヤブ国マハラジャ「ランジット・シン」建国(~18390627没)
- 1801年4月13日-04:00|ロシア| ||<就任>全ロシア常任理事会議長「ゲラーフ・ニコライ・イワノビッチ・サルトニコフ」(~18020920)
- 1801年4月13日-09:00|日本| ||享和1年3月|<出版>下河辺拾水と竹原春泉齋「百人一笑」
- 1801年4月13日-09:00|日本|大阪府大阪市|享和1年3月|<出版>大阪の松好齋半兵衛「嵐雛助死出の山嵐」
- 1801年4月14日-03:30|イラン| ||<就任>サファヴィー朝大宰相「ミルザ・ムハンマド・シャフィ・マサントラニ」(~18190712没)
- 1801年4月14日 00:00|イギリス| ||イギリスで、人身保護法が、戦時中と講和実現後1ヵ月間適用停止
- 1801年4月15日-09:00|日本|東京都江東区|享和1年3月3日|<大相撲>享和1年3月場所[江戸深川八幡宮](10日間)優勝:(西大関)雷電,6勝0敗1預3休
- 1801年4月16日 04:00|BES諸島/イギリス| ||サバ島はイギリスが占領(~180301)

1810迄 (2641件)

- 1801年4月17日-01:00|オランダ| |||<就任>パタゴニア共和国行政長官「フランソワ・エルミン」(7回目~5.16)
- 1801年4月20日-09:00|日本|岡山県高梁市|享和1年3月8日|<交替>備中松山藩5万石「板倉勝政」隠居⇒四男「板倉勝峻」が継ぐ(⇒文化元(1804)年7月8日、21歳で死去)
- 1801年4月21日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケープ植民地知事代行「フランス・ダントス」(2回目~18030220)
- 1801年4月21日 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユースティウス島司令官「Richard Blunt」(~1802年)
- 1801年4月21日 04:00|BES諸島/イギリス| |||セント・ユースティウス島をイギリスが占領(~18021121)
- 1801年4月22日-09:00|日本| ||享和1年3月10日|<死去>六如(慈周)(68歳)天台宗の僧、漢詩人
- 1801年4月24日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||<初演>J. S. バッハ《オラトリオ「四季」》
- 1801年5月-05:30|インド/イギリス/デンマーク| |||イギリスがデンマーク領フレデリクスナゴールを占領(デンマーク統治が続く~1802年7月)
- 1801年5月1日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「カール・フリートリヒ・ジーマン」Uni(2期目~31日)
- 1801年5月7日-09:00|日本|福島県相馬市|享和1年3月25日|<交替>陸奥中村藩6万石「相馬祥胤」隠居⇒長男「相馬樹胤」が継ぐ(⇒文化10(1813)年11月10日、隠居)
- 1801年5月9日-09:00|日本|神奈川県横須賀市|享和1年3月27日|<死去>遠江横須賀藩35000石「西尾忠移」(56歳)元寺社奉行⇒5月27日、婿養子「西尾忠善」が継ぐ(⇒文政12(1829)年3月16日、隠居)
- 1801年5月11日-09:00|日本|東京都|享和1年3月29日|<死去>3代澤村宗十郎(49歳)歌舞伎役者
- 1801年5月12日-05:30|インド/イギリス/デンマーク| |||イギリスがトランケバルを占領(デンマークの支配が続く)(~18020817)
- 1801年5月13日-09:00|日本|福島県白河市|享和1年4月|白河藩主老中松平定信が南湖公園築造<日本最古の公園>
- 1801年5月13日-08:00|中国| ||清・嘉慶6年4月|貴州銅仁県で苗族が反乱
- 1801年5月14日-01:00|リビア/アメリカ| |||トリポリがアメリカに宣戦布告
- 1801年5月17日-01:00|オランダ| |||<就任>パタゴニア共和国行政長官「スタハ-テン卿アンソニー・フレデリック・ロバート・エハート・ファン・ハルブルト」(7回目~6.16)
- 1801年5月20日 00:00|ポルトガル/スペイン| |||ポルトガルを支援するスペイン軍、マニエル・デ・ゴトイの指揮下にポルトガル領内に侵入。オリーブの町でポルトガル軍を撃破
- 1801年5月20日 03:00|アルゼンチン/ポルトガル/パラグアイ/ウルグアイ/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「ホアキン・デル・ピノ・イ・ロサ・ロドリゲス」(~18040411没)
- 1801年5月25日 00:00|アイルランド/イギリス| |||<就任>アイルランド副卿「ハート・ウィック伯爵フィリップ・ヨーク」(~18060328)
- 1801年5月29日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ総司令官「Jean Baptiste Raymond Lacrosse」(1期目~11.1)
- 1801年5月30日-09:00|日本| ||享和1年4月18日|<死去>三宅嘯山(83歳)俳人
- 1801年6月-03:00|エチオピア| |||<即位>エチオピア帝国(後期ヨモモン朝)皇帝「イクワレ・セヨン・ヒス・ケヤス」(~18180612死去)
- 1801年6月1日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「フランソワ・ピエール・サヴァリ」U-F(2期目~30日)
- 1801年6月1日 04:00|キューバ/イギリス| |||<就任>キューバ知事「William Carlyon Hughes」(1期目~同年)
- 1801年6月2日-09:00|日本|佐賀県鹿島市|享和1年4月21日|<交替>肥前鹿島藩25000石「鍋島直宜」隠居⇒養子「鍋島直彝」が継ぐ(⇒文政3(1820)年2月17日、隠居)
- 1801年6月6日-01:00|フランス/ポルトガル/仏領ギニア| |||ポルトガルが北部ラジール(現仏領ギニア)のフランスへの割譲
- 1801年6月6日 00:00|ポルトガル/スペイン| |||ポルトガルが、スペインとバダホス条約を結ぶ/ポルトガルはオランダを割譲
- 1801年6月6日 01:00|アリス諸島/ポルトガル| |||<死去>サンタマリア島トナリ財長官「Antonio Jose de Vasconcelos e Sousa Camara Caminha Faro e Veiga」
- 1801年6月6日 01:00|アリス諸島/ポルトガル| |||<就任>サンタマリア島トナリ財長官「Afonso de Vasconcelos e Sousa da Camara Caminha Faro e Veiga」(~18270827死去)
- 1801年6月8日 04:00|グレタ/イギリス| |||<就任>グレタ副総督代行「サミュエル・テント」(1回目~18020928)
- 1801年6月11日-07:00|ベトナム| ||大越・宝興1年5月|ベトナムのグエン・フック・アイン軍はフクアンを占領、ジヤン河でタイン軍を破る
- 1801年6月11日-09:00|日本| ||享和1年5月1日|<死去>久保田兔園(80歳)俳人
- 1801年6月14日-09:30|オーストラリア| |||ウィリアム・バタース、ジェームズ・グラント、ハンター川探検開始。現在のメイトランドに至る
- 1801年6月17日-01:00|オランダ| |||<就任>パタゴニア共和国行政長官「ヤン・ヘンドリック・ヴァン・スウィンテン」(3回目~7.16)
- 1801年6月18日-04:00|ジョージア/ロシア| |||<就任>カトリカティ王「暫定行政(イワン・ペトログ・イチ・ザレバ議長/イオネ・バグラーイオ=王子/エグナト・トマニシビリ)」(~18020520)
- 1801年6月19日 00:00|イギリス| |||<就任>初代オクスロー伯「ジョージ・オクスロー」(~18140517死去)
- 1801年6月19日-09:00|日本|和歌山県田辺市|享和1年5月9日|<交替>紀伊田辺藩38000石(紀州藩附家老)「安藤次猷(直時)」隠居⇒養子「安藤道紀」が継ぐ(⇒文化5(1808)年5月16日、隠居)
- 1801年6月19日 00:00|イギリス/ロシア| |||ロシア暦6月7日|イギリスとロシアが正式に和解
- 1801年6月21日-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>モルッカ諸島イギリス居留者代表「ロバート・Townsend Farquhar」(~1801年)
- 1801年6月21日-08:00|インドネシア/イギリス| |||イギリスはモルッカ諸島を占領(~1803年)
- 1801年6月23日 00:00|イギリス| |||<就任>初代チェスター伯「トマス・ヘラム」(~18050108死去)
- 1801年6月24日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|享和1年5月14日|<死去>木下利彪(36歳)前備中足守藩主
- 1801年6月26日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ウルトン伯「トマス・エンジャートン」(~18140923死去)
- 1801年6月28日-02:00|エジプト/イギリス| |||イギリス軍がシバを占領

1810迄 (2641件)

- 1801年7月1日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「ヨハン・ヤコフ・シュミット」Uni (2期目~31日)
- 1801年7月3日-09:30|オーストラリア| |||キング 総督、ハンター川で石炭採掘をはじめめることを決定。ハンター川流域の石炭と木材のすべてを国有だと宣言
- 1801年7月3日-09:00|日本|東京都|享和1年5月23日|江戸で女性の髪飾りに、縮緬の色きれの使用禁止
- 1801年7月3日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|享和1年5月23日|<交替>播磨赤穂藩2万石「森忠賛」隠居⇒四男「森忠哲」が継ぐ(⇒文化4(1807)年5月25日、死去)
- 1801年7月4日-05:30|インド| |||<ウヅジャンの戦い>ウヅジャンにおいて、ホールカルの軍はシンディア家の軍を破り、大きな損害を与えた
- 1801年7月5日-01:00|マルタ/イギリス| |||<就任>イギリス領マルタ民事行政長官「チャールズ・Cameron」(~18020724)
- 1801年7月9日-05:30|インド| |||<就任>サチン国支配者(サワブ)「イブラヒム・モハメド・ヤクト・カーン1世」(~18530325没)
- 1801年7月10日-05:30|インド| |||<就任>カプurla国統治者(サルターール)「ファテ・シン」(~18361020没)
- 1801年7月10日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「アレクサンドル・ニコラエ・スートゥ」(~18021001)
- 1801年7月11日-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「レピン・オガスト・テオフィル・グラーフ・フォン・ベニゼン」(~18060920)
- 1801年7月12日-09:00|日本| |||享和1年6月2日|<死去>銅脈先生(50歳)狂詩作者
- 1801年7月13日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「Francis Robson」(~18020311)
- 1801年7月15日-05:30|インド| |||<就任>アーカト国支配者(サワブ)「アジム・ウッダウラ」(~18190802没)
- 1801年7月15日-01:00|フランス/パチン| |||ホレオンとローマ教皇ピウス7世が政教協約を結ぶ(コンコルダート)/カトリックの復活/政府が聖職者を指名し教皇が任命権を持つ/革命時の没収教会財産は返還しない/ローマ教皇庁との関係が修復されるとともに、プロテスタントの2宗派(「ルター派」と「カルフアン派」)やユダヤ教が公認され、信仰の自由が推進される
- 1801年7月15日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ダートマス伯「ウィリアム・レッグ」
- 1801年7月15日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ダートマス伯「ジョージ・レッグ」先代の息子(~18101110死去)
- 1801年7月17日-01:00|オランダ| |||<就任>バタヴィア共和国行政長官「ケリットヤン・ハーマン」(~8. 16)
- 1801年7月17日-09:00|日本|東京都千代田区|享和1年6月7日|<解任>老中「太田資愛」
- 1801年7月23日 00:00|ホルトガル/イギリス| |||<就任>マテラ総督「Sir William Clinton」イギリス(~1802. 3)
- 1801年7月23日 00:00|ホルトガル/イギリス| |||マテラをイギリスが占領、ホルトガル政権は継続(~18020327)
- 1801年7月24日-04:30|アファニスタン| |||<即位>アファニスタン大王(ハドシャー)「マフムド・シャー」(1回目~18030713退位)
- 1801年7月24日-04:30|アファニスタン| |||<退位>アファニスタン大王(ハドシャー)「サマーン・シャー・トウラーニ」
- 1801年7月26日-05:30|インド/イギリス| |||アーカト国が英領インドに吸収される
- 1801年7月27日-09:00|日本|京都府京都市|享和1年6月17日|<死去>京都下鴨の神官・歌人、鴨(梨本)祐為/63歳(絵は西川祐信に学び、寛政九年出版の五升庵瓦全の編「職人尽発句合」の挿画)
- 1801年7月28日 06:00|グアテマラ/スペイン| |||<就任>スペイン領グアテマラ総督・総司令官・大統領「アントニオ・ゴンスリス・マリネド・イ・サレア」(~18110314)
- 1801年7月29日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サティアゴ総督「ジョージ・ニュージエント卿」(~18060220)
- 1801年7月31日-09:00|日本|岐阜県山県市|享和1年6月21日|<交替>美濃高富藩1万石「本庄道利」隠居⇒長男「本庄道昌」が継ぐ(⇒文政2(1819)年3月22日、隠居)
- 1801年8月-09:30|オーストラリア| |||シドニーに女性孤児学校開校
- 1801年8月-04:30|アファニスタン| |||<即位>アファニスタン対立大王(ハドシャール)「シジュヤール・アルムルク・シャー」(1回目~1801年9月)
- 1801年8月1日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「ゲオルク・ヴィンツェンツ・ヨスト・ルトヴィヒ・ライマツ」Uni (2期目~31日)
- 1801年8月1日-01:00|リビア/アメリカ| |||<第一次バーバリ戦争:1801年8月1日の海戦>リビア海岸沖にて、アメリカ海軍のスクナー「USSエンタープライズ」とトリポリタニアのボラッカ「トリポリ」の間に起きた一騎討ちで、戦闘は3時間に及んだが、「トリポリ」はアメリカ海軍に捕獲された
- 1801年8月3日-01:00|イタリア| |||<即位>エトリリア王・トスカナ大公「ルトヴィゴ(ルイジ)1世・デ・ボルボネ」フランチェスコ2世の孫(~18030527死去)
- 1801年8月3日-01:00|イタリア| |||<追放>トスカナ大公「フェルディナント3世」ホレオンの侵略による
- 1801年8月6日-09:00|日本|山形県|享和1年6月27日|(~7月1日)村山郡幕府領・私領の農民が米価の高騰と富商の米買い占めに対して一揆
- 1801年8月7日-09:00|日本|北海道|享和1年6月28日|富山元十郎らがウルフ島に「天長地久大日本属島」の標柱を建てる
- 1801年8月9日-09:00|日本|大阪府|享和1年7月1日|淀川堤崩壊・洪水、摂河に水害発生。天神橋・天満橋など流失
- 1801年8月10日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ケイク・フェイン・パシャ」(~同年)⇒「エブ・マラク・マフムド・パシャ」(~18020108)
- 1801年8月10日-09:00|日本|佐賀県小城市|享和1年7月2日|<死去>鍋島直愈(46歳)前肥前小城藩主
- 1801年8月13日 00:00|イギリス| |||<死去>3代アバティーン伯「ジョージ・ゴートン」
- 1801年8月13日 00:00|イギリス| |||<就任>4代アバティーン伯「ジョージ・ハミルトン・ゴートン」(~18601214死去)
- 1801年8月13日-09:00|日本|三重県桑名市|享和1年7月5日|<交替>伊勢長島藩2万石「増山正賢」48歳で隠居⇒長男「増山正寧」が継ぐ(⇒天保13(1842)年11月26日、死去)
- 1801年8月14日-09:00|日本|岡山県高梁市|享和1年7月6日|<死去>山崎義俊(62歳)前備中成羽領主
- 1801年8月17日-01:00|オランダ| |||<就任>バタヴィア共和国行政長官「アウグスティン・ゲルハルト・ベジエ」(6回目~18010916)
- 1801年8月19日-09:00|日本| |||享和1年7月11日|<死去>小沢蘆庵(79歳)歌人、国学者
- 1801年8月19日-09:00|日本|京都府京都市|享和1年7月11日|<就任>京都所司代「土井利厚」(⇒1802(享和2年10月19日))

1810迄 (2641件)

- 1801年8月19日-09:00|日本|東京都千代田区|享和1年7月11日|<就任>老中「牧野忠精」(~文化13年10月13日)
- 1801年8月20日-09:00|日本|京都府京都市|享和1年7月12日|<死去>歌人・国学者、小沢蘆庵(79)平易なことばで心情を歌う「ただごと歌」を唱えた
- 1801年8月21日-09:00|日本|山形県飽海郡遊佐町|享和1年|鳥海山の噴火が激しくなり、溶岩円頂丘の新山の享和岳が形成される/死者8人がでる
- 1801年8月22日-08:00|インドネシア/オランダ| ||<死去>オランダ領東インド総督「ピーター・Gerardus van Overstraten」
- 1801年8月22日-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>オランダ領東インド総督「Johannes Siberg」(~18041019)
- 1801年8月26日-09:00|日本|長野県小諸市|享和1年7月18日|<死去>牧野康満(70歳)前信濃小諸藩主
- 1801年8月29日-09:00|日本|北海道|享和1年7月21日|9代蝦夷松前藩・松前章広:武蔵国内の領地5千石も収公し毎年3500両を支給することにした
- 1801年8月30日-02:00|エジプト/イギリス| ||イギリス軍がアレクサンドリアを占領
- 1801年9月-03:00|パレスチナ/オスマン| ||<就任>パレスチナ支配者(ハキム)「サリム・イブン・スルタン(マスカットのワ)」一時的に占領
- 1801年9月-02:00|ウクライナ/ロシア| ||<就任>ガブリヤ総督「Joseph Graf von und zu Urmenyi」(~1806.7)
- 1801年9月 05:00|ハイチ| ||トゥーサン侯の甥Moyse将軍、トゥーサンの対仏宥和策と事実上の奴隷制復活に抗議し反乱。黒人の多数がモセを支持して決起する。トゥーサンはデサリヌを送り反乱を鎮圧
- 1801年9月1日-01:00|スイス/フランス| ||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「ホルス・ウステリ」Uni(~30日)
- 1801年9月1日-09:00|日本|千葉県君津市|享和1年7月24日|<死去>上総国久留里藩3万石「黒田直温」(18歳)⇒叔父「黒田直方」が継ぐ(⇒文化9(1812)年9月13日、隠居)
- 1801年9月2日-01:00|ロシア/トルコ| ||<就任>ロシア総督「ヴァンリ・マフメト・パシャ」(3回目~12日)
- 1801年9月2日-09:00|日本|茨城県高萩市|享和1年7月25日|<死去>地理学者の長久保赤水(85)
- 1801年9月4日 00:00|イギリス/インド| ||イギリスがマドラスに最高法院を設置
- 1801年9月7日 00:00|イギリス| ||<死去>2代ダウンシャー侯「アーサー・ヒル」
- 1801年9月7日 00:00|イギリス| ||<就任>3代ダウンシャー侯「アーサー・フランテール・サンス・トランブル・ヒル」(~18450912死去)
- 1801年9月8日-09:00|日本| ||享和1年8月|<刊行>志筑忠雄「鎖国論」(ドイツ人ケンペルによる「日本誌」の抄訳)
- 1801年9月8日-09:00|日本| ||享和1年8月|<出版>俵屋宗理「挿花衣の香」
- 1801年9月10日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官「イシドロ・デ・アルメイダ・デ・サ・エ・サ」(~18050808)
- 1801年9月12日-01:00|ロシア/トルコ| ||<就任>ロシア総督「ペトル・パシャ」(1回目~18020108)
- 1801年9月14日-09:00|日本|大分県佐伯市|享和1年8月7日|<死去>豊後佐伯藩2万石「毛利高標」(47歳)⇒9月、長男「毛利高誠」が継ぐ(⇒文化9(1812)年5月25日、隠居)
- 1801年9月17日-01:00|オランダ| ||<就任>バタヴィア共和国行政長官「フランソワ・エルミン」(8回目~18日)
- 1801年9月18日-01:00|オランダ| ||<就任>バタヴィア共和国行政長官「アウグスティン・ゲルハルト・ベジエ」(7回目~19日)
- 1801年9月19日-01:00|オランダ| ||<就任>バタヴィア共和国行政長官「スタハ・テ・ン卿アンソニー・フレデリック・ロバート・エハート・ファン・ハルツァルト」(8回目~10.17)
- 1801年9月27日-04:00|ロシア| ||<就任>全ロシア首相代行「アレクサンドル・ロマノフ・イ・ウ・ヴォロツコフ伯爵」(~18020920)
- 1801年9月29日 00:00|ポルトガル/スペイン| ||マドリド和約が結ばれ、スペインとポルトガル間のオレンジ戦争が終結
- 1801年10月-02:00|エジプト/イギリス| ||<就任>イギリス軍エジプト司令官「キャバン伯爵リチャード・フォード・ウィリアム・ランバート」(~1802年7月)
- 1801年10月-02:00|ルーマニア| ||<就任>ワキア総督・領主「ミハイ・コンスタンティン・スートウ」(3回目~18020620)
- 1801年10月-01:00|ドイツ| ||<初演>ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン《ヴァイオリン・ソナタ第5番“スプリング”》
- 1801年10月 04:00|キューバ/イギリス| ||<就任>キューバ知事「Arthur Whetham」(~1802.8)
- 1801年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「マリア・ノ・ベグニ」(アントニオ・ガッキオーニ)
- 1801年10月1日-01:00|スイス/フランス| ||<就任>ヘルヴェティア共和国執行評議会議長「ヨハン・ルトルフ・ドルター」U-F(3回目~27日)
- 1801年10月1日-01:00|フランス/イギリス| ||ロンドンで、イギリス・フランスの講和条約が締結される/イギリスは、セイロンとトリニダード島を除く全ての海外の戦時中占領地域をフランス、スペイン、オランダに返還
- 1801年10月3日-09:00|日本|富山県富山市|享和1年8月26日|<死去>越中富山藩10万石「前田利謙」(35歳)⇒養子「前田利幹」が継ぐ(⇒天保6(1835)年10月19日、隠居)
- 1801年10月8日-01:00|フランス/ロシア| ||フランスとロシアが和平条約
- 1801年10月8日-09:00|日本| ||享和1年9月|<出版>竹原雲峰「戯場節用集」
- 1801年10月9日-09:30|オーストラリア| ||最初の書物の出版。政府の命令集
- 1801年10月9日-02:00|エジプト/フランス/イギリス/トルコ| ||フランス軍、イギリス軍がエジプトから撤退/オスマン帝国はフランスと講和を結んでエジプトでの主権を回復
- 1801年10月14日 03:00|ブラジル/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「アキアル伯爵・侯爵ル・フェルナンデス・デ・ポルトガル・イ・カストロ」(~18060821)
- 1801年10月15日-09:00|日本|福島県郡山市|享和1年9月8日|<死去>陸奥守山藩2万石「松平頼亮」(58歳)⇒次男「松平頼慎」が継ぐ(⇒文政13(1830)年7月13日、死去)
- 1801年10月17日-01:00|オランダ| ||<就任>バタヴィア共和国国務院主席「ウィレム・アエルナウト・デ・ベフェレン」(1回目~18020131)
- 1801年10月17日-01:00|オランダ| ||<就任>バタヴィア共和国国務長官「カレル・ジエラルド・ジャン・ハルトマン」(2回目~18050429)
- 1801年10月17日-09:00|日本|埼玉県本庄市|享和1年9月10日|<死去>御岳教の教祖普寛(71歳)
- 1801年10月21日-09:00|日本|栃木県宇都宮市|享和1年9月14日|<死去>松平忠祇(65歳)元下野宇都宮藩主

1810迄 (2641件)

- 1801年10月24日 04:00|ゲアドルーフ/フランス| |||<就任>ゲアドルーフ 総司令官「Magloire Pelage」(~18020506)
- 1801年10月24日-09:00|日本|静岡県静岡市清水区|享和1年9月17日|<死去>松平信義(59歳)前駿河小島藩主
- 1801年10月25日-09:00|日本| |||享和1年9月18日|<死去>岩本昆寛(58歳)装剣金工
- 1801年10月25日-09:00|日本|東京都|享和1年9月18日|<死去>画人、森蘭齋
- 1801年10月27日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルグ エティア共和国行政権議長「ヨハン・ルト・ルフ・ド・ルター」Fed(~11.22)
- 1801年10月28日-01:00|スイス| |||<発効>ヘルグ エティア共和国憲法(5.29、採択)
- 1801年10月28日-01:00|スイス/フランス| |||フランスが、スイスに軍事干渉を行う
- 1801年10月28日-09:00|日本|京都府綾部市|享和1年9月21日|<死去>丹波山家藩1万石「谷衛量」(37歳)⇒長男「谷衛萬」が継ぐ(⇒文化13(1816)年8月21日、死去)
- 1801年11月2日-09:00|日本| |||享和1年9月26日|<死去>9代千宗室(56歳)茶人、裏千家家元
- 1801年11月3日-09:00|日本|兵庫県佐用郡佐用町|享和1年9月27日|<死去>播磨三日月藩15000石「森快温」(33歳)⇒12月4日、養子「森長義」が継ぐ(⇒文化6(1809)年5月20日、隠居)
- 1801年11月5日 05:00|ペルース/スペイン| |||<就任>ペル副王「アビレス侯爵」ブリエル・テ・アビレス・イ・テル・フィロ(~18060820)
- 1801年11月5日-09:00|日本|三重県松阪市|享和1年9月29日|<死去>医師で国学者、本居宣長が松阪で(72歳、享保15(1730)0507生)「古事記伝」全44巻の著者
- 1801年11月10日-05:30|インド/イギリス| |||アクト 王アターダト・アリー・ハーン2世はイギリスと軍事保護条約を締結させられイギリスに従属する藩王国となった(アクト 藩王国)/イギリスの保護軍を増強させる代わりに、ナワブの軍隊を事実上解体させ、イギリスはアクトの好きな場所に軍隊を駐屯させる権利が与えられた/また、ロヒルカント 地方、アラハバード、ファールハバード、ファテガル、カンポル、コーラクル、アザムガルなどの都市を含んだ下アブ 地方など、アクトの中心地から東西にかけての約半分の領土をイギリスに割譲
- 1801年11月15日-09:00|日本| |||享和1年10月10日|<死去>日野資枝(65歳)権大納言、歌人
- 1801年11月16日 06:00|アメリカ| |||アレクサンダー・ハミルトンが、ニューヨーク・イニング・ポストを創刊
- 1801年11月18日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||コヤ・テムネ人の武装集団がソントン城砦を襲撃
- 1801年11月21日-09:00|日本| |||享和1年10月16日|<死去>3代田中伝左衛門(不明)歌舞伎囃子方
- 1801年11月21日-09:00|日本|岐阜県海津市|享和1年10月16日|<死去>美濃高須藩3万石「松平義当」(65歳)⇒養子「松平義居」が継ぐ(⇒文化元(1804)年10月16日、20歳で死去)
- 1801年11月23日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルグ エティア共和国評議会議長「ジヨセフ・フリートン」ウ・インゼンツ・アロイス・レインゲ・フォン・ヒベック」Fed(~18020420)
- 1801年11月24日 00:00|イギリス| |||<就任>ケンブリッジ 公「アドルファス」ジョージ3世の七男(~18500708死去)
- 1801年11月25日-09:00|日本|徳島県|享和1年10月20日|<死去>蜂須賀重喜(64歳)前阿波徳島藩主
- 1801年11月27日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ミルトン伯「ジヨセフ・リーソン」
- 1801年11月27日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ミルトン伯「ブライス・リーソン」(~18070110死去)
- 1801年11月27日 00:00|イギリス| |||<就任>サセックス公・インウ・アネス伯「オーガスタス・フレデリック」(~18430421死去断絶)
- 1801年11月30日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルグ エティア共和国評議会議長代行「ヨハン・ルト・ルフ・フリッキング」FRB(~18020117)
- 1801年12月1日-09:00|日本|大阪府大阪狭山市|享和1年10月26日|<交替>河内狭山藩11000石「北条氏昉」隠居⇒長男「北条氏喬」が継ぐ(⇒天保13(1842)年1月21日、隠居)
- 1801年12月6日-09:00|日本| |||享和1年11月|<出版>丹羽桃溪「河内名所図会」
- 1801年12月29日-09:00|日本|東京都墨田区|享和1年11月24日|<大相撲>享和1年11月場所[江戸本所回向院境内](6間)優勝:(西前2)大綱,6戦全勝
- 1801年12月30日-09:00|日本|三重県津市|享和1年11月25日|<死去>藤堂高梁(56歳)前伊勢久居藩主
- 1801年12月31日 04:00|イギリス/スペイン| |||<就任>刊総督・司令官代行「フランシスコ・デ・オテ・メイヤウ・イダ・ンジュ」(~18020130)
- 1802年-08:00|マレーシア| |||<死去>ハンタ・ハラ・セリ・マハラジャ「トウン・アブドゥル・マジッド・ビン・トウン・ハサン」
- 1802年-08:00|マレーシア| |||<即位>ハンタ・ハラ・セリ・マハラジャ「トウン・ムハンマド・ビン・トウン・アブドゥル・マジッド」(~1803年没)
- 1802年-08:00|インドネシア| |||<即位>ハンテン王国スルタン「Garetaker Sultan Wakil Pangeran Natawijaya」(~1803年)
- 1802年-07:00|南シホ/ベトナム| |||ベトナムが南沙諸島(チュオン・サ)領有権を主張
- 1802年-05:30|インド| |||<死去>ラタック国王(フォス・ギヤル・チェン・ホ)「ミ・ジグ・ス・ツェ・フルタン・ナム・ルギヤル」
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>アジヤガル国ラジャ「シャムシェル・ハート・ウル」(篡奪者)(~1804年)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>シマラ国ラジャ「ラージ・ラム・シン1世」(~1867年没)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>シユバル国統治者(ラ)「フラン・チャント」(1回目~1803年)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>ソネール国摂政「ラニ・ラクシュミプリヤ・デヴァイ」(~1822年)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>チャンデリ国ラジャ「ハルジヤハル」(~同年)⇒「ムル・ハラト」(~1842年没)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>ニルギリ国ラジャ「ラムチャント・ラ・マルドラーシ・ハリチャンドン」(3回目~1819年)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>ハンタ 国支配者(ナワブ)「シャムシェル・ハート・ウル」(~1823年没)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>ヒンジャル国ラジャ「ケシュリ・シン」(~1810年12月没)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>マラーター王国宰相「Amrut Rao」(~1803年)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>マリア国統治者(タコレ・サフ)「トサジ・ウ・イバ・ジ」(~1810年)
- 1802年-05:30|インド| |||<就任>ラサナ国統治者(ターケル)「マクシジ・クマシジ」(~1828年没)
- 1802年-05:30|インド| |||<即位>カンカ 国統治者(マハラジャ・テ・イラーシ)「ブッ・デ・オ」(1回目~1809年)
- 1802年-05:30|インド| |||<即位>ラタック国王(フォス・ギヤル・チェン・ホ)「ツェバル・ミギユル・トングルフ・ナムギヤル」(1回目~1837年)
- 1802年-05:00|パキスタン| |||<就任>ギルギット国統治者「モハムド・カン1世」(~1822年)

1810迄(2641件)

- 1802年-03:30|イラン| |||タヴリーズはペルシアに再編入
- 1802年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのベイ及びワリス「アリ2世パシヤ」(~1807年)
- 1802年-03:00|エチオピア| |||<即位>アサスルタン国スルタン「アンファリ・イブン・イシユタヒス」(~1862年)
- 1802年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<死去>ハリコフ、ウオロネジ 総督「Andrey Yakovlevich Levanidov」
- 1802年-02:00|エジプト/イギリス| |||<就任>イギリス・エジプト総領事「アーネスト・ミセット」(~1815年)
- 1802年-02:00|ジンバブエ| |||<就任>チャンガミール帝国統治者(マンボ)「カンボレムボラ・チャンガミレ」
- 1802年-02:00|フィンランド/スウェーデン| |||<就任>フィンランド公「スウェーデン国王カール・グスタフ」(~1805年)
- 1802年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>マロウツヤ軍事知事兼ホルタハ=チェルニコフ県民事最高管理者「Knyaz' Aleksey Borisovich Kurakin」(~1807年)
- 1802年-02:00|ルワンダ| |||<即位>ルワンダ王国ムミ「ムタラ2世ルウガラ」(~1853年)
- 1802年-01:00|モザンビーク| |||<就任>エルクール要塞マイル(市長)「ジヨセフ・ハリエール・アイベ」(2回目~1804年2月)
- 1802年-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「クリスチャン・フォン・ハウクヴィッツ」(~1804.4)
- 1802年-01:00|マルタ| |||<就任>マルタ騎士団総長代行「ジユゼッペ・カラツォーロ・デ・イ・マルケジ・デ・イ・サンテラモ」(教皇によって対立任命された~18030209)
- 1802年-01:00|ナジエリア| |||<即位>オヨ王国マヨツ, アラーフィン(~1830年)
- 1802年 02:00|グリーンランド/デンマーク| |||<就任>南グリーンランド 検査官代理「Marcus Nissen Myhlenphort」(⇒1803年検査官~1821年死去)
- 1802年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Francis Humberstone Mackenzie」(~1806年)
- 1802年 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユスティアウス島暫定司令官「Daniel Roda」⇒司令官「John Wardlaw卿」(~18021121)
- 1802年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サンサルバドル管理者代行「ホセ・フステリアーノ・ロサ」(~1803年)
- 1802年1月8日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ハトチ・オスマン・パシヤ」(~2.6)
- 1802年1月8日 00:00|イギリス/アメリカ| |||ジエイ条約に関する米英の協定が成立、独立戦争に関する英市民の補償が決定される
- 1802年1月8日-09:00|日本|大阪府大阪市天王寺区|享和1年12月5日|大阪四天王寺、雷火により焼失
- 1802年1月12日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Vicente Blanco」(~18061018)
- 1802年1月16日-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>アンボン島イギリス居住者代表「ジェームズ・オリバー」(~18030304)
- 1802年1月22日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ヒュスルフ・メフメド・パシ」(1回目~18030503)
- 1802年1月26日-01:00|イタリア/フランス| |||ナポレオンが、イタリア半島北部のチルチナ共和国をイタリア共和国に改編し支配下に置く
- 1802年1月29日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督「ジョン・ハルケット」(~18040602)
- 1802年1月29日 05:00|ハイチ/フランス| |||ナポレオンが植民地回復のためにハイチに派兵
- 1802年1月30日 04:00|リビア/スペイン| |||<就任>リビ総督・司令官「ルイス・アントニオ・ムニョス・デ・グスマン」(~18080211没)
- 1802年2月1日-01:00|オランダ| |||<就任>バタヴィア共和国国務院主席「イクヘルト・ファン・ブルマニア・レンジヤース」(~4.30)
- 1802年2月3日-09:00|日本|新潟県五泉市|享和2年|<交替>越後村松藩3万石「堀直方」隠居⇒次男「堀直庸」が継ぐ(⇒文政2年10月10日(18191127)死去)
- 1802年2月3日-09:00|日本| ||享和2年1月|<刊行>十返舎一九「浮世道中膝栗毛」初編/1822年に完結
- 1802年2月3日-09:00|日本| ||享和2年1月|<出版>岡田玉山「実語教画本」
- 1802年2月3日-09:00|日本| ||享和2年1月|<出版>歌川豊国「絵本時世粧」「俳優三十二相」
- 1802年2月3日-09:00|日本| ||享和2年1月|<出版>葛飾北斎「絵本東都遊」「絵本忠臣蔵」「五十鈴川狂歌集」
- 1802年2月3日-09:00|日本| ||享和2年1月|<出版>松好斎半兵衛「俳優兎手柏」
- 1802年2月3日-09:00|日本| ||享和2年1月|<出版>富士唐麻呂編(北斎の画)「潮来絶句集」
- 1802年2月3日-09:00|日本| ||享和2年1月|<出版>北尾重政「絵本高麗嶽」
- 1802年2月5日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミンゴ 総督「シャルル・グイクトル・エマニュエル・クルール」(~11.2没)
- 1802年2月6日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ベクル・パシヤ」(2回目~18050106)
- 1802年2月6日 06:00|アメリカ/リビア| |||アメリカがトリポリに宣戦布告
- 1802年2月9日 00:00|イギリス| |||<死去>5代セント・オールバンス公「オーブリー・ホークラーウ」
- 1802年2月9日 00:00|イギリス| |||<就任>6代セント・オールバンス公「オーブリー・ホークラーウ」(~18150812死去)
- 1802年2月16日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロア総督「Ernst Frederik von Walterstorff」(2回目~18030216)
- 1802年2月19日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントトマス島・セントジョン島総督「Wilhelm von Romeling」(~18030216)
- 1802年2月25日-01:00|ジブチ/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブチ知事「チャールズ・バーネット」(~3.10)
- 1802年2月27日-03:00|ベラルーシ/ロシア| |||<就任>ベラルーシのロシア軍総督兼ビテプスク県とモギリョフ県民事行政長官「アレクサンダー・ミハイロウ・イチ・リムスキー・コルサコフ」(~1803年)
- 1802年2月27日-09:00|日本|大阪府大阪市|享和2年1月25日|<死去>木村兼葎堂(67歳)博学の好事家で南画家、本草学者
- 1802年3月-04:00|ジョージア/ロシア| |||<就任>ミングリア公「列エル」(2回目~同年)⇒「ケリコル」(3回目~18041104)
- 1802年3月 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督代行「トマス・トリッジ 卿」(~5月)
- 1802年3月2日 00:00|イギリス| |||<死去>ヘットフォード公「フランス・ラッセル」
- 1802年3月2日 00:00|イギリス| |||<就任>ヘットフォード公「ジョン・ラッセル」先代の弟(~18391020死去)
- 1802年3月2日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス/スペイン| |||スペインがトリニダードをイギリスに正式譲渡;トリニダードはイギリス

1810迄 (2641件)

植民地となる

- 1802年3月4日-09:00|日本| ||享和2年2月|<出版>速水春暁斎「世渡名所図会」
- 1802年3月4日-09:00|日本| ||享和2年2月|<出版>蹄齋北馬「狂歌まくのうち」
- 1802年3月8日 06:00|アメリカ| ||アメリカで1801年裁判所法、失効
- 1802年3月8日-09:00|日本|熊本県人吉市|享和2年2月5日|<交替>肥後人吉藩22165石「相良長寛」隠居⇒長男「相良頼徳」が継ぐ(⇒文政元(1818)年10月6日、隠居)
- 1802年3月9日 04:00|ガイアナ/イギリス| ||イギリスはフード将軍を送り、ふたたびガイアナ西半を奪取。英領ガイアナとなる(現ガイアナ)
- 1802年3月10日 00:00|セントヘレナ/イギリス| ||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「ロバート・ハットン」(~18080704)
- 1802年3月11日-02:00|ラトビア/ペラルシュ| ||ラトヴィアはヴァイテプス政府の一部
- 1802年3月15日-05:30|インド/イギリス| ||ハバロフスク国はイギリス保護領(18050421条約により確認)
- 1802年3月16日 06:00|アメリカ| ||アメリカでジェファソン大統領、陸軍士官学校設立法に署名
- 1802年3月17日 04:00|フォーケント/スペイン| ||<就任>スペイン領フォーケント諸島司令官・総督「Bernardo de Bonavia」(1期目~1803. 2)
- 1802年3月23日-03:00|イラク| ||イスラムの新宗派ワハブ派の軍隊がイラクのシーア派の聖地カーバラを急襲
- 1802年3月23日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・嘉慶7年2月20日|壮勇營を廃止
- 1802年3月23日-09:00|日本|福岡県北九州市|享和2年2月20日|<死去>小笠原貞顕(69歳)豊前前小倉新田藩主
- 1802年3月24日-01:00|ジブラルタル/イギリス| ||<就任>イギリス領ジブラルタル知事「Prince Edward」(~18200123死去)
- 1802年3月25日-08:00|マレーシア/オランダ/イギリス| ||マラッカはアムン条約によりオランダに返還されたが、イギリスが統治継続
- 1802年3月25日-01:00|オランダ/イギリス/スリランカ| ||オランダが、イギリスにスリランカを譲渡する「アムン条約」に調印/イギリスによる一元的な統治体制へ移行
- 1802年3月26日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<死去>サンゲル島トナリ財長官「Luis Antonio Jose Maria da Camara」
- 1802年3月26日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<就任>サンゲル島トナリ財長官「Jose Maria Goncalves Zarco da Amaral」(~18200213死去)
- 1802年3月26日-09:00|日本|北海道|享和2年2月23日|幕府が初めて蝦夷奉行を置き、羽太正養、戸川安倫が任命される
- 1802年3月27日 04:00|ガイアナ/オランダ/イギリス| ||イギリスがデメララエセキ、ヘルベスをバタヴィア共和国(オランダ)に返還
- 1802年3月27日-01:00|フランス/イギリス| ||フランス北東部のアムンで、イギリスとフランスの講和条約が結ばれる/イギリスは、マルタ島、ケープ植民地、エジプトといった占領地から軍を撤収、マルタ島はヨハネ騎士団へ、ケープ植民地はオランダ(バタヴィア共和国)へ返還される/フランスは、ポル王国、ローマ教皇領から軍を撤収
- 1802年3月28日-01:00|ドイツ| ||小惑星第2号ハラスがホルヘースにより発見
- 1802年3月28日-09:00|日本|東京都千代田区|享和2年2月25日|<大相撲>享和2年2月場所[江戸神田明神](10日間)優勝:(西前4)荒岩, 8勝1敗1休
- 1802年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フィリップ・ベルツィ」「マリノ・タッシニ」
- 1802年4月1日-01:00|フランス| ||ナポレオンが護民院を改組し、機能を縮小
- 1802年4月2日-09:00|日本|愛知県豊田市|享和2年2月30日|<死去>内藤政苗(62歳)前三河拳母藩主
- 1802年4月4日-09:00|日本|石川県金沢市|享和2年3月2日|<交替>加賀藩102万5千石「前田治脩」隠居⇒養子の「前田齊広」が継ぐ(~文政5(1822)年、隠居)
- 1802年4月5日-09:00|日本|岩手県下閉伊郡山田町|享和2年3月3日|南部藩領山田町で、米穀役取立役宅が打ち壊しにあう
- 1802年4月6日 06:00|アメリカ| ||ウイスキーを代表とする日用品に対する物品税撤廃
- 1802年4月6日-09:00|日本|新潟県|享和2年3月4日|高田城本丸御殿、全焼
- 1802年4月8日-01:00|フランス| ||フランスで、政教協約を批准して、付属法を決議
- 1802年4月12日-09:00|日本|広島県広島市|享和2年3月10日|<死去>蘭学者・医師「星野良悦」(49歳)
- 1802年4月14日 06:00|アメリカ| ||アメリカで1798年帰化法、失効
- 1802年4月14日-09:00|日本|東京都江東区|享和2年3月12日|江戸深川三十三間堂通矢「六十間堂千射」、後藤常蔵(16歳)が809本(総矢数1000中)を記録/種目最初
- 1802年4月20日-01:00|スイス/フランス| ||<就任>ヘルヴェティア共和国知事「ゲオルク・ヴァンツェンツ・ヨスト・ルートヴィヒ・ライマン」Uni(~7. 5)
- 1802年4月20日-01:00|フランス/バチカン| ||ナポレオン・ボナパルトと教皇ピウス7世が政教条約を締結したことが公になる
- 1802年4月20日 00:00|イギリス| ||<死去>3代ギルフォート伯「ジョージ・オーガスタス・ノース」
- 1802年4月20日 00:00|イギリス| ||<就任>4代ギルフォート伯「フランス・ノース」(~18170111死去)
- 1802年4月24日-04:00|ジョージア/ロシア| ||カトリカヘティ王国はロシア帝国へ編入(王国は廃止)
- 1802年4月24日 06:00|アメリカ| ||ジョージア州議会、ヤズーランドを連邦政府に移譲
- 1802年4月26日 05:00|ハイチ| ||クリストフの部隊などが、あいついでルクレール軍に降伏
- 1802年4月29日 06:00|アメリカ| ||アメリカでジェファソン大統領、1802年裁判所法に署名
- 1802年4月30日 05:00|ハイチ| ||クリストフらの降伏を知ったトゥサン、ルクレールに降伏
- 1802年4月30日 06:00|アメリカ| ||アメリカ北西部領地の東部住民に憲法制定会議を開催する権限を与える授權法成立
- 1802年5月-01:00|クアチア/オーストリア| ||<就任>オーストリアのダルマチア総督「ヒュー・グラーフ・フォン・ゴイス(市民総督;7. 1まで代理)」(~1804年6月)

1810迄 (2641件)

- 1802年5月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ハッサン・パシャ」(~1804年)
- 1802年5月 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア副総督「ジョージ・ヘンリー・ヴァンソタート」(~9. 29)
- 1802年5月1日-01:00|フランス| |||<就任>ハバナ共和国国務院主席「ヘイカップ、ホーイカップ、ウーブルツ、シントヤコブ・スワテ・エン・ローデングル卿サミュエル・ヴァン・ホーホストラテン」(~7. 31)
- 1802年5月1日-01:00|フランス| |||フランスのすべての県に100校以上の「エコール・サントラル」(中・高等教育機関)が設置されていたが、「法令」により、これを「リセ」(後期中等教育機関)に改組
- 1802年5月3日 06:00|アメリカ| |||<発足>アメリカ議会、公式にワシントン市を市と認定し、大統領に市長を指名する権限を与える
- 1802年5月6日-09:00|日本|茨城県笠間市|享和2年4月5日|<交替>常陸宍戸藩1万石「松平頼救」隠居⇒長男「松平頼敬」が継ぐ(⇒文化4(1807)年11月8日、21歳で死去)
- 1802年5月7日 04:00|グアドループ/フランス| |||<就任>グアドループ総司令官「Antoine Richepance」(~9. 3死去)
- 1802年5月8日-09:00|日本|滋賀県蒲生郡日野町|享和2年4月7日|<死去>市橋長拳(91歳)前近江仁正寺藩主
- 1802年5月18日-09:00|日本|京都府福知山市|享和2年4月17日|<死去>朽木昌綱(53歳)前丹波福知山藩主
- 1802年5月19日-01:00|フランス| |||フランス、レジオン・ド・ヌール勲章が制定される
- 1802年5月20日 04:00|ドミニカ共和国/フランス| |||<就任>フランス領サント・ミンゴ総督「フランソワ・マリー・ペリシェー・ド・ケルヴェルサウ」(~11月)
- 1802年5月20日 04:00|ドミニカ共和国/フランス| |||<復元>フランスによるサント・ミンゴの統治(~18090709)
- 1802年5月24日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督「ケント公エドワード・オーガスタス」(~18200123)
- 1802年5月24日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ロズ・デール伯「ジェームズ・ラウザー」断絶
- 1802年5月31日-09:00|日本|長野県小諸市|享和2年5月|小諸藩、文武学校明倫堂を設立
- 1802年5月31日-07:00|ベトナム| ||越南・嘉隆1年5月|<死去>西山朝(大越)富春朝廷国王「景盛帝阮光」阮福映軍に敗れ西山朝滅亡
- 1802年6月1日-07:00|ベトナム| ||越南・嘉隆1年5月2日|<即位>阮朝国王「嘉隆帝阮福暎」(⇒18060628皇帝~18200203(嘉隆19年12月19日)死去57歳)嘉隆と改元(~1819年)
- 1802年6月4日-01:00|イタリヤ| |||<即位>サルデーニャ国王「サヴォイア公「ウイットーリオ・エマヌエーレ1世」ウイットーリオ・アマデーオ3世とマリア・アントニア・ティスパニャの息子」(~18210312~18240110死去65歳)
- 1802年6月4日-01:00|イタリヤ| |||<退位>サルデーニャ王「カルロ・エマヌエーレ4世」
- 1802年6月9日-09:00|日本|三重県桑名市|享和2年5月10日|<死去>伊勢桑名藩10万石「松平忠和」(44歳)⇒養子「松平忠翼」が継ぐ(⇒文政4(1821)年3月20日、死去)
- 1802年6月10日-09:00|日本| ||享和2年5月11日|<死去>3代大谷広次(57歳)歌舞伎役者
- 1802年6月10日-09:00|日本|北海道函館市|享和2年5月11日|蝦夷奉行を函館奉行と改称
- 1802年6月11日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント総督「ハンリー・ウィリアム・ベントインク」(~1805年)
- 1802年6月22日-09:00|日本|東京都|享和2年5月23日|幕府が、町人女が色縮緬を髪飾りにすることを禁止
- 1802年6月26日-09:30|オーストラリア| |||ヨークからハキュリス号到着。途中反乱が起こり、14人が死亡
- 1802年6月26日-09:00|日本|福井県福井市|享和2年5月27日|吉田郡古市村から下森田まで延焼、家153軒焼失
- 1802年6月29日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワラキア総督・領主代行「アレクサンドル・トコ・ニコエ・ストゥカウ」(1回目~8. 25)
- 1802年6月30日-09:00|日本| ||享和2年6月|<出版>窪俊満「狂歌左輶絵」
- 1802年6月30日-09:00|日本| ||享和2年6月|<出版>「絵本太閤記」(岡田玉山挿絵)七編で完結(文化元年5月絶版)
- 1802年7月-02:00|エジプト/イギリス| |||<就任>イギリス軍エジプト司令官「ジョン・スチュワート卿」(~18030316)
- 1802年7月 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サクラメント新植民地スペイン軍司令官「Pedro Enrique de la Haye Saint-Hilaire」(~18031016)
- 1802年7月2日-01:00|スイス| |||ヘルヴェティア共和国憲法採択(ベシユス・デ・クライン・ラシにより)
- 1802年7月2日 00:00|セザール/フランス| |||<就任>フランス領セザール総督「ルイ・アンリ・ピエール・ラッセル」(~10. 27)
- 1802年7月2日-09:00|日本|千葉県富津市|享和2年6月3日|<交替>上総飯野藩2万石「保科正率」隠居⇒長男「保科正徳」が継ぐ(⇒文化14(1817)年3月24日、隠居)
- 1802年7月4日 06:00|アメリカ| |||アメリカのウェスト・ポイントで陸軍士官学校が開校
- 1802年7月5日-01:00|スイス/フランス| |||<就任>ヘルヴェティア共和国評議会議長「ヨハン・ルドルフ・トルター」U-F(~18030308)
- 1802年7月6日 00:00|フェロ諸島| |||<死去>フェロ諸島首長(コペンハーゲン)「Johan Heinrich Knuth」
- 1802年7月6日 00:00|フェロ諸島| |||<就任>フェロ諸島首長(コペンハーゲン)「Frederik Hauch」(~18101112)
- 1802年7月10日-01:00|マルタ/イギリス| |||<就任>イギリス領マルタ民事行政長官「アレクサンダー・ジョン・Ball」卿(~18091025)
- 1802年7月15日-09:00|日本| ||享和2年6月16日|<死去>2代常磐津兼太夫、刺客に殺害された(48歳)浄瑠璃太夫
- 1802年7月16日-09:00|日本|愛媛県西条市|享和2年6月17日|小松藩、竹の門外に学問所(培達校のち養正館)を設置
- 1802年7月22日-07:00|ベトナム| ||越南・嘉隆1年6月23日|嘉隆帝がハイイを攻略して西山朝を滅ぼし新王朝を開く
- 1802年7月23日-01:00|スペイン| |||<死去>第13代アルバ女公・オリバーレス女公「マリア・テシルバ・イ・アルバ・レス・デ・トルド」
- 1802年7月23日-01:00|スペイン| |||<就任>第14代アルバ公・オリバーレス公「カルロス・ミゲル・フィツ・ハメス・ストゥアルト・イ・シルバ」(~18351007死去)
- 1802年7月26日-09:00|日本|東京都|享和2年6月27日|<死去>4代松本幸四郎(66歳、生年元文2(1737))歌舞伎役者
- 1802年7月29日-07:00|ベトナム| ||越南・嘉隆1年7月|<死去>西山朝(大越)富春朝廷国王「景盛帝阮光」
- 1802年7月29日-09:00|日本|神奈川県足柄下郡箱根町|享和2年7月1日|箱根温泉場が流失
- 1802年7月29日-09:00|日本|東京都|享和2年7月1日|6月25日からの雨で江戸が洪水となる
- 1802年7月29日 11:00|日本|大阪府|享和2年7月1日|<享和2年淀川大洪水>6月28日からの大風雨で夜、淀川右岸で

1810迄 (2641件)

は摂津国嶋上郡で約280間(約500m)、同西成郡で11か所の合計約250間(約450m)の堤防が切れ、高槻城内の殿舎が浸水したほか下って現在の大阪市西部が水の中となった/一方、淀川左岸の点野村で約130間(約240m)、仁和寺村で約100間(約180m)に及ぶ堤防が切れ、東は生駒山麓まで南は八尾、久宝寺、平野までの北河内から中河内一帯が水につかった

- 1802年7月30日-09:00|日本|大阪府|享和2年7月2日|<享和2年淀川大洪水>水勢は一段と激しさを増し、淀川左右両岸大阪平野一帯の家屋や蔵、田畑を押し流し、多量の家具や樹木が橋に激突して引っかけり、下流の野田橋から備前島橋、天神橋、天満橋、葎屋橋まで落ち、大坂は堂島、中之島付近が約7m水没/摂津国の東部から河内にかけて237か村11万7050石の田畑が洪水による被害を負った
- 1802年8月 04:00|キューラ/イギリス| |||<就任>キューラ知事「William Carlyon Hughes」(2期目~1803年)
- 1802年8月1日-01:00|フランス| |||<就任>パナマ共和国国務院主席「ケリット・ヤン・パマン」(~10.31)
- 1802年8月2日-01:00|フランス| |||「ルボン・ポナル」が、人民投票で初代の終身統領になる
- 1802年8月3日 04:00|グアテマール/フランス| |||<死去>グアテマール 総司令官「Antoine Richepance」
- 1802年8月4日-01:00|フランス| |||フランスで「共和暦10年の憲法」が制定される
- 1802年8月4日 04:00|グアテマール/フランス| |||<就任>グアテマール 総司令官代理「Jean Baptiste Raymond Lacrosse」(2期目~18030508)
- 1802年8月5日 00:00|イギリス| |||<死去>初代グロウナー伯「リチャード・グロウナー」
- 1802年8月5日 00:00|イギリス| |||<就任>2代グロウナー伯「ロバート・グロウナー」先代の息子(⇒18310913兼初代ウエストミンスター侯~18450217死去)
- 1802年8月8日-09:00|日本|沖縄県|享和2年7月11日|<死去>琉球国王「尚温」(19歳)
- 1802年8月8日-09:00|日本|沖縄県|享和2年7月11日|<即位>琉球国王「尚成」(~18040207死去)
- 1802年8月11日-01:00|スペイン/アメリカ| |||米資産の損害の補償に関してスペインと協定締結、後に批准されず
- 1802年8月15日-09:00|日本|東京都|享和2年7月18日|<死去>唐衣橋洲(60歳)狂歌師
- 1802年8月20日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/イギリス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島イギリス司令官「Henry Folkes Edge」
- 1802年8月20日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島フランス弁務官代理「Jocet」(~9.17)
- 1802年8月20日-09:00|日本| ||享和2年7月23日|<死去>董九如(58歳)画家
- 1802年8月21日-09:00|日本|北海道|享和2年7月24日|幕府、松前章広の東蝦夷の地を収公
- 1802年8月24日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「フェルナンド・アントニオ・ソアレス・デ・ノロニャ」(~18060402)
- 1802年8月27日-09:00|日本|宮崎県延岡市|享和2年7月30日|<死去>日向延岡7万石「内藤政韶」(27歳)⇒養子「内藤政和」が継ぐ(⇒文化3(1806)年10月17日、20歳で死去)
- 1802年8月28日-09:00|日本| ||享和2年8月|<出版>西村中和「絵本年代記」
- 1802年8月28日-09:00|日本| ||享和2年8月|<出版>北尾政美「魚貝譜」
- 1802年8月31日-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア総督「ホルンブルク男爵ヨゼフ・カール・フェルディナント・グラフ・フォン・デア・トリビシュティン」(~18040910)
- 1802年9月-05:00|ウスベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァハン国第52代ハン「アブル・ガースィ5世」ヤディガル2世の子(~1804.11)
- 1802年9月1日-09:00|日本|栃木県大田原市|享和2年8月5日|<死去>下野大田原藩11400石「大田原庸清」(52歳)⇒長男「大田原光清」が継ぐ(⇒文化9(1812)年11月22日、隠居)
- 1802年9月2日-09:00|日本|栃木県大田原市|享和2年8月6日|<交替>下野黒羽藩2万石「大関増輔」隠居⇒長男の「大関増陽」(~文化8(1811)年11月24日、隠居)
- 1802年9月11日-01:00|フランス| |||フランスがピエモンテを併合
- 1802年9月13日 04:00|マルティニーク/イギリス| |||<就任>フランス領マルティニーク総司令官「Louis Thomas Villaret de Joyeuse」(~18090224)
- 1802年9月13日 04:00|ドミニカ共和国/フランス| |||サント・ドミンゴ島で、反仏の反乱が再燃
- 1802年9月17日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/フランス| |||<就任>サンピエール島・ミクロン島フランス弁務官「Jean-Philippe Bourrilhon」(1期目~18030320)
- 1802年9月25日-09:00|日本|新潟県新発田市|享和2年8月29日|<死去>越後新発田藩5万石「溝口直侯」(25歳)⇒10月29日、長男「溝口直諒」が継ぐ(⇒天保9年8月5日(18380923)、隠居)
- 1802年9月28日 04:00|グレナダ/イギリス| |||<就任>グレナダ 副総督「ジョージ・グエア・ホバート」(~11.5没)
- 1802年9月29日 04:00|セントルシア/フランス| |||<就任>フランス領セントルシア副総督「ジャン・フランソワ・サビエル・ノグス」(~18030622)
- 1802年9月29日 04:00|セントルシア/フランス| |||セントルシアはフランスに復帰(~18030622)
- 1802年10月1日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督代行「イヴァン・チェコク」(~28日)
- 1802年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アンニバレ・ゴジ」 「ジョヴァンニ・フィリッピ」
- 1802年10月2日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トバゴ 総司令官、総督代行「ヒュー・ライル・カーマイケル」(~7日)
- 1802年10月4日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| |||<就任>サントメ・プリンシペ 総督「Gabriel Antonio Franco de Castro」(~18050831)
- 1802年10月4日-09:00|日本| ||享和2年9月8日|<死去>伏見宮邦頼親王(70歳)皇族
- 1802年10月7日 04:00|トリニダード・トバゴ/フランス| |||(~18030630)フランスのトバゴ植民地
- 1802年10月7日 04:00|トリニダード・トバゴ/フランス| |||<就任>トバゴ 総司令官、総督「ジャン・ジョセフ・フランソワ・レナード・デ・サフェ・ダマルゼット」(~12.26死去)
- 1802年10月9日-01:00|イタリア/フランス| |||<死去>パルマ公「フェルディナント1世」

1810迄 (2641件)

- 1802年10月13日 05:00|ハイチ/フランス| |||パシオンとクルボウ、フランス軍に対する反乱を開始/数日後、クリストフとデサリヌもこれに続く/数日の内に加フ・フランス、ポルト・フランス、ルイを失ってほぼ全土が反乱軍の手に落ちる
- 1802年10月14日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワラキア総督・領主「コンスタンティン・イブ・シラントイ」(1回目~18060816)
- 1802年10月15日-01:00|スイス/フランス| |||フランスがスイスを再占領(~18040109)
- 1802年10月15日-09:00|日本|静岡県沼津市|享和2年9月19日|<死去>駿河沼津藩3万石「水野忠友」(72歳)⇒11月、婿養子「水野忠成」が継ぐ(⇒文政4(1821)年11月11日、1万石加増され4万石)
- 1802年10月16日 06:00|アメリカ/スペイン| |||スペイン、アメリカのニュー・オーリンズ 倉庫使用権を停止
- 1802年10月17日-09:00|日本|京都府亀岡市|享和2年9月21日|<死去>丹波亀山藩5万石「松平信彰」(21歳)⇒養子「松平信志」が継ぐ(⇒文化13(1816)年4月15日、死去)
- 1802年10月23日-01:00|イタリア| |||<死去>ベネチア最後のドージェ「ロドヴィーゴ・マニッソ」の自宅で
- 1802年10月24日-09:00|日本|大分県杵築市|享和2年9月28日|<死去>豊後杵築藩3200石「松平親賢」(50歳)⇒11月20日、甥「松平親明」が継ぐ(⇒文政8(1825)年11月12日、41歳で死去)
- 1802年10月24日-09:00|日本|東京都千代田区|享和2年9月28日|<解任>老中「安藤信成」
- 1802年10月25日-05:30|インド| |||<フネの戦い>ホルカル家のヤシュワント・ラーオ・ホルカルはフネでマラータ宰相とシデーヤ家の連合軍を破り、フネを占領。バーゼーラーオ2世はボンベイを拠点とするイギリスのもとへと逃げた
- 1802年10月27日 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>フランス領セネガル総督「フランソワ・ブランショ・ド・ウエリ」(2回目~18070912)
- 1802年10月27日-09:00|日本| |||享和2年10月|志筑忠雄「曆象新書」完結(ニュートン力学などを紹介した)
- 1802年10月28日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「アレクサンドル・コンスタンティン・モルジ」(~1806年8月)
- 1802年10月30日 06:00|ベネチア/イギリス| |||<就任>ベネチア 居留地管理者代行(ジャマイカの知事に従属)「ルソン」(~12.20)
- 1802年11月1日-01:00|オランダ| |||<就任>バタヴィア共和国国務院主席「ヨハネス・バプティスタ・フェルハイン」(~18030131)
- 1802年11月2日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント・ミッシェル 総督「ロジャンド・ド・ナティオン・マリ・ジョゼフ・ド・グイムール」(2回目~18031130)
- 1802年11月5日-01:00|ドイツ| |||<死去>リッパ 侯「レオポルト1世」
- 1802年11月5日-01:00|ドイツ| |||<就任>リッパ 侯「レオポルト2世」(~18510101死去)
- 1802年11月5日 04:00|グレタ/イギリス| |||<就任>グレタ 副総督代行「サミュエル・テント」(2回目~18040506)
- 1802年11月6日-01:00|イタリア| |||<即位>トント司教公「Emmanuel Maria Graf von Thun und Hohenstein」(~1803.2)
- 1802年11月7日 06:00|アメリカ| |||U. S. サルミアのソール大尉によってパルミア環礁発見されパルミア島と名付けられた
- 1802年11月14日-09:00|日本|大阪府大阪市|享和2年10月19日|<就任>大坂城代「稲葉丹後守正謙」(~文化1.1.23)
- 1802年11月14日-09:00|日本|京都府京都市|享和2年10月19日|<就任>京都所司代「青山忠裕」(⇒1804(文化1年1月23日))
- 1802年11月14日-09:00|日本|東京都千代田区|享和2年10月19日|<就任>老中「土井利和」(~文政5年7月8日)
- 1802年11月18日-09:00|日本| |||享和2年10月23日|<死去>青木夙夜(不明)画家
- 1802年11月21日 04:00|BES諸島/オランダ| |||<就任>セント・ユースティウス島知事「Albert van Heyningen, Jr.」(~1809.7 死去)
- 1802年11月22日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李時秀」(~18030213)
- 1802年11月25日-01:00|ハンガリー| |||ハンガリー民族博物館と図書館の基礎が発足
- 1802年11月25日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|享和2年11月|<死去>鳥取西館新田藩2万石「池田定常」隠居⇒長男「池田定興」が継ぐ(⇒文化4年11月3日(18071201)、死去)
- 1802年11月26日 04:00|トリニダード・トバゴ/フランス| |||<就任>トバゴ 総司令官・総督代行(知事)「ムゲトット」(~18030630)
- 1802年11月29日 01:00|カボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カボベルデ 総督「政府評議会:マヌエル・クルス・モンテロ/ホセ・コエリョ・デ・メントンサ/ホアキン・サザリオ・ダ・フォンセカ・ホルマス/ホセ・ホアキン・ホテリオ・デ・アルメイダ」(~1804年)
- 1802年12月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ニコライエフ軍事知事兼エカテリノスラフ=ニコライエフ=タウリタ 県民事務主席管理者「Ivan Ivanovich Mikhel'son」(~1803.2)
- 1802年12月1日 04:00|セント・マルティン/サン・マルタン| |||フランスとオランダがサン・マルタン島領域再開(~18100215)
- 1802年12月3日 00:00|カナデンマーク| |||<就任>デンマーク領ゴールド=コースト総督「ヨハン・ピーター・デ・ビット・リスバーク」(2回目~18070415)
- 1802年12月4日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督代行「ウィレム・オットー・ブロー・ファン・トレスロン」(~18031209)
- 1802年12月7日-09:00|日本|東京都墨田区|享和2年11月13日|<大相撲>享和2年11月場所[江戸本所回向院境内](10日間)優勝:(西大関)雷電、8勝0敗2休
- 1802年12月9日 05:00|日本|新潟県佐渡市|享和2年11月15日|<享和2年佐渡地震>未刻(14時ごろ)各所で地殻変動/島の西南海岸の小木で2m隆起し約120mの干潟を生んだのははじめ、沢崎、赤泊間が目立って隆起し、その東の徳和、岩首間では海岸が沈んだ/島の西南部の小木半島と国中平野の西半分での被害が大きく、たとえば小木では集落453軒がほとんど全潰し、そのうち328軒が焼失/金山では150軒のうち100軒が倒潰、安国寺50軒、畑片畑本郷では30軒が倒壊/島北部では、金山のある相川では土蔵や石垣、用水路などが破損し、金山にも被害があった/佐渡全体の被害、家屋倒潰732軒、うち同焼失328軒、同破損1423軒。土蔵倒潰1棟、同焼失23棟、同破損37棟。19人死亡
- 1802年12月11日-09:00|日本|茨城県筑西市|享和2年11月17日|<死去>常陸下館藩2万石「石川総般」(46歳)⇒養子「石川総親」が継ぐ(⇒文化5年9月29日(18081117) 死去)

1810迄 (2641件)

- 1802年12月20日 06:00|ベリス/イリス| |||<就任>ベリス 居留地管理者代行(ジャマカの知事に従属)「チェスター・マド
ル」(~1803年1月)
- 1802年12月24日-01:00|フランス| |||フランスで商業会議所が設置
- 1802年12月25日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>タリヤのロシア総督「Grigoriy Petrovich Miloradovich」(~18030814)
- 1802年12月25日 04:00|トミカ国/イリス| |||<就任>イリス領トミカ総督「ジョージ・ブレホスト卿」(~18050624)
- 1802年12月26日-09:00|日本|愛知県岡崎市|享和2年12月2日|<交替>三河奥殿藩16000石「松平乗尹」隠居⇒甥「松
平乗義」が継ぐ(⇒文政10(1827)年8月23日、死去)
- 1802年12月31日-05:30|インド/イリス| |||ダラール国はイリスの保護領
- 1802年12月31日-05:30|インド/イリス| |||マラータ帝国宰相「ジョーラーオ2世」がイリスと軍事保護条約「ヘイン条約」を締結
- 1803年-08:00|マレーシア| |||<死去>パンダハラ・セリ・マハラジャ「トウン・ムハンマド・ビン・トウン・アブドゥル・マジド」
- 1803年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ総督「Carel Lodewijk Wieling」(~1804年)
- 1803年-08:00|マレーシア| |||<就任>パランガン酋長「ロバート・タウンセント・ファーサー」(~1805年11月)
- 1803年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Petrus Adrianus Goldbach」(~1804年)
- 1803年-08:00|マレーシア| |||<即位>パンダハラ・セリ・マハラジャ「トウン・コリス・ビン・トウン・アブドゥル・マジド」(~18060311没)
- 1803年-08:00|インドネシア| |||<即位>ハンテン王国スルタン「Sultan Abu al-Mafakhir・ムハンマド・アリウッティン2世」(~1808年)
- 1803年-07:00|ラオス| |||<即位>シェンクアーン王「ノイ」ソーン・フオウの甥(~1831年、ベトナムのミン・マン皇帝によって処刑され、シェンクア
ーンはベトナムにチャンコン省として併合~1832年)
- 1803年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「タシナムギャル」(2回目~1805年)
- 1803年-05:30|インド| |||<死去>ジャハラバード・タタール兼ジャーンラ・ワズール「Jumrud Khan」
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>アノガル国ラジャ「クリシュナ・チャンドラ・シン・ジャガデーオ」(~同年没)⇒「アチャラ・マン・シン・ジャガデーオ」(
~1806年)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>カカ国摂政「ラニ・ジャイ・ラジヤガル」(~1805年)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>クムハルサイン国統治者(タナ・サハブ)「ケハル・シン」(1回目~同年)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>サト国統治者(ラナ)「ケシュリシジ・シフ・シジ」(~1819年没)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>シルムル国ラジャ「ラタン・プー・ラシ」(1804年没)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>ジャハラバード 国・ジャーンラ国支配者(ナワブ)「イブラヒム・カーン2世」(~1826年)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>ジャハラバード・タタール兼ジャーンラ・ワズール「Ibrahim Khan2世」(~1826年)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>タミル国統治者(ラナ)「フリタム・シン」(~1813年没)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>トルコ国統治者(タクル・サーヒブ)「フフ・タシム・モジ」(~1844年)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>パリア国ラジャ「ジャシュワシムジ・サヒブ・シムジ」(~不明)⇒「カント・スジ2世ジャシュワシムジ」(~181
9年8月没)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>ホー国ラジャ「ヒ・シヤンパル・デーオ」
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>マラーター王国宰相「Baji Rao2世」(~18180603)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>ラージガル国支配者(ラウト)「フリスウ・イ・シン」(~1815年)
- 1803年-05:30|インド| |||<就任>ラクタル国統治者(タクル・サーヒブ)「フリタイラジ・チャンドラシンジ」(~1835年没)
- 1803年-05:30|インド/イリス| |||アスガル国、カンパラ国、カンパイ国、ダスハラ国、タルチャー国、ティギリア国、テンカナル国、ナヤガル国、ナル
ンブル国、ニルギリ国、パランバ国、パンスタ国、ヒンドル国、ラソブル国はイリス保護領
- 1803年-05:30|インド| |||ガソブル国、サンバルブル国、ソネポル国、パトナ国、パムラ国、ホライ国、ライラクホル国がナガポールから割譲
される(イリス保護領)
- 1803年-05:30|インド/ネパール| |||クタル国、クニル国、クムハルサイン国、サンクリ国、ジュバル国、シルムル国、ダコーティ国、タミル国、タロク国、
ナラガル国、パガル国、バジ国、パルサノ国、ベジャ国、マフロク国、マンガル国をネパールが占領(~1815年)
- 1803年-05:30|インド/ネパール| |||クタル国をネパールが占領(~1814年)
- 1803年-05:30|インド| |||シバ国をキユラが占領(~1813年)
- 1803年-05:30|インド/イリス| |||マルハニ国はイリス保護領(正式には1812年から)
- 1803年-05:00|パキスタン| |||<死去>タタル統治者(ミール)「ハハット・カーン」
- 1803年-05:00|パキスタン| |||<就任>タタル統治者(ミール)「ハシム・アリ・カーン」(~1805年没)
- 1803年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>カブール首相(ワズール・イ・アザム)「シル・モハマト・カーン」(~1808年没)
- 1803年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>アフガニスタン対立大王(カンダハール)「カイザー・シャー」(~1804年)
- 1803年-04:30|アフガニスタン/イラン| |||<即位>ケリアン・カラエイ汗国(ヘルシャ内)ハン「ユセフ・アリ・カーン・カラエイ・トルハティ」(~1813年)
- 1803年-04:00|UAE| |||<即位>シャルジャ首長「Sheikh Sultan bin Saqr Al Qasimi」(1期目~1840年)兼アラス・アル=ハイマ
首長(1期目~1808年)
- 1803年-04:00|ロシア| |||アウアルはロシアの宗主権下
- 1803年-03:00|タンザニア/オマーン| |||<就任>オマーン・ザンバル総督「ヤクト・ビン・アマル・アル・ハフシ」(~18060914)
- 1803年-03:00|スーダン| |||<就任>コルドファン副王(マクトゥム)「ムサリム」(~18210819)
- 1803年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのムテッサリフ「イブラヒム・アガ」(~1808年)
- 1803年-03:00|ベラルーシ/ロシア| |||<就任>ベラルーシのロシア軍総督兼ヒテフスク県とモクリョフ県民事行政長官「イワン・イワノビッチ・ミ
ケルソ」(~1806年)
- 1803年-03:00|イラク| |||<即位>ハバン首長「Abdurrahman Pasha」(~1813年)
- 1803年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクソ・ワリス(総督)「Ibrahim Pasha Qattar Agisi」(~1804年)
- 1803年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>カメツィ・ホドールスキー軍総督兼ポドリア、ウァルイーニ行政区域民事主席管理者「Ivan N
ikolayevich Essen」(~1811年)
- 1803年-02:00|モザンビーク| |||<就任>カンガ統治者(マンボ)「カンガ2世」(~1804年)

1810迄 (2641件)

- 1803年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>キエフ軍総督兼キエフ、ミンスク行政区域民事主席管理者「Aleksandr Petrovich Tor masov」(~1806年)
- 1803年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Kataragasi Ibrahim Pasha」(~1804年)
- 1803年-01:00|ドイツ| |||<就任>イゼンブルク・ウント・ヒューテングェン・イン・ビルシュタイン侯「カール1世」(~1820年)
- 1803年-01:00|イタリア| |||<就任>ハノツァティ伯「Guillame Adam de Felice」(~1871年)
- 1803年-01:00|ドイツ| |||<昇格>アンハルト＝ベルンブルク侯「Alexius Frederick Christian」⇒アンハルト＝ベルンブルク公(~18340 324死去)
- 1803年-01:00|アンゴラ/コンゴ 共和国/コンゴ 民主共和国/ガボン| |||<即位>コンゴ 王国マニコウ「ガルスア5世」(~1830年1月没)
- 1803年-01:00|フランス| |||ヴュルテンベルク＝モンペルザルト(モンペリアル)をフランスに割譲
- 1803年 00:00|セカール| |||<就任>サルム統治者(フール・サルム)「マクハ・ジヨコブ・ムホジ」(~1810年)
- 1803年 00:00|セカール| |||<就任>サアツ統治者(ファンカマ)「テイヤ・サンハラ・ジヤロ」(~1804年)
- 1803年 02:00|グリーンランド/デンマーク| |||<就任>北グリーンランド 検査官「Peter Hanning Motzfeldt」(~1817年)
- 1803年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ 島司令官「Pieter Specht」(~1804年)
- 1803年 04:00|キュラー/イギリス| |||<就任>キュラー知事代理「Cornelius Berch」(~18030209)
- 1803年 04:00|BES諸島| |||<就任>サバ 島副知事「Thomas Dinzey」(~1810年)
- 1803年 04:00|トリニダード・トバゴ/フランス| |||<就任>トバゴ 総司令官、総督(名目)「ベルティエ伯爵ルイ・セザール・ガブリエル・デ・ペルルイ」(~6.30)
- 1803年 04:00|セントクリストファー・ネイビス| |||<就任>ネイビス大統領「ジョン・コルフーン・ミルス」(~1807年)
- 1803年 04:00|サン・マルタン/オランダ| |||<就任>フランス領サン・マルタン司令官「Jean-Baptiste Bresson」弁務官(~1804年)
- 1803年 04:00|トミニカ共和国/フランス| |||<就任>フランス領サント・ミンゴ 総督「フランソワ＝ジャック・ルコワト・モンゾロー」(~同年)
- 1803年 06:00|アメリカ/フランス| |||<就任>>フランス領ルイジアナ植民地総督「ピエール・クレマン・ド・ロサ」(~同年)
- 1803年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サンサルバドル管理者代行「ホセ・ベンチャー・ド・ウイテリ」(~1804年)
- 1803年1月 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード 知事「市民委員会(ウィリアム・フートン/トマス・ヒクトン/サミュエル・フット)」(~7.20)
- 1803年1月4日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「ホセ・デ・イトリガライ・イ・アルステギ」(~18080916)
- 1803年1月4日-09:00|日本|奈良県|享和2年12月11日|大和国山辺郡に一揆
- 1803年1月8日-09:00|日本|奈良県天理市|享和2年12月15日|大和国柳本藩に貢租減免の一揆
- 1803年1月13日 04:00|キュラー/イギリス| |||<就任>キュラー知事代理「Cornelis Hubertus Buschman」(~同年死去)
- 1803年1月13日-09:00|日本|京都府福知山市|享和2年12月20日|<死去>丹波福知山藩32000石「朽木倫綱」(36歳)⇒翌年1月12日、養子「朽木綱方」が継ぐ(⇒文政3(1820)年6月3日、隠居)
- 1803年1月15日-05:30|イット| |||<就任>ラジビープラ国統治者(ラジャ・マハラ)「ラムシジ」(~18100510没)
- 1803年1月21日 00:00|チャンル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ルダニー島知事「John Le Mesurier3世」(~18250414)
- 1803年1月21日-09:00|日本|長野県佐久市|享和2年12月28日|<死去>信濃岩村田藩15000石「内藤正国」(30歳)⇒翌年閏1月18日、甥「内藤正綱」が継ぐ(⇒万延元(1860)年2月25日、死去)
- 1803年1月22日 05:00|日本|高知県高知市|享和2年12月29日|<高知享和2年の大火>朝四つ時(午前10時ごろ)、細工町の菓子屋俵屋から出火、隣接する山田町から廿代町、蓮池町と燃え広がり、紺屋町、新堀、菜園場町、農人町、新町、鉄砲町と1戸も残さず次々と灰にして行った/続いて炎は下知村の農家までをも焼き尽くし、夜の六つ時(18時ごろ)鎮火/焼失戸数1100余軒
- 1803年1月23日 06:00|ベリーズ/イギリス| |||<就任>ベリーズ 居留地管理者(ジャマカの知事に従属)「トマス・ハロウ」(2回目~18050214)
- 1803年1月23日-09:00|日本| ||享和3年1月|<出版>歌川豊広・歌川豊国「御伽かのこ」
- 1803年1月23日-09:00|日本| ||享和3年1月|<出版>葛飾北斎「絵本小倉百句」
- 1803年1月23日-09:00|日本| ||享和3年1月|<出版>山東京伝(北尾政演)「奇妙図彙」
- 1803年1月23日-09:00|日本| ||享和3年1月|<出版>式亭三馬(勝川春英・歌川豊国両人の画)「戯場訓網図彙」八巻五冊
- 1803年1月23日-09:00|日本| ||享和3年1月|<出版>大阪の画工松好齋半兵衛「戯場言葉草」五冊
- 1803年1月23日-09:00|日本| ||享和3年1月|<出版>北尾重政「絵本三鼎倭孔明」
- 1803年1月23日-09:00|日本| ||享和3年1月|<出版>立川焉馬(豊国の画)「役者此手嘉志和」二冊
- 1803年1月23日-09:00|日本| ||享和3年1月|<出版>篁竹里「絵本戯場年中鑑」
- 1803年1月31日 11:00|日本|長野県松本市|享和3年1月9日|<松本享和3年の大火「飴や火事」>夜四つ時(20時ごろ)、餌差町長屋の飴屋から出火、上下横田町から東町の半分、和泉町、安原町、萩町と焼け抜けて、御徒士町、新町、田町、片端はそれぞれ半分焼失、袋町、天白両町は全町が焼け失せた/家屋の損害は町家1390軒、侍屋敷68軒、足軽の家570軒、合計2028軒/主な寺院の焼失は下横田町の正行寺、恵光院など7か所
- 1803年2月-05:45|ナール| |||<就任>ナール王国初代主任大臣「タモタル・ハンテ」(~1804.3)
- 1803年2月-05:45|ナール| |||<就任>ナール摂政「マハニ・ラジ・ラジエシュワリ・デ・ウイ」(2回目~1804年)
- 1803年2月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ニコライエフ軍事知事兼カテリナスラフニコライエフ・ウクリヤ 県民事主席管理者「Sergey A ndreyevich Bekleshov」(~10月死去)
- 1803年2月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチー司令官代行「マニル・ゴンサロ・エスト・ス・サントス」(~1804年)
- 1803年2月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ司令官「アントニオ・カルドソ・デ・ファリア」(~1804年7月)
- 1803年2月 04:00|フォーランド/スペイン| |||<就任>スペイン領フォーランド 諸島司令官・総督「Antonio Leal de Ibarra y O

1810迄 (2641件)

xinando (1期目~18040321)

- 1803年2月1日-01:00|オランダ | |||<就任>バタヴィア共和国国務院主席「ヤコブ・ス・ホーリス」(~4. 30)
- 1803年2月2日-08:00|中国 | |||中国・雲南省で地震M6. 3、死者200
- 1803年2月3日-04:00|レユニオン/フランス | |||ブルボン島は東インド・フランス植民地の一部(~18100709)
- 1803年2月9日-01:00|マルタ | |||<就任>聖ヨハネ騎士団公グランド・マスター「ジョージ・アン・バウティスタ・トマシ・デ・コルトナ」(~18050613没)
- 1803年2月9日 04:00|キュラー/オランダ | |||<就任>オランダ 植民地キュラー知事「Abraham de Veer」(~18040827)
- 1803年2月13日-09:00|日本 |三重県鈴鹿市|享和3年1月22日|<死去>伊勢勢戸藩15000石「本多忠裔」(49歳)⇒養子「本多忠升」が継ぐ(⇒天保11(1840)年9月20日、隠居)
- 1803年2月14日-09:00|日本 |長崎県大村市|享和3年1月23日|<交替>肥前大村藩24973石「大村純鎮」隠居⇒長男「大村純昌」が継ぐ(⇒天保7(1836)年11月23日隠居)
- 1803年2月15日 00:00|シエラレオネ/イギリス | |||<就任>イギリス領シエラレオネ植民地総督「ウィリアム・テイ」(1回目~8月)
- 1803年2月16日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク | |||<就任>セントクリア総督「Balthazar Frederik von Mühlenfels」(~18070322死去)
- 1803年2月16日 04:00|米領ヴァージン諸島/デンマーク | |||<就任>セントトマス島・セントジョン島総督「Casimir Wilhelm von Scholten」(2期目~18071221)
- 1803年2月17日-05:30|スリランカ | |||<即位>キャンディ王国国王「ムトゥサミ」(~6. 24死去)
- 1803年2月19日-01:00|スイス/フランス | |||フレデリック・ボナパルトが、スイス諸州の内乱を調停/新しく憲法としての調停法を通過
- 1803年2月21日-02:00|南アフリカ/オランダ | |||<就任>バタヴィア共和国ケープ 植民地総監「シエイコフ・アブラハム・ウイテンハーゲ・デ・ミスト」(~18040925)
- 1803年2月21日-02:00|南アフリカ/オランダ/イギリス | |||イギリスがケープ 植民地をバタヴィア共和国に返還
- 1803年2月24日-09:00|日本 | |||享和3年閏1月3日|<死去>鎗木梅溪(54歳) 画家
- 1803年2月25日-01:00|トイッ | |||<昇格>ヴュルテンベルク公「フリードリヒ3世」⇒ヴュルテンベルク選帝侯(⇒18060101、ヴュルテンベルク国王「フリードリヒ1世」~18161030死去)
- 1803年3月-03:00|サジ アヒバ | |||ワッハーブ 派のデイヤ首長国がヒジャース を占領(~18130123);タイフを占領
- 1803年3月-01:00|トイッ | |||<初演>カール・マリア・フリードリヒ・エルンスト・フォン・グーハー - 《歌劇「ペーター・シュメルとその隣人たち」》
- 1803年3月1日-02:00|南アフリカ/オランダ | |||<就任>バタヴィア共和国ケープ 植民地知事「ヤン・ウィルム・ヤンセン」(~18060118)
- 1803年3月1日 06:00|アメリカ | |||<加盟>北西部領土(東海岸の連邦政府に寄贈された土地:ペンシルバニア州、バージニア州、ネネカット州、ニューヨーク州など)⇒アメリカ合衆国オハイオ州(17番目)
- 1803年3月5日-09:30|オーストラリア | |||オーストラリア初の新聞「シドニー・ガゼット」創刊
- 1803年3月8日 00:00|イギリス | |||<死去>3代ブリッジウォーター公・3代ブリックリー侯「フランス・エジヤートン」ブリッジウォーター公位廃絶
- 1803年3月8日 00:00|イギリス | |||<就任>7代ブリッジウォーター伯「ジョン・ウィリアム・エジヤートン」(~18231021死去)
- 1803年3月10日-01:00|スイス | |||<就任>スイス連合評議会議長「ルートヴィヒ・オグスト・フィリップ・フォン・アプリー」Con(1期目~12. 31)
- 1803年3月15日 05:00|パナマ/スペイン | |||<就任>パナマ総督「ファン・デ・マルコス・ウルビナ」(~18050222没)
- 1803年3月19日-01:00|トイッ | |||シラー(43)の「メッツナの花嫁」がワイマル劇場で上演される
- 1803年3月20日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/イギリス | |||<就任>サンピエール島・ミクロン島イギリス司令官「Richard Longfield Davies」(~21日)
- 1803年3月20日 03:00|サンピエール島/ミクロン島/イギリス | |||イギリスがサンピエール島・ミクロン島占領(島はニューファントランド が管理) (~18160622)
- 1803年3月23日-09:00|日本 | |||享和3年2月|<刊行開始>本草学者小野蘭山「本草綱目啓蒙」(1806年完結)
- 1803年3月23日-09:00|日本 |長野県諏訪市|享和3年2月|高島藩、文武学校稽古所を設立
- 1803年3月25日 04:00|バミュダ/イギリス | |||<就任>イギリス直轄植民地バミュダ 総督代理「ヘンリー・タッカー」(3期目~18050324)
- 1803年3月28日-01:00|フランス | |||フランスで、フラン価安定法が成立
- 1803年3月29日-09:00|日本 |埼玉県行田市|享和3年2月7日|<死去>阿部正識(40歳) 前武蔵忍藩主
- 1803年3月31日-09:00|日本 |群馬県高崎市|享和3年2月9日|<死去>上野吉井藩1万石「松平信充」(29歳)⇒4月18日、養子「松平信敬」が継ぐ(⇒天保12(1841)年5月9日、死去)
- 1803年4月-03:30|イラン | |||<死去>ホーサン・シャー「ナイール・ミザ」
- 1803年4月-03:30|イラン | |||ホーサンがペルシャに再編入
- 1803年4月1日-01:00|サンマリノ | |||<就任>サンマリノ共和国執政「カミッロ・ボネリ」「リビオ・ガザーリ」
- 1803年4月5日-01:00|トイッ | |||ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 《交響曲第2番=長調Op. 36》 《ピアノ協奏曲第3番ハ短調Op. 37》 《オトリオ「オリヴァー」 山上のキリスト》が初演
- 1803年4月7日-01:00|フランス | |||(仏) 貨幣法制定/ジェルミナルフラン(金銀複本位制)
- 1803年4月10日-09:30|オーストラリア | |||パラマツタ、セントジョンズ 教会創立
- 1803年4月10日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア | |||シヤルハランはロシアに併合された
- 1803年4月12日-01:00|フランス | |||フランスで、労働者の団結と労働運動を禁止する「ジェルミナル22日法」が制定される
- 1803年4月17日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア | |||イリスはロシアに併合
- 1803年4月19日 06:00|アメリカ/スペイン | |||スペイン、ニュー・オリンズ をアメリカ商人に再開放
- 1803年4月20日-09:00|日本 |長崎県長崎市|享和3年2月29日|<死去>坂本天山(59歳) 砲術家、高遠藩士/萩野流砲術を修め、砲身が前後左右に動く周発大砲を發明. 萩野新流を創始

1810迄 (2641件)

- 1803年4月23日-01:00|クアチア| |||<即位>ホーランド大公「イワン・チョウ・イチ」(~18070610)
- 1803年4月26日-01:00|オランダ/フランス/イギリス| |||ホーランドがオランダ領のフランス・ブラントを占領/アミアンの和約に反しているため、イギリスが態度を硬化させる
- 1803年4月27日-01:00|ドイツ| |||<昇格>パーテン辺境伯「カール・フリードリヒ」⇒パーテン選帝侯(⇒18060725パーテン大公~18110610死去)
- 1803年4月30日-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「アブドゥル・ムイン・ブン・マサド」(2回目~7.30)
- 1803年4月30日-03:00|サウジアラビア| |||テイヤガビシヤースを併合(~18130123)
- 1803年5月1日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「Sir Thomas Trigge」(~18041217)
- 1803年5月1日-01:00|オランダ| |||<就任>ハッセルニア共和国国務院主席「カンペギウス・ヘルマナス・ゴッキンカ」(~7.31)
- 1803年5月2日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「サー・トマス・トリグ」(~18041217)ケント公の下で
- 1803年5月2日 06:00|アメリカ/フランス| |||フランスがルイジアナを1500万ドルでアメリカに売り渡す、ルイジアナ割譲条約調印
- 1803年5月3日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「タール・パシャ」(~6月)
- 1803年5月8日 04:00|グアートルーフ/フランス| |||<就任>グアートルーフ総司令官「Manuel Louis Jean Augustin Ernouf」(~18100206)
- 1803年5月8日-09:00|日本|東京都江東区|享和3年3月17日|江戸深川三十三間堂通矢「六十間堂百射」、大沼優之助(13歳)66本(総矢数100本中)を記録/種目最初
- 1803年5月10日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「李秉模」(~18060125)
- 1803年5月11日-09:00|日本|東京都台東区|享和3年3月20日|<大相撲>享和3年3月場所[江戸浅草八幡宮](7日間)優勝:(西大関)雷電,5勝0敗2預
- 1803年5月15日-01:00|ドイツ| |||<昇格>ヘッセン=カッセル方伯「ヴーイルヘルム9世」⇒ヘッセン選帝侯「ヴーイルヘルム1世」(~18070828解任、ヘッセン選帝侯領はグェストファーレン王国に併合~18210227死去77歳)
- 1803年5月16日 00:00|イギリス/フランス| |||アミアンの和約を破ったとして、イギリスがフランスに宣戦布告
- 1803年5月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>ナッサウ=ヴィンゲン侯「Charles William」
- 1803年5月17日-01:00|ドイツ| |||<就任>ナッサウ=ヴィンゲン侯「Frederick Augustus」(~18160324死去)
- 1803年5月17日-01:00|フランス/オランダ/イギリス| |||イギリスが、フランスとオランダの船のイギリス港への出入りを禁止
- 1803年5月19日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Fernando Cagigal de la Vega y Martinez Nino de San Miguel y Pacheco」(~1808年)
- 1803年5月19日-09:00|日本| |||享和3年3月28日|<死去>勝見二柳(81歳)俳人
- 1803年5月21日-09:00|日本| |||享和3年4月|<出版>画工不明の「戯場一覽三座例遺誌」前編一冊
- 1803年5月21日-09:00|日本| |||享和3年4月|<出版>大阪の画工流光斎如圭「戯場画史」山水之部二冊
- 1803年5月21日-09:00|日本|東京都|享和3年4月|(~6月)江戸で麻疹流行/死者多数
- 1803年5月22日-01:00|フランス/イギリス| |||ホーランド・ホーナルト、イギリスに宣戦
- 1803年5月23日 03:00|日本|山梨県甲府市|享和3年4月3日|<甲府享和3年の大火「鳥羽屋火事」>昼の九つ時(正午)過ぎ、柳町二丁目の鳥羽屋庄右衛門方から出火/夜明けまで焼き尽くされた家々は横近習町を除く郭内町全体から、東は甲州街道沿いに金手町、上一条町、下一条町、和田平町、城屋町に及び、深町の組屋敷も全焼させた/南の方は緑町、西一条町から一蓮寺地内町へと燃え拡がり、さらに飛び火で町続きの板垣村、蔵田村、東青沼村まで焼いている/また国玉村、蓬沢村、里吉村でも数軒が飛び火で類焼/町方の被害は、下府中19町の内44丁を焼き1108軒が焼失、土蔵焼失263か所。5歳以上の被災者は6732人、17人が死亡、死亡したのを内緒にすませた者90人余り、その後、井戸などから見つかった者を加えると150人ほどの人が亡くなった
- 1803年5月24日-01:00|ドイツ| |||<初演>ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン《ヴァイオリン・ソナタ第9番イ長調「クワイエル」》
- 1803年5月27日-01:00|イタリア| |||<死去>エトリア王・トスカナ大公「ルトヴィーゴ(ルイジ)1世・ディ・ボルネーネ」
- 1803年5月27日-01:00|イタリア| |||<即位>エトリア王・トスカナ大公「カルロ・ルトヴィーゴ・ディ・ボルネーネ」ルトヴィーゴ1世の息子(~18071210)
- 1803年5月29日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ミュフサード・アフマド・パシャ」(~6月)
- 1803年6月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「クルシット・アフマド・パシャ」(1回目~7月)
- 1803年6月 04:00|ドミニカ共和国/フランス| |||<就任>フランス領サント・ミンゴ監督官「ルイ・モリス・トパンント・マニョット」(~11.14)
- 1803年6月5日-04:00|ロシア| |||ロシア暦11月6日|<就任>カムイク・ハン国首席執行官「ニコライ・ワノウ・イチ・ストラホフ」ザルゴ副議長(~11.8)
- 1803年6月8日-09:00|日本|長崎県平戸市|享和3年4月19日|<死去>平戸新田藩1万石「松浦矩」(36歳)⇒婿養子「松浦良」が継ぐ(⇒文化11(1814)年12月5日、25歳で死去)
- 1803年6月10日-01:00|ドイツ/フランス/イギリス| |||フランス軍が、イギリス領のドイツのノーファーを占領
- 1803年6月20日-01:00|フランス/イギリス| |||ホーランド・ホーナルト、イギリス商品の輸入を禁止
- 1803年6月20日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード知事「トマス・ヒスロップ 卿」(~18100109)
- 1803年6月22日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア総督「ウィリアム・グリンフィールド」(~26日)
- 1803年6月22日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<設立>イギリス植民地セントルシア
- 1803年6月24日-05:30|スリランカ| |||<死去>キャンティ王国国王「ムトゥサミ」
- 1803年6月24日-05:30|スリランカ| |||<即位>キャンティ王国国王「シュリ・ウイクラマ・ラジャシムハ」(2度目~18150302)
- 1803年6月26日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア総督「ロバート・ブレトン」(~18070720)
- 1803年6月30日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トバゴ総司令官、総督代行「トマス・ヒクトン」(~7.21)
- 1803年6月30日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||イギリスのトバゴ直轄植民地
- 1803年7月-03:00|サウジアラビア| |||<就任>メッカ・シャリフ「カール・ブン・マサド」(2回目~18131102退任/1806年2月~18130

1810迄 (2641件)

123. 亡命)

- 1803年7月-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「アリ・ハッシャ・ジャヤイリ」(~18040131没)
- 1803年7月1日 05:00|タークス・カイコス諸島/イギリス| |||<就任>タークス・カイコス諸島代理人「Alexander Murray」(3期目~18041001)
- 1803年7月8日-01:00|フランス/イギリス| |||イギリスの提督ホレーショ・ネルソン、フランス南東部の「ツロン港」を封鎖
- 1803年7月11日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「デカン伯爵シャルル・マシュー・イットール」、代行「ルイ・フランソワ・ピノ」(~10.1)
- 1803年7月11日-09:00|日本|千葉県夷隅郡大多喜町|享和3年5月23日|<交替>上総大多喜藩2万石「松平正升」、隠居)⇒長男「松平正路」が継ぐ(⇒文化5(1808)年6月5日、死去)
- 1803年7月12日-01:00|ドイツ/ベルギー| |||ベルギーの有名な芸人、Etienne-Gaspard Robertがドイツのハンブルクで熱気球で7,280mの高さの飛行
- 1803年7月13日-05:30|インド/フランス| |||<就任>フランス領インド総督「ブノワ・モット・ド・ラ・フォンテーヌ」(~10.1)
- 1803年7月13日-04:30|アフガニスタン| |||<即位>アフガニスタン大王(ハドゥシャー)「シュジャー・アル・ムルク・シャー」(1回目~18090503退位)
- 1803年7月13日-04:30|アフガニスタン| |||<退位>アフガニスタン大王(ハドゥシャー)「マフムド・シャー」
- 1803年7月13日-09:00|日本| ||享和3年5月25日|<死去>5代山本春正(70歳) 蒔絵師
- 1803年7月17日-01:00|ドイツ| |||<死去>ヘッセン=フィリップスタール=ハルヒフェルト方伯「アドルフ」
- 1803年7月17日-01:00|ドイツ| |||<就任>ヘッセン=フィリップスタール=ハルヒフェルト方伯「カール」(~1806年ヴエストファーレン王国に併合)
- 1803年7月18日-09:00|日本|山口県岩国市|享和3年5月30日|<死去>周防岩国藩6万石「吉川経忠」⇒7月12日、長男「吉川経賢」が継ぐ(⇒文化3年12月26日(18070203)、16歳で死去)
- 1803年7月19日-09:00|日本| ||享和3年6月|<出版>北尾重政「絵本江戸桜」
- 1803年7月19日-09:00|日本| ||享和3年6月|<出版>柳々居辰斎「新撰狂歌五十人一首」
- 1803年7月21日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トバゴ総司令官、総督代行「ウィリアム・ジョンストン」(~8.9)
- 1803年7月23日 00:00|アイルランド/イギリス| |||ダブリンで、ロバート・エメット(25)が反イギリス蜂起(~24日鎮圧され9月20日処刑された)
- 1803年7月31日-09:00|日本|三重県亀山市|享和3年6月13日|<死去>伊勢亀山藩6万石「石川総師」(28歳)⇒長男「石川総佐」が継ぐ(⇒文政3(1820)年3月22日、隠居)
- 1803年8月 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド総督代行「ルドゥグ・イグ・エリクソン」(~18040507没)
- 1803年8月1日-05:30|インド| |||<死去>ジャイプール国マハラジャ「サワイ・プラータプ・シン」
- 1803年8月1日-05:30|インド| |||<即位>ジャイプール国マハラジャ「サワイ・ジャガット・シン2世」(~18181221没)
- 1803年8月1日-01:00|オランダ| |||<就任>バダビア共和国国務院主席「ダニエル・コルネリス・テ・レーウ」(~10.31)
- 1803年8月2日-09:00|日本|神奈川県横浜市金沢区|享和3年6月15日|<交替>武蔵六浦藩12000石「米倉昌由」隠居⇒養子「米倉昌俊」が継ぐ(⇒文化9(1812)年4月18日、死去)
- 1803年8月6日-05:30|インド| |||<死去>アッシュジャー王朝ハイドラバード・ニザム「ニザム・アリー・ハーン」
- 1803年8月6日-05:30|インド| |||<即位>アッシュジャー王朝ハイドラバード・ニザム「シカンタル・ジャー」(~18290501死去)
- 1803年8月7日-05:30|インド| |||<就任>ハイドラバード国統治者(ニザム・アル・ムルク)「ミール・アクバル・アリ・カーン・アサフ・ジャー3世」(~18290521没)
- 1803年8月9日-01:00|フランス/アメリカ| |||アメリカの発明家ロバート・フルトン(38)が、セヌ川で蒸気機関を取り付けた船の航行実験に成功
- 1803年8月9日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トバゴ総司令官、総督代行「トナル・マクドナルド」(~18040601)
- 1803年8月17日-09:00|日本|東京都台東区|享和3年7月|高嵩溪信宜、猩々舞の図を画く/浅草観音堂の外陣に掲ぐ
- 1803年8月22日-09:00|日本|高知県高知市|享和3年7月6日|<死去>土佐新田藩13000石(浦戸城)「山内豊泰」(39歳)⇒長男「山内豊武」が継ぐ(⇒文政8(1825)年7月29日、40歳で死去)
- 1803年8月24日-09:00|日本/アメリカ|長崎県長崎市|享和3年7月8日|アメリカ船が「長崎丸」の船名板をつけ長崎に来航、通商を求めるが、幕府は拒絶し退去させる
- 1803年8月28日-05:30|インド| |||第2次マラーター戦争が始まる
- 1803年8月28日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス領シエラレオネ植民地総督「トマス・ラドラム」(2回目~1805年1月)
- 1803年9月-05:30|インド/イギリス| |||ウタラ国はイギリス保護下(クルダ国として) (~10月)
- 1803年9月3日-05:30|インド/イギリス| |||<就任>イギリス軍ゴア守備隊司令官「ウィリアム・クラーク卿」(2度目~1806年)
- 1803年9月3日-05:30|インド/イギリス/ポルトガル| |||イギリス軍守備隊がゴア占領(~18130402)ポルトガルの民政が続く
- 1803年9月3日 10:00|ポリネシア| |||<死去>ツィエ諸島統治者「Vai ra'a toa Tu Pomare1世」
- 1803年9月3日 10:00|ポリネシア| |||<就任>ツィエ諸島統治者「Pomare2世」(1期目~18081222)
- 1803年9月5日-01:00|フランス| |||<死去>フランス小説家コルヌスト・ラカ(1741-)小説「危険な関係」で有名、軍人出身(砲兵士官)
- 1803年9月9日-09:00|日本/インド|長崎県長崎市|享和3年7月24日|ベンガル船が通商を求めて長崎に来航するが、幕府は拒絶
- 1803年9月12日-09:30|オーストラリア| |||シドニーからジョン・ボウエン、リストン・コウグに到着/ヌマニア最初の入植
- 1803年9月12日 11:00|日本|熊本県宇土市|享和3年7月27日|宇土郡戸口浦村大火、焼失89戸
- 1803年9月14日-09:00|日本|東京都荒川区|享和3年7月29日|谷中延命院住持日道(40)、大奥奥女中と密通の廉で死罪となる
- 1803年9月16日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ副王「アントニオ・ホセ・デ・アマール・イ・ボルボン・アルケダス・イ・パジ

1810迄 (2641件)

エホ・デ・サンタクルス (~18100725)

- 1803年9月19日-08:00|マレーシア| |||<即位>ケダ・スルタン国スルタン「アフマド・タジュディン・ハリム・シャー2世」イブニ・アル=マルフム・アブドゥッラー・アル=ムカラム・シャー (1回目 ~18211112)
- 1803年9月20日 04:00|ガイアナ/フランス/イギリス| |||イギリスはフォート 将軍を送り、ふたたびガイアナ西半を奪取。英領ガイアナとなる (現ガイアナ)/以後150年にわたり英植民地となる
- 1803年9月23日-09:00|日本|神奈川県小田原市|享和3年8月8日|<死去>大久保忠顕 (44歳) 前相模小田原藩主
- 1803年9月24日-09:00|日本|愛知県田原市|享和3年8月9日|<死去>三宅康之 (75歳) 前三河田原藩主
- 1803年9月24日-09:00|日本|愛媛県松山市|享和3年8月9日|松山藩領桑村郡壬生川村で農家109軒を焼失
- 1803年9月26日-04:00|モリシヤス/フランス/レユニオン/セイシェル| |||<就任>マスカリン諸島総督「デカン伯爵シャルル・マチュー・イストール」 (~18101203)
- 1803年9月27日-01:00|フランス/スイス| |||フランスが、スイスと同盟を結ぶ
- 1803年9月27日-09:00|日本|茨城県土浦市|享和3年8月12日|<死去>常陸土浦藩95000石「土屋英直」 (35歳) ⇒長男「土屋寛直」が継ぐ (⇒文化7 (1810) 年10月15日、死去)
- 1803年10月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<死去>ニコライフ軍事知事兼エカテリノスラフ=ニコライフ=タリタ 県民事務管理官「Sergey Andreyevich Bekleshov」
- 1803年10月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ニコライフ軍事知事兼エカテリノスラフ=ニコライフ=タリタ 県民事務管理官「Andrey Grigoryevich Rozenberg」 (~1805. 3)
- 1803年10月1日-05:30|インド/イギリス/フランス| |||フランス領インドをイギリスが占領 (~18161204)
- 1803年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アントニオ・オノリ」 「マリノ・フランチェスコニ」
- 1803年10月3日-01:00|イタリア| |||<初演>ルイジ・ケルビーニ 《歌劇「アタクレオ」
- 1803年10月4日-01:00|フランス| ||| (3日~) フランスのアントレ=ジヤック・カールランがモスクワとポーランド間の300kmを飛行
- 1803年10月6日-05:30|インド| |||<就任>サヴァンティイ国摂政「ラニ・ラクシュミ・バイ」 (~1805年)
- 1803年10月8日-01:00|イタリア| ||| (7日~) イタリアのフランチェスコ・ザムベッカーらが気球を使ってポーランドのモンテネーロからアドリア海を越える飛行を行い、イタリアの海岸線近くまで飛行
- 1803年10月11日 00:00|イギリス| |||<死去>ポーツマス公「ヘンリー・サマセット」
- 1803年10月11日 00:00|イギリス| |||<就任>ポーツマス公「ヘンリー・サマセット」先代の子 (~18351123死去)
- 1803年10月16日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サラメント新植民地スペイン軍司令官「Ramon del Pino」 (~18070305)
- 1803年10月20日 06:00|アメリカ| |||アメリカ上院、ルイズアナ割譲条約を承認
- 1803年10月23日-09:00|日本|滋賀県長浜市|享和3年9月8日|<死去>小堀政方 (62歳) 元近江小室藩主
- 1803年10月26日 00:00|イギリス| |||<死去>初代スタッフォート 侯「ジョージ・クラウヴ・イル=ルソン=ゴア」
- 1803年10月26日 00:00|イギリス| |||<就任>2代スタッフォート 侯「ジョージ・クラウヴ・イル=ルソン=ゴア」先代の長男 (⇒18330128 兼初代スタッフォート 公 ~18330719死去)
- 1803年10月27日-09:00|日本|福島県福島市|享和3年9月12日|<死去>陸奥下村藩1万石「田沼意信」 (22歳) ⇒養子「田沼意定」が継ぐ (⇒文化元 (1804) 年7月26日、死去)
- 1803年10月31日-01:00|リビア/アメリカ| |||アメリカ海軍フリゲイト「フィラデルフィア」 (1240t) トリポリ港内にて戦闘中に座礁、トリポリに拿捕される
- 1803年11月-05:30|インド/イギリス| |||アンガル国、カカ国、ポロ国はイギリス保護領
- 1803年11月 05:00|コンビニア/スペイン/グアテマラ| |||サンタクルス島はグアテマラ司令官から分離、ヌバグアラタ 副王領の下に置かれた
- 1803年11月1日-01:00|オランダ| |||<就任>バタヴィア共和国国務院主席「アウグスティン=ゲルハルト・ベシ」 (~18040131)
- 1803年11月4日-09:00|日本| |||享和3年9月20日|<死去>2代中村重助 (55歳) 歌舞伎作者
- 1803年11月4日-09:00|日本| |||享和3年9月20日|<死去>歌舞伎堂艶鏡 (55歳) 浮世絵師
- 1803年11月10日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Francois Louis Magallon」 (~18051231)
- 1803年11月10日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|享和3年9月26日|宇和島藩領伊方浦で大火、160軒焼失
- 1803年11月12日-03:00|サウジアラビア| |||<死去>デイヤ首長「アブドゥル=アズィズ 1世」イブン=ムハムマド=アル=サウド
- 1803年11月12日-03:00|サウジアラビア| |||<就任>デイヤ首長「サウド 1世」イブン=アブドゥル=アズィズ (~18140427死去)
- 1803年11月14日-05:30|インド/イギリス| |||アルガル国はイギリス保護領 (条約により)
- 1803年11月14日 04:00|トミカ共和国/フランス| |||<就任>フランス領サント=ミンゴ 総督「ジャン=ルイ=フェラン」 (~18081107)
- 1803年11月18日 05:00|ハイチ/フランス| |||<ハイチ革命:ヴェルティエルの戦い>奴隷反乱軍がフランス軍に勝利し独立へ
- 1803年11月18日-09:00|日本|広島県福山市|享和3年10月5日|<交替>備後福山藩10万石「阿部正倫」隠居⇒三男「阿部正精」が継ぐ (⇒文政9 (1826) 年6月20日、死去)
- 1803年11月19日-05:30|インド| |||<即位>ジョーデブル国マハラジャ「マン・シン」 (~18430904没)
- 1803年11月22日-09:00|日本|福島県会津若松市|享和3年10月9日|会津藩校日新館完成
- 1803年11月30日-01:00|フランス/ハイチ| |||フランス軍、ハイチから撤退。結局2年間で2万人以上が戦病死/13年間にわたる独立のたたかいで、ハイチ人10万人が殺害される
- 1803年11月30日 05:00|ハイチ/フランス| |||<就任>フランスのサント=ミンゴ 総督「ジャン=ジャック=テサリヌ」 (~12. 31)
- 1803年11月30日-09:00|日本|東京都|享和3年10月17日|<死去>前野良沢 (81歳、享保8 (1723) 年生) 蘭学者、中津藩藩医/ターヘル・アトミア (解体新書) の実際の全翻訳者
- 1803年12月-01:00|フランス| |||フランス労働者に新たな「労働者手帖」の所持を義務づける/雇傭に際し、この「手帖」を雇傭主に提出/雇傭主は労働者の素行や働きぶりを記し、離職時に返却
- 1803年12月 00:00|ガーナ| |||<即位>アジャンティ王「Otumfuo Nana Opoku Fofie」 (~1804. 3)
- 1803年12月3日-09:00|日本|茨城県行方市|享和3年10月20日|<交替>常陸麻生藩1万石「新庄直規」隠居⇒長男「新

1810迄 (2641件)

- 庄直計が継ぐ(⇒弘化2(1845)年10月26日、死去)
- 1803年12月3日-09:00|日本|東京都墨田区|享和3年10月20日|<大相撲>享和3年10月場所[江戸本所回向院境内](10日間)優勝:(西大関)雷電、9勝0敗1休
- 1803年12月4日-04:00|ジョージア/ロシア| ||<ミグレリアはロシアの保護領>
- 1803年12月5日-09:00|日本|島根県安来市|享和3年10月22日|<死去>出雲広瀬藩3万石「松平直義」(50歳)⇒甥「松平直寛」が継ぐ(⇒嘉永3(1850)年10月21日、68歳で死去)
- 1803年12月8日 00:00|ポルトガル| ||<就任>マテウス総督「Ascenso de Sequeira Freire」(~18070805)
- 1803年12月9日 03:00|スリナム/オランダ| ||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督「ヒェール・ベルンツァー」(~18040509)
- 1803年12月9日 06:00|アメリカ| ||<アメリカ議会、憲法修正第12条を可決>
- 1803年12月12日-01:00|スウェーデン| ||<死去>エステルエートランド公「フレドリク・アドルフ」
- 1803年12月14日-09:00|日本| ||享和3年11月|<刊行>山東京伝(画:北尾重政)、読本「復讐奇談安積沼」/小平次物流行
- 1803年12月14日-09:00|日本| ||享和3年11月|<出版>大阪の耳鳥齋「かつらかさね」
- 1803年12月16日-09:00|日本| ||享和3年11月3日|<死去>初代杵屋正次郎(不明)長唄三味線方
- 1803年12月17日-05:30|インド/イギリス| ||<ナグプル太守ラージ・ホーンズレー2世はイギリスと講和条約でナグプル条約を締結し、戦争から真っ先に離脱し、リッサの攻撃、南ベラルールなどを領土の約3分の1を割譲させられた>
- 1803年12月18日-09:00|日本|大阪府岸和田市|享和3年11月5日|<死去>和泉岸和田藩53000石「岡部長備」(41歳)⇒次男「岡部長慎」が継ぐ(⇒天保4(1833)年11月24日、隠居)
- 1803年12月20日 06:00|アメリカ/フランス| ||米、ルイジアナをフランスから正式に1500万ドルで購入(1エーカー当たり3セント)
- 1803年12月20日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|享和3年11月7日|<交替>備中庭瀬藩2万石「板倉勝喜」隠居⇒三男「板倉勝もと」が継ぐ(⇒文化2(1805)年12月8日、18歳で死去)
- 1803年12月24日-01:00|ドイツ| ||<死去>ザクセン=マイニンゲン公「ゲオルク1世」
- 1803年12月24日-01:00|ドイツ| ||<即位>ザクセン=マイニンゲン公「ベルンハルト2世」(~18660920)
- 1803年12月30日-05:30|インド/イギリス| ||<グワリヤル太守ダウラ・ラオ・シンディアはスルターン・アンジヤンがナグプル条約を結んでイギリスと講和し、デリー-アグラ地域などの領土を割譲>
- 1804年-13:30|キリバス/イギリス| ||<オシヤン号でイギリス軍のジョン・マソ大佐によってバナー島が再発見され、オシヤン島と名付けられた>
- 1804年-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>アンボン島オランダ総督「Willem Jacob Cranssen」(~1808年)
- 1804年-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事「ジョン・ピセンテ・ソリス・ダ・ウエイガ」(~18070417)
- 1804年-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>モルッカ諸島オランダ総督「Carel Lodewijk Wieling」(~1809年死去)
- 1804年-08:00|インドネシア| ||<即位>パンジャラジャヤ王「Panembahan Mangku Adiningrat」(~1842年)
- 1804年-08:00|インドネシア| ||<即位>パレンバン・スルタン「Sultan Mahmud Badaruddin2世」(~1812年)
- 1804年-08:00|ブルネイ| ||<即位>ブルネイ・スルタン「ムハンマド・ジャマル・アマル1世」(~同年)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>カンプール国ラジャ「インドラ・シエカル・デオ」(~1820年)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>ゴハト国支配者(ラ)「キラット・シン」(~1806年)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>ジャムナプル国ラジャ「ランジット・シン」(~1813年没)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>トランガド王国統治者(ラージ・サーヒブ)「アマルシム2世・ライシム」(~18430409没)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>パタナ国(イギリス保護領)支配者(ナワブ)「ファイズ・タラフ・カーン」建国(~1829年没)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>ファリドコット国統治者(サルタール)「タル・シン」(1か月で没)⇒「グラーブ・シン」(~18261105没)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>ブテンディ国統治者(ラオ・ラジャ)「ヒンセン・シン」(~18210514没)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>村イ国ラジャ(ラジャ・インドラ・デオ)「タヤネティ・チャンドラ・デオ」(~1851年没)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>ホルバントール国摂政「ハロジ・スルタン」(~1812年没)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>ホンチ国ラジャ「シムハス・カーン」(~1808年)
- 1804年-05:30|インド| ||<就任>ライガール国(イギリス保護領)ラジャ「ジュンヤール・シン」ナグプルから割譲される
- 1804年-05:30|インド| ||<即位>アジヤカール国ラジャ「ラクシュマン・ダダ」(篡奪者) (~1807年)
- 1804年-05:30|インド| ||<即位>カラウリ国マハラジャ「アモラ・パール」(~1805年没)
- 1804年-05:30|インド| ||<ウタラ国はイギリス領インドに併合> (~1808年)
- 1804年-05:30|インド| ||<ケオンジャール国、チャルリ国はイギリス保護領>
- 1804年-05:30|インド| ||<サティ国、サンガル国がナグプルから割譲される(イギリス保護領)>
- 1804年-05:30|インド| ||<ハンタ国はイギリス領インド(ベンガルの一部、1836年からは北西部諸州の一部)に併合される>
- 1804年-05:00|パキスタン| ||<就任>カン統治者(ミール)「アッバス・カーン3世」(~1835年没)
- 1804年-05:00|パキスタン| ||<グワタルをサルハスのフレディ族長ミルト・ステンが占領> (~1807年)
- 1804年-04:30|アフガニスタン| ||<即位>アフガニスタン対立大王(カンダハール)「カムラン・シャー」(~1805年)
- 1804年-04:00|アゼルバイジャン| ||<就任>ナフチアン汗国ハン「アッバス・クル・ハン」3度目(~同年)⇒「カルブ・アリ・ハン」(3度目~1807年)
- 1804年-04:00|オマーン| ||<即位>スファール・スルタン「サイド・ムハンマド・ハナキル・イジャブ」(~1829年死去)
- 1804年-03:00|スーダン| ||<即位>フンジュ・スルタン国スルタン「アグバニ」(~1805年)、摂政「アトラン・ワラト・アブ・リカリク」(~1805年)
- 1804年-03:00|サウジアラビア| ||<ワッハブ派のデイヤ首長国がマディナを占領>
- 1804年-02:00|シリア-アラブ/トルコ| ||<就任>アレクサンドリア(総督)「Yasin Agha」+「Hasan bin al-Khallas」(~1805年)
- 1804年-02:00|モザンビーク| ||<就任>カンガ統治者(マンボ)「ムティワ・ソゴム」(~1806年)
- 1804年-02:00|モザンビーク| ||<就任>キタンゴニア首長「ジャンファル・サリム」(~1817年)

1810迄 (2641件)

- 1804年-02:00|モントペーク| |||<就任>サンカル首長「ハサン・ラジヤ」(~1810年)
- 1804年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Ahmed Pasha al-Djazzar」(4期目~1805年)
- 1804年-01:00|ベナン| |||<死去>クワンデのハリバ 国支配者「ウォル・ワリ1世クルマ」
- 1804年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「アブー・ベキル・ハシヤ」(反乱)
- 1804年-01:00|ベナン| |||<就任>クワンデのハリバ 国支配者「ヨルル1世ハバタンタメ」(~1816年没)
- 1804年-01:00|ベナン| |||<就任>サグィ・フエタ 国統治者「テ・ケン」(~1819年)
- 1804年-01:00|リビア/トルコ| |||<即位>オスマン帝国フェザーン・スルタン「シャリフ・ムハンマド 6世イブン・アル・マンズール」(~1811年)
- 1804年-01:00|アルジェリア| |||<即位>トゥグルト・スルタン「アル・ハサン」(~同年)⇒「ムハンマド 3世」(~1822年)
- 1804年-01:00|カメルーン| |||<即位>ホンペラ王国国王「デイト・イ・エム・エベレ・チャーリー・デイト」(~18761207)
- 1804年-01:00|カメルーン| |||<即位>レイブーハ・スルタン国スルタン「エイマ・ブーハ・ソジダ」建国(1回目~1840年)
- 1804年 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>カチュー司令官代行「ジョアン・ペレイラ・パレット・ジュニア」⇒司令官「ジョアン・アントニオ・ピント」(~1811年)
- 1804年 00:00|セカール| |||<就任>ガアソ統治者(ファンカマ)「ムウ・シヨイ・ジヤロ」(~1805年)
- 1804年 01:00|カーボベルデ/ポルトガル| |||<就任>カーボベルデ 総督「アントニオ・コウチニョ・レナストル」(~1818年)
- 1804年 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>モンテビデオ総督「Pascual Ruiz Huidobro」(~18070203)
- 1804年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ 島司令官「Johan Craneveldt」(~1805年)
- 1804年 04:00|サン・マルタン/オランダ| |||<就任>フランス領サン・マルタン司令官「Robert Nicholson」(~1808年)
- 1804年 06:00|エルサルバドル/スペイン| |||<就任>サンサルバドル管理者代行「フランスコ・バジエホ」(~同年)
- 1804年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>ホンジュラス州総督補佐代行「アントニオ・ルベルト・セラノ・イ・ホロ」(~1810年)
- 1804年1月-05:30|インド/ネパール| |||カール国がネパールによって消滅(~1815年)
- 1804年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連合評議会議長「ニコラウス・ルトルフ・フォン・ワッテンウール」Mod(1期目~12.31)
- 1804年1月1日 05:00|ハイチ| |||<就任>北ハイチ総督「ジャン・ジャック・テサリス」(~10.8)
- 1804年1月1日 05:00|ハイチ/フランス| |||サン・ドマンクがフランスから独立宣言、国名をハイチ(高い山の島)とあらためる
- 1804年1月3日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||ガンジャはロシアに併合
- 1804年1月3日-09:00|日本|福島県田村郡三春町|享和3年11月21日|<交替>陸奥三春藩5万石「秋田謚季」隠居⇒弟「秋田孝季」が継ぐ(⇒天保3(1832)年3月23日、隠居)
- 1804年1月6日 04:00|マルティニーク/イギリス| |||ジェームズ・ウィルクスの下でイギリスがマルティニーク占領(~18050603)
- 1804年1月7日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>タウリアのロシア総督「Dmitriy Borisovich Mertvago」(~18071109)
- 1804年1月11日-09:00|日本| |||享和3年11月29日|手の込んだ細工の贅沢な物品の売買は不届きであり禁止
- 1804年1月12日-09:00|日本|千葉県夷隅郡大多喜町|享和3年11月30日|<死去>松平正升(62歳)前上総大多喜藩主
- 1804年1月17日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督代行「オスマン・アル・バルティシ」(~3月)
- 1804年1月18日 00:00|セカール/フランス| |||ゴレ島をフランスが再占領(~3.9)
- 1804年1月24日-09:00|日本|東京都千代田区|享和3年12月12日|<解任>老中「松平信明」病により(~1806年7月2日再任)
- 1804年2月-01:00|モナコ| |||<就任>エルキュール要塞マイール(市長)「シャルル・アントワーヌ・ルイ・フィリップ・デ・シカールティ」(~1814年5月)
- 1804年2月-01:00|ナジャリア| |||<即位>ソコト帝国スルタン「ウスマン・タン・フォア・イオ」(~18170420死去)
- 1804年2月1日-01:00|オランダ| |||<就任>パタゴニア共和国国務院主席「スタハ・デーン卿アンソニー・フレデリック・ロバート・エバート・ファン・ハールテ」(~4.30)
- 1804年2月2日-01:00|セルビア| |||<就任>革命セルビア首長「カラジヨルジエ・ペトロヴィッチ」(⇒18081214、最高首長~18130921)
- 1804年2月3日-01:00|リビア/アメリカ| |||アメリカ、テイクター大尉、トリポリを海戦で破る
- 1804年2月5日-09:00|日本|香川県高松市|享和3年12月24日|高松東浜新材木町より失火、30余軒焼失
- 1804年2月6日-05:30|インド/イギリス| |||ジャンソン国イギリスの保護領となり国家として承認された(18171117条約により確認)
- 1804年2月6日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの化学者で哲学者「ジョセフ・プリーストリー」がアメリカで/70歳(誕生17330313)/アンモニアガスや酸素などを発見した
- 1804年2月6日 00:00|イギリス| |||世界初の蒸気機関車が英国ウェルズで走り出す
- 1804年2月7日-09:00|日本|沖縄県|享和3年11月|<死去>琉球国王「尚成」
- 1804年2月7日-09:00|日本|沖縄県|享和3年12月26日|<即位>琉球国王「尚こう」(⇒1828年隠居⇒18340705死去)
- 1804年2月10日-09:00|日本|兵庫県明石市|享和3年12月29日|<死去>松平直泰、卒中のため(56歳)前播磨明石藩主
- 1804年2月11日-09:00|日本|東京都大田区|享和4年|<創建>穴守稲荷社(羽田空港内)
- 1804年2月11日-09:00|日本|北海道厚岸郡厚岸町|享和4年|<建立>幕府、蝦夷三官寺(国泰寺)
- 1804年2月11日-09:00|日本|北海道様似郡様似町|享和4年|<建立>幕府、蝦夷三官寺(等樹院)
- 1804年2月11日-09:00|日本|北海道伊達市|享和4年|<建立>幕府、蝦夷三官寺(善光寺)
- 1804年2月11日-09:00|日本| |||享和4年1月|<出版>歌川豊広「絵本東物語」
- 1804年2月11日-09:00|日本| |||享和4年1月|<出版>歌川豊国「俳優相貌鏡」
- 1804年2月11日-09:00|日本| |||享和4年1月|<出版>歌川豊春「絵本江戸錦」
- 1804年2月11日-09:00|日本| |||享和4年1月|<出版>葛飾北斎「山また山」
- 1804年2月11日-09:00|日本| |||享和4年1月|<出版>喜多川歌麿「吉原青楼年中行事」
- 1804年2月11日-09:00|日本| |||享和4年1月|<出版>流光斎如圭「役者用文章直指箱」
- 1804年2月11日-08:00|中国/ベトナム| |||越南・嘉隆3年1月|清国から「ウエイナム(越南)」の国号を与えられる
- 1804年2月12日-01:00|ドイツ| |||<死去>ドイツの哲学者カント/享年79(誕生17240422)

1810迄 (2641件)

- 1804年2月14日-01:00|セルビア/トルコ| ||セルビアでカラジユルジエ・ペトビッチが反トルコ蜂起
1804年2月15日-09:00|日本|東京都|享和4年1月5日|<死去>高橋至時(41歳)天文学者/寛政暦を完成させた
1804年2月16日-01:00|リビア/アメリカ| ||アメリカ、テイカー大尉、トリパリに拿捕されていた米フリゲイト「ファイア・ルフィア」(1240t)に火を放ち焼却
1804年2月21日-01:00|チャド| ||西アフリカで、ウスマン・ダン・フォデイが聖戦を開始
1804年2月21日 00:00|イギリス| ||イギリスでトヴァインツックが発明した蒸気機関車の試運転に成功
1804年2月28日-09:00|日本|滋賀県東近江市|享和4年1月18日|<死去>稲垣定計(77歳)前近江山上藩主
1804年3月-05:45|ネーデル| ||<就任>ネーデル摂政・首相「ラナ・ハ・ハト・カール・シャー・デ・ヴァ」(~18060425)
1804年3月-05:30|インド| ||<就任>トリパラ国ラジャ「ラガンガ・マニヤ」(1回目~18091018)
1804年3月 00:00|ガーナ| ||<即位>アシャンティ王「Osei Tutu Kwame Asiba」(~18240121)
1804年3月 05:00|ハイチ| ||デサレーヌ、3ヶ月のあいだに、残留し抵抗を続ける白人大虐殺。2万人が殺され、他はキューバに逃げ出す。ハイチ国内から白人一掃
1804年3月1日-09:00|日本|兵庫県姫路市|享和4年1月20日|<死去>姫路新田藩1万石「酒井忠交」(51歳)⇒次男「酒井忠質」が継ぐ(⇒文化13(1816)年10月23日、死去)
1804年3月4日-09:00|日本|大阪府大阪市|享和4年1月23日|<就任>大坂城代「阿部播磨守正由」(~文化3. 10. 12)
1804年3月4日-09:00|日本|京都府京都市|享和4年1月23日|<就任>京都所司代「稲葉正謙」(⇒1806(文化3年08月24日))
1804年3月4日-09:00|日本|東京都千代田区|享和4年1月23日|<就任>老中「青山忠裕」(~天保6年5月6日)
1804年3月5日-09:30|オーストラリア| ||オーストラリアでキャッスル・ヒルの囚人反乱発生/アイルランド人の首謀者フィリップ・カンガムは2日後処刑
1804年3月9日 00:00|セネガル/イギリス| ||コレ島をイギリスが再占領
1804年3月12日-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ヒュスレフ・メフメト・パシャ」(2度目~14日)
1804年3月14日-02:00|エジプト/トルコ| ||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「クルシット・アフメト・パシャ」(2度目~18050709)
1804年3月15日-05:30|インド/イギリス| ||ダティア国はイギリス保護領(条約により18180731に確認)
1804年3月18日-01:00|ドイツ| ||シーラーの戯曲「ウリアム・テル」がワイマルの宮廷劇場で初演
1804年3月19日 00:00|イギリス| ||<死去>3代ロクスバラ公「ジョン・カー」
1804年3月19日 00:00|イギリス| ||<就任>4代ロクスバラ公「ウリアム・ベレンデーン・カー」(~18051023死去)
1804年3月21日-01:00|フランス| ||「フランス人民法典」(「ナポレオン法典」)公布/全文2, 281条、特権の廃止、個人の自由、法の前での平等、思想・信仰・労働の自由、私有財産の不可侵など/1794年に廃止されていた植民地の奴隷制が復活
1804年3月21日 04:00|フォークランド/スペイン| ||<就任>スペイン領フォークランド諸島司令官・総督「Bernardo de Bonavia」(2期目~18050321)
1804年3月22日-09:00|日本| ||文化1年2月11日|「文化」に改元
1804年3月26日 06:00|アメリカ| ||<分割>アメリカ議会、ルイジアナ準州法でルイジアナを南北に分割
1804年3月30日-01:00|フランス| ||<死去>第2代プロシヤ公「ウイクトル・フランソワ」
1804年3月30日-01:00|フランス| ||<就任>第3代プロシヤ公「ウイクトル」(~18700125死去)
1804年3月30日-09:00|日本|東京都|文化1年2月19日|<死去>正八時(2時ごろ)、戯作者、司馬(一払斎)甘交
1804年4月-01:00|ドイツ| ||<就任>プロシヤ王国首相「カール・アウグスト・フォン・ハルデンベルグ」(~1806. 2)
1804年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「マリノ・ベッツイ」
1804年4月2日 00:00|イギリス| ||<死去>ハンティントン伯「テオフィロス・ヘンリー・ヘイステイニングス」
1804年4月2日 00:00|イギリス| ||<就任>ハンティントン伯「Hans フランシス・ヘイステイニングス」(~18281209死去)
1804年4月10日-09:00|日本| ||文化1年3月|<刊行>最上徳内「度量衡説統」
1804年4月10日-09:00|日本| ||文化1年3月|<出版>鵜形恵斎「近世職人尽絵詞」上巻
1804年4月13日-09:00|日本|富山県|文化1年3月4日|富山藩城下に大火がおり、2, 000軒余が焼失
1804年4月14日 00:00|ポルトガル| ||<死去>ポルトガル首相「ハルメア子爵ルイ・ピント・デ・ソサ・Coutinho」
1804年4月15日 00:00|ポルトガル| ||<就任>ポルトガル首相「ウイラ・ベルテ・伯ティエゴ・ホセ・アントニオ・デ・ノロニヤ」(~18061118死去)
1804年4月20日-01:00|ドイツ| ||<死去>ザクセン・コータアルテンブルク公「エルンスト2世」
1804年4月20日-01:00|ドイツ| ||<即位>ザクセン・コータアルテンブルク公「アウグスト」(~18220517死去)
1804年4月21日-04:00|ジョージア/ロシア| ||イメリヤはロシアの保護領
1804年4月21日-09:00|日本|佐賀県小城市|文化1年3月12日|<死去>肥前小城藩73000石「鍋島直知」(21歳)⇒弟「鍋島直堯」が継ぐ(⇒嘉永3(1850)年4月、隠居)
1804年4月23日 03:00|アルゼンチン/ポルトガル/パラグアイ/ウルグアイ/スペイン| ||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「ソブレモンテ侯爵ラファエル・デ・ソブレモンテ・ヌエス・カスティリョ・アングロ・イ・ブロン・ラミレス・デ・アラレーノ」(10. 6まで代行~18070210)
1804年4月25日-09:00|日本|福井県福井市|文化1年3月16日|福井城下で火事、町家134軒など焼失
1804年4月27日-08:00|ブルネイ| ||<即位>ブルネイ・スルタン「ムハンマド・ジャマル・アラム」(~11. 10没)
1804年4月28日 00:00|ガーナ/オランダ| ||<死去>オランダ領ゴールドコースト総督「コーネリアス・ルト・ウィッチ・ハーテルス」
1804年4月28日 00:00|ガーナ/オランダ| ||<就任>オランダ領ゴールドコースト大統領「アイザック・デ・ローヴァー」(~18050615)
1804年4月29日-09:00|日本|東京都千代田区|文化1年3月20日|<大相撲>文化1年3月場所[江戸神田明神御](9日間)優勝:(西関脇)山嵐, 6勝1敗1分1預
1804年5月-04:00|ロシア/イラン| ||第1次イラン・ロシア戦争勃発
1804年5月1日-01:00|オランダ| ||<就任>ハルミア共和国国務院主席「ケラルト・フランツェン」(~7. 31)
1804年5月1日 00:00|イギリス| ||<死去>エセター侯「ヘンリー・セシル」

1810迄 (2641件)

- 1804年5月1日 00:00|イギリス| |||<就任>エセター侯「ブ ラウナー・ゼッル」(~18670116死去)
- 1804年5月6日 04:00|グレナダ/イギリス| |||<就任>グレナダ 総督代行「エイブ ラム・チャールズ・アデー」(1回目~18050517)
- 1804年5月7日 00:00|アイルランド/デンマーク| |||<就任>アイルランド 総督代行「ステファン・トラリソン/イスラエル・エイナルソン(6. 18から)」(~18050822)
- 1804年5月9日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ 領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督「サー・チャールズ・グリーン」(~18050415)
- 1804年5月9日 03:00|スリナム/イギリス| |||イギリスがスリナム占領(~18160227)
- 1804年5月10日 00:00|イギリス| |||<辞任>イギリス連合王国第17代首相「初代シトマス子爵ヘンリー・アデーントン」
- 1804年5月10日 00:00|イギリス| |||<就任>イギリス連合王国第18代首相「ウィリアム・ピット(小ピット)」トリー党(2期目~18060123)
- 1804年5月14日 00:00|イギリス| |||<就任>初代ホウイス伯「エドワード・クラウ」(~18390516死去)
- 1804年5月15日-01:00|モンテネグロ| |||<就任>モンテネグロ 総督「ヴ コライ・ヨハ ノ・ランド・ニッチ」(~18311117)
- 1804年5月16日-09:00|日本| ||文化1年4月7日|<死去>初代浅尾為十郎(70歳) 歌舞伎役者
- 1804年5月18日-01:00|フランス| |||<即位>フランス国王(ホナポルト朝)「ホレオン1世大帝」(~18140411)
- 1804年5月22日-09:00|日本|東京都文京区|文化1年4月13日|葛飾北斎、音羽の護国寺に於いて百二十畳敷の大厚紙に達磨を画く
- 1804年5月24日-01:00|ドイツ/ロシア| ||ロシア暦5月12日|プロシヤ国王フリードリッヒ・ヴィルヘルム3世とロシア皇帝アレクサンドル1世が対仏同盟を結ぶ
- 1804年6月-01:00|オーストリア/オーストリア| |||<就任>オーストリアのダルマチア総督「トマス・フライヘル・フォン・ブレディ」(民政・軍事総督)」(~18060218)
- 1804年6月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ウスキュプ・リスレイマン・パシャ」(1回目~1805年)
- 1804年6月 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Joaquin del Real Alencaster」(~1807年)
- 1804年6月1日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トバゴ 総司令官. 総督代行「ジェームス・モンゴメリー」(~7. 16)
- 1804年6月2日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督代行「ヘンリー・モートン・ダーク」(~9. 25)
- 1804年6月4日-09:00|日本| ||文化1年4月26日|<死去>初代高橋道八(65歳) 陶芸家
- 1804年7月 00:00|ギニアビサウ/ポルトガル| |||<就任>ビサウ司令官「アントニオ・カルドソ・デ・フィゲイロ・エ・メロ」(1回目~1805年2月)
- 1804年7月7日-09:00|日本|東京都練馬区|文化1年6月|初代・三笑亭可楽「三題嘶」披露、下谷広徳寺前孔雀茶屋
- 1804年7月10日 13:00|日本|秋田県|文化1年6月4日|<文化元年象潟地震>夜、四つ時(22時ごろ)、マグニチュード7. 0前後の激震が鳥海山麓の日本海沿岸の村々を襲った/多数の家屋や寺が倒壊し、土手は裂け、無数の地割れから泥水を吹き出した/最上川の河口にある酒田は、地盤が軟弱だったため特に被害が著しく、1400戸余りが倒潰し火災も発生、多くの地割れがでた泥水が大量に吹きだし、また井戸水が1丈(3m)も噴出するなどあたり一面、泥の海となった/象潟湖が隆起して、海上たちまち変じて陸となった/最小被害推定、313人死亡、家屋倒潰5393軒、同半潰772軒、同一部破損1079軒、土蔵倒潰358棟、同半潰2棟、同一部破損794棟、寺社倒潰121か所、同一部破損52か所/象潟では512軒の家屋の内389軒が倒潰(76%)33軒が半潰(6%)
- 1804年7月12日 06:00|アメリカ| |||アメリカ合衆国建国の父の1人アレクサンダー・ハミルトン、前日のバートンの決闘により死去
- 1804年7月16日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トバゴ 総司令官. 総督「ジョン・ハルケット」(~8. 4)
- 1804年7月19日-09:00|日本|広島県広島市|文化1年6月13日|(11日~)長雨・洪水・広島領の流失倒壊家屋91軒、損家879軒
- 1804年7月22日-09:00|日本|愛媛県松山市|文化1年6月16日|<死去>伊予松山藩15万「松平定国」(48歳)⇒嫡男「松平定則」が継ぐ(⇒文化6年7月5日(18090815)、死去)
- 1804年8月1日-01:00|オランダ| |||<就任>バタヴィア共和国国務院主席「ウィルム・ケイテン」(~10. 31)
- 1804年8月4日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トバゴ 総司令官. 総督代行「ジェームス・キャンベル」(~18051013)
- 1804年8月8日-09:00|日本|東京都中央区|文化1年7月3日|<初演>4代目鶴屋南北「天竺徳兵衛韓嘶」河原崎座
- 1804年8月9日 00:00|イギリス| |||<死去>7代ツイードデール侯「ジョージ・ヘイ」
- 1804年8月9日 00:00|イギリス| |||<就任>8代ツイードデール侯「ジョージ・ヘイ」(~18761010死去)
- 1804年8月10日-09:00|日本|兵庫県小野市|文化1年7月5日|<交替>播磨小野藩1万石「一柳末英」隠居⇒次男「一柳末昭」が継ぐ(⇒文化9(1812)年10月17日、死去)
- 1804年8月11日-01:00|オーストリア| |||<即位>オーストリア皇帝「フランツ1世」(オーストリア大公「フランツ2世」) (~18350302死去67歳)
- 1804年8月11日-01:00|チェコ/オーストリア| |||ホーヘミア、ボヘミア、モラヴィア、シレジアの王領地がオーストリア帝国の構成要素となる
- 1804年8月13日-09:00|日本|岡山県高梁市|文化1年7月8日|<死去>備中松山藩5万石「板倉勝駿」熱中症のため(21歳)⇒9月4日、長男「板倉勝職」が継ぐ(⇒嘉永2(1849)年閏4月6日、隠居)
- 1804年8月19日-09:00|日本| ||文化1年7月14日|<死去>不知火光右衛門(相撲)[1775年生~](享年29)
- 1804年8月25日-09:00|日本|福岡県北九州市|文化1年7月20日|<交替>豊前小倉藩15万石「小笠原忠苗」隠居⇒養子「小笠原忠固」が継ぐ(⇒天保14(1843)年5月12日、死去)
- 1804年8月29日-09:00|日本|新潟県新発田市|文化1年7月24日|<死去>越後三日市藩1万石「柳沢里之」(47歳)⇒9月18日、長男「柳沢里世」が継ぐ(⇒文政9(1826)年4月8日、隠居)
- 1804年8月31日-09:00|日本|福井県|文化1年7月26日|坂井郡吉崎浦で火事、在家176軒・口留番所など焼失
- 1804年8月31日-09:00|日本|福島県福島市|文化1年7月26日|<死去>陸奥下村藩1万石「田沼意定」(21歳)⇒従父「田沼意正」が継ぐ(⇒文政6(1823)年7月8日、遠江相良藩1万石に移封)
- 1804年9月1日-01:00|ドイツ| |||ドイツの天文学者カール・ハーディングが3番目の小惑星「ジュノー」を発見
- 1804年9月4日-09:00|日本| ||文化1年秋|<出版>谷文晁「名山図譜(のち日本名山図会)」

1810迄 (2641件)

- 1804年9月4日-09:00|日本| ||文化1年8月|<出版>柳々居辰斎「狂歌巴流駒」
- 1804年9月9日-11:30|ノースフォーク島/オーストラリア| ||<就任>ノースフォーク島司令官「John Piper」(~18100410)
- 1804年9月16日-01:00|フランス| ||フランスの物理学者ジョゼフ・ゲイリュサックが、気球で7016メートルの高さに達する
- 1804年9月17日-09:00|日本| ||文化1年8月14日|<死去>荒木田久老(59歳)国学者、歌人
- 1804年9月24日-04:00|セイシェル/フランス/イギリス| ||セイシェルがイギリスに再占領される(フランス政府は18100517まで続く)
- 1804年9月25日 05:00|バハマ/イギリス| ||<就任>バハマ植民地総督「チャールズ・キャメロン」(1回目~18080925)
- 1804年9月25日 06:00|アメリカ| ||アメリカの大統領選挙が、大統領と副大統領の組への投票となる(合衆国憲法修正第12条)
- 1804年9月25日-09:00|日本|京都府舞鶴市|文化1年8月22日|<交替>丹後田辺藩35000石「牧野宣成」隠居⇒長男「牧野以成」が継ぐ(⇒文政8(1825)年11月16日、隠居)
- 1804年9月26日-09:00|日本| ||文化1年8月23日|<死去>高嵩谷(75歳)画家(佐脇嵩之の高弟)
- 1804年9月29日-01:00|フランス| ||フランス人最初の気球飛行が、アラーム・ボマンによって行われた
- 1804年10月 04:00|アルバ/イギリス| ||<就任>アルバ島司令官「Mahling」イギリス司令官(1期目~1週間)
- 1804年10月 04:00|アルバ/イギリス| ||アルバ島はイギリスが占領(~1週間)
- 1804年10月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・ジャンニニ」 「ジュゼッペ・リギ」
- 1804年10月2日 11:00|日本|大分県|文化1年8月29日|<文化元年豊後「文化の洪水」>夜に入り、大野川、大分川をはじめ国内の各河川が氾濫、翌朝までには大洪水となった/大野川沿岸では、熊本藩領の飛び地、同川河口の鶴崎で、ちょうど満潮と重なったため、川の水量がふだんより二丈余(約6m)も高くなり、濁流が市街地へあふれ、98人が溺死、家屋458軒が流失/大分川沿岸の府内城では、大手の廊下橋が1尺(約30cm)も水につかり、同藩領では表高の約5割、1万石以上の田んぼが損耗/臼杵藩領では、大野川や大分川沿いの戸次組、川床組、毛井組など現在の市域で、93人が死亡、家屋の流失1092軒、同倒潰210軒の被害
- 1804年10月3日 11:00|日本|広島県|文化1年8月30日|(29日~)暴風雨・洪水、広島領の流失倒壊家屋1906軒、損家1万105軒、死者8人
- 1804年10月5日-01:00|スペイン/フランス/イギリス| ||イギリスが、スペインに駐留するフランス軍を攻撃
- 1804年10月5日-01:00|スペイン/イギリス| ||スペインはイギリスに宣戦布告
- 1804年10月8日 05:00|ハイチ| ||<即位>ハイチ帝国皇帝「ジェームズ1世」建国(~18061017)首都を内陸のマルサン(現デサレーヌ)に移転
- 1804年10月9日-09:00|日本| ||文化1年9月6日|伊能忠敬の地図、江戸城大広間で公開される
- 1804年10月9日-09:00|日本/ロシア|長崎県長崎市|文化1年9月6日|ロシア使節レゾフが、長崎に漂流民を護送して来航し通商を要求/長崎奉行は上陸を拒否
- 1804年10月16日-09:00|日本| ||文化1年9月13日|幕府、町人の武芸稽古を禁止/武芸禁止令を布告
- 1804年10月17日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| ||<就任>アゾレス諸島総司令官「Jose Antonio de Melo da Silva Cesar de Meneses」(~18060504)
- 1804年10月19日-08:00|インドネシア/オランダ| ||<就任>オランダ領東インド総督「Albertus Henricus Wiese」(~18080114)
- 1804年10月20日 00:00|イギリス| ||<死去>2代リンスター公・2代キルデア侯・2代オファリー伯「ウィリアム・フィッツジェラルド」
- 1804年10月20日 00:00|イギリス| ||<就任>3代リンスター公・3代キルデア侯・3代オファリー伯「オーガスタス・フィッツジェラルド」(~18741010死去)
- 1804年11月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| ||<即位>ヒヴァン国イナク朝ハム「ムハンマド・イルティセル・イナク」(~1806.7死去)
- 1804年11月1日-01:00|フランス| ||<就任>パナマ共和国国務院主席「ウィリアム・アノルト・ベベレン」(2回目~18050131)
- 1804年11月4日-04:00|ジョージア| ||<就任>キングリア公「レバン5世」(~1840年)、摂政「ニコラ・グラーウニ」(~1811年)
- 1804年11月6日-01:00|オーストリア/ロシア| ||ロシア暦10月25日|ロシア皇帝アレクサンドル1世とオーストリア皇帝フランツ1世が対仏同盟を結ぶ
- 1804年11月10日-08:00|ブルネイ| ||<即位>ブルネイ・スルタン「ムハンマド・タジュディン」(2回目~18070211)
- 1804年11月12日 04:00|ポルトガル/スペイン| ||<就任>ポルトガル知事兼提督「Toribio de Montes」(~18090603)
- 1804年11月14日 00:00|イギリス| ||<死去>3代バッキンガムシャー伯「ジョージ・ホート」
- 1804年11月14日 00:00|イギリス| ||<就任>4代バッキンガムシャー伯「ロバート・ホート」(~18160204死去)
- 1804年11月14日-09:00|日本|奈良県五條市|文化1年10月13日|華岡青洲、世界初の全身麻酔を使った手術(乳癌手術)に成功
- 1804年11月17日-04:00|モロッコ| ||<死去>アルサイト王朝スルタン「スルタン4世ヒン・アフマド」
- 1804年11月17日-09:00|日本|岐阜県海津市|文化1年10月16日|<死去>美濃高須藩3万石「松平義居」(20歳)⇒19日、養子「松平義和」が継ぐ(⇒天保3(1832)年正月15日、57歳で死去)
- 1804年11月18日-04:00|モロッコ| ||<即位>アルサイト王朝スルタン「サリム1世ヒン・スルタン」(~18060914)、「サイト」2世ヒン・スルタン「(18561019没)、摂政「バドル・ヒン・サイフ」(~18060731没)
- 1804年11月19日-08:00|中国| ||<就任>チベット摂政「イェシェ・ロブサン・テンパイ・ゴンポ」(~18080305)
- 1804年11月20日-09:00|日本| ||文化1年10月19日|河内郡などの農民が増助郷に反対して反乱を起こし、牛久保の役人宅などを襲撃
- 1804年11月23日-01:00|モンテネグロ/クロアチア| ||カツカはダルマチアに従属
- 1804年11月27日-09:00|日本|岐阜県海津市|文化1年10月26日|<死去>美濃今尾藩3万石「竹腰睦群」病死(36歳)⇒12月16日、長男「竹腰正定」が継ぐ(⇒天保8(1837)年11月21日、隠居)
- 1804年11月28日-09:00|日本| ||文化1年10月27日|<大相撲>享和4年10月場所[江戸本所回向院](10日間)優勝:(西大関)雷電, 8勝1敗1休
- 1804年12月5日 06:00|アメリカ| ||アメリカ大統領に、トマス・ジェファーソン(61)が再選される

1810迄 (2641件)

- 1804年12月12日-01:00|スぺイン/イギリス| |||スぺインが、フランスに味方してイギリスに宣戦布告
- 1804年12月17日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「ヘンリー・エドワード・フォックス」(~1806. 6) ケント公の下で
- 1804年12月18日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「Henry Edward Fox」(~18060628)
- 1804年12月23日-09:00|日本| ||文化1年11月22日<死去>英派の画工、佐脇嵩雪
- 1805年-08:00|フィリピン| |||<死去>スール王国スルタン「ムハンマド・Sharafuddin bin Sultan ムハンマド・Azimuddin」
- 1805年-08:00|フィリピン| |||<即位>スール王国スルタン「ムハンマド・Azimuddin3世 bin Sultan ムハンマド・Sharafuddin」(~同年死去) => 「Aliyuddin1世 bin Sultan ムハンマド・Sharafuddin」(~1808年)
- 1805年-08:00|インドネシア| |||<即位>ティドールスルタン「Zainal Abidin」(~1810年)
- 1805年-08:00|インドネシア| |||<即位>デリ・スルタン「Sultan Amaluddin Mangendar」(~1850年)
- 1805年-08:00|フィリピン| |||<即位>マギンダナオスルタン「Kawasa Anwaruddin bin Muhammad Amirul Omra」(~1830年)
- 1805年-07:00|タイ| |||タイでラーマ1世の命により「三印法典」が編集される
- 1805年-07:00|タイ| |||チエンマイの君主カーウイラはラムフーンを再建 => <即位>ラムフーン国主「セーティカムファン」カーウイラの弟 (~1815年)
- 1805年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「サンゲ・テンジン」(~1806年)
- 1805年-05:30|インド| |||<就任>サウアンティイ国統治者(ラジヤ・ハートウル)「ラムチャントラ・サウアン2世バブ・サーヒブ」(~1807年没)
- 1805年-05:30|インド| |||<就任>ダスハラ国ラジャ「クリシュナ・チャンダ・テオ・ハニ」(~1845年)
- 1805年-05:30|インド| |||<就任>スルポール国ラジャ「ヒルシン」(~1815年)
- 1805年-05:30|インド| |||<就任>ムド・ル国統治者(ラジエ・コルパテ・ハハトウル)「ナヤンラオ・ラジエ・コルパテ」(~1816年没)
- 1805年-05:30|インド| |||<即位>カウリ国マハラジャ「ヘルバ・クシュパル」(~1837年没)
- 1805年-05:30|インド| |||アウク国はハイデラバードに併合(サミタリとして)
- 1805年-05:30|インド/ネール| |||クトレハル国をネールが占領(~1809年)
- 1805年-05:00|ウズベキスタン| |||<死去>タシュケント支配者「Muhammad Khwaja」
- 1805年-05:00|パキスタン| |||<死去>タワル統治者(ミール)「ハシム・アリ・カーン」
- 1805年-05:00|カザフスタン| |||<就任>小シユズ・ハン「ジヤントレ」アイチュワクの長男(~1809年)
- 1805年-05:00|パキスタン| |||<就任>タワル統治者(ミール)「ヌアブ・カーン」(~1818年没)
- 1805年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>タシュケント支配者「Sultan Khwaja」(~1807年)
- 1805年-05:00|パキスタン| |||ガワタルをラス・アル・ハイマの統治者が短期間占領(~同年)
- 1805年-04:00|アゼルバイジャン| |||<即位>イリス・スルタン「アマト・ハーン2世」(~1830年)
- 1805年-04:00|アルメニア| |||<即位>エリヴァン汗国ハン「メフティ・コリ・ハーン・カジャール」(~1806年)
- 1805年-03:00|エリトリア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国マツガ総督「アルキコ副官イトリス・ビシ・ウスマン」(~1826年)
- 1805年-03:00|ウガンダ| |||<就任>ブンヤ統治者(オムカ)「ムロ1世」(~1814年頃)
- 1805年-03:00|スーダン| |||<即位>フンジ・スルタン国スルタン「バティ7世イブン・ターブル」(2回目~18210614)
- 1805年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクホ・ワリス(総督)「Alaeddin Pasha」(~同年)
- 1805年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Abdallah Pasha al-Azm」(3期目~1807年)
- 1805年-01:00|スぺイン| |||<死去>スぺイン領セウタ総督「Antonio Ferrero」
- 1805年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「ハフィス・ハシヤ」(~8月)
- 1805年-01:00|ポーランド| |||<就任>オレシツァ公「フリードリヒ・ヴィルヘルム」(~18150615死去)
- 1805年-01:00|スぺイン| |||<就任>スぺイン領セウタ暫定総督「Ramon de Navas」(2期目~同年) => 暫定総督「Jose Alpudia Valdes」(~同年) => 総督「Francisco de Orta y Arcos」(~1807年死去)
- 1805年-01:00|ドイツ| |||<就任>ロイス＝ローベントシュタイン侯「Heinrich54世」(~1824年死去、ロイス＝エーベルスドルフ公国へ統合)
- 1805年-01:00|ニジェール| |||<即位>ソンガイ帝国皇帝「トモ」(~1823年)
- 1805年 00:00|トゴ| |||<就任>カンガラム統治者(オウロエツ)「ソガミ」
- 1805年 00:00|トゴ| |||<就任>コトコリ統治者(オウロエツ)「バンナ・チャアリ」(~1825年頃)
- 1805年 00:00|セネガル| |||<就任>サアリ統治者(ファンカマラ)「アワ・テンバ・ジヤロ」(1回目~1819年)
- 1805年 00:00|セネガル| |||<就任>ジョロフ帝国統治者(フルバ・ジョロフ)「ムハ・ブウリニヤブ・ソジエイ」(~1838年)
- 1805年 00:00|セネガル| |||<就任>ワロ統治者(ブラク)「サヨト・ヤシン・ムボジ」(~1810年)
- 1805年 00:00|モロッコ| |||<即位>モロッコ・スルタン「ムハンマド・タルハズィー」(ワサンで反乱)
- 1805年 04:00|アンギラ/イギリス| |||<就任>イギリス領アンギラ副総督「William Richardson」(~1825年)
- 1805年 04:00|ボリビア| |||<就任>ラ・プラタ・デ・ロス・チャカス聴問庁長官代行「ホセ・ラミレス・テ・ラド・イ・エンカラダ」(~18090712)
- 1805年 06:00|アメリカ/スぺイン| |||<死去>スぺイン領テキサス植民地総督「ファン・ハウティスタ・エルゲサバル」
- 1805年 06:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領両カナダ総督「トマス・ダン」(~1807年)
- 1805年 06:00|エルサルバドル/スぺイン| |||<就任>サンサルバドル管理者「アントニオ・バジリョ・グティエレス・イ・ウア」(~18111105)
- 1805年 06:00|アメリカ/スぺイン| |||<就任>スぺイン領テキサス植民地総督「マヌエル・アントニオ・コルデロ・イ・ブスタマンテ」(~1808年)
- 1805年1月 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス領シエラレオネ植民地総督「ウィリアム・デイ」(2回目~11. 4)
- 1805年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連合評議会議長「ピーター・ヨーゼフ・ヨハン・アントン・フォン・グルトツ＝ルヒティ」Con(~12. 31)
- 1805年1月1日-01:00|チェコ| |||<就任>モラヴィア総督「ヨーゼフ・フランツ・グラーフ・フォン・ウオリス・フライヘル・フォン・カリグマイ」(~5. 17)
- 1805年1月1日-09:00|日本| ||文化1年12月|<刊行>山東京伝作(喜多武清の挿画)、読本「優曇華物語」
- 1805年1月1日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・嘉慶9年12月|社倉制を両南[全羅・慶尚]・両西[平安・黄海]で試験実施
- 1805年1月6日-01:00|ポズナア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ポズナア総督「ムスタファ・ハシヤ」(~18060325)
- 1805年1月6日-09:00|日本|大分県大分市|文化1年12月6日|<交替>豊後府内藩22200石「松平近儔」隠居 => 弟「松平

1810迄 (2641件)

近義」が継ぐ(⇒文化4年8月27日(18070928)、死去)

- 1805年1月8日 00:00|イギリス| |||<死去>初代チェスター伯「トマス・ヘラム」
- 1805年1月8日 00:00|イギリス| |||<就任>2代チェスター伯「トマス・ヘラム」(~18260704死去)
- 1805年1月11日 06:00|アメリカ| |||<発足>アメリカ、シカゴ準州、設置
- 1805年1月22日-09:00|日本|京都府京都市|文化1年12月22日|<死去>真言宗の僧侶「慈雲」雲伝神道の開祖
- 1805年1月23日-09:00|日本|京都府京都市|文化1年12月23日|近藤重蔵「辺要分解図考」を著す。これを幕府に呈上
- 1805年1月28日-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>シャッキ汗国ハン「ファト・アリ・カーン」(1期目~2.25)
- 1805年1月31日-09:00|日本|愛媛県西条市|文化2年|西条藩、藩校沢庵堂を創設
- 1805年1月31日-09:00|日本|愛媛県松山市|文化2年|松山藩、藩校興徳館(のち明教館)を設置
- 1805年1月31日-09:00|日本|東京都江東区|文化2年|<創業>亀戸天神船橋屋(くず餅)
- 1805年1月31日-09:00|日本|栃木県那須烏山市|文化2年|<交替>下野烏山藩3万石「大久保忠喜」隠居⇒養子「大久保忠成」が継ぐ(⇒文政10(1827)年、隠居)
- 1805年1月31日-09:00|日本| ||文化2年1月|<出版>葛飾北斎「狂歌百嘩」
- 1805年1月31日-09:00|日本| ||文化2年1月|<出版>北尾重政「写真花鳥図会」
- 1805年2月 04:00|ドミニカ共和国/フランス/ハイチ| |||2万5千のハイチ軍、フランス軍の介入に応戦し、サント・ドミンゴに侵入。フランス守備隊を打ち破り北部一帯を制圧
- 1805年2月1日-01:00|オランダ| |||<就任>ハヴル共和国國務院主席「ヤン・ベルト・ヒッカー」(~4.29)
- 1805年2月2日-01:00|フランス/イタリア| |||仏軍ローマを再度占領
- 1805年2月7日-07:00|ラオス| |||<死去>ウエイチャン王「インタラウ・ホン・セタイラート3世」
- 1805年2月7日-07:00|ラオス| |||<即位>ウエイチャン王「チャオ・ヌウオン」(~18281112死去)
- 1805年2月9日-09:00|日本|佐賀県佐賀市|文化2年1月10日|<死去>肥前佐賀藩32万石「鍋島治茂」(61歳)⇒長男「鍋島齊直」が継ぐ(⇒天保元(1830)年2月7日、隠居)
- 1805年2月10日-09:00|日本|東京都港区|文化2年1月11日|め組鷺の者と関取四ツ車大八が芝神明社の境内で喧嘩
- 1805年2月12日 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「Bruin Govertsz Quant」(1期目~10.8)
- 1805年2月12日 04:00|アルバ/イギリス| |||<就任>アルバ島司令官「Mahling」イギリス司令官(2期目~11.20)
- 1805年2月12日 04:00|アルバ/イギリス| |||アルバ島はイギリスが占領(~11.20)
- 1805年2月15日-09:00|日本|東京都港区|文化2年1月16日|め組の火消し辰五郎ら、芝神明で力士と大喧嘩
- 1805年2月16日-09:00|日本| ||文化2年1月17日|<死去>若杉五十八(47歳)画家
- 1805年2月18日 00:00|ギニア/サハール| |||<就任>ビサウ司令官「マヌエル・ピント・デ・グー・ヘイ」(~1811年7月)
- 1805年2月22日 05:00|パナマ/スペイン| |||<就任>パナマ総督「ファン・アントニオ・デ・ラ・マタイ・バルヘラ」(~18120712没)
- 1805年2月25日-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>シャッキ汗国ハン「ムスタファ・サリム・ハン」(2度目~1806年11月)
- 1805年3月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ニコライ軍事知事兼カトリックニコライエフ・タリダ県民事首席管理者「リシュリュエ公 Armand Emmanuel du Plessis」(~1814.9)
- 1805年3月1日-09:00|日本| ||文化2年2月|<出版>大阪の松好齋「役者浜真砂」
- 1805年3月1日-09:00|日本|東京都葛飾区|文化2年2月|地元の名主島田新右衛門の手により石の祠を立て立石稲荷神社「立石様」創建
- 1805年3月3日-09:00|日本| ||文化2年2月3日|<死去>岡崎屋勘亭(60歳)書家
- 1805年3月5日-09:00|日本|東京都墨田区|文化2年2月5日|<大相撲>文化2年2月場所[江戸本所回向院](10日間)優勝:(西大関)雷電,10戦全勝
- 1805年3月8日-09:00|日本|山形県鶴岡市|文化2年2月8日|酒井家九代目藩主忠徳が庄内藩校致道館を大宝寺に創建
- 1805年3月17日-01:00|イタリア| |||イタリア共和国はジェノヴァを併合しイタリア王国となる<即位>イタリア王(ホハルト朝)「ホレオネ1世」フランス皇帝(~18140411)
- 1805年3月17日-09:00|日本|熊本県熊本市|文化2年2月17日|<死去>熊本新田藩35000石「細川利庸」(52歳)⇒長男「細川利国」が継ぐ(⇒文化7(1810)年1月22日、死去)
- 1805年3月17日-09:00|日本|静岡県掛川市|文化2年2月17日|<死去>遠江掛川藩5万石「太田資愛」(67歳)⇒次男「太田資順」が継ぐ(⇒文化5(1808)年10月7日、死去)
- 1805年3月21日 04:00|フォーランド/スペイン| |||<就任>スペイン領フォーランド諸島司令官・総督「Antonio Leal de Ibarra y Oxinando」(2期目~18060320)
- 1805年3月24日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン公「ヨハン1世ヨセフ」(1回目~18060801)
- 1805年3月24日-01:00|リヒテンシュタイン| |||リヒテンシュタイン公「アロイス1世」
- 1805年3月25日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「フランス・ゴア中佐」(~18060324)
- 1805年3月26日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化2年2月26日|<死去>三代目・姉川新四郎(歌舞伎役者)
- 1805年3月29日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント総督「ジョージ・ベックウイス卿」(1回目~7.3)
- 1805年3月31日-09:00|日本| ||文化2年3月|<出版>西村中和「木曾路名所図会」
- 1805年4月-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ベングレン居住者代表「トマス・Parr」(~18071223死去)
- 1805年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・マリア・ベルツィ」(アントニオ・カピットーニ)
- 1805年4月6日-09:00|日本/ロシア|長崎県長崎市|文化2年3月7日|幕府が、目付遠山景晋を長崎に派遣し、前年来航したロシア使節ニコライ・レゾノフの通商要求を拒絶
- 1805年4月7日-01:00|ドイツ| |||ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」が初演
- 1805年4月11日 00:00|イギリス/ロシア| |||ロシア暦3月30日|ヘルプルク条約が結ばれてロシアとイギリスが対仏同盟の結成を約束す

1810迄 (2641件)

1805年4月14日-09:00|日本| ||文化2年3月15日|<出版>鵜形恵斎「近世職人尽絵詞」中巻
1805年4月15日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>オランダ領スリナム(オランダ西インド会社)総督「ウィリアム・カリーヨ」(~18080927)
1805年4月17日-09:00|日本|東京都|文化2年3月18日|<死去>安井大江丸(84歳)俳人
1805年4月18日-09:00|日本/ロシア|長崎県長崎市|文化2年3月19日|ロシア使節ニコライ・レザノフ長崎を退去
1805年4月24日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ホスランチャン・ハフジ・イスマイル・パシャ」(~18061114)
1805年4月26日-09:00|日本|山形県上市市|文化2年3月27日|<死去>出羽上山藩3万石「松平信愛」(27歳)⇒養子「松平信行」が継ぐ(⇒天保2(1831)年10月9日、隠居)
1805年4月29日-01:00|オランダ| |||<就任>バタヴィア連邦國務長官「カレル・ジエルト・ヤン・ハルトマン」(18060619から代行~18060630)
1805年4月29日-01:00|オランダ| |||<就任>バタヴィア連邦法律顧問「ヘックタム・エン・ガリク卿ルガヤン・シムルペニク」(~18060605)
1805年4月29日-09:00|日本| ||文化2年4月|<出版>柳々居辰斎「狂歌吾妻集」
1805年4月29日-09:00|日本|北海道|文化2年4月|(~閏8月)ソウヤ・テオ地方に熱病流行。アイヌの死亡者509人にのぼる
1805年5月1日-09:00|日本|愛媛県今治市|文化2年4月3日|今治城南堀端善方弥右衛門跡屋敷地へ藩校設立、教授に長野景次郎恭度任命される
1805年5月7日 00:00|イギリス| |||<死去>ランス・ダウ侯「ウィリアム・ペティ」2代シエルバーン伯
1805年5月7日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ランス・ダウ侯「ジョン・ペティ」先代の長男(~18091115死去)
1805年5月9日-01:00|ドイツ| |||ドイツの詩人で劇作家フリードリヒ・シラーがワイマルで没/45歳(誕生:17591110)
1805年5月13日-01:00|リビア/アメリカ| |||<第一次バハリア戦争:ダネの戦い>(4.27~)アメリカ海兵隊とアラブの傭兵隊、トリポリの港町デルナを占領
1805年5月14日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||カボル・カラバフがロシアに併合される/バクーはロシア宗主権下
1805年5月17日 04:00|グレタ/イギリス| |||<就任>グレタ総督「フレリック・メイトランド」(1回目~1807年11月)
1805年5月20日 05:00|ハイチ| |||独立国家としてはじめてのハイチ憲法制定/奴隷制の永久廃止
1805年5月21日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||シキがロシアに併合される
1805年5月25日-01:00|フランス/イタリア| |||イタリアのリグリア共和国がフランスに正式に併合される
1805年5月29日-09:00|日本| ||文化2年5月|幕府、百姓の武芸稽古を禁止
1805年6月4日-01:00|リビア/アメリカ| |||トリポリの太守ユス・カマルが、対米戦争の和平条約に調印
1805年6月6日-09:00|日本| ||文化2年5月9日|幕府が、銀座以外で灰吹銀・潰銀を売買すること、京都以外の職人が銀箔を製造することを禁止
1805年6月10日-01:00|リビア/アメリカ| |||講和条約が締結され第一次バハリア戦争は終
1805年6月12日-09:00|日本|青森県弘前市|文化2年5月15日|<高直し>陸奥弘前藩46000石「津軽寧親」⇒7万石(⇒文化8(1812)年12月18日、10万石に高直し)
1805年6月15日-01:00|マルタ| |||<就任>聖ヨネ騎士団グランドマスター副官「イニコマリア・ゲバラ・スアルト」(~18140425没)
1805年6月15日 00:00|カナ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴードン・コースト総督「ピーター・リンサート」(~18070721没)
1805年6月16日 05:00|コロンビア| |||コロンビア、トリマ県で地震(M6)死者200人
1805年6月20日-09:00|日本|岐阜県山県市|文化2年5月23日|<死去>本庄道利(52歳)前美濃高富藩主、元伏見奉行
1805年6月23日-01:00|イタリア| |||<即位>ルッカ・エビオンビノ公国元首「フェリチェ・パチョキ」ルッカ共和国をもとに建国
1805年6月27日-09:00|日本| ||文化2年6月|<出版>歌川豊国画「松本米三の死絵」
1805年6月27日-09:00|日本|東京都|文化2年6月|勘定奉行の配下に関東取締出役(八州廻り)を新設
1805年7月1日-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデイ「アフマド2世」(~18081115)
1805年7月3日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント総督代行「ドリューリー・オットリー」(2度目~9.17)
1805年7月5日 04:00|ドミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領ドミニカ総督代行「ジョージ・メトカーフ」(~18080527)
1805年7月9日-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト総督「ムハンマド・アリ・パシャ」(1回目~18480901)
1805年7月14日-09:00|日本|奈良県大和郡山田市|文化2年6月18日|<死去>片桐貞芳(66歳)前大和小泉藩主
1805年7月19日-05:30|スリナム/イギリス| |||<就任>イギリス領セイロン総督「トマス・メイトランド」(~18110319)
1805年7月22日-01:00|スペイン/フランス/イギリス| |||<ナポレオン戦争:フィニステル岬の海戦>英国勝利。ナポレオン英国侵略計画断念
1805年7月26日-01:00|イタリア| |||イタリア、モリーゼ州で地震(M6.6)死者5573人
1805年7月30日-05:30|インド/イギリス| |||<再任>イギリス領ベンガル総督(イギリス東インド会社)「チャールズ・コーンウォリス」(2回目~10.5在職中にインドで死去)
1805年7月30日-09:00|日本|群馬県伊勢崎市|文化2年7月5日|<交替>上野伊勢崎藩2万石「酒井忠哲」隠居⇒長男「酒井忠寧」が継ぐ(⇒文化14(1817)年8月16日、死去)
1805年8月-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス代行「ハルル・パシャ」(~18061123)
1805年8月2日-09:00|日本| ||文化2年7月8日|<死去>慈延(58歳)天台宗の僧、歌人
1805年8月6日-09:00|日本|千葉県佐倉市|文化2年7月12日|<死去>下総佐倉藩11万石「堀田正順」(61歳)⇒弟「堀田正時」が継ぐ(⇒文化8(1811)年4月4日、死去)
1805年8月7日-09:00|日本|岡山県津山市|文化2年7月13日|<死去>美作津山藩5万石「松平康又」(20歳)⇒弟「松平齊孝」が継ぐ(⇒文化14(1817)年9月18日、5万石加増され10万石)
1805年8月8日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官「フランシスコ・デ・パウ・デ・アルカキート・アマラル・カトルゾ」(~18071228没)
1805年8月9日-01:00|オーストリア/ロシア/イギリス| |||ロシア暦7月28日|ヘルブルク条約にオーストリアが加盟し、第3次対仏大同盟が成立

1810迄 (2641件)

- 1805年8月17日-09:00|日本|新潟県五泉市|文化2年7月23日|<死去>堀直方(39歳)前越後村松藩主
- 1805年8月18日-01:00|フランス| ||ソフィー・ブランシャルが3度目の飛行(トゥールズにあるドミニコ派の修道院の庭から離陸)で、女性の最初の気球の単独飛行
- 1805年8月18日-09:00|日本|宮崎県延岡市|文化2年7月24日|<死去>内藤政脩(54歳)前日向延岡藩主
- 1805年8月22日 00:00|イギリス| ||<死去>4代ジャージー伯爵「ジョージ・ヒュシー・ウイリアムズ」
- 1805年8月22日 00:00|イギリス| ||<就任>5代ジャージー伯爵「ジョージ・チャイルド・ウイリアムズ」(~18591003死去)
- 1805年8月22日 00:00|アイルランド/デンマーク| ||<就任>アイルランド総督「トランプ伯爵フレデリック・クリスチャー」(18060606まで代行~18090626)
- 1805年8月23日-09:00|日本|福島県会津若松市|文化2年7月29日|<死去>陸奥会津藩23万石「松平容頌」(62歳)⇒孫「松平容住」が継ぐ(⇒同年12月27日、28歳で死去)
- 1805年8月25日-01:00|ドイツ/フランス| ||ホーゲンハゲンで、ナポレオンがバリエルと同盟を結ぶ
- 1805年8月25日 00:00|イギリス| ||<死去>グロスター=エドウィンバラ公「ウィリアム・ヘンリー」
- 1805年8月25日 00:00|イギリス| ||<就任>グロスター=エドウィンバラ公「ウィリアム・フレデリック」(~18341130死去)
- 1805年8月27日-01:00|セルビア| ||<就任>革命セルビア管理評議会会長「マテヤ・ネトウイッチ」(~1807年1月)
- 1805年8月29日-01:00|チェコ| ||<就任>モラヴィア総督「フロコップ2世グラーフ・ラザンスキー・フライヘル・フォン・ブコワ」(~18130422)
- 1805年8月31日 00:00|サントメ・プリンシペ/ポルトガル| ||<就任>サントメ・プリンシペ総督「Luis Joaquim Lisboa」(~1815年死去)
- 1805年9月1日-09:00|日本| ||文化2年8月9日|<死去>真仁入道親王(38歳)典仁親王の王子、天台座主
- 1805年9月1日-09:00|日本|宮崎県宮崎市|文化2年8月9日|<死去>島津久柄(72歳)日向佐土原藩主
- 1805年9月8日-01:00|ドイツ/オーストリア/フランス| ||オーストリア軍がバリエルに侵入し、フランス対第3次対仏大同盟戦争が始まる
- 1805年9月9日-01:00|クロアチア/フランス| ||フィウメをジャンマチュー・セラのもとフランスが短期間占領(~13日)
- 1805年9月13日-09:00|日本|広島県福山市|文化2年8月21日|<死去>備後国福山藩10万石「阿部正倫」(61歳)元寺社奉行・老中⇒息子の正精が継ぐ
- 1805年9月14日 06:00|ベネチア/イギリス| ||<就任>ベネチア居留地管理者(ジャマカの知事に従属)「ガブリエル・ゴートン」(~18060426)
- 1805年9月17日 04:00|セントピント/イギリス| ||<就任>イギリス領セントピント総督代行「ロバート・ポール」(1回目~1806年4月)
- 1805年9月26日-05:30|インド| ||<死去>コーン国統治者(マハラジャ・ガングタラ・コウイラティ・カリカ)「ラマヴァルマ9世サタン・タンラン」
- 1805年9月26日-05:30|インド| ||<即位>コーン国統治者(マハラジャ・ガングタラ・コウイラティ・カリカ)「ラマヴァルマ10世」(~1809年1月没)
- 1805年10月-02:00|サンビア| ||<就任>カセンバ統治者(ムタ・カセンバ)「カセンバ4世カニホ2世ケカマイ」(~1850年没)
- 1805年10月1日-01:00|サマリノ| ||<就任>サマリノ共和国執政「マリア・ノベグニ」(ジョヴァンニ・マルリ)
- 1805年10月5日-05:30|インド/イギリス| ||<死去>イギリス領ベンガル総督(イギリス東インド会社)「チャールズ・コンウォリス」在職中にインドで
- 1805年10月5日 00:00|イギリス| ||<死去>初代コンウォリス侯「チャールズ・コンウォリス」
- 1805年10月5日 00:00|イギリス| ||<就任>2代コンウォリス侯「チャールズ・コンウォリス」先代の息子(~18230809死去)
- 1805年10月5日 00:00|マン島/イギリス| ||<就任>マン島副知事「Cornelius Smelt」(~18321128死去)
- 1805年10月7日 00:00|イギリス| ||イギリスのラルフェッジ・ウッドが書き物の複製をつくるための用具としてカーボン紙を発明。特許を取得/カーボン紙は複写に用いる紙で油、蠟、顔料を混合し、薄い雁皮紙などの片面または両面に塗ったもの
- 1805年10月8日 04:00|アルバ/イギリス| ||<就任>アルバ島イギリス知事「William Doran」(~18051119)
- 1805年10月10日-05:30|インド/イギリス| ||<就任>イギリス領ベンガル臨時総督(イギリス東インド会社)「ジョージ・ヘリオ・バーロウ」(~18070731)
- 1805年10月13日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| ||<就任>トバゴ総司令官。総督代行「ロバート・ミッチェル」(~18060527)
- 1805年10月19日-01:00|オーストリア/フランス| ||9月25日からのウムの戦いにおいて、オーストリア軍はフランス軍に大敗、ウィーン陥落
- 1805年10月21日-01:00|スペイン/フランス/イギリス| ||<トラファルガーの海戦>フランス・スペイン連合艦隊が、スペイン南西岸トラファルガー岬沖でホーショ・ネルソン提督の率いるイギリス艦隊に敗れた/ネルソン提督は戦死/ナポレオン1世、制海権を失い「対英上陸作戦」を断念
- 1805年10月23日 00:00|イギリス| ||<死去>4代ロクスバラ公「ウィリアム・ヘンリー・レンデン=カー」
- 1805年10月23日 00:00|イギリス| ||<就任>5代ロクスバラ公「ジェームズ・ヘンリー」(~18230719死去)
- 1805年10月26日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|文化2年9月5日|<交替>備中足守藩25000石「木下利徹」隠居⇒養子「木下利徳」が継ぐ(⇒文政4(1821)年8月21日、33歳で死去)
- 1805年10月26日-09:00|日本|佐賀県唐津市|文化2年9月5日|<交替>肥前唐津藩6万石「水野忠鼎」隠居⇒長男「水野忠光」が継ぐ(⇒文化9(1812)年8月、隠居)
- 1805年10月27日-09:00|日本|東京都|文化2年9月6日|幕府が女浄瑠璃を禁止
- 1805年10月29日 04:00|BES諸島/イギリス| ||<就任>ポネール暫定副司令官「Johannes Hzn. Palm」(~18150527)
- 1805年11月3日-01:00|ドイツ/ロシア| ||ホツダムで、ロシアとプロシヤが同盟を結ぶ
- 1805年11月4日 00:00|シエラレオネ/イギリス| ||<就任>イギリス領シエラレオネ植民地総督「トマス・ルトラム」(3回目~18080101イギリス王領シエラレオネ総督~18080727)
- 1805年11月13日-01:00|オーストリア/フランス| ||フランスがウィーンを占領(~18060112)

1810迄 (2641件)

- 1805年11月15日 06:00|アメリカ | ||ルイスとクラークの探検隊、太平洋に到達
- 1805年11月15日-09:00|日本|山形県鶴岡市|文化2年9月25日|<交替>出羽庄内藩14万石「酒井忠徳」隠居⇒長男「酒井忠器」が継ぐ(⇒天保13(1842)年4月14日、隠居)
- 1805年11月19日-01:00|イタリヤ/フランス| ||トリエステをフランスが占領(~18060304)
- 1805年11月20日-01:00|ドイツ| ||ルートヴィヒ・ヴァン・ベートヴェン《「レオノレ」序曲第2番》《歌劇「フィデルリオ」》初演
- 1805年11月20日 00:00|イギリス| ||<就任>初代礼賓伯「ウィリアム・礼賓」(~18350228死去)
- 1805年11月20日 04:00|アルバ/オランダ| ||<就任>アルバ 島司令官代理「Patrick Balfour + Pedro Luis Brion」(~同月)⇒司令官「Bruin Govertsz Quant」(2期目~18060115)
- 1805年11月23日-05:30|インド| ||イギリス東インド会社が、シンドと和約
- 1805年11月26日 00:00|イギリス| ||英国の水道橋「ポントカステル水路橋」開通(2009年世界文化遺産)
- 1805年11月30日-09:00|日本|群馬県安中市|文化2年10月10日|<死去>上野安中藩3万石「板倉勝意」(51歳)⇒養子「板倉勝尚」が継ぐ(⇒文政3(1820)年8月26日、死去)
- 1805年11月30日-09:00|日本|新潟県五泉市|文化2年10月10日|<死去>堀直庸(15歳)越後村松藩主⇒の直央が継いだ
- 1805年12月2日-01:00|チェコ/オーストリア/フランス/ロシア| ||ロシア暦11月20日|ナポレオンのフランス軍が、アusterlitzの戦いでロシア-オーストリア同盟軍を破る
- 1805年12月6日-05:30|インド| ||<即位>パラトブル国マハラジャ「ランデーイル・シン」(~18231007没)
- 1805年12月7日-05:30|インド| ||<即位>パラトブル王国マハラジャ「ランデーイル・シンガ」(~1823年)
- 1805年12月8日-09:00|日本|東京都墨田区|文化2年10月18日|<大相撲>文化2年10月場所[江戸本所回向院](10日間)優勝:(西大関)雷電, 9勝1敗
- 1805年12月15日-01:00|フランス/ドイツ| ||プロシエンが、フランスと攻守同盟を結ぶ
- 1805年12月21日-09:00|日本|東京都江東区|文化2年11月|<再建>深川三十三間堂(翌年二月、射はじめ)
- 1805年12月21日-08:00|台湾| ||清・嘉慶10年11月|海盜の蔡牽が艦隊を率いて台湾に進駐し、鎮海王と称する
- 1805年12月21日-09:00|日本|茨城県水戸市|文化2年11月1日|<死去>常陸水戸藩35万石「徳川治保」(55歳)⇒12月10日、嫡男「徳川治紀」が継ぐ(⇒文化13年閏8月19日(18161010)、急死)
- 1805年12月24日-05:30|インド| ||イギリス東インド会社がホルカルと和約し、第2次マラーター戦争が終結
- 1805年12月24日-05:30|インド/イギリス| ||イタリヤ国はイギリス保護領(18180106条約により確認); パラトブル国はイギリス保護領(18280118条約により確認)
- 1805年12月24日-01:00|オーストリア| ||<就任>オーストリア首相「シュタデーオン・タンハウゼンとヴァルトハウゼン伯爵ヨハン・フィリップ」(~18091004)
- 1805年12月25日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||シルヴァン(シャマカ)がロシアに併合される
- 1805年12月25日-01:00|ドイツ| ||<即位>ヴュルツブルク大公「Ferdinand3世」(~18140501, バイエルン王国に統合)
- 1805年12月26日-01:00|ドイツ/オーストリア| ||<即位>バイエルン国王「マクシミリアン1世」(旧名バイエルン選帝侯マクシミリアン4世ヨーゼフ)(~18251013)
- 1805年12月26日-01:00|クロアチア/フランス/オーストリア| ||タマラチアがオーストリアからフランスに割譲される
- 1805年12月26日-01:00|オーストリア/チェコ/フランス| ||プロシエンがフランスとオーストリアの和約が成立/第3次対仏大同盟が崩壊
- 1805年12月28日-09:00|日本|福井県大野市|文化2年11月8日|<交替>越前大野藩4万石「土井利貞」隠居⇒養子「土井利義」が継ぐ(⇒文化7(1810)年3月10日、隠居)
- 1806年-08:00|マレーシア| ||<即位>ペラ・スルタン「アブドゥル・カリム・マンスール・シャー・イブニ・アル=マルフム・スルタン・アフマド・イン・シャー」(1818年から行政権限剥奪~18250818没)
- 1806年-07:00|タイ| ||<即位>ラムアーン国主チャイウオン(~1818年)
- 1806年-06:00|ブータン| ||<就任>ブータン摂政「ウメ・パルホップ」(~1808年)
- 1806年-05:30|インド| ||<就任>アンガール国ラジャ「ジャワラル・シン」(~1809年没)
- 1806年-05:30|インド/イギリス| ||<就任>イギリス軍ゴア守備隊司令官「コールマン」(~1807年)
- 1806年-05:30|インド| ||<就任>コトカプラ国支配者「ジャガット・シン」(~1807年)
- 1806年-05:30|インド| ||<就任>シグニ国統治者(ラオ)「ヒルティ・シン」(~1830年没)
- 1806年-05:30|インド| ||<就任>チョク・ナグプール国支配者(ラジャ)「コウグ・インド・ナス・シャー・デオ」(~1817年)
- 1806年-05:30|インド| ||<就任>トウジヤナ国支配者(ナワブ)「アブドゥル・アズ・サマド・カン」(~1825年没)
- 1806年-05:30|インド| ||<就任>パソリ国ラジャ「マヘンドラ・パル」(~1813年没)
- 1806年-05:30|インド| ||<就任>マニプール国ラジャ「チャウシット・シン」(~1812年没)
- 1806年-05:30|インド| ||<就任>モラサ国ラジャ「フラタップ・シン」(~1821年没)
- 1806年-05:30|インド| ||<就任>ロハル国支配者(ナワブ)「アフマド・バクシ・カン」(~1825年2月)
- 1806年-05:30|インド| ||<即位>イタリヤ国統治者(マハラジャ・ホカル)「ヤシュワント・ラオ1世・ホカル」(~18111027没)
- 1806年-05:30|インド| ||<即位>トルポール国支配者(マハラジャ・ラナ)「キラット・シン」(~18360402)
- 1806年-05:30|インド| ||アウトル国はペシウによって管理された(~1818年)
- 1806年-05:30|インド/イギリス| ||ガソール国、ケティ国、サンガール国、サンハルポール国、ソネポール国、ハトナ国、ハムラ国、ホー国、ホー国、ライガール国、ライラカール国がイギリスによってナゲールに復元(~1826年)
- 1806年-05:30|インド| ||ゴハドはトルポールに合併
- 1806年-05:30|インド/イギリス| ||シヤラウン国、チャタルポール国、トウジヤナ国、ハオニ国、マイル国、ロハル国はイギリス保護領
- 1806年-05:00|ウズベキスタン| ||<即位>コーカンド(フェルガナ)ハン「Muhammad `Alim Khan」(~1809年)
- 1806年-04:00|アルメニア| ||<即位>エリヴァン汗国ハン「アフマド・ハン・モクダム」(~1807年)
- 1806年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||ナフチバンはロシアの保護領(~1810年)

1810迄 (2641件)

- 1806年-03:00|ウガンダ| |||フジンバ(キグルフジンバ)、キグルから分離
- 1806年-03:00|サウジアラビア| |||ワッハブ派のデイヤ首長国がジッタを占領
- 1806年-02:00|シリア/アラブ/トルコ| |||<就任>アレホ・ワス(総督)「Muftizade Ahmed Pasha」(~同年)
- 1806年-02:00|モザンビーク| |||<就任>カランガ統治者(マンボ)「ムティワラ」(~同年)⇒「チフンバ」(~1807年)
- 1806年-02:00|ルーマニア/ロシア| |||モルダヴィア、ワキアをロシアが占領(~1812年)
- 1806年-01:00|スペイン| |||<就任>アンソリアス伯「Luis Joaquin Fernandez de Cordoba y Benavides」(~1840年)
- 1806年-01:00|ドイツ| |||<昇格>アンハルト・ケーテン侯「Augustus Christian Frederick」⇒アンハルト・ケーテン公(~18120505死去)
- 1806年-01:00|ドイツ| |||<昇格>ロイス=エーベルストルフ伯「Heinrich51世」⇒ロイス=エーベルストルフ侯(~1822年)
- 1806年-01:00|ドイツ| |||<昇格>ロイス=シュライツ伯「Heinrich42世」⇒ロイス=シュライツ侯(~1818年死去)
- 1806年-01:00|チャド| |||<即位>ハギルミ王国スルタン「Malam Ngarmaba Bira, Mbangi」(1期目~同年)⇒「Uthman Burk omanda3世 al-Kabir, Mbangi」(1期目~1807年)
- 1806年-01:00|イタリヤ| |||<即位>ベネチエンテ大公「カルロス・モリス・ト・タレラント=ペリコルト」(~1815年)
- 1806年 00:00|カナリア諸島| |||<死去>ラサローテ島領主「Maria del Pilar de Gastejon y Silva」
- 1806年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>ス統治者「アリマ・ブリマ・コンコリ・サンコ」(~1817年没)
- 1806年 00:00|カナリア諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国ラゴメラ及びエル・ピロ総支配人「Baltasar Valcarcel」(1期目~1812年)
- 1806年 00:00|フェロ諸島| |||<就任>フェロ諸島首席大臣「Jorgen Frantz Hammershaimb」(~1816年)
- 1806年 00:00|カナリア諸島| |||<就任>ラサローテ島領主「Ana Maria de Gastejon y Davila」(~1815年死去)
- 1806年 00:00|ガンビア/イギリス| |||英国がセント・マリー島を購入
- 1806年 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官代理「Samuel Bartholomeus van den Broek」弁務官(1期目~同年)⇒(2期目~1810年)
- 1806年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督代理「John Spooner」(~1810年)
- 1806年 04:00|BES諸島/シント・マルテン| |||サバ島はシント・マルテンに従属
- 1806年1月 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官「van der Biest3世」(1期目~同年)
- 1806年1月 06:00|アメリカ| |||ウェブスター「簡明英語辞典」刊
- 1806年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連合評議会議長「アント・レアス・メリアン」Con(~12.31)
- 1806年1月1日-01:00|ドイツ| |||<即位>ヴュルテンベルク国王「フリードリヒ1世」(ヴュルテンベルク選帝侯~18161030死去)
- 1806年1月1日-01:00|ドイツ| |||<即位>ハイルン国王「マクシミリアン1世」ハイルン選帝侯マクシミリアン4世ヨゼフ(~18251013~18480320死去)ホレオンにより任命
- 1806年1月1日-01:00|フランス/イタリヤ| |||仏軍、ヴェネツィアを占領/ヴェネトはイタリヤ王国に併合
- 1806年1月1日-01:00|フランス| |||フランス「革命暦(共和暦)」(17931124から使用)を廃止し、「グレゴリウス暦」に復帰
- 1806年1月9日-04:00|レユニオン/フランス| |||<就任>ブルボン島知事「Nicolas Ernault de Regnac des Brulys」(~18090925死去)
- 1806年1月10日-05:30|インド/イギリス| |||ドムール国はイギリス保護領(条約による)
- 1806年1月10日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケープ植民地知事代行「デューイット・ベアード」卿「軍事総督」(~18070117)
- 1806年1月10日-02:00|南アフリカ/オランダ/イギリス| |||オランダ領ケープ植民地が再びイギリスに占領される
- 1806年1月15日 04:00|アルバ/オランダ| |||<就任>アルバ島司令官代理「Joseph Franke」(~同年)
- 1806年1月17日-09:00|日本|東京都千代田区|文化2年11月28日|<再興>清水徳川家「徳川菊千代」(⇒文化7(1810)年12月1日、賄料3万俵)
- 1806年1月20日-09:00|日本| ||文化2年12月|<刊行>山東京伝(歌川豊国画)「桜姫全伝曙草紙」
- 1806年1月23日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリス連合王国第18代首相「ウィリアム・ピット(小ピット)」ロンドン近郊のパットニーで/46歳(誕生17590523)
- 1806年1月26日-09:00|韓国/朝鮮| |||<就任>朝鮮国領議政「徐邁修」(~3.19)
- 1806年1月27日-09:00|日本|岡山県岡山市北区|文化2年11月|<死去>備中庭瀬藩2万石「板倉勝もと」(18歳)⇒翌年3月19日、弟「板倉勝資」が継ぐ(⇒天保3(1832)年閏11月21日、隠居)
- 1806年1月29日-09:00|日本|兵庫県尼崎市|文化2年11月|<死去>摂津尼崎藩48000石「松平忠告」(64歳)⇒翌年2月10日、次男「松平忠室」が継ぐ(⇒文化10(1813)年4月14日、隠居)
- 1806年2月-03:00|サウジアラビア| |||ワッハブ派のデイヤ首長国がメッカを再占領
- 1806年2月-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシエン王国首相「クリスチャン・フォン・ハウクヴィッツ」(~11月)
- 1806年2月6日 04:00|トミニカ共和国/フランス/スペイン/イギリス| |||ダックス提督の率いる英艦隊、サント・ミンゴの西仏艦隊を撃滅
- 1806年2月7日-05:30|インド/デンマーク| |||<就任>東インド諸島(トランケバル)デンマーク領総督「キュハーン」ヨハン・ピーター・ハーマンソン」(1回目~18080213)
- 1806年2月11日 00:00|イギリス| |||<就任>イギリス連合王国第19代首相「初代グレンヴィル男爵ウィリアム・グレンヴィル」ホイッグ党(~18070331)挙国一致内閣が成立
- 1806年2月12日 06:00|アメリカ| |||アメリカ上院、英海軍の米船拿捕と強制徴用に抗議する決議採択
- 1806年2月13日-01:00|フランス/バチカン| |||ホレオンが教皇ピウス7世と断交
- 1806年2月13日-09:00|日本|石川県加賀市|文化2年12月25日|<死去>加賀大聖寺藩7万石「前田利考」(27歳)⇒翌年3月14日、養子「前田利之」が継ぐ(⇒天保7年12月10日(18370116)、死去)
- 1806年2月13日-09:00|日本|徳島県徳島市|文化2年12月25日|<死去>画人、井川鳴門(雪下園)

1810迄 (2641件)

- 1806年2月15日-01:00|フランス/イタリア| ||フランス軍はナポリ王国を攻略、フェルディナンド4世はパレルモにまた避難
- 1806年2月15日-01:00|フランス/ドイツ| ||プロシヤがフランスとナポリで条約を結び、ナポリ製品の輸入を禁止させられる
- 1806年2月15日-09:00|日本|福島県会津若松市|文化2年11月|<死去>陸奥会津藩23万石「松平容住」(28歳)⇒次男「松平容衆」が継ぐ(⇒文政5年2月29日(18220420)、死去)
- 1806年2月15日-09:00|日本|福岡県大牟田市|文化2年12月27日|<交替>筑後三池藩1万石「立花種周」隠居蟄居⇒四男「立花種善」が継ぐ(⇒文化3(1806)年6月5日、陸奥下手渡藩へ移封)
- 1806年2月18日-09:00|日本|滋賀県大津市|文化3年|<加増>近江堅田藩1万石「堀田正敦」+3000石⇒13000石(⇒文政9(1826)年10月10日、下野佐野藩に移封、廃藩)
- 1806年2月18日-09:00|日本|静岡県熱海市|文化3年|<創業>古屋旅館
- 1806年2月18日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化3年1月|<初演>「いろは歌誉櫻花」中村歌六座、角の芝居
- 1806年2月21日 05:00|ジャマイカ/イギリス| ||<就任>英領サントフィアコ 総督「エア・ケート卿」(~18080326)
- 1806年2月26日-01:00|フランス| ||ジャン・シャルラン(67)が、ナポリの凱旋門の建設を開始
- 1806年2月28日-01:00|モンテネグロ/ロシア| ||ロシアがカチンを占領(~18070812)
- 1806年3月1日-09:00|日本|福井県小浜市|文化3年1月12日|<死去>若狭小浜藩10万3500石「酒井忠貴」(55歳)⇒3月2日、養子「酒井忠進」が継ぐ(⇒文政11(1828)年1月27日、死去)
- 1806年3月11日-08:00|マレーシア| ||<死去>バンダハ・マリヤ・マラジャ「トウン・コリス・ビントウン・アブドゥル・マジド」
- 1806年3月11日-08:00|マレーシア| ||<即位>バンダハ・マリヤ・マラジャ「トウン・アリ・ビントウン・コリス」(~1858年10月没)
- 1806年3月15日-01:00|ドイツ| ||<即位>ペルル大公「ジョージアン・ミュラ」(~18080801)
- 1806年3月15日-09:00|日本| ||文化3年1月26日|江戸幕府が文化の薪水給与令(撫恤令)を出す/外国船(特にこの場合の船を対象とする)が来航した場合、乗組員の上陸は許可しないものの必要な食料・水・薪(燃料)などを渡して帰国するよう説得する
- 1806年3月19日-09:00|日本| ||文化3年1月30日|幕府、関東郡代を廃止し馬喰町御用屋敷詰代官役所をおく
- 1806年3月20日-09:00|韓国/朝鮮| ||<就任>朝鮮国領議政「李秉模」(~10.21)
- 1806年3月20日 04:00|フォーケント/スペイン| ||<就任>スペイン領フォーケント 諸島司令官・総督「Bernardo de Bonavia」(3期目~1808.8)
- 1806年3月20日-08:00|中国/台湾| ||清・嘉慶11年2月|蔡牽軍と清軍が台湾鹿耳門の海面で激戦/清軍が優勢を占め、蔡牽は逃走
- 1806年3月23日-01:00|クロアチア| ||<就任>クロアチアとダルマチアのバン「ザグレブ」司教マクシミリアン・ヴァウラキトヴィチ「エチキ」(~4月)
- 1806年3月23日-09:00|日本| ||文化3年2月4日|<死去>土佐光貞(69歳) 絵師
- 1806年3月25日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| ||<就任>ボスニア総督「フスロ・マフムト・ハシヤ」(~18080120)
- 1806年3月25日 04:00|バミューダ/イギリス| ||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ 総督代理「ハンリー・タッカー」(4期目~9.24)
- 1806年3月25日 07:00|メキシコ| ||メキシコ中南部で地震(M7.5)ハリスコ州・ミチョアカン州などで死者2000人
- 1806年3月27日-01:00|アントワープ| ||<就任>アントワープ公国共同大公「フランス皇帝ボナパルト家ナポレオン1世」(~1812年1月26日)
- 1806年3月28日 00:00|アイルランド/イギリス| ||<就任>アイルランド 副卿「バットフォード」公爵ジョン・ラッセル(~18070419)
- 1806年3月29日-01:00|ドイツ| ||改作されたルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン《「レオノレ」序曲第3番》上演されるが、これも失敗
- 1806年3月30日-01:00|イタリア| ||<即位>ナポリ王「ジョゼフ・ボナパルト1世」(ナポレオン1世の兄ジョゼフ・ボナパルト~18080606)
- 1806年3月31日-09:00|日本|東京都中央区|文化3年2月12日|<大相撲>文化3年2月場所[江戸山王御旅所茅場町薬師](5日間)優勝:(東大関)大木戸,5戦全勝
- 1806年4月-01:00|クロアチア| ||<就任>クロアチアとダルマチアのバン「イグナク・グロフ・ギユイ」(1回目⇒1809年7月ハンガリー亡命~1813年8月)
- 1806年4月 04:00|セントピント/イギリス| ||<就任>イギリス領セントピント 総督「ジョージ・ベックウイズ」卿(2度目~18071031)
- 1806年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ジョゼフ・メルクリ」[マリノ・タッシーニ]
- 1806年4月1日 00:00|イギリス/ドイツ| ||イギリスがプロシヤに宣戦布告
- 1806年4月2日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| ||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「統治委員会:ホギン・マリア・マスカレニヤス カステロ・ブランコ/ドゥアルテ・カブレラ・デ・ブリティ・エ・アルベロス/マニエル・ビント・コエリョー・エウゼビオ・カステイリャ・デ・レモス」(~18070329)
- 1806年4月9日-01:00|オランダ| ||<死去>オラニエ(オランジュ)公「ウィレム5世」
- 1806年4月9日-01:00|オランダ| ||<就任>オラニエ(オランジュ)公「ウィレム6世」ウィレム5世の息子(~18150316オランダ王ウィレム1世)
- 1806年4月10日 00:00|イギリス| ||<就任>初代オフォート 伯「ホーショ・ウォルポール」(~18090224死去)
- 1806年4月10日 04:00|アルバ/ベネチア| ||<就任>アルバ 島軍政司令官「Francisco de Miranda」(1期目~15日)
- 1806年4月10日 04:00|アルバ/ベネチア| ||アルバ 島はベネチアの革命的なフランスコ・デ・ミランダが占領(~15日)
- 1806年4月10日-09:00|日本|広島県広島市|文化3年2月22日|広島金屋町出火、町家107軒(223竈)焼失
- 1806年4月11日 00:00|イギリス| ||<就任>初代グレイ伯「チャールズ・グレイ」(~18071114死去)
- 1806年4月18日 06:00|アメリカ| ||アメリカ議会、英の強制徴用に対抗して、多くの英製品の輸入を禁止
- 1806年4月19日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化3年3月|<初演>人形浄瑠璃「玉藻前曦袂」[合作・近松梅枝軒ほか]大坂御霊芝居
- 1806年4月22日 02:00|日本|東京都|文化3年3月4日|<江戸文化3年の大火「丙寅の大火」>巳の半刻(午前11時ごろ)芝車町の材木屋付近から出火し、火元に近い芝の薩摩藩下屋敷、増上寺五重の塔を焼き、強風は飛び火を呼び木挽町、数寄屋橋御門内へと拡がり、和田倉門外の大名屋敷小路から常盤橋門、東本願寺を焼き、京橋、日本橋の商家街はほとんど全焼、神田、浅草新堀方面まで大半を灰にした/翌日の雨で12時間振りに鎮火/被害は、避難の時、橋が焼け落ちるなどで1200余人が死亡/焼失家屋は大名屋敷80余軒、東本願寺など寺院66か所、神社20余か所/

1810迄 (2641件)

町家は、町数で530余町、12万6000余軒を焼失

- 1806年4月25日-05:45|ネーデル| |||<就任>ネーデル首相「ヒムセン・ヴァ」(~1837年7月)
- 1806年4月25日-05:45|ネーデル| |||<就任>ネーデル摂政「マハニ・ラリット・ティフ・ラ・スタン・リ・テ・グ・イ」(~18320406没)
- 1806年4月28日 06:00|ベリーズ/イギリス| |||<就任>ベリーズ 居留地管理者(ジャマカの知事に従属)「アレクサンダー・マーク・カー・ハミルトン」(~18090914)
- 1806年4月29日-09:00|日本|島根県松江市|文化3年3月11日|<交替>出雲松江藩18万6千石「松平治郷」隠居⇒長男「松平齊恒」が継ぐ(⇒文政5(1822)年3月21日、32歳で死去)
- 1806年4月30日-01:00|フランス| |||フランスが帝国関税法を制定
- 1806年4月30日-09:00|日本|東京都|文化3年3月12日|<死去>小野川喜三郎・小野川親方(49歳、1758年生)第5代横綱
- 1806年5月1日-01:00|イタリア| |||イタリアはイタリア王国に併合された(イストリア)
- 1806年5月1日-01:00|クロアチア/イタリア| |||ダルマチアは(ダルマチア県(首都:ザラ)として)イタリア・ナポレオン王国に併合
- 1806年5月4日-05:30|インド| |||<就任>シジャール国支配者(ナワブ)「ニジャハット・アリ・カーン」建国(イギリス保護領) (~1813年)
- 1806年5月10日-01:00|フランス| |||ナポレオンが、帝国教育団を設立
- 1806年5月10日 01:00|アゾレス諸島/ポルトガル| |||<就任>アゾレス諸島総司令官「Miguel Antonio de Melo」(~18100909)
- 1806年5月13日 06:00|アメリカ| |||アメリカの雑誌に「カケル」の語が初めて登場
- 1806年5月24日 00:00|イギリス| |||<死去>5代アーガイル公「ジョン・キャンベル」
- 1806年5月24日 00:00|イギリス| |||<就任>6代アーガイル公「ジョージ・ウィリアム・キャンベル」(~18391022死去)
- 1806年5月26日-01:00|クロアチア/フランス| |||ラグーザをフランスが占領(~18080131)
- 1806年5月27日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トバゴ 総司令官、総督代行「ジョン・ハルフォア」(1期目~18070423)
- 1806年5月30日 06:00|アメリカ| |||アメリカ合衆国の軍人、政治家アントニー・ジャクソン、決闘でチャールズ・テイソン弁護士を殺害
- 1806年6月-04:00|ロシア| |||ロシア暦11月6日|カイク、ナハランはロシア宗主権下/デルバント市はロシアの直接統治下
- 1806年6月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「ジェームズ・ドラモンド」(1期目~11月)ケント公の下で
- 1806年6月 00:00|セネガル| |||<就任>ファクトロ統治者統治者(アルマミ)「ムクタル・イブン・サー・ケティエ・タリ」(~1807年4月)
- 1806年6月5日-01:00|オランダ| |||<就任>バタビア連邦法律顧問代行「ティクニグ・エン・デ・ホーゲンホフ卿カル・テ・ヴァース・ファン・ステンウエイク」(~9日)
- 1806年6月9日-01:00|オランダ/フランス| |||<即位>ホラント王国国王「ロデウエイク1世(ルイ・ボナパルト)」ナポレオン・ボナパルトの弟(~18100701)
- 1806年6月10日-01:00|ドイツ/ロシア/フランス| |||<ハイルスベルクの戦い>ロシア軍はフランス軍に対して戦術的勝利を収め、東プロシエンを南北に流れるアレ川の東に後退/ナポレオンはケーニヒスベルクへ軍を向けた/ロシア軍は、フランス軍の中で最も東側を進撃していたフランス軍団を捕捉撃滅すべく、ケーニヒスベルクの南東約50キロの町フリートラントにおいて、再びアレ川を渡った
- 1806年6月11日-08:00|中国| |||清・嘉慶11年4月25日|チベット、錯那で地震/M7.5、死者100人
- 1806年6月12日-09:00|日本|岐阜県大垣市|文化3年4月26日|<死去>美濃大垣藩10万石「戸田氏教」(52歳)⇒6月11日、長男「戸田氏庸」が継ぐ(⇒天保12(1841)年3月19日、62歳で死去)
- 1806年6月12日-09:00|日本|東京都千代田区|文化3年4月26日|<解任>老中「戸田氏教」
- 1806年6月13日 22:00|ドイツ/ロシア/フランス| |||<フリートラントの戦い>深夜、ロシア軍はアレ川西岸のフリートラントの市街地を占領し、そこに進出していたフランス軍団の先遣部隊を駆逐
- 1806年6月14日-04:00|アゼルバイジャン| |||<死去>カラバク汗国ハン「イブラヒム・ハリル・ハン」
- 1806年6月14日 11:00|ドイツ/ロシア/フランス| |||<フリートラントの戦い>正午までにモルティエの増援部隊がコサック騎兵を撃退し、ナポレオンも戦場に到着
- 1806年6月14日 16:00|ドイツ/ロシア/フランス| |||<フリートラントの戦い>17時、用水路南側のロシア軍左翼を攻撃目標として、猛烈な砲撃とともに裨軍団が前進開始/ロシア軍は予備の騎兵を投入し、一時裨軍団が押し返される局面もあったが、デュボン師団と近衛砲兵隊が増援に駆けつけこれを撃退
- 1806年6月14日 19:00|ドイツ/ロシア/フランス| |||<フリートラントの戦い>20時までにロシア軍左翼は崩壊し、裨は用水路南側を制圧/アレ川にかかる橋梁が焼け落ちたことで、用水路北側に残っていたロシア軍右翼は退路を失い壊滅
- 1806年6月16日-01:00|ドイツ/フランス| |||スルトがケーニヒスベルクを占領し、プロシエンは完全に敗北
- 1806年6月17日-01:00|バチカン| |||<就任>バチカン枢機卿國務長官「フィリップ・カソニ」(~18080202)
- 1806年6月27日 03:00|アルゼンチン/イギリス| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「ヘレスフォード 伯爵ウィリアム・カー・ヘレスフォード(ブエノスアイレスのイギリス軍司令官)」(~8.13)
- 1806年6月27日 03:00|アルゼンチン/イギリス| |||イギリス軍がブエノスアイレスを占領(~18060812)
- 1806年6月28日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「James Drummond」(1期目~11.2)
- 1806年6月30日-01:00|オランダ/フランス| |||<就任>ホラント王国國務長官「ウィレム・フレデリック・ロエル」(~18080108)
- 1806年7月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<死去>ヒヴァハン国イラク朝ハン「ムハマト・イルテセル・イラク」
- 1806年7月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァハン国ハン「アフ・アルガージ-5世」(2期目~12月)
- 1806年7月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ガリシア総督代理「Christian Graf von Wurmser」(⇒18090327総督~18100403)
- 1806年7月7日-01:00|フランス/ロシア/ドイツ| |||ナポレオンとロシア皇帝アレクサンドル1世はティルジットの和約に合意/フランスとロシアの間には協調関係が成立/ポランドはワルシャワ公国として独立を回復/プロシエンはエルベ川以西の領土を失ったうえ巨額

1810迄 (2641件)

の賠償金を課せられた

- 1806年7月8日 00:00|カヤリ諸島| |||<就任>エルベントウ島主「Francisco Bautista3世 Benitez de Lugo y Lugo Vina」(~18160126死去)
- 1806年7月11日-09:00|日本|東京都千代田区|文化3年5月25日|<再任>老中「松平信明」(~文化14年8月29日)、首座となる
- 1806年7月12日-01:00|ドイッ/リヒテンシュタイン| |||<就任>ライン同盟首座大司教侯「カール・テオドール・アントン・マリア・フォン・ダールベルク」(~18131019)
- 1806年7月12日-01:00|ドイッ/リヒテンシュタイン| |||<就任>ライン同盟保護者「ナポレオン1世(フランス皇帝・イタリア王)」(~18131019ライプツヒの戦いで敗北)
- 1806年7月12日-01:00|ドイッ| |||<昇格>ライン伯国⇒ライン侯国
- 1806年7月12日-01:00|ドイッ/リヒテンシュタイン| |||<発足>ライン同盟/原加盟国:アレンベルク公国、ハーデン大公国、ハイルン王国(18131008離脱)、ベルク大公国、ヘッセン＝ダルムシュタット方伯国(18060814大公国に昇格)、ホーエンツォレルン＝ヘヒンゲン侯国、ホーエンツォレルン＝ゾグマリンゲン侯国、ゼンブルク＝ヒルシュタイン侯国、ライン侯国、リヒテンシュタイン侯国、マインツ大司教領(18100216からフランクフルト大公国)、ナッサウ＝ウジゲン侯国及びナッサウ＝ヴァイルブルク侯国(18060830からナッサウ公国)、ザルム＝キルブルク侯国(18101213フランス帝国に併合)、ザルム＝ザルム侯国(18101213フランス帝国に併合)、ヴェルテンベルク王国(18131102離脱)
- 1806年7月19日-09:00|日本|兵庫県佐用郡佐用町|文化3年6月4日|<死去>森俊春(81歳)前播磨三日月藩主
- 1806年7月20日-09:00|日本|福島県伊達市|文化3年6月5日|<移封>筑後三池藩1万石「立花種善」⇒陸奥下手渡藩1万石(⇒天保3(1832)年12月25日、死去)
- 1806年7月24日-01:00|ドイッ/ロシア| ||ロシア暦7月12日|プロシヤとロシアが対仏大同盟に調印
- 1806年7月25日-01:00|ドイッ/リヒテンシュタイン| |||<就任>ライン同盟首座大司教侯「カール・テオドール・フォン・ダールベルク(レーゲンスブルク大司教・フランクフルト大公)」(~18131026)
- 1806年7月25日-01:00|ドイッ| |||<即位>ハーデン大公「カール・フリートリヒ」(ハーデン選帝侯~18110610死去)
- 1806年7月25日 04:00|バルバトス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバトス元帥兼総督代理「John Ince」(~31日死去)
- 1806年7月26日-07:00|カンボジア| |||<即位>カンボジア王「アン・チャン2世」(1回目~1811年1月)
- 1806年7月31日 04:00|バルバトス/イギリス| |||<死去>イギリス領バルバトス元帥兼総督代理「John Ince」
- 1806年7月31日 04:00|バルバトス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバトス元帥兼総督代理「John Spooner」(1回目~18100730)
- 1806年8月1日-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン公「カール」(~18131207)、摂政「ヨハン1世」(~18131207)
- 1806年8月6日-01:00|ドイッ| |||<解任>ハノーファー選帝侯・ブラウンシュヴァイク＝リュネブルク選帝侯「ゲオルク3世」(グレートブリテン国王「ジョージ3世」)フランスによるハノーファー占領と神聖ローマ帝国崩壊で選帝侯位を喪失
- 1806年8月6日-01:00|ドイッ/オーストリア/チェコ/イタリア| |||<退位>神聖ローマ皇帝・ドイッ王「フランツ2世」神聖ローマ皇帝を解体
- 1806年8月6日-01:00|ドイッ/ポーランド| |||<退任>ブランデンブルク選帝侯「フリートリヒ・ヴィルヘルム3世」プロシアに統合
- 1806年8月7日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<死去>スペイン領フィリピン総督「ラファエル・マリア・デ・アギラール」
- 1806年8月7日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン総督代理「Mariano Fernandez de Folgueras」(1回目~18100304)
- 1806年8月11日-09:00|日本|東京都|文化3年6月27日|<死去>初代桜田治助(73歳)歌舞伎・狂言作者
- 1806年8月12日 03:00|アルゼンチン/イギリス| |||プロシヤを占領していたイギリス軍が住民の義友軍に敗北
- 1806年8月13日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>ニューサウスウェールズ植民地総督「ウィリアム・ブライ」(~18080126)
- 1806年8月14日-01:00|ドイッ| |||<即位>ヘッセン大公「ルートヴィヒ1世」(ヘッセン＝ダルムシュタット方伯ルートヴィヒ10世が大公に昇格~18300406死去76歳)
- 1806年8月14日-09:00|日本| ||文化3年7月|<刊行>平田篤胤「新鬼神論」(文政3年「鬼神新論」に改題)
- 1806年8月14日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化3年7月|<初演>歌舞伎「鎌倉三代記」大坂中の芝居
- 1806年8月14日-08:00|中国| ||清・嘉慶11年7月|白蓮教反乱後に郷勇から改編された新兵が陝西寧陝で塩米銀の発給停止をきっかけに暴動
- 1806年8月15日-04:00|レユニオン| |||ブルボン島をボナパルト島と改名
- 1806年8月19日 04:00|アルバ/ハネズエラ| |||<就任>アルバ島軍政司令官「Francisco de Miranda」(2回目~9.25)
- 1806年8月19日 04:00|アルバ/ハネズエラ| |||アルバ島はフランシスコ・デ・ミランダが再占領(~9.25)
- 1806年8月20日 05:00|ペルー/スペイン| |||<就任>ペルー副王「コンドルティア侯爵ジョセフ・フェルナント・アバスカル・イ・スザ」(~18160707)
- 1806年8月21日-09:00|日本| ||文化3年7月8日|<死去>天文学者・蘭学通詞、志筑忠雄(47)
- 1806年8月22日-01:00|フランス| |||<死去>フランス「ロココ美術」の画家ジャン・オノレ・フラゴナール(1732-、75歳)「ぶらんこ」など繊細・優雅な装飾性の強い画風で知られる
- 1806年8月23日-01:00|フランス| |||<死去>物理学者シャルル・クーロン/70歳(誕生:17360614)クーロンの法則を発見した
- 1806年8月30日-01:00|ドイッ| |||<即位>ナッサウ公「フリートリヒ」ナッサウ＝ウジゲン侯「フリートリヒ・アウグスト」(~18160324死去)
- 1806年8月30日-01:00|ドイッ| |||<統合>ナッサウ＝ウジゲン侯国、ナッサウ＝ヴァイルブルク侯国⇒ナッサウ公国
- 1806年9月5日-09:00|日本|長野県飯山市|文化3年7月23日|<交替>信濃飯山藩35000石「本多助受」隠居⇒26日、養子「本多助賢」が継ぐ(⇒安政5(1858)年4月22日、隠居)
- 1806年9月7日-09:00|日本| ||文化3年7月25日|<死去>伴蒿蹊(74歳)歌人、文筆家
- 1806年9月13日-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>カラバク汗国ハン「マフディー・カリ・ハン」(1回目~1822年10月)
- 1806年9月14日-04:00|オマーン| |||<退位>アルサイト王朝スルタン「サム1世ビン・スルタン」
- 1806年9月14日-03:00|タンザニア/オマーン| |||<就任>ザンザバル・ハミス(スルタン)「サイト・サイト・ビン・スルタン」(~18561019)
- 1806年9月14日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「スカラット・アレクサンドル・カリチ」(1回目~同月)

1810迄 (2641件)

- 1806年9月16日-09:00|日本|埼玉県深谷市|文化3年8月5日|<交替>武蔵岡部藩20250石「安部信享」隠居⇒三男「安部信操」が継ぐ(⇒文政8(1825)年4月29日、死去)
- 1806年9月23日 06:00|アメリカ| |||ミズーリ川の源流経由で太平洋に至る水路探検を行っていたメリウヰザールとウィリアム・クラークの探検隊が2年4ヵ月ぶりにセント・ルイスに帰還
- 1806年9月25日-01:00|ドイツ/フランス| |||<加盟>ライン同盟:ヴュルツブルク大公国(〜18131026離脱)
- 1806年9月25日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督「ジョン・ボズン准将」(〜18100616)
- 1806年9月26日-09:00|日本| ||文化3年8月15日|<死去>長町竹石(50歳)画家
- 1806年10月1日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワキア総督・領主「アレクサンドル・ラコニコラエ・ストウ」(2回目〜10日)
- 1806年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「アレクサンドロ・リギ」「ピエトロ・ベルティ」
- 1806年10月5日-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「アレクサンドル・ミハイロヴィチ・リムスキー・コルサコフ」(1回目〜18090703)
- 1806年10月5日-09:00|日本|京都府京都市伏見区|文化3年8月24日|<死去>山城淀藩10200石「稲葉正謙」(58歳)⇒次男「稲葉正備」が継ぐ(⇒文化12(1815)年3月8日、41歳で死去)
- 1806年10月6日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||バクーがロシアに併合される
- 1806年10月6日-01:00|ドイツ/ロシア/スウェーデン/イギリス| |||ヨーロッパ諸国がナポレオン1世のフランス帝国に対抗し「第四次対仏大同盟」結成/プロシヤ、ロシア、ザクセン王国、スウェーデン、イギリスが参加
- 1806年10月7日 00:00|イギリス| |||イギリスで複写用カーボン紙発明
- 1806年10月7日-09:00|日本|三重県津市|文化3年8月26日|<死去>伊勢津藩32万3千石「藤堂高嶷」(61歳)⇒10月12日、次男(久居藩主)「藤堂高兌」が継ぐ(⇒文政7(1824)年12月17日、44歳で病死)
- 1806年10月9日-01:00|ドイツ/フランス| |||プロシヤ王フリードリヒ・ウィルヘルム3世が、フランスに宣戦布告し、第4次対仏大同盟戦争が開始される
- 1806年10月10日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>キエフ軍総督兼キエフ、ミンスク行政区域民事首席管理者「Mikhail Illarionovich Golenishchev-Kutuzov」(〜18090715)
- 1806年10月13日-09:00|日本|愛媛県西条市|文化3年9月2日|<死去>松平頼謙(52歳)前伊予西条藩主
- 1806年10月14日-01:00|ドイツ/フランス| |||<イナ・アウエルシュテットの戦い>ナポレオン1世、イナ・アウエルシュテット(ドイツ中部の都市)でプロシヤ軍に勝利
- 1806年10月14日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「アルコス伯爵マルコス・デ・ノロニャ・エ・ブリティ」(〜18080122)
- 1806年10月17日-02:00|ルーマニア| |||<復位>モルダヴィア公「アレクサンドル・モルジ」(3期目〜18070319)
- 1806年10月17日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ共和国大統領「アレクサンドル・サハ・ペション」(1回目〜18110309)
- 1806年10月17日 05:00|ハイチ| |||陸軍将校、自由黒人、ムラト地主らの代表が集まり、憲法制定会議を創設
- 1806年10月17日 05:00|ハイチ| |||ハイチ独立の指導者で初代皇帝ジャック1世(デサリヌ)が部下の黒人將軍アンリ・クリストワに暗殺される(誕生:1758)
- 1806年10月18日-10:00|グアム/北マリアナ諸島/スペイン| |||<就任>マリアナ諸島知事「Alejandro Parreno」(〜18120726)
- 1806年10月22日-04:00|ロシア/日本| ||文化3年9月11日|ロシア船、樺太久春古丹(大泊)に上陸して運上屋を攻撃・略奪・放火
- 1806年10月23日-04:00|ロシア/日本| ||文化3年9月12日|ロシア、樺太クシュコタン攻撃
- 1806年10月27日-01:00|ドイツ/フランス| |||ナポレオンがベルリンを占領
- 1806年10月31日-09:00|日本|東京都|文化3年9月20日|<死去>喜多川歌麿(54歳、宝暦4(1754)年生)浮世絵師/鳥山石燕の門人にして、初め豊章と称す/美人画
- 1806年10月31日-09:00|日本|奈良県天理市|文化3年9月20日|<死去>大和柳本藩1万石「織田秀綿」(51歳)⇒12月18日、七男「織田秀陽」が継ぐ(⇒安政4(1857)年8月25日、死去)
- 1806年11月-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>シャッキ汗国ハン「ファト・アリ・カーン」(2度目〜12月)
- 1806年11月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「サー・ヒュー・ダリンプル」(〜1808.8)ケント公の下で
- 1806年11月-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「カール・フリードリヒ・フォン・ハイン」(〜18070426)
- 1806年11月2日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「Sir Hew Whitefoord Dalrymple」(〜18080813)
- 1806年11月3日 00:00|イギリス| |||<死去>7代キヤロウェイ伯「ジョン・ステュアート」
- 1806年11月3日 00:00|イギリス| |||<就任>8代キヤロウェイ伯「ジョージ・ステュアート」(〜18340327死去)
- 1806年11月10日-01:00|ドイツ| |||<死去>ブラウンシュヴァイク・グオルフェンビューテル侯「カール・グオルヘルム・フェルディナント」イナ・アウエルシュテットの戦いで戦死
- 1806年11月10日-01:00|ドイツ| |||<就任>ブラウンシュヴァイク・グオルフェンビューテル侯「フリードリヒ・グオルヘルム黒公」エルス公(〜1807年、グオルフェンビューテル侯領はフランスの衛星国であるヴエストファーレン王国に支配された⇒1814年ブラウンシュヴァイク公〜18150616死去)
- 1806年11月14日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ケチホメス・イブラヒム・ヒルミ・パシャ」(〜18070618)
- 1806年11月14日-09:00|日本|北海道函館市|文化3年10月5日|<箱館文化3年の大火「青山火事」>午前1時頃、弁天町の河岸市店、青山方より出火/合計350戸が被害
- 1806年11月15日-09:00|日本|千葉県香取市|文化3年10月6日|<交替>下総小見川藩1万石「内田正純」(隠居)⇒長男「内田正肥」が継ぐ(⇒文化13(1816)年6月14日、死去)
- 1806年11月17日-09:00|日本|滋賀県大津市|文化3年10月8日|<死去>近江膳所藩6万石「本多康完」(38歳)⇒弟「本多康禎」が継ぐ(⇒弘化4(1847)年4月13日、隠居)
- 1806年11月18日 00:00|ポルトガル| |||<死去>ポルトガル首相「ウイラヘルメ・ペドロ・アントニオ・デ・ノロニャ」

1810迄 (2641件)

- 1806年11月18日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル首相「バルバントニオ・ダ・ラウ・エ・アゼベド」(~18071126)
- 1806年11月19日-05:30|インド| |||<死去>ムガル帝国皇帝「シャー・アラム2世」
- 1806年11月19日-05:30|インド| |||<即位>ムガル帝国皇帝「アクバル2世」(~18370928死去77歳)
- 1806年11月21日-01:00|フランス/ドイツ| |||ホレオンがベルリン勅令を発し、フランス軍とフランスの同盟国が支配している地域が、イギリスと通商を行うことを禁じ、イギリス人の所有地と商品の没収を命じる(大陸封鎖令)
- 1806年11月21日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化3年10月12日|<就任>大坂城代「松平能登守乗保」(~文化7. 6. 25)
- 1806年11月21日-09:00|日本|京都府京都市|文化3年10月12日|<就任>京都所司代「阿部正由」(⇒1808(文化5年11月22日))
- 1806年11月21日-09:00|日本|三重県津市|文化3年10月12日|<死去>伊勢久居藩53000石「藤堂高兌」本家津藩を継ぐ⇒12月10日、弟「藤堂高邁」が継ぐ(⇒文政元(1818)年12月18日、隠居)
- 1806年11月22日 06:00|カタ| |||カタでフランス語新聞「ル・カタ・イアン」が創刊
- 1806年11月22日-09:00|日本|千葉県成田市|文化3年10月13日|<死去>下総高岡藩1万石「井上正紀」(37歳)⇒12月7日、三男「井上正瀧」が継ぐ(⇒天保12(1841)年11月24日、隠居)
- 1806年11月23日-02:00|ルーマニア/ロシア| |||<就任>モルダヴィアとワラキアのデュークのロシア議長「イワン・イワノヴィッチ・ミケルソン(ロシア軍司令官)」(~1807年)
- 1806年11月23日-02:00|ルーマニア/ロシア| |||モルダヴィアはロシアに占領される(~1812年11月)
- 1806年11月23日-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・クリスチアン「ウスケブ・リ・スレイマン・パシャ」(2度目~1807年)
- 1806年11月26日-09:00|日本|宮崎県延岡市|文化3年10月17日|<死去>日向延岡7万石「内藤政和」(20歳)⇒義弟「内藤政順」が継ぐ(⇒天保5(1834)年8月21日、39歳で死去)
- 1806年12月-05:00|ウズベキスタン/トルクメニスタン| |||<即位>ヒヴァ・ハン国イナク朝ハン「ムハンマド・ラヒム・バハドゥール」(~1825年死去)
- 1806年12月1日-09:00|日本|東京都墨田区|文化3年10月22日|<大相撲>文化3年10月場所[江戸本所回向院境内](10日間)優勝:(西大関)雷電, 9勝0敗1預
- 1806年12月9日-01:00|ドイツ| |||<死去>ザクセン＝コーブルク＝グーフェルト公「フランツ・フリードリヒ・アントン」
- 1806年12月9日-01:00|ドイツ| |||<即位>ザクセン＝コーブルク＝グーフェルト公「エルスト3世」フランツ・フリードリヒの息子(⇒18261112、ザクセン＝コーブルク＝グーフェルト公「エルスト1世」~18440129死去)
- 1806年12月9日-09:00|日本|東京都|文化3年10月30日|<死去>5代市川團十郎・3代松本幸四郎(66歳、1741年8月生)歌舞伎役者
- 1806年12月10日-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>シャキ汗国ハン「ジャファル・クリ・カーン」(~1814年12月)
- 1806年12月10日-09:00|日本|長崎県平戸市|文化3年11月|<交替>肥前平戸藩61700石「松浦清」隠居⇒三男「松浦熙」が継ぐ(⇒天保12(1841)年閏1月15日、隠居)
- 1806年12月11日-01:00|ドイツ| |||<加盟>ライン同盟:ザクセン王国
- 1806年12月11日-09:00|日本|埼玉県さいたま市岩槻区|文化3年11月2日|<死去>大岡忠喜(70歳)前武蔵岩槻藩主
- 1806年12月13日-01:00|セルビア| |||セルビアの反乱軍がオスマン帝国に抵抗してベオグラードを占領
- 1806年12月15日-02:00|ルーマニア| |||<就任>ワラキア総督・領主「コンスタンティン・イブ・シラント」(2回目~1807年8月/27日からロシア占領下)
- 1806年12月15日-01:00|ドイツ/フランス| |||<加盟>ライン同盟:ザクセン＝コーブルク公国、ザクセン＝グーフェルト公国、ザクセン＝ヒルトブルクハウゼン公国、ザクセン＝マイニンゲン公国、ザクセン＝ヴァイマル公国
- 1806年12月20日-01:00|ドイツ| |||<昇格>ザクセン選帝侯「フリードリヒ・アウグスト3世」⇒ザクセン王「フリードリヒ・アウグスト1世」(~18270505死去)
- 1806年12月22日-04:00|ロシア/トルコ| |||ロシア・トルコ戦争開始
- 1806年12月22日 08:00|日本|東京都中央区|文化3年11月13日|17時、葺屋町河岸(かつら師友九郎の家)より出火して、堺町、よし町、大坂町、甚左衛門町、難波町、蛸殻町迄焼くる(両座芝居焼くる)
- 1806年12月23日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン《ヴァイオリン協奏曲ニ長調Op. 61》ウィーンで初演
- 1806年12月27日-02:00|ルーマニア/ロシア| |||<就任>ワラキアのデュークのロシア副大統領(モルダヴィアの大統領に従属)「ミハイル・アントレーウ・イチ・ミロトヴィチ(ロシア軍司令官)」(~1807年9月)
- 1806年12月27日-02:00|ルーマニア/ロシア| |||ワラキアはロシアに占領される(~18121002)
- 1806年12月27日 05:00|ハイチ| |||ハチションの意を受けた第三憲法制定
- 1806年12月29日 00:00|イギリス| |||<死去>リッチモンド公・レノックス公・マーチ伯・ダーンリー伯「チャールズ・レノックス」
- 1806年12月29日 00:00|イギリス| |||<就任>リッチモンド公・レノックス公・マーチ伯・ダーンリー伯「チャールズ・レノックス」先代の甥(~18190828死去)
- 1806年12月31日 00:00|イギリス/アメリカ| |||アメリカがイギリスと通商条約締結、上院に提出されず
- 1807年-08:00|インド/ネパール| |||<即位>チルホン・ガマン君主「Sultan Anom6世 Muhammad Kamaruddin」(~1851年)
- 1807年-08:00|インド/ネパール| |||<即位>テルナテ・スルタン「Muhammad Ali」(~1821年~1824年死去)
- 1807年-08:00|ブルネイ| |||<即位>ブルネイ・スルタン「ムハンマド・カズル・アラム」(~1826年)
- 1807年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「バップ・チョータ」(~1808年)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>アジヤガール国ラジャ「ハフト・シン」(2回目~18370621)
- 1807年-05:30|インド/イギリス| |||<就任>イギリス軍コアラ守備隊総督「アレクサンダー・アダムズ」(~1811年3月)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>ガウル国統治者(サルダール・サウ)「ラジャ・ラム」(~1846年没)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>サウアンティイ国統治者(ラジャ・バハドゥール)「フォン・サウアン2世」(~1808年没)、摂政「ラニ・トウルガ・バハイ」(1回目~1808年)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>シエツワール国支配者(アサム・ウアラ)「ウイカム・シエツワ」(~1821年以降)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>シヤイトワール国ラジャ「ケスリ・シン」(~1812年没)

1810迄 (2641件)

- 1807年-05:30|インド| |||<就任>ダランプール国ラジャ「ウ」イジヤデウジ1世 (~1857年没)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>デソカール国ラジャ「クリシュナ・チャンドラ・マヘンドラ」 (~1822年没)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>ナイガワン=レバイ国統治者(クワール)「ラクシュマン・シン」 (~1808年没)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>バジヤナ国統治者(マレク)「スラーゼマル」
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>ヒハト国統治者(ティン)「アハルバル・シン」 (~不明) ⇒ 「ハンカット・ラオ」 (~1828年)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>ホハール太守「Nawab Ghaus Muhammad Khan」 (~1826年死去)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>マリ国統治者(タークル)「ラマハイ」 ⇒ 「ウ」アツインジ」 (~1870年没)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>ラティ国統治者(タクル・サーヒブ)「アマルシンジ・ラクハジ」 (~不明) ⇒ 「タツインジ・ラクハジ」 (~1878年没)
- 1807年-05:30|インド| |||<就任>ワトワン国統治者(タクル・サーヒブ)「シヤラムシムジ・フ」リテイラジ」 (~1827年没)
- 1807年-05:30|インド| |||ウアラ国、キラスラ国、セイラ国、チュダ国、バジヤナ国、マリ国、ラタール国はインド東シアール準管轄州の一部 (ほとんどがイギリス保護領 ~1948年8月)
- 1807年-05:30|インド/イギリス| |||ウアンカール国、コンダール国、サリラ国、ジヤイトフル国、ジュナーガト国、ドランガト国、ドール国、ハウナガル国、ナワガル国、パナリ国、パナリナ国、ハラウダ・ハタール・カチャル国、パナ国、ヒハト国、ホルバナダル国、モルガイ国、ラージコト国、リムティ国、ワトワン国はイギリス保護領
- 1807年-05:30|インド| |||ガウリル国がアジヤガルから分離 (イギリス保護領)
- 1807年-05:30|インド| |||コッタ・サンガニ国、サダラガト国、シエトフル国、シヤスタン国、マハタル国、マリア国はインド西シアール準管轄州の一部 (ほとんどはイギリスの保護領 ~1948年8月)
- 1807年-05:30|インド| |||コト・カアラ国はインドのパンジャブ州に編入された (~1846年)
- 1807年-05:00|ウズベキスタン| |||<即位>タシュケント支配者「Hamid Khwaja」 (~1808年)
- 1807年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>アフガニスタン対立大王(パトシャ)「カイザール・シャー」 (~1808年)
- 1807年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ナフチアン汗国ハン「アハス・クルリ・ハン」 (4度目 ~1808年)
- 1807年-04:00|アルメニア| |||<即位>エリヴァン汗国ハン「ホセイン・コリ・ハン・ガジャール」 (~1828年)
- 1807年-04:00|ロシア| |||ロシア暦11月6日|アナハはロシアに短期間再占領された
- 1807年-03:00|モロッコ| |||<死去>マレ・スルタン国スルタン「サリム」
- 1807年-03:00|モロッコ| |||<即位>マレ・スルタン国スルタン「スリ・ヒン・サリム」 (~1817年没)
- 1807年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>アレクコ・ワリス(総督)「Kataragasi Ibrahim Pasha」 (2期目 ~1808年)
- 1807年-02:00|モンペーグ| |||<就任>カンガ統治者(マンボ)「ニヤロ」 (~1828年)
- 1807年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Genc Kunj Yusuf Pasha」 (~1810年)
- 1807年-02:00|モンペーグ| |||<就任>マコ統治者(マンボ)「チンガ・ニヤゴンベ・イハコ」 (~1813年)
- 1807年-01:00|ベナン| |||<死去>アジヤチ・イェのフォン王国国王「フフォン」
- 1807年-01:00|スペイン| |||<死去>スペイン領セウラ総督「Francisco de Orta y Arcos」
- 1807年-01:00|セルビア/トルコ| |||<就任>オスマン帝国セルビア・ワリス「イブラヒム・ハシヤ」 (~1808年)
- 1807年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウラ総督「Ramon de Carvajal y Urrutia」 (~1808年)
- 1807年-01:00|ニジェール| |||<就任>マティ国統治者(サルキン・カウナ)「タン・カワ・ダ・アグワキ」建国 (~1830年)
- 1807年-01:00|ドイツ| |||<昇格>アンハルト・テッサ侯「Leopold3世」 ⇒ アンハルト・テッサ公 (~18170809死去)
- 1807年-01:00|ドイツ| |||<昇格>シャウムブルク=リッパ伯「カール・グイルヘルム」 ⇒ シャウムブルク=リッパ侯 (~18601121死去)
- 1807年-01:00|ベナン| |||<即位>アジヤチ・イェのフォン王国国王「アヨハン」 (~1816年没)
- 1807年-01:00|チャド| |||<即位>ハギルミ王国スルタン「Malam Ngarmaba Bira, Mbangi」 (2期目 ~同年) ⇒ 「Uthman Burkomanda3世 al-Kabir, Mbangi」 (3期目 ~1846年)
- 1807年-01:00|ドイツ/フランス| |||アラウシュウアイク=ウオルフェンビュッテル侯領がフランス帝国の衛星国であるヴェストファーレン王国に占領された
- 1807年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>コ・フランス首長「ハイ・フォーキ」 (~1817年)
- 1807年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>テム王国統治者(ハイ)「ハイ・フォーキ」 (~1817年)
- 1807年 04:00|モントセロ/イギリス| |||<死去>イギリス植民地モントセロ副総督「Henry Charles Selwyn」
- 1807年 04:00|セントクリストファー=ネイビス| |||<就任>ネイビス大統領「トマス・ジョン・コットル」 (~1817年)
- 1807年 06:00|カナダ/イギリス| |||<就任>イギリス領両カナダ総督「ジェームズ・ヘンリー・クレイク」卿 (~1811年)
- 1807年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニューメキシコ総督「Alberto Maynez」 (~1808年)
- 1807年 10:00|ホリネア| |||<死去>リマタラ統治者「Tamaeva1世」
- 1807年 10:00|ホリネア| |||<就任>リマタラ統治者「Tamaeva2世」 (~18651128死去)
- 1807年1月-01:00|セルビア| |||<就任>革命セルビア管理評議会会長「シマ・マルコウイッチ」 (~同月) ⇒ 「ムラテン・ミロウアナウイッチ」 (~1810年1月)
- 1807年1月 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>ホネル副司令官「Jean Francois du Briel」 (~18150527)
- 1807年1月 04:00|アルバ/イギリス| |||アルバ島はイギリスが占領 (~18160311)
- 1807年1月 04:00|BES諸島/イギリス| |||ホネルはイギリスが占領 (~18150527)
- 1807年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連合評議会議長「ハンス・フォン・ラインハルト」Con (1期目 ~12. 31)
- 1807年1月1日 04:00|キュラー/イギリス| |||<就任>キュラー知事「Charles Brisbane卿」 (1期目 ~9日)
- 1807年1月1日 04:00|キュラー/イギリス| |||キュラーをイギリスが占領 (~18160304)
- 1807年1月4日-01:00|フランス| |||ジヤック・ルイ・ダウイットの「ナポレオンの戴冠」が完成
- 1807年1月6日-09:00|日本|京都府京都市左京区|文化3年11月28日|鞍馬寺が炎土(その再建工事をめぐって長期紛争がおこる)

1810迄 (2641件)

- 1807年1月6日-09:00|日本|新潟県糸魚川市|文化3年11月28日|<交替>越後糸魚川藩1万石「松平直紹」隠居⇒長男「松平直益」が継ぐ(⇒文政9(1826)年9月14日、隠居)
- 1807年1月7日 00:00|イギリス/フランス| |||英、対仏経済封鎖
- 1807年1月9日 04:00|キューソー/イギリス| |||<就任>キューソー知事代理「William Henry Bolton」(~27日)
- 1807年1月10日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ミルトン伯「フリス・リーツ」
- 1807年1月10日 00:00|イギリス| |||<就任>4代ミルトン伯「ジョセフ・リーツ」(~18660131死去)
- 1807年1月17日-02:00|南アフリカ/イギリス| |||<就任>イギリス領ケープ植民地知事代行「ハリー・ジョージ・グレイ」(1回目~5. 21)
- 1807年1月19日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ共和国大統領代行「ブルノ・フランシェ長老(国務長官)」(~3. 10)
- 1807年1月24日-09:00|日本| ||文化3年12月16日|「藩翰譜」につづく、各大名の年譜「続藩翰譜」の編集が終わる
- 1807年1月27日 04:00|キューソー/イギリス| |||<就任>キューソー知事「Sir Charles Brisbane」(2期目~2. 28)
- 1807年1月28日 00:00|イギリス| |||英国、ロンドンに世界初ガス灯誕生
- 1807年2月-01:00|ドイツ| |||ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン、ピアノソナタ「熱情」出版
- 1807年2月1日-05:30|インド| |||<就任>プロトコックタイ国「ジャウ・グン・ヤ・ラク・ナ・ヤ・トン・タ・マン」(~18250604没)、摂政「ソイロ・ハ・ナイク」(1回目~1817年)
- 1807年2月3日 03:00|ウルクアイ/イギリス| |||<就任>イギリス軍モンテビデオ司令官「Samuel Auchmuty」(~5. 11)
- 1807年2月3日 03:00|ウルクアイ/イギリス| |||ジョン・コイトロック提督の率いる英艦隊がモンテビデオを占領(~9. 9)
- 1807年2月3日-09:00|日本|山口県岩国市|文化3年12月26日|<死去>周防岩国藩6万石「吉川経賢」(16歳)⇒翌年2月14日、養子「吉川経禮」が継ぐ(⇒天保7年11月26日(18370102)、死去)
- 1807年2月7日-09:00|日本|佐賀県鹿島市|文化4年|鹿島城築城
- 1807年2月7日-09:00|日本| ||文化4年1月|<刊行>曲亭馬琴(画:葛飾北斎)「鎮西八郎為朝外伝/椿説弓張月」前編
- 1807年2月7日-09:00|日本| ||文化4年1月|<刊行>山東京伝(歌川豊国画)「於六櫛木曾仇討」
- 1807年2月7日-09:00|日本| ||文化4年1月|<出版>盈齋北岱「袖玉狂歌集」
- 1807年2月7日-09:00|日本| ||文化4年1月|<出版>勝川春英「絵本勇壮義経」
- 1807年2月7日-09:00|日本| ||文化4年1月|<出版>竹原春泉齋「遊女大学草草」
- 1807年2月7日-09:00|日本| ||文化4年1月|<出版>烏居清長・歌川豊国・勝川春好・菱川宗理・柳々居辰斎・葛飾北斎等「追善数珠親玉」
- 1807年2月7日-08:00|中国| ||清・嘉慶12年1月|四川綏定、陝西西郷で新兵の反乱
- 1807年2月8日-01:00|ドイツ/ロシア/フランス| |||7日からの東プロシヤのアイラウでのフランス軍とロシア軍の戦いでフランス軍が勝利
- 1807年2月10日 03:00|アルゼンチン/ボリビア/パラグアイ/ウルクアイ/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督代行「サンティアゴ・アントニオ・マリア・デ・リエイ・ブルモン」(~18090630)
- 1807年2月11日-08:00|ブルネイ| |||<即位>ブルネイ・スルタン「ムハンマド・ハズル・アラム」(1804年11月~18070211、摂政/~1822年5月)
- 1807年2月17日-01:00|フランス| |||エフニス・ミュル(44)の歌劇「ジョセフ」がパリで上演
- 1807年2月17日 05:00|ハイチ| |||<就任>ハイチ国陸海軍大元帥兼大統領「アンリ・クリストフ」(⇒18110328、国王)
- 1807年2月17日 05:00|ハイチ| |||アンリ・クリストフ、ムラト支配に対し反乱。ボルト・フランスを攻撃するが、火力を誇るムラト軍の前に敗退/アルティボネ河の北岸に退き、「ハイチ国」成立を宣言/カプ・フランソアを首都とし北部に支配を確立(~18110328)
- 1807年2月17日-09:00|日本|愛媛県松山市|文化4年1月11日|松山藩領越智郡岡村の農家113軒を焼失
- 1807年2月22日-05:30|インド| |||<就任>第7代インドル太守「ヤシュwant・ラーオ・ホルカル1世」(~18111027死去)
- 1807年2月28日 04:00|キューソー/イギリス| |||<就任>キューソー知事「David Baillie」(~7. 10)
- 1807年3月-01:00|ドイツ| |||<初演>ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン《交響曲第4番変ロ長調》《序曲「コリアン」》
- 1807年3月2日 06:00|アメリカ| |||アメリカ連邦議会、国際奴隷貿易への米国人の参加を禁止する法律を制定(翌年1月発効)
- 1807年3月2日-09:00|日本| ||文化4年1月24日|<死去>馬詰親音(60歳)土佐藩士、歌人
- 1807年3月5日 03:00|ウルクアイ/イギリス| |||<就任>サクラメント新植民地イギリス軍司令官「Denis Pack」(~6. 26)
- 1807年3月5日 03:00|ウルクアイ/イギリス| |||サクラメントの新植民地をイギリスが占領(~6. 26)
- 1807年3月6日 05:00|エクアドル/スペイン| |||<就任>スペイン領北総督・総司令官・大審問院長代行「デ・イゴ・アントニオ・ニト」(~10. 5)
- 1807年3月7日-02:00|ルーマニア| |||<就任>モルダヴィア総督「アレクサンドル・ハンゲリ」(着任せず~7. 24)
- 1807年3月13日-01:00|デンマーク| |||<死去>シュレースヴィヒ公「クリスチャン7世」
- 1807年3月13日-01:00|デンマーク| |||<就任>シュレースヴィヒ公「フレデリク6世」(~18391203死去)
- 1807年3月20日-02:00|エジプト/イギリス| |||アレクサンダー率いるイギリス軍がアレクサンドリアを占領(~9. 23)
- 1807年3月22日 04:00|米領ガージン諸島/デンマーク| |||<死去>セントクロア総督「Balthazar Frederik von Muhlenfels」
- 1807年3月22日 04:00|米領ガージン諸島/デンマーク| |||<就任>セントクロア総督「Hans Christopher Lillienkjold」(~12. 21)
- 1807年3月23日 00:00|イギリス| |||イギリス議会在奴隷貿易廃止を決議し、正式に法制化
- 1807年3月23日-09:00|日本|東京都台東区|文化4年2月15日|<大相撲>文化4年2月場所[江戸浅草八幡宮](10日間)優勝:(西大関)雷電, 8勝0敗1預1休
- 1807年3月24日 00:00|イギリス| |||イギリスのゲレグ・イル卿率いる一致内閣が総辞職
- 1807年3月25日 00:00|イギリス| |||イギリス帝国内の奴隷貿易禁止
- 1807年3月26日 06:00|アメリカ| |||<発足>アメリカ、オリズ準州設置

1810迄 (2641件)

- 1807年3月29日-01:00|アンゴラ/ポルトガル |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「アントニオ・デ・サルダニャ・ダ・ガマ」(~18100707)
- 1807年3月29日-01:00|ドイツ |||ドイツレーマンでハインリッヒ・オルバースが2個目の小惑星「ベスタ」発見
- 1807年3月30日 00:00|フェロー諸島/イギリス |||HMSクリオのイギリス人乗組員はトスハウンに入り、スカンジの砦を短期間占領
- 1807年3月30日-09:00|日本|北海道|文化4年2月22日|江戸幕府、西蝦夷地も直轄に
- 1807年3月31日 00:00|イギリス |||<就任>イギリス連合王国第20代首相「第3代ポートランド公爵ウィリアム・キャウエンデ」イッシュベントインクトリー党 (2期目~18091004)
- 1807年4月 00:00|セネガル |||<就任>フタ・トロ統治者統治者(アルマミ)「ハマド・ラミン・ハール」(2回目~1808年)
- 1807年4月1日-01:00|サンマリノ |||<就任>サンマリノ共和国執政「アントニオ・オノリ」「マリノ・フランチェスコニ」
- 1807年4月3日 00:00|イギリス |||<死去>初代カトガン伯「チャールズ・スローン・カトガン」
- 1807年4月3日 00:00|イギリス |||<就任>2代カトガン伯「チャールズ・ヘンリー・スローン・カトガン」(~18321223死去)
- 1807年4月7日 00:00|イギリス |||<就任>初代ロンドン伯「ウィリアム・ラウザー」(~18440319死去)
- 1807年4月14日-08:00|インドネシア/東ティモール/ポルトガル |||<就任>ティモール知事「アントニオ・デ・メンドンサ・コルテ・レアル」(~18100414)
- 1807年4月15日 00:00|カナダ/デンマーク |||<就任>デンマーク領グリーンランド=コースト総督「クリスチャン・シーニング」(~18170301没)
- 1807年4月16日-09:00|日本|東京都港区|文化4年3月9日|<死去>戯作者、南仙笑楚満人
- 1807年4月18日-01:00|ドイツ/フランス |||<加盟>ライン同盟:アンハルト=デッサウ公国、アンハルト=ベルンブルク公国、アンハルト=ケーテン公国、リッパ=デトモルト侯国、ロイス=エーベルスドルフ侯国、ロイス=グライツ侯国、ロイス=ローベンスシュタイン侯国、ロイス=シュライツ侯国、シャウムブルク=リッパ侯国、シュヴァルツブルク=ルードルシュタット侯国、シュヴァルツブルク=ゾントースハウゼン侯国、ヴァルデック侯国
- 1807年4月19日 00:00|アイルランド/イギリス |||<就任>アイルランド 副卿「リッチモンド公チャールズ・レノックス」(~18130826)
- 1807年4月19日-09:00|日本|福島県伊達市|文化4年3月12日|<移封>蝦夷松前藩1万石「松前章広」⇒陸奥国梁川藩9000石(実高18000石余)(⇒文政4(1821)年12月4日、松前氏は旧領松前に復した)
- 1807年4月20日 03:00|日本|京都府福知山市|文化4年3月13日|<丹波福知山文化4年の大火「五兵衛焼」>午の刻(正午ごろ)上紺屋町の紺屋五兵衛方から出火し、被害を受けた地域は由良川をはさんで、城下の8割方と中村、池部村の2か村に及んだ/城下では、町屋敷約800軒と5か寺、裏ノ町、中ノ町の藩士屋敷8軒に類焼、下船渡口と職人町口の御番所2か所、菱屋町の本陣・吉田三右衛門宅も焼失/城下町のほとんどを焼き尽くした炎は、衰えることなく火の粉を風にまかせて由良川を越え中村に飛び火し、77軒の農家と庵我神社の社殿と宝物すべてを焼き尽くし、さらに池部村へと飛び火、同村の120軒と研珠山観音寺が焼失
- 1807年4月23日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス |||<就任>トバゴ 総司令官 総督「ウィリアム・ヤング 卿」(~18150110)
- 1807年4月26日-01:00|ドイツ |||<就任>プロシヤ王国首相「カール・アウグスト・フォン・ハルデンベルク」(~7. 14)
- 1807年4月28日-01:00|ドイツ |||<死去>シュヴァルツブルク=ルードルシュタット侯「ルートヴィヒ・フリードリヒ2世」
- 1807年4月28日-01:00|ドイツ |||<就任>シュヴァルツブルク=ルードルシュタット侯「フリードリヒ・ギユンター」(~18670628死去)
- 1807年4月29日-09:00|日本|北海道|文化4年3月22日|幕府、松前・西蝦夷地一円を召上げ、新規9000石を下付する旨を松前章広に申渡す(これにより松前・蝦夷地全域が幕府直轄領となる)
- 1807年4月30日-09:00|日本|島根県浜田市|文化4年3月23日|<死去>石見浜田藩6万石「松平康定」(61歳)⇒婿養子「松平康任」が継ぐ(⇒天保6(1835)年12月9日、強制隠居)
- 1807年5月1日-09:00|日本 |||文化4年3月24日|<死去>土方稻嶺(67歳) 絵師
- 1807年5月4日-03:30|イラン/フランス |||ペルシャが、フランスとフィンクシュタイン条約を締結
- 1807年5月11日 03:00|ウグアイ/イギリス |||<就任>イギリス軍モンテデオ司令官「John White Locke」(~9. 9)
- 1807年5月15日 06:00|日本|山形県酒田市|文化4年4月8日|<出羽庄内文化4年の大火「蓮台火事」>八時半時(15時ごろ)、七軒町にある蓮台院の書寮と本堂の縁の下の2か所より出火、古川小路の突き当たりから炎が吹き出し、西の方南町は両側が残らず灰となった/その後一日市町に延焼、広濟寺に飛び火して焼け落とした/七日町表町も裏町も残らず焼失、新地は半分が焼けた/その後、炎は元曲師町へ延び百間堀端の上肴町、稲荷小路と次々と犠牲にし、七日町大橋は水際の乱杭まで焼けた/白銀町五軒坂の上鍛冶町は半分焼け、新町は大川まで残らず焼失、大工町は3軒焼けた/家中新町は残らず焼けた上、伊予様小路、お経堂小路、大山新道の町並みも残らず灰となった/御用屋敷から八ツ興屋、金注蓮も残らなかった/斎藤興屋村では4軒焼けたが火勢は衰え鎮火/侍屋敷60軒、給人屋敷115軒、町家585軒、土蔵57棟、寺院17か所が焼失/そのほかに脇寮9、経蔵、鐘楼などが焼け、木戸番所11軒、堂社12、勤番小屋、雑小屋、町内の木戸棚、馬寄せ柵など締めて家屋千軒余が焼失
- 1807年5月17日-01:00|バチカン/フランス |||教皇領がナポレオンによって併合
- 1807年5月22日-02:00|南アフリカ/イギリス |||<就任>イギリス領ケープ植民地知事「カトーン伯爵デュー・フレアレクサンダー」(~18110704)
- 1807年5月25日-02:00|トルコ |||オスマン朝のスルタンのセリム3世(46)の進めてきた西欧式軍隊への改造に反対する保守派がイスタンブールで反乱を起こす
- 1807年5月29日-02:00|トルコ |||<即位>オスマン帝国第29代スルタン「ムスタファ4世」先代の従弟、27代アブデュルハミト1世の子(~18080728廃位~18081117マフムト2世により殺害される)
- 1807年5月29日-02:00|トルコ |||<廃位>オスマン帝国第28代スルタン「セリム3世」(~18080728ムスタファ4世により暗殺)
- 1807年5月29日-09:00|日本|栃木県大田原市|文化4年4月22日|<死去>大関増輔(48歳) 前下野黒羽藩主
- 1807年5月30日-05:30|インド/ポルトガル |||<就任>ポルトガル領インド 総督「サルセダス伯爵ペルナルト・ホセ・ダ・シルヴェイラ・エ・ロレーナ」(~18161129)
- 1807年5月30日-09:00|日本/ロシア|北海道|文化4年4月23日|<文化露寇>ワグオストワラ、前年ガフトのクシヨクワで捕縛の番人4人を連行して露米商会のフリゲート艦イイ号(艦長ワグオストワ)・スループ艦アウツ号(艦長ダウイトワ)でエトワ島ナボに来る。番屋などを襲い、番小屋・倉庫を焼き、米・塩・衣類・諸道具を略奪

1810迄(2641件)

- 1807年5月30日 06:00|日本|広島県広島市|文化4年4月23日|広島白神六丁目出火,侍屋敷9軒,扶持人家6軒,寺2,社1,蔵9,町家143軒,(339竈)焼失
- 1807年6月-02:00|ルマニア/ロシア| |||<就任>モルダヴィアとワラキアのデヴィアンのロシア議長「セルゲイ・ラザレフ・イチ・ラシュカレフ」(~12月)
- 1807年6月 03:00|アルゼンチン/イギリス| |||モンテビデオの英艦隊,一万一千の兵力でブエノスアイレス攻略
- 1807年6月4日-09:00|日本|愛媛県宇和島市|文化4年4月28日|宇和島藩が,宇和郡近家塩田で製塩を開始
- 1807年6月5日-09:00|日本/ロシア|北海道|文化4年4月29日|<文化露寇>ウオストラエロク島ヲヤを襲う.会所,盛岡・津軽両陣屋などに火を放ち,略奪をつくり,負傷していた盛岡藩の火業師大村治五平を捕える
- 1807年6月9日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||<即位>ワルシャワ公「フレデリック・オウガスト1世」ザクセン王「フリードリッヒ・オウガスト1世」(~18150522)
- 1807年6月10日-01:00|ロシア/フランス| |||フランスによりダルマチアが占領され,ポルチカ公国がフランスによって廃止された
- 1807年6月14日-01:00|ポーランド/ロシア/フランス| |||ナポレオン軍が東プロシエンのフリータットの戦いでロシア軍を破る
- 1807年6月18日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「チェレビ・ムスタファ・パシャ」(~18080728)
- 1807年6月21日-01:00|フランス/ドイツ/ロシア| |||フランス,ロシア,プロシエン3か国の間で休戦協定締結
- 1807年6月22日 06:00|アメリカ/イギリス| |||アメリカの軍艦「チェサピーク」号が,イギリス海軍の砲撃を受け鹵獲される.乗組員4人が処刑
- 1807年6月26日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サクラメント新植民地スペイン軍司令官「Jose Gervasio Artigas」(1期目~8月)
- 1807年6月26日-04:00|ロシア/日本| ||文化4年5月21日|ロシア人が樺太大泊を再度侵す
- 1807年6月30日-09:00|日本|兵庫県赤穂市|文化4年5月25日|<死去>播磨赤穂藩2万石「森忠哲」(20歳)⇒弟「森忠敬」が継ぐ(⇒文政7(1824)年6月8日,死去)
- 1807年7月-01:00|ドイツ/フランス/ロシア| |||東プロシエン公国,男爵領クニッハウゼン,およびハウプトリンクシャフト「イーバー」がプロシエンとロシアによってそれぞれフランスに譲渡
- 1807年7月1日-08:00|フィリピン| |||フィリピンのイロコス地方で地酒禁止に抗議し反乱
- 1807年7月5日-01:00|スペイン/アルゼンチン| |||スペインはソブレモンテに代えリエを副王に任命
- 1807年7月5日 00:00|イギリス/アルゼンチン/ウルグアイ| |||リエのブエノスアイレス市民軍,市街戦ののちイギリス艦隊駆逐に成功/イギリスをモンテビデオからも撤退させる
- 1807年7月6日-09:00|日本/ロシア|北海道利尻郡利尻町|文化4年6月2日|(29日~)ロシア船,リリ島の船の積荷を略奪・焼却するなど乱暴・狼藉
- 1807年7月7日-01:00|モンテネグロ/ロシア/フランス| |||カッタはティルジット条約によりロシアからフランスに割譲された
- 1807年7月7日-02:00|リトアニア/フランス/ロシア| |||ロシア暦6月25日|フランスとロシアの間にティルジット講和条約が結ばれる
- 1807年7月8日-05:30|インド| |||アジャイカール国はイギリス保護領となる
- 1807年7月8日-01:00|ドイツ| |||<即位>ウエストファーレン王「ジエロム・ボナパルト」23歳.ナポレオンの弟(~18131026)
- 1807年7月9日-02:00|リトアニア/フランス/ドイツ| |||フランスとプロシエンの間にティルジット条約が結ばれエルバ以西の領土は全て失われ領土と人口は約半分になった
- 1807年7月10日 04:00|キューソー/イギリス| |||<就任>キューソー知事「Sir Charles Brisbane」(3期目~9.3)
- 1807年7月13日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督代理「ウィリアム・レーン」(~18080704)
- 1807年7月20日-02:00|ギリシャ/ロシア/フランス| |||ティルジット条約によりイオニア諸島はロシアからフランスに割譲
- 1807年7月20日 04:00|セントルシア/イギリス| |||<就任>イギリス領セントルシア総督「アレクサンダー・ウッド」(~18140510)
- 1807年7月22日-01:00|ポーランド/ドイツ| |||ナポレオンがワルシャワ公国創設<即位>ワルシャワ公「フレデリック・オウガスト1世」[ザクセン王](~18150522)18270505死去
- 1807年7月22日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト大統領「ジョン・ピーター・ホーゲンブーム」(~18080811没)
- 1807年7月30日-03:00|エチオピア| |||<即位>シエラ王「ウエルテ・ギヨルギス・テト・ロ」(~18130607没)
- 1807年7月30日-09:00|日本|兵庫県豊岡市|文化4年6月25日|幕府の儒官,柴野栗山が「玄武洞」を命名
- 1807年7月31日-05:30|インド/イギリス| |||<就任>イギリス領ベンガル総督(イギリス東インド会社)「ミント男爵ギルバート・エリオット=マレー=キンマウンド」(~18131004摂政皇太子ジョージの圧力で解任)
- 1807年8月 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>サクラメント新植民地スペイン軍司令官「Ramon del Pino」(2期目~1811年)
- 1807年8月1日 04:00|アンティグア・バブーダ/イギリス| |||<就任>リワード・カリブ諸島総司令官・総督「ウィリアム・ウッドリー」(~18090315)
- 1807年8月4日-02:00|ルマニア| |||<復位>モルダヴィア公「スカーラツ・カリキ」(2期目~18100613ロシアにより廃位)
- 1807年8月4日-09:00|日本|東京都|文化4年7月|<出版>歌川国政「大谷徳治の死絵」
- 1807年8月5日 00:00|ポルトガル| |||<就任>マデイラ総督「Pedro Fagundes Bacellar Antas e Meneses」(~18130810死去)
- 1807年8月12日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|文化4年7月9日|<死去>因幡鳥取藩32万石「池田齊邦」(21歳)⇒弟「池田齊稷」が継ぐ(⇒文政13(1830)年5月2日,死去)
- 1807年8月21日 06:00|アメリカ| |||ロバート・フルトンの蒸気機関船「ケイト」号がハドソン川の遡上に成功
- 1807年8月23日-09:30|オーストラリア| |||最初のトライクリーニング始まる
- 1807年8月28日-01:00|ドイツ| |||<解任>ヘッセン選帝侯「ウイヘルム1世」ヘッセン選帝侯領はウエストファーレン王国に併合(~18210227死去77歳)
- 1807年8月28日-01:00|ドイツ| |||<退任>ヘッセン=フィリップスタール=バルヒェルト方伯「カール」ウエストファーレン王国に併合
- 1807年8月28日-01:00|ドイツ| |||<退任>ヘッセン=フィリップスタール方伯「ウイヘルム」ウエストファーレン王国に併合
- 1807年8月28日-01:00|ドイツ| |||<退任>ヘッセン=ローテンブルク方伯「カール・エマヌエル」ウエストファーレン王国に併合

1810迄 (2641件)

- 1807年8月28日-01:00|フランス| |||フランスで、商法典が公布
1807年8月28日-09:00|日本| ||文化4年7月25日|<死去>2代並木正三(不明)歌舞伎作者
1807年8月30日-09:00|日本|福島県|文化4年7月27日|松前章広、陸奥国伊達郡梁川に移封となる。所領9000石(実高1万8600石)を賜る
1807年8月31日-02:00|ギリシャ/フランス| |||セブチンシュレー州がフランスの統治を受け入れる
1807年9月-02:00|ルーマニア/ロシア| |||<就任>ワキアのデヴィアンのロシア副大統領(モルダヴィアの大統領に從属)「クニャース・アレクサンドル・アレクサンドロヴィチ・プロコフスキー」(~18090809)
1807年9月1日-01:00|ルウェー| |||<就任>ルウェー総督「アウグステンボ-皇子クリスチャン・アウグスト・フォン・シュリュージヒ=ホルシュタイン=ゾントブルク=アウグステンブルク」(~18101111、18090725まで暫定政府委員会議長)
1807年9月2日-01:00|デンマーク/フランス/イギリス| |||イギリスはフランスにコペンハーゲンの海戦で勝利/コペンハーゲンがイギリス軍に占領される
1807年9月2日-09:00|日本| ||文化4年8月|<出版>岡田玉山「百人一首図絵」
1807年9月3日 04:00|キューバ/イギリス| |||<就任>キューバ知事代理「Micaiah Malbon」(~同年)⇒知事「Sir Charles Brisbane」(4期目~1808年)
1807年9月5日-01:00|ドイツ/イギリス| |||ヘルゴラントをイギリスが占領
1807年9月5日 00:00|イギリス| |||<死去>5代スカールラ伯「ジョージ・オーガスタス・ラムリー=サンダーソン」
1807年9月5日 00:00|イギリス| |||<就任>6代スカールラ伯「リチャード・ラムリー=サンダーソン」(~18320617死去)
1807年9月6日-09:00|日本|奈良県奈良市|文化4年8月5日|<交替>大和柳生藩1万石「柳生俊則」隠居⇒養子「柳生俊豊」が継ぐ(⇒文政3(1820)年9月17日、31歳で死去)
1807年9月9日-01:00|イタリア| |||イタリアの天文学者ジョヴァンニが彗星C/1807R1(1807年の大彗星)発見
1807年9月9日 03:00|ウルグアイ/スペイン| |||<就任>モンテビデオ総督「Francisco Javier de Elío」(1期目~1810.4)
1807年9月12日 00:00|セネガル/フランス| |||<就任>フランス領セネガル総督「ピエール・レヴァッサー」(~18090713)
1807年9月13日-02:00|ギリシャ/フランス| |||イオニア諸島をフランスに併合
1807年9月13日-01:00|ドイツ| |||<初演>ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン《ミサ曲ハ長調》
1807年9月14日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<死去>イギリス王領ジャージー-島知事「George Townshend」
1807年9月14日 00:00|イギリス| |||<死去>タウンゼント侯「ジョージ・タウンゼント」
1807年9月14日 00:00|イギリス| |||<就任>タウンゼント侯「ジョージ・タウンゼント」ルスター伯(~18110727死去)
1807年9月20日 01:00|日本|東京都|文化4年8月19日|<永代橋崩落事故>巳刻(午前10時頃)富岡八幡祭の人出で永代橋が大群衆の重さに耐えきれず橋中央部やや東側の橋板が32mほど崩壊、橋の上の群衆は大雨で増水した水中に落ち、橋下を漕ぎ抜けようとした数隻の屋形船の上にも落ち、舟は転覆、死者を増やした/死亡者(遺体が引き揚げられた人)736人、川に流された行方不明者を入れれば1500人余が犠牲になった
1807年9月21日-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのベイ及びビリス「ユフ・ジヤディン・パシャ」(~1808年)
1807年9月28日-09:00|日本|大分県大分市|文化4年8月27日|<死去>豊後府内藩22200石「松平近義」(38歳)⇒甥「松平近訓」が継ぐ(⇒天保2(1831)年2月24日、隠居)
1807年10月1日-01:00|サマリヤ| |||<就任>サマリヤ共和国執政「カミッロ・ボネリ」「リビオ・ガザ-リ」
1807年10月3日-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「ハインリヒ・フリードリヒ・フォン・シュタイン」(~18081124)
1807年10月5日 05:00|エクトル/スペイン| |||<就任>スペイン領トリス暫定総督・総司令官・大審問院長「アントニオ・アレス・ロドリガステ・イバル・マゴン」(~18080801)
1807年10月9日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<死去>スペイン領ベネチア総督兼総司令官「Manuel de Guevara y Vasconcelos」
1807年10月9日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督兼総司令官代理「Juan de Casas y Barrera」(~18090519)
1807年10月11日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化4年9月10日|<初演>人形浄瑠璃「八陣守護城」[合作・中村魚眼ほか]大坂大西
1807年10月14日 00:00|チャンネル諸島/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャージー-島知事「John Pitt」(~18210206)
1807年10月19日-09:00|日本| ||文化4年9月18日|幕府が、絵入読本改掛名主を設置
1807年10月27日-01:00|フランス/ポルトガル/スペイン| |||西仏間で、ポルトガルの分割占領を決めたフォンテーヌブロー条約締結
1807年10月29日-01:00|デンマーク/フランス/イギリス| |||デンマークが、イギリスに対抗ためフランスと同盟
1807年10月31日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント総督代行「ロバート・ポール」(2度目)⇒「ジョージ・ベックウイス卿」(3度目~18081113)
1807年11月 04:00|ケレタダ/イギリス| |||<就任>ケレタダ総督代行「ジョン・ハーヴェイ」(1回目~18080101)
1807年11月2日-09:00|日本| ||文化4年10月3日|<死去>2代鶴沢友次郎(不明)浄瑠璃三味線方
1807年11月7日-04:00|ロシア/イギリス| |||ロシア暦10月26日|フランスと攻守同盟を結んだロシアが、イギリスと国交を断絶
1807年11月9日-09:00|日本| ||文化4年10月10日|<死去>川上不自(92歳)茶人
1807年11月11日-01:00|ドイツ/オランダ| |||エムスリエンタルが東フリースラント県としてオランダ王国に編入
1807年11月11日 00:00|イギリス| |||イギリス、中立国と同盟国がフランスと自由に交易を行うのを枢密院令で禁止
1807年11月11日-09:00|日本|千葉県香取市|文化4年10月12日|<死去>内田正良(78歳)前下総小見川藩主
1807年11月13日 00:00|ポルトガル/フランス| |||ナポレオンが、ポルトガルのブラガンサ王家の廃絶を宣言/ポルトガル独立戦争開始
1807年11月14日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>ウクライナのロシア総督「Andrey Mikhaylovich Borozdin」(~18160801)
1807年11月14日 00:00|イギリス| |||<死去>初代グレイ伯「チャールズ・グレイ」
1807年11月14日 00:00|イギリス| |||<就任>2代グレイ伯「チャールズ・グレイ」先代の長男(~18450717死去)

1810迄 (2641件)

- 1807年11月15日-01:00|ドイッ/フランス| |||<加盟>ライン同盟:グェストファーレン王国
1807年11月15日-01:00|オーストリア/ドイッ| |||オーストリア・ウィーンのブルシ劇場の慈善演奏会でベートーヴェンの指揮で「交響曲第4番」公開初演
1807年11月15日-09:00|日本|東京都|文化4年10月16日|<死去>近藤内蔵助(不明)剣術家、天然理心流の祖
1807年11月15日-09:00|日本|福岡県朝倉市|文化4年10月16日|<死去>筑前秋月藩5万石「黒田長舒」(43歳)⇒翌年4月9日、次男「黒田長韶」が継ぐ(⇒文政13(1830)年10月6日、隠居)
1807年11月23日-01:00|フランス/ルクセンブルグ| |||(22日~)ガルスランがパリからクワゼン(ルクセンブルグの一部)の395kmを飛行
1807年11月23日-09:00|日本|北海道|文化4年10月24日|幕府が箱館奉行を廃し松前奉行を設置
1807年11月26日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル首相代理「フェイロ伯シゲル・ペレイラ・フォージ・コウティンホ・バレット・デ・サ・エ・レゼ」(~18080920)
1807年11月29日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||ポルトガル女王マリア1世らポルトガル王室一行がリスボン港を脱出してブラジルに亡命(1808年から1821年までポル・デ・ジヤネロを首都とする)
1807年11月29日-09:00|日本| |||文化4年11月|羽太正養「休明光記」を著す
1807年11月30日 00:00|ポルトガル/フランス| |||<就任>フランスのポルトガル司令官「ジャン=アントン・フェリックス・ド・アラントス公」(~18080915)
1807年11月30日 00:00|ポルトガル/フランス/スペイン| |||ジュネー将軍率いるフランス・スペイン連合軍が首都リスボンを占領
1807年12月-05:30|インド| |||<就任>ダール国ラジャラムチャンドラ・ラオ1世「アル」(~1810年没)、摂政「マハ・バ・イ・ラジ・エ・フ・アル」(1回目~1810年)
1807年12月-01:00|イタリア/フランス| |||エトリア王国はフォンテーヌブロー条約により廃止されフランス帝国に併合
1807年12月1日-09:00|日本|鳥取県鳥取市|文化4年11月3日|<死去>鳥取西館新田藩2万石「池田定興」(17歳)⇒翌年2月4日、弟「池田定保」が継ぐ(⇒弘化4(1847)年7月17日、死去)
1807年12月2日-09:00|日本| |||文化4年11月4日|<死去>初代杵屋佐吉(不明)長唄三味線方
1807年12月3日-09:00|日本|福井県大野市|文化4年11月5日|<死去>土井利貞(67歳)前越前大野藩主
1807年12月6日-09:00|日本|茨城県笠間市|文化4年11月8日|<死去>常陸穴戸藩1万石「松平頼敬」(21歳)⇒養子「松平頼かた」が継ぐ(⇒天保10(1839)年5月17日、死去)
1807年12月9日-09:00|日本|千葉県香取市|文化4年11月11日|<死去>下総小見川藩1万石「内田正良」⇒長男「内田正純」が継ぐ(⇒文化3(1806)年10月6日、隠居)
1807年12月10日-01:00|イタリア| |||<即位>エトリア王・トスカナ大公「エリザ・ホナ」ポルト女王(後にトスカナがフランスに併合されると女大公) (~18140427)
1807年12月10日-09:00|日本|東京都墨田区|文化4年11月12日|<大相撲>文化4年11月場所[江戸本所回向院](10日間)優勝:(西大関)雷電、8勝0敗1預1無勝負
1807年12月13日 05:00|ハイチ/スペイン| |||サント・ミンゴがスペインに返還される
1807年12月16日-01:00|イタリア| |||<初演>ガスパール・ルジ・パチフィコ・スポンティエニ《歌劇「グェスタの巫女」》
1807年12月17日-01:00|フランス/イタリア/イギリス| |||ナポレオンが、イギリスとの交易を禁じる第2次ミラノ勅令を発令
1807年12月21日 04:00|米領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>セント・マス島・セントジョン島総督「Sir Fitzroy J. Grafton Maclean」(~18150415)
1807年12月21日 04:00|米領ヴァージン諸島/イギリス| |||セント・マス島・セントジョン島・セントクロアをイギリスが占領(~18151120)
1807年12月22日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、ジェファソン大統領、最初の出港禁止法に署名
1807年12月23日-08:00|インドネシア/イギリス| |||<死去>ペンケレン居住者代表「トマス・Parr」
1807年12月25日 04:00|米領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>セントクロア総督「Henry Bowyer」(~18080826死去)
1807年12月26日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||<就任>マティラ総督「William Carr Beresford」イギリス(~18080817)
1807年12月26日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||マティラをイギリスが占領(~18141003)
1807年12月28日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官「暫定行政:オバ・司教ガ・アスコ・ホ・ダ・ホナ・モルテ・ホ・アゴ・ステイニョ・ベルナルド・デルガト・ピント(18090316没)/ホ・アントニオ・デ・アラウジョ・エ・リマ(1809062から)/エリアス・ホ・ペレイラ・ラモス」(~18090814)
1807年12月29日-09:00|日本|東京都|文化4年12月1日|<死去>柴野栗山(72歳)儒学者、寛政の三博士の一人
1807年12月30日-05:30|インド| |||<就任>ポルトガル国支配者(ナワブ)「ガウス・モハマト・カン」(~18260828没)、摂政「ワジール・アル・モルク・ワジール・モハマト・カン」(~18160316)
1808年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>アンボン島オランダ王国総督「C. Eugenius von Jelt」(~1809.3)
1808年-08:00|マレーシア| |||<就任>スグリ・スピラン統治者(ヤン・デ・イ・ペルトウアン・ベ・サル)「ヤムトウアン・ラジヤ・レンガ・ン・ラウト」(~1824年没)
1808年-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ペンケレン居住者代表「Richard Parry」(~1810年)
1808年-08:00|インドネシア| |||<即位>ジャイロ・スルタン「Muhammad Asgar」(~1818年)
1808年-08:00|フィリピン| |||<即位>スール王国スルタン「Shakirullah bin Sultan ムハマト・Sharafuddin」(~1823年死去)
1808年-08:00|インドネシア| |||<即位>チボン・チレボナン君主「Sultan Cirebon4世」(~1810年~1814年死去)
1808年-08:00|インドネシア| |||<即位>パンテン王国スルタン「Caretaker Sultan Wakil Pangeran Suramenggalala」(~1809年)
1808年-08:00|マレーシア| |||<即位>パタニ王国国王「ナイ・クワンサイ(タイ族)」(~1815年)
1808年-07:00|タイ| |||<就任>パタニ・シャム知事「ナイ・クワンサイ」(~1815年)
1808年-05:30|インド| |||<就任>アッサム国ラジャ「スクリンファ・カマレシウ・アラシハ」(~1811年没)
1808年-05:30|インド| |||<就任>ウイグル・トルコ統治者(カコル)「スラジ1世」(~1813年)
1808年-05:30|インド| |||<就任>キラスラ国統治者(ターケル)「ハティジ・ランマルジ」(~不明)⇒「トウカルジ・ハティジ」(~不明)⇒「シ

1810迄 (2641件)

「ジバイト・ウガルジ」(~1872年)

- 1808年-05:30|インド| |||<就任>サウアンティイ国統治者(ラジヤ・バートウル)「フォン・サウアン3世」(~18121003没)
- 1808年-05:30|インド| |||<就任>サンガル国ラジャ「スハトラ・サイ」(~1815年没)
- 1808年-05:30|インド| |||<就任>タンガルーポル国統治者(マハラ)「シヤシュワント・シン2世」(~18461219没)
- 1808年-05:30|インド| |||<就任>チャンパ国ラジャ「チャルハット・シン」(~1844年没)、摂政「ラニ・サタ・サヒバ」(~1821年)
- 1808年-05:30|インド| |||<就任>ナイガワン=レバイ国統治者(クワール)「ジヤット・シン」(~1867年没)
- 1808年-05:30|インド| |||<就任>ホル国統治者(ラ)「アヘインジ」(~不明)⇒「キラツインジ」(~不明)⇒「ラックスマンシンジ」(~不明)⇒「ハ・ラツインジ」(~不明)⇒「アマルシンジ」(~不明)⇒「アナンシンジ」(~1852年没)
- 1808年-05:30|インド| |||<就任>ホチ国ラジャ「アミール・カーン」(2回目~1814年)
- 1808年-05:30|インド| |||<就任>ラジャウリ国ラジャ「アガルラ・カーン」(~1825年没)
- 1808年-05:30|インド| |||<就任>ルガシ国統治者(ティワン)「ティラージ・シン」(~1814年)
- 1808年-05:30|インド/イギリス| |||アフリカ国はイギリスの保護領となる
- 1808年-05:30|インド/イギリス| |||ウタカラ国はブリザミナリ(ベネガルの一部)として英領インドに併合
- 1808年-05:30|インド| |||サンハルポル国をマラーターが占領(~1817年)
- 1808年-05:30|インド| |||ファリットコト国がハンゾジャブに占領される(~1809年)
- 1808年-05:00|ウズベキスタン| |||タシュケントはコカトに併合
- 1808年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>カーブル首相(ワズール・イ・アザム)「ナワフ・モハマト・ウー・マン・カーン」(~1809年)
- 1808年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>アフガニスタン対立大王(カンダハール)「マフムド・シャー」(1回目)
- 1808年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ナフチアハン汗国ハン「カルブ・アリ・ハン」(4度目~同年)⇒「カリム・ハン」(1度目~1809年)
- 1808年-04:00|UAE| |||<即位>シャルジヤ、ラース・アル=ハイマ首長代理「Sheikh al-Husayn bin Ali al-Qasimi」(~1814年)
- 1808年-03:30|イラン| |||アルデヒルがペルシャに再編入
- 1808年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのベイ及びワリス「スレイマン3世ハシャ「サ・リトル」」(~1810年)
- 1808年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのムテッサリフ「セルム・アガ」(~1810年)
- 1808年-03:00|カンタ| |||<就任>ブザヤ統治者(オムカマ)「ムザヤ・キヤウ」(~1845年頃)
- 1808年-02:00|シリア=アラブ/トルコ| |||<就任>アルホフ・ワリス(総督)「Kor Yusuf Ziyauddin Pasha」(~1809年)
- 1808年-02:00|エジプト/トルコ| |||<就任>オスマン帝国領エジプト大宰相「ムハンマト・アリ=ラジ「タリ・ハシャ」」(~1828年)
- 1808年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>モロツシヤ軍事知事兼ホルタ=チェルニコフ県民事最高管理者「Knyaz' Yakov Ivanovich Lobanov-Rostovskiy」(~1816年)
- 1808年-01:00|スペイン| |||<就任>アストリアス公(スペイン国王の推定相続人)「セイタ」スペイン王ホセ1世の次女(~1813年~18540808死去)
- 1808年-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラのワリス「イブラヒム・ハシャ・フシャティ」(~1810年死去)
- 1808年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ暫定総督「Manuel de Clairac」(~同年)⇒暫定総督「Carlos Lujan」(~1809年)
- 1808年 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Carlos O' Donnell Anethan」(~1809年)
- 1808年 00:00|セネガル| |||<就任>ワタ=ト=口統治者統治者(アルマ=ミ)「ユスフ・サ=リ」(1回目~1810年)
- 1808年 00:00|モロッコ| |||<就任>モロッコ大宰相「シ=モハメド=スラウイ」
- 1808年 04:00|サン=マルタン/フランス| |||<就任>フランス領サン=マルタン司令官「Jean Pruilh」(~1810. 2)
- 1808年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領テキサス植民地総督「マヌエル=マリア=テ=サルセト」(~1811年)
- 1808年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領ニュー=メキシコ総督「Jose Manrique」(~1814年)
- 1808年1月-05:30|インド/イギリス/デンマーク| |||イギリス軍がデンマーク領フレデリクスナゴールを占領(~1815年)
- 1808年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連合評議会議長「ケオルク=ウ=インゼツ=ホスト=ルト=ウ=ヒ=ラテイマン」Gon(1期目~12. 31)
- 1808年1月1日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||イギリスがシエラレオネをシエラレオネ会社の植民地からイギリス直轄植民地とする
- 1808年1月1日 04:00|グレタダ/イギリス| |||<就任>グレタダ総督「フレリック=メイトラント」(2回目~12月)
- 1808年1月1日 06:00|アメリカ| |||アメリカで奴隷貿易を禁止する法律が施行される/しかし密貿易が続く
- 1808年1月5日 04:00|キューバ/イギリス| |||<就任>キューバ知事代理「Robert Nicholas」(~1808年)
- 1808年1月9日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、ジェファソン大統領、出港禁止法第1次補則に署名
- 1808年1月14日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>ホラント王国領東インド総督「Herman Willem Daendels」(~18110516)
- 1808年1月17日-09:00|日本|静岡県静岡市|文化4年12月20日|<駿府文化4年の大火>駿府史上最大の火災
- 1808年1月18日-09:00|日本|宮崎県児湯郡高鍋町|文化4年12月21日|<死去>日向高鍋藩27000石「秋月種徳」(45歳)⇒次男「秋月種任」が継ぐ(⇒天保14(1843)年8月21日、隠居)
- 1808年1月20日-01:00|ボスニア=ヘルツェゴビナ/トルコ| |||<就任>ボスニア総督「ヒルミ=イブラヒム=ハシャ」(~18130304)
- 1808年1月20日-09:00|日本|新潟県柏崎市|文化4年12月23日|<死去>越後椎谷藩1万石「堀直起」(42歳)⇒5月22日、婿養子「堀直温」が継ぐ(⇒文化9(1812)年5月18日、死去)
- 1808年1月22日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル総督「フリス=ジョン=デ=アラカンザ」(~18151216)
- 1808年1月22日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||ポルトガル国王ジョアン6世、リオ=デ=ジャネイロに遷都
- 1808年1月26日-09:30|オーストラリア| |||「ラム酒の反乱」起こる/ジョージ=ジョンストン、マッカーサーを解放/マッカーサー、兵士とともに総督ブライを監禁/ジョンストン戒厳令を宣言、全権を掌握
- 1808年1月26日-09:00|日本|新潟県上越市|文化4年12月29日|<死去>榊原政永(73歳)前越後高田藩主

1810迄 (2641件)

- 1808年1月27日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>ニューサウスウェールズ植民地総督代理「ウィリアム・パターソン」(~18091231)
- 1808年1月28日-09:00|日本|愛知県名古屋市|文化5年|八事山興正寺五重塔建立
- 1808年1月28日-09:00|韓国/朝鮮| ||朝鮮・嘉慶13年1月|咸鏡道・北青と端川で民乱
- 1808年1月30日 00:00|イギリス| |||<死去>22代クロフォート伯・6代リンズー伯「ジョージ・リンズー=クロフォート」
- 1808年1月30日 00:00|イギリス| |||<就任>23代クロフォート伯「アレクサンダー・リンズー」6代バルカス伯(~18250327死去)
- 1808年1月30日 00:00|イギリス| |||<就任>7代リンズー伯「テューイングット・リンズー」(~18090505死去)
- 1808年1月31日-01:00|クロアチア/フランス/イタリア| |||ラグーザ共和国はフランスによって解体され、ダルマチア(イタリアのナポレオン王国の一部)に編入される
- 1808年2月-02:00|ルーマニア/ロシア| |||<就任>モルダヴィアとワラキアのデュークのロシア議長「セルゲイ・セルゲイェヴィチ・クニニコフ」(~1810年2月)
- 1808年2月2日-01:00|イタリア/フランス| |||イギリスに対する経済封鎖を拒む教皇ピウス7世に対抗して、ナポレオンがローマを含むラツィオを占領/仏軍がウンブリアを占領
- 1808年2月10日-01:00|ドイツ/フランス| |||<加盟>ライン同盟:メクレンブルク=シュヴェーリン公国(~18130325離脱)
- 1808年2月10日 00:00|イギリス| |||<死去>初代ソムerset侯・5代インチキン伯「マロー・オブ・ライエン」
- 1808年2月10日 00:00|イギリス| |||<就任>2代ソムerset侯・6代インチキン伯「ウィリアム・オブ・ライエン」(~18460821死去)
- 1808年2月11日 04:00|オーストリア/フランス| |||<死去>オーストリア総督・司令官「ルイス・アントニオ・ムニョス・デ・グスマン」
- 1808年2月11日 04:00|オーストリア/フランス| |||<就任>オーストリア総督・司令官代行「ファン・ロドリゲス・パレスティリス」(~4.22)
- 1808年2月13日-05:30|デンマーク/イギリス| |||デンマーク領東インド諸島(トランカバル)をイギリス軍が占領(~18150920)
- 1808年2月16日-01:00|スペイン/フランス| |||モンセイ元帥・デュボン将軍の率いるフランス軍4万がスペインに入り、カトリックを支配下に置く
- 1808年2月17日-09:00|日本|東京都|文化5年1月21日|<死去>画人、竹沢養溪
- 1808年2月18日 03:00|ブラジル| |||ハイン陸軍病院に付設して医科大学が創設される
- 1808年2月21日-01:00|スウェーデン/ロシア| |||ロシア暦2月10日|ロシア皇帝アレクサンドル1世が、スウェーデンとの国交を断絶、戦争開始(~20090917)
- 1808年2月27日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化5年2月2日|<死去>初代並木五瓶(62歳)歌舞伎・狂言作者
- 1808年3月-02:00|ルーマニア/ロシア| |||<就任>ワラキアのデュークのロシア副大統領代行(モルダヴィアの大統領に従属)「ミハイル・アントレーウ・イ・ミラトヴイッチ」(~1809年8月)
- 1808年3月1日-01:00|フランス| |||フランスで、ナポレオンが新しい身分制度のフランス帝政貴族を制定
- 1808年3月1日 00:00|イギリス| |||イギリスで、奴隷貿易を禁止する法律が発効
- 1808年3月1日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、1807年出港禁止法、失効
- 1808年3月1日-09:00|日本|高知県高知市|文化5年2月5日|<交替>土佐藩20万2600石「山内豊策」隠居⇒長男「山内豊興」が継ぐ(~文化6年3月19日(18090503)、死去)
- 1808年3月3日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官代理「Gonzalo O' Farrill y Herrera」(~1808319)
- 1808年3月3日-01:00|スペイン/フランス| |||ナポレオンの義弟(妹婿)ミュラー元帥の率いるフランス軍がマドリッドを占領、長子のフェルナント王子は徹底抗戦を叫ぶ
- 1808年3月5日-08:00|中国| |||<即位>ダライ・ラマ9世ルトク・ギャツォ(~18150326死去)
- 1808年3月7日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||ポルトガル王室と宮廷の本拠地はブラジルのリオデジャネイロに移された(~18210704)
- 1808年3月10日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル首相フェルディナント・セル〜(~18170124死去)
- 1808年3月10日 03:00|ブラジル/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領ブラジル首席大臣「フェルナント・セル・デ・ポルトガル・エ・カストロ」(1808年12月からアギアル伯爵~1813年からアギアル侯爵) (~18161230)
- 1808年3月12日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、出港禁止法第2次補則成立
- 1808年3月13日-01:00|ルウェー/デンマーク/ドイツ| |||<死去>ルウェー・デンマーク王・シュレースヴィヒ公・ホルシュタイン公「クリスチャン7世」59歳(誕生1749年)
- 1808年3月13日-01:00|ルウェー/デンマーク/ドイツ| |||<即位>ルウェー・デンマーク王「フレデリク6世」(~18140517退位)兼シュレースヴィヒ公・ホルシュタイン公「フレデリク6世」(~18391203死去71歳)クリスチャン7世とキャロライン・マティルダ・オブ・ウェールズの息子
- 1808年3月14日-09:00|日本|福岡県北九州市|文化5年2月18日|<死去>小笠原忠苗(63歳)前豊前小倉藩主
- 1808年3月16日-09:00|日本|静岡県富士宮市|文化5年2月20日|重須本門寺学頭寮焼失
- 1808年3月17日-01:00|スペイン| |||夜、フェルディナント派の暴動がアラゴンで起こる/フェルナント親王を押し立てて宮廷革命に成功/カルロス4世は譲位
- 1808年3月17日-01:00|フランス| |||ナポレオンが、中世以来の大学を解体し、帝国大学を創設/フランス近代学制が始まる
- 1808年3月19日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官「Pedro Cevallos Guerra」(~7.7)
- 1808年3月19日-01:00|スペイン| |||<即位>スペイン国王(ボルボン朝)「フェルナント7世」カルロス4世の息子(~18080506)
- 1808年3月19日-01:00|スペイン| |||<廃位>スペイン国王「カルロス4世」退位させられる
- 1808年3月22日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア軍フィンランド総司令官「フクサーデン伯爵フリートリヒ・ヴィルヘルム」(~1809年2月)
- 1808年3月22日-02:00|フィンランド/ロシア| |||フィンランド全土、オーランド諸島をロシアが占領(~5月)
- 1808年3月22日-01:00|ドイツ/フランス| |||<加盟>ライン同盟:メクレンブルク=シュトレリッツ公国(~18130330離脱)
- 1808年3月22日-01:00|スペイン/フランス| |||フランス軍がマドリッドを占領
- 1808年3月26日-01:00|バチカン| |||<就任>バチカン枢機卿国務長官「ジュリオ・ガブリエリ」(~18140517)
- 1808年3月26日 05:00|ジャマイカ/イギリス| |||<就任>英領サントピア総督「マンチスター公爵ウィリアム・モンタギュー」(1回目~1811062)

1810迄 (2641件)

6)

- 1808年3月27日-09:00|日本| ||文化5年3月|<刊行>銅版画家, 垂欧堂田善「内象銅版図」(「医範提綱」(宇田川玄真訳撰)の付図として)
- 1808年3月27日-09:00|日本| ||文化5年3月|<刊行>読本作家・国学者・歌人, 上田秋成「春雨物語」
- 1808年3月27日-09:00|日本| ||文化5年3月|<出版>北尾政美「諺画苑」
- 1808年3月27日-09:00|日本|京都府京都市|文化5年3月|<初演>歌舞伎「八陣守護城」京北側芝居
- 1808年3月27日-09:00|日本|群馬県安中市|文化5年3月|安中藩、文武学校造士館を設立
- 1808年3月28日-02:00|フィンランド/ロシア/スウェーデン| ||ロシア帝国がスウェーデンが所有するフィンランドの土地併合宣言
- 1808年4月1日-02:00|フィンランド/ロシア| ||ロシア皇帝がフィンランドの併合宣言
- 1808年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「マリノ・ジヤンギ」「マッテオ・マルテリ」
- 1808年4月2日-09:00|日本|東京都|文化5年3月7日|<死去>画人「内田陶丘」
- 1808年4月6日-02:00|フィンランド/ロシア| ||ハメーンリナ要塞がロシアに降伏
- 1808年4月6日 06:00|アメリカ| ||ジョージ・アスター、アメリカ毛皮会社設立
- 1808年4月10日-09:00|日本|東京都墨田区|文化5年3月15日|<大相撲>文化5年3月場所[江戸本所回向院](10日間)優勝:(東大関)柏戸, 7勝0敗1分1無勝負1休
- 1808年4月16日-01:00|ドイツ| ||プロシヤで、愛国主義者たちが反ナポレオンの文化集団「美德団」を結成
- 1808年4月17日-01:00|フランス/アメリカ| ||ナポレオン、仏伊ハッサ同盟の諸港に入る米船を拿捕することを認めるパヨヌ勅令発令
- 1808年4月18日-09:00|日本|茨城県行方市|文化5年3月23日|<死去>新庄直規(58歳) 前常陸麻生藩主
- 1808年4月22日 04:00|刊/スペイン| ||<就任>刊総督・司令官「フランシスコ・アントニオ・カルシア・カラスコ・ディアス」(~18100716)
- 1808年4月25日 06:00|アメリカ| ||アメリカ出港禁止法第3次補則成立
- 1808年4月30日-01:00|スペイン/フランス| ||ナポレオンが、パヨヌ会議で、スペインのカルロス4世とフェルナンド7世の退位を要求。フェルナンドから王位をとりあげる
- 1808年5月-02:00|フィンランド/スウェーデン| ||スウェーデンがオーランド諸島再占領(~18090317)
- 1808年5月-01:00|ドイツ| ||<初演>ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン《ピアノ、ヴァイオリンとチェロのための協奏曲ハ長調》
- 1808年5月2日-01:00|スペイン/フランス| ||スペイン、マドリッドの蜂起、スペインの対仏独立戦争が始まる/マドリッドの民衆がフランス軍を襲撃。市民500人、フランス軍も150人の死者を出す
- 1808年5月3日-05:30|インド| ||<就任>マラーター国最高統治者(ラジャ・チャトラパティ)「フラーダ・シンハ・ボワ・サーヒブ」(~18390905)
- 1808年5月3日-01:00|スペイン/フランス| ||ジョージアン・ミュラージュ将軍率いるフランス軍がマドリッドの反乱鎮圧/逮捕された400人以上が銃殺刑に処せられる
- 1808年5月5日-09:00|日本| ||文化5年4月9日|幕府相模・伊豆・安房の沿岸に砲台を築く
- 1808年5月6日-01:00|スペイン/フランス| ||<退位>スペイン国王「フェルナンド7世」ナポレオンに王位を譲渡
- 1808年5月8日-04:00|ロシア/日本| ||文化5年4月13日|松前奉行調役下役松田伝十郎, カラト島奥地ならびに山丹地方検分の命をうけ雇間宮林蔵を召連れてソウヤ出発。伝十郎は西海岸をソウヤ崎まで至って黒龍江を望見, カラトが離島であることを知る
- 1808年5月9日-09:00|日本|滋賀県高島市|文化5年4月14日|<死去>近江大溝藩2万石「分部光実」(53歳)⇒6月15日、次男「分部光邦」が継ぐ(⇒文化7(1810)年9月22日、江戸で急死)
- 1808年5月10日 03:00|ブラジル| ||立法院が創設される
- 1808年5月14日-04:00|ジョージア| ||<就任>アフハジア公「アスラン・イ」(1回目~18100710)
- 1808年5月15日-09:00|日本|京都府京丹後市|文化5年4月20日|<死去>丹後峰山藩11100石「京極高久」(80歳)⇒長男「京極高備」が継ぐ(⇒天保3(1832)年11月20日、隠居)
- 1808年5月22日-01:00|チコ| ||<スタンレー隕石雨>チコのモウアに隕石落下/回収された隕石はウィーン自然史博物館に
- 1808年5月23日-09:00|日本|新潟県長岡市|文化5年4月28日|長岡藩, 藩校崇徳館を設ける
- 1808年5月24日-01:00|イタリア/フランス| ||ハルマ・ビ・アチンツァ公国、フランスに併合
- 1808年5月30日-01:00|イタリア/フランス| ||イタリアのトスカナがフランス領に併合される
- 1808年6月1日 03:00|ブラジル| ||ブラジルの政治家でリベラル系ジャーナリストのイポリト・ジョゼ・ダ・コスタ, ロンドンで最初の新聞「コレイオ・ブラジリエ」を発行
- 1808年6月6日-01:00|スペイン| ||<即位>スペイン国王(ボナパルト朝)「ホセフ・ボナパルト」ナポリ王、ナポレオン1世の兄(~18131211廃位。18440728死去76歳)
- 1808年6月7日-01:00|スペイン/フランス| ||テュボン将軍率いるフランス軍2万がスペイン南部のコルトヴァを占領
- 1808年6月9日 04:00|キューバ/イギリス| ||<就任>キューバ知事「Sir James Cockburn」(~18090520)
- 1808年6月9日-09:00|日本|和歌山県田辺市|文化5年5月16日|<交替>紀伊田辺藩38000石(紀州藩附家老)「安藤道紀」隠居⇒養子「安藤直興(直与)」が継ぐ(⇒翌年11月23日(18091229)、死去)
- 1808年6月11日-01:00|コロチア| ||<就任>(名目上)ダルマチア公爵「ニコラ・ジャンド・デュースル」(~18131028)
- 1808年6月17日-01:00|スペイン| ||スペイン国王ジョセフ王, パヨナ憲法を公布。カリックを従来どおり国教として認めるとともに、司法の独立、拷問の禁止、異端審問所・封建的諸税の縮小、修道院の削減等の進歩的諸政策を施行
- 1808年6月23日-09:00|日本|京都府綾部市|文化5年5月30日|<死去>丹波綾部藩19500石「九鬼隆郷」(29歳)⇒7月5日、長男「九鬼隆度」が継ぐ(⇒文政5(1822)年間1月24日、隠居)
- 1808年6月26日-09:00|日本|長野県飯田市|文化5年6月3日|<死去>堀親長(70歳) 前信濃飯田藩主
- 1808年6月28日-09:00|日本|千葉県夷隅郡大多喜町|文化5年6月5日|<死去>上総大多喜藩2万石「松平正路」(44歳)⇒長男「松平正敬」が継ぐ(⇒文政9(1826)年9月27日、隠居)
- 1808年7月 00:00|カリリ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン国王カリリ諸島市民知事「Juan Prospero del Sacramento de

1810迄 (2641件)

Torres y Chirinoj (~1812年)

- 1808年7月4日 00:00|セントヘレナ/イギリス| |||<就任>イギリス領セントヘレナ総督「アレクサンダー・ヒートソン」(~18130821)
- 1808年7月7日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官「Mariano Luis de Urquijo y Muga」(~18130627)
- 1808年7月9日-02:00|エストニア/ロシア| |||<就任>ロシア領エストニア総督「(ホリス・イクスル男爵)ベント・ヨハン・フォン・ウエクスユル」(~1819年)
- 1808年7月10日-09:00|日本|愛媛県大洲市|文化5年6月17日|喜多郡出石寺が再建される
- 1808年7月13日-09:00|日本|広島県広島市|文化5年6月20日|<死去>浅野長員(64歳)前安芸広島新田藩主
- 1808年7月13日-09:00|日本|三重県四日市市|文化5年6月20日|<交替>伊勢東阿倉川13000石「加納久周」隠居⇒嫡男「加納久慎」が継ぐ(⇒文政4(1821)年8月13日、死去)
- 1808年7月14日-01:00|スペイン/フランス| |||スペイン、リセッコの戦いにてベシエル元帥率いるフランス軍がスペイン軍を破り、これに約2万の損害を与えた
- 1808年7月19日-01:00|スペイン/フランス| |||バイルンの戦い/フランシスコ・カスターニョス将軍のスペイン軍が、デューボン将軍のフランス軍を打ち破る。デューボンは降伏
- 1808年7月23日-09:00|日本|東京都中央区|文化5年閏6月|江戸森田座再興
- 1808年7月27日 00:00|シエラレオネ/イギリス| |||<就任>イギリス王領シエラレオネ植民地総督「トマス・ペロネット・トンプソン」(~18100212)
- 1808年7月28日-02:00|トルコ| |||<死去>オスマン帝国先代(28代)スルタン「セリム3世」暗殺される/46歳(誕生17611224)
- 1808年7月28日-02:00|トルコ| |||<即位>オスマン帝国第30代スルタン「マフムト2世」先代の弟、27代アブデュルハミト1世の子(~18390701死去)
- 1808年7月28日-02:00|トルコ| |||<廃位>オスマン帝国第29代スルタン「ムスタファ4世」(~18081115, マフムト2世により殺害される)
- 1808年7月28日-02:00|トルコ| |||「アムダール・ムスタファ・パシャ(ハイクダール・ムスタファ・パシャとも呼ばれる)」(~11.15)
- 1808年7月31日 04:00|トミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミニカ総督代行「エドワード・バーンス」(1回目~同年)
- 1808年8月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「ジェームス・トラumont」(2期目~1809.5)ケント公の下で
- 1808年8月 04:00|フォークラント/スペイン| |||<就任>スペイン領フォークラント 諸島司令官・総督「Gerardo Bordas」(~1810.1)
- 1808年8月1日-01:00|イタリヤ| |||<即位>ナポリ王「ジョアッキーノ1世」ナポレオンの妹の加リーヌの夫のヨアキム・ミュラ元帥(~18150519)
- 1808年8月1日-01:00|ベルギー| |||<即位>ベルギー大公「ナポレオン・ボナパルト」フランス皇帝(~18090303)
- 1808年8月1日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||<就任>イギリスのポルトガル司令官「アーサー・ウェルズリー卿」(1期目~21日)
- 1808年8月1日 05:00|エカトル/スペイン| |||<就任>スペイン領オビド総督・総司令官・大審問院長「マヌエル・マリア・ペドロ・ホセ・ベニート」(~18100215)
- 1808年8月4日-09:00|日本| ||文化5年閏6月13日|<死去>永皎女王(77歳)中御門天皇の皇女
- 1808年8月12日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールドコースト総督「ヤン・フレデリック・ケニンク」(~18100223没)
- 1808年8月13日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「James Drummond」(2期目~18090601)
- 1808年8月13日 03:00|ブラジル| |||トウジョエ、印刷物条例を公布。一定の検閲の下で紙誌の発行を許可
- 1808年8月15日-01:00|フランス| |||フランス軍の戦勝を記念する凱旋門がカルセル広場に完成し、落成式が行われる
- 1808年8月17日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||<就任>マデラ総督「Robert Meade」イギリス(~1812.8)
- 1808年8月17日 00:00|ポルトガル/フランス/イギリス| |||ロカで英仏軍最初の戦闘、イギリス軍の勝利
- 1808年8月19日-02:00|エストニア| |||<就任>エストニア総督「ペーター・フリードリヒ・ゲオルク・フォン・ホルシュタイン=オルデンブルク」(~18090430)
- 1808年8月20日 00:00|ポルトガル/フランス/イギリス| |||<ヴァイロン島の戦い>アーサー・ウェルズリーのイギリス軍がデューボン将軍のフランス軍を破る
- 1808年8月21日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||<就任>イギリスのポルトガル司令官「ハリ・バラット卿」(~22日)
- 1808年8月22日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||<就任>イギリスのポルトガル司令官「ヒューダールリブル」(~10.27)
- 1808年8月24日 00:00|イギリス| |||<死去>7代ウィームズ伯「フランス・ウィームズ=チャーチス」
- 1808年8月26日 04:00|米領ヴァージン諸島/イギリス| |||<死去>セントクロア総督「Henry Bowyer」
- 1808年8月26日 04:00|米領ヴァージン諸島/イギリス| |||<就任>セントクロア総督「George William Richard Harcourt」(~18121219死去)
- 1808年8月27日-01:00|アルジェリア/イギリス| |||イギリス軍が、アルジェリアに砲撃を開始
- 1808年8月30日 00:00|ポルトガル/フランス/イギリス| |||ウェルズリー率いるイギリス軍が、シトラでフランス軍を破り、イタリヤ半島での戦争で勝利
- 1808年9月 03:00|ウルグアイ| |||ウルグアイのモンテビデオで自治委員会が発足
- 1808年9月10日 03:00|ブラジル| |||Gazeta do Rio de Janeiroが発刊。ブラジル国内で印刷される最初の新聞となる
- 1808年9月15日 07:00|メキシコ/スペイン| |||ペニンスラールはクーデターを起こしメキシコ副王イリガライを逮捕。本国へ送還。傀儡副王を立てる
- 1808年9月15日-09:00|日本|東京都中央区|文化5年7月25日|<初演>四代目鶴屋南北「時桔梗出世請状」江戸・市村座<馬唄>光秀・五代目松本幸四郎
- 1808年9月16日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「ペドロ・デ・ガリアイ」(~18090619)
- 1808年9月21日-09:00|日本| ||文化5年8月2日|<死去>2代西川扇蔵(91歳)舞踊家

1810迄 (2641件)

- 1808年9月25日 05:00|バハマ/イギリス| |||<就任>バハマ植民地総督代行「ウィリアム ピーゾー・マンクス」(1回目~18121202)
- 1808年9月25日-09:00|日本|京都府宮津市|文化5年8月6日|<交替>丹後宮津藩7万石「松平宗允」隠居⇒弟「松平宗発」が継ぐ(⇒天保11(1840)年8月25日、死去)
- 1808年9月26日 00:00|ポルトガル| |||<就任>ポルトガル首相代理「フリアーノ・リベロ・フレイル」(~18101025)
- 1808年9月27日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>ホラント王国領スリナム(オランダ 西インド 会社) 総督代行「ジョン・ウオード・ロー卿」(~18090504)
- 1808年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フェデリコ・ゴッジ」 「ピエール・アントニオ・ミアーニ」
- 1808年10月4日-09:00|日本/イギリス|長崎県長崎市|文化5年8月15日|<フェートン号事件>イギリス軍艦フェートン号が長崎港に侵入し、長崎奉行に薪と水を要求(17日出帆)
- 1808年10月10日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官代理「Juan O' Donoju O' Ryan」(~18131017)
- 1808年10月12日 03:00|ブラジル| |||ブラジル最初の銀行として「Alfa-Breal」が創立される
- 1808年10月14日-01:00|トイ/フランス| |||<加盟>ライン同盟:オランダの公国(~18101213、フランス帝国に併合)
- 1808年10月17日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官代理「Fernando de Laserna」(~18131203)
- 1808年10月21日-09:00|日本|東京都|文化5年9月2日|<死去>加藤千蔭(74歳) 国学者、歌人、書家
- 1808年10月23日-08:00|マレーシア| |||<死去>トンガヌ・スルタン「トゥアンク・サ・イナル・アビデイン2世・イブニ・アル=マルフム・スルタン・マンスール・シャー」
- 1808年10月23日-08:00|マレーシア| |||<即位>トンガヌ・スルタン「トゥアンク・アフマド・シャー1世、イブニ・アル=マルフム・スルタン・サ・イナル・アビデイン」(~18300704没)
- 1808年10月27日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||<就任>イギリスのポルトガル司令官「ジョン・ムア卿」(~18090116死去)
- 1808年10月27日-09:00|日本| ||文化5年9月8日|<死去>3代伊佐幸琢(不明) 茶人
- 1808年11月-01:00|リヒテンシュタイン| |||<就任>リヒテンシュタイン王室廷吏「ヨゼフ・シュプラー」(~18270131)
- 1808年11月-01:00|オーストリア| |||オーストリア生まれのオーストリア人で、発明家ヤコブ・デーゲンが人力オニツターに小型の水素気球を付けて浮力を稼ぎ、史上初の「操縦可能な自由飛行」に成功
- 1808年11月7日 04:00|トミカ共和国/フランス| |||<就任>フランス領サント・ミンゴ 総督代行「ハルキエ伯爵ジョセフ・テ・レ・ット」(~18090709)
- 1808年11月10日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、ホセ族と条約締結、領土割譲を受ける
- 1808年11月12日-02:00|フィンランド| |||<就任>フィンランド 代表団議長(サントペテルブルク) 「マンネルハイム伯爵カール・エリック」(~1809109)
- 1808年11月13日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント総督代行「ロバート・ホール」(3度目~18090223)
- 1808年11月13日-09:00|日本|茨城県筑西市|文化5年9月25日|<死去>常陸下館藩2万石「石川総親」(21歳)⇒養子「石川総承」が継ぐ(⇒天保7年12月5日(18370111)、隠居)
- 1808年11月14日-01:00|イタリヤ| |||<即位>フカウリ公「ジョーゼフ・テュロック」(~18130523死去)
- 1808年11月15日-02:00|トルコ| |||<死去>オスマン帝国先代(29代)スルタン「ムスタファ4世」マフムト2世により殺害される
- 1808年11月15日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「チャブ・シュバシ・メシユ・パシャ」(~18090101)
- 1808年11月15日-02:00|トルコ| |||トルコ帝国イスタンブールで、オスマン朝の常備歩兵軍団「イニチエリ」が反乱/ムスタファ・パシャ(アラム・ル・ムスタファ・パシャ) 大宰相が暗殺される(誕生1755頃)
- 1808年11月15日-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデイ「アリ4世アル=ラッスル」(~1809年2月)
- 1808年11月18日-02:00|ラトビア| |||<就任>ケルラント総督代行「ヤコブ・マクシミリアン・フォン・ブリスコーン」(1回目~21日)
- 1808年11月19日-01:00|トイ| |||プロイセン首相の「カール・シュタイン」が都市条例を発
- 1808年11月21日-09:00|日本| ||文化5年10月4日|<死去>初代松永和風(不明) 長唄唄方
- 1808年11月22日-02:00|ラトビア| |||<就任>ケルラント総督「ヨハン・ヴィルヘルム・フォン・ホッカー」(~18110818)
- 1808年11月23日-09:00|日本| ||文化5年10月6日|<死去>8代千宗左(65歳) 茶人、表千家家元
- 1808年11月24日-01:00|トイ| |||<解任>プロイセン王国首相「カール・シュタイン」ナポレオンの圧力で失脚
- 1808年11月24日-01:00|トイ| |||<就任>プロイセン王国首相「カール・フリードリヒ・フェルディナント・アレクサンダー・フォン・トナ=シュロビッツ」(~18100604)
- 1808年11月24日-01:00|トイ| |||プロイセンで、新内閣制度が提示される/官僚主導の政治が始まる
- 1808年11月24日-09:00|日本|静岡県掛川市|文化5年10月7日|<死去>遠江掛川藩5万石「太田資順」(47歳)⇒弟「太田資言」が継ぐ(⇒文化7(1810)年6月2日、死去)
- 1808年11月25日-09:00|日本|滋賀県甲賀市|文化5年10月8日|<死去>加藤明陳(51歳) 前近江水口藩主
- 1808年11月26日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化5年10月9日|<死去>4代市川團蔵(64歳) 歌舞伎役者
- 1808年11月28日-09:00|日本|埼玉県行田市|文化5年10月11日|<死去>武蔵忍藩10万石「阿部正由」(47歳)⇒12月27日、長男「阿部正権」が継ぐ(⇒文政6(1823)年3月24日、陸奥白川藩へ移封)
- 1808年11月28日-09:00|日本|東京都|文化5年10月11日|<死去>画家、細井錦城(広沢の孫)
- 1808年11月30日-01:00|スペイン/フランス| |||フランス軍主力、マドリッド 前面のソモシエラ峠に到達。サン・ジュアン将軍率いる1万2000のスペイン軍を撃破
- 1808年11月30日-09:00|日本| ||文化5年10月13日|<死去>初代芳村伊三郎(90歳) 長唄唄方
- 1808年12月-01:00|トイ| |||<初演>ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 《ピアノ三重奏曲第5番=長調Op. 70-1「幽霊」》 《ピアノ三重奏曲第6番変長調Op. 70-2》
- 1808年12月 04:00|グレナダ/イギリス| |||<就任>グレナダ 総督代行「エイブラハム・チャールズ・アディ」(2回目~1809年5月)
- 1808年12月1日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド 総督「コラン・マクス・フライヘル・スプレングホルテン」(~18090617)

1810迄 (2641件)

- 1808年12月3日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン王国国家主席補佐官代理「Jose Luyando」(~18140504)
- 1808年12月4日-01:00|スペイン/フランス| |||<没>「マドリード」がフランス軍の攻撃で陥落/「ホセ・レオン」の兄「ジョセフ」が国王に復位
- 1808年12月7日 06:00|アメリカ| |||<就任>「ジェームズ・マディソン」がアメリカ第4代大統領に当選
- 1808年12月12日 04:00|トミカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領トミカ総督「ジェームズ・モンゴメリー」(~1809年)
- 1808年12月12日-09:00|日本|東京都墨田区|文化5年10月25日|<大相撲>文化5年10月場所「江戸本所回向院」(10日間)優勝:(東大関)柏戸, 9勝1敗
- 1808年12月13日 04:00|トミカ共和国/スペイン| |||<就任>スペイン領サント・ミンゴ総督・総司令官「ファン・サンチェス・ラミレス」(18090709までフランスに対立~18110211)
- 1808年12月13日 04:00|トミカ共和国/フランス/スペイン| |||<没>「サント・ミンゴ」がスペインに返還される(フランスの統治は18090709、サント・ミンゴが陥落して終了)
- 1808年12月14日-09:00|日本|岩手県一関市|文化5年10月27日|<死去>田村村資(46歳)前陸奥一関藩主
- 1808年12月17日 00:00|イギリス| |||<死去>初代「ロバート・アプ・ル」伯「チャールズ・ジェンクソン」
- 1808年12月17日 00:00|イギリス| |||<就任>2代「ロバート・アプ・ル」伯「ロバート・バンクス・ジェンクソン」(~18281204死去)
- 1808年12月22日-01:00|ドイツ| |||<初演>「ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン」《交響曲第5番「短調」Op. 67「運命」》《交響曲第6番「長調」Op. 68「田園」》《ピアノ協奏曲第4番「長調」Op. 58》《合唱幻想曲「短調」》
- 1808年12月22日-01:00|オーストリア/ドイツ| |||<初演>「ベートーヴェン」作曲交響曲第5・6番「運命」「田園」がウィーンで初演される
- 1808年12月24日-09:00|日本|岐阜県郡上市|文化5年11月8日|<死去>美濃郡上落48000石「青山幸完」(57歳)⇒長男「青山幸孝」が継ぐ(⇒文化12(1815)年11月25日、死去)
- 1808年12月24日-09:00|日本|群馬県富岡市|文化5年11月8日|<交替>上野七日市藩1万石「前田利以」隠居⇒養子「前田利和」が継ぐ(⇒天保10(1839)年11月12日、死去)
- 1808年12月25日-01:00|スペイン/フランス| |||<没>「スペイン」の「バイルン」で独立派と「ホセ・レオン」軍との間に戦闘。「ホセ・レオン」軍は重大な敗北を喫する
- 1809年-11:00|ミクロネシア| |||<死去>モル国王「ラジヤブ・ウアア」
- 1809年-11:00|ミクロネシア| |||<即位>モル国王「ワセティップ」(~1825年没)
- 1809年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>モルッカ諸島「ホラント」王国総督「Carel Lodewijk Wieling」
- 1809年-08:00|インドネシア/オランダ| |||<就任>モルッカ諸島「ホラント」王国弁務官「Roelof Coop a Groen」(~1810年)、民政・軍政弁務官「Johann von Mittmann」(~1810年)
- 1809年-08:00|インドネシア| |||<即位>「バントゥン」王国スルタン「Sultan Muhammad ibn Muhammad Muhyiddin Zainussalihin」(~1813年)
- 1809年-07:00|タイ| |||<即位>色陀蘇丹王朝ラジャ「Tunku Bisnu ibni al-Marhum Sultan 'Abdu' llah al-Mukarram Shah」(~1843年)
- 1809年-06:00|プータン| |||<就任>プータン摂政「ツトリム・ト・ライガ」(~1810年)
- 1809年-05:30|インド| |||<就任>「アンガール」国ラジャ「シヤヤ・シン」(~同年没)⇒「フリスガ・イ・シン」(~1814年没)
- 1809年-05:30|インド| |||<就任>「コタカ」国摂政「リリガ・ラジャ」(~1811年)
- 1809年-05:30|インド| |||<就任>「シロヒ」国統治者(オ)「ウガ・イ・シン」(⇒1817年統治権廃止~18470111没)
- 1809年-05:30|インド| |||<就任>「シロヒ」支配者(シム)「ホル・マニク」(~1833年)
- 1809年-05:30|インド| |||<就任>「ジャスタン」国統治者(ハチャール)「チェラ・ウ・アイスル・ハチャール2世」(~18511027没)
- 1809年-05:30|インド| |||<就任>「ソハル」国統治者(レイ)「ラル・アマン・シン」(1回目~不明)⇒「ラガナート・シン」(~1830年没)
- 1809年-05:30|インド| |||<就任>「パティ」国統治者(デサイ・シュリ)「ハリシムジ」(~不明)⇒「アルバムジ・ハリシムジ」(~不明)⇒「ケルシムジ・ウ・アツィムジ」(~不明)
- 1809年-05:30|インド| |||<就任>「レウ」国ラジャ「シヤヤ・シン・テオ」(~18341029)
- 1809年-05:30|インド/イギリス| |||<没>「カブル」国、カシヤ国、ソハル国、ナゴト国、ナハ国、パランプル国、ベリ国はイギリスの保護領
- 1809年-05:30|インド| |||<没>「カンカ」国を「ナグプール」が占領(~1818年)
- 1809年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<死去>「コーカト」・ハン国ハン「アーリム・ハン」
- 1809年-05:00|パキスタン| |||<就任>「バハール」ブル国ワジール「ナシル・カーン・ハルチ」(~1811年)
- 1809年-05:00|カザフスタン| |||<即位>「ハサック汗」ハン「トクム」ホラトの子(~1826年)
- 1809年-05:00|ウズベキスタン/カザフスタン/キルギス/タジキスタン| |||<即位>「コーカト」・ハン国ハン「ムハンマト・ウマル・ハン」アーリム・ハンの弟(~1821.1死去)
- 1809年-04:30|アフガニスタン| |||<就任>「カブル」首相(ワジール・イ・アザム)「ファテ・カーン・モハマト・ザイ」(2回目~1817年)
- 1809年-04:30|アフガニスタン| |||<即位>アフガニスタン対立大王(カンダハール)「マフムド・シャー」(2回目~5.3)
- 1809年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>「ナフチヴァン」汗国ハン「カルバ・アリ・ハン」(5回目~1810年)
- 1809年-04:00|ロシア| |||<没>「ロシア」11月6日「アナハ」はロシアに再占領された(~1812年)
- 1809年-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| |||<没>「アリシュムガン」はロシア宗主権下
- 1809年-03:00|ケニア| |||<即位>「パテ」スルタン国スルタン「Ahmad ibn Shaykh, Mfalume」(~1813年)
- 1809年-02:00|コンゴ民主共和国| |||<死去>ルバ王国ムロフ・ウエ「イルンガ・ヌンク」
- 1809年-02:00|コンゴ民主共和国| |||<即位>カレ王国ムロフ・ナブシ・カレ「ナブシ22世マコンベ」(~1859年没)
- 1809年-02:00|コンゴ民主共和国| |||<即位>ルバ王国ムロフ・ウエ「クムウインバ・コンベ」(~1837年)
- 1809年-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Francisco Carlos Gabriel de Gand-Vialin」(1期目~1810年)
- 1809年-01:00|オランダ/フランス| |||<就任>「ホラント」王国首席大臣(閣僚評議会議長)「ハウルス・ファン・デル・ハイム」(~18100308)
- 1809年-01:00|ドイツ| |||<統合>「ザクセン＝ヴァイマル」公・「ザクセン＝アイトナ」公「カール・アウグスト」⇒「ザクセン＝ヴァイマル＝アイトナ」公(⇒1815年、ザクセン＝ヴァイマル＝アイトナ大公~18280614死去)
- 1809年 00:00|セネガル| |||<就任>「ケール」統治者(タンメル)「ヒラム・ファトマ・カフ・ファル」(~1832年)

1810迄 (2641件)

- 1809年 00:00|セカール| |||<就任>ハールフルト統治者(ティーン)「セ・ヤン・ジエン・ファル」(~1812年)
- 1809年 04:00|アンティグア・バ・ブー・ダ| |||<就任>アンティグア大統領「ジェームス・タイソン」(~同年没)
- 1809年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領西フロリダ植民地暫定総督「フランシスコ・サン・マクセント」(~1810年)
- 1809年1月-05:30|インド| |||<死去>コチン国統治者(マハラジャ・ガンガダラ・コウイラティ・カリカ)「ラマヴァル10世」
- 1809年1月-05:30|インド| |||<即位>コチン国統治者(マハラジャ・ガンガダラ・コウイラティ・カリカ)「ケラヴァル3世ウイラム・タンブラン」(~18280804没)
- 1809年1月1日-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「チャチャチュ・アリ・パシャ」(~1809.3)
- 1809年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連合評議会議長「ルートヴィヒ・アウグスト・フィリップ・フォン・アプリー」Con(2期目~12.31)
- 1809年1月2日-01:00|スペイン/フランス| |||フランス軍、アンダルシア地方を制圧
- 1809年1月5日 00:00|イギリス/トルコ| |||オスマン帝国とイギリスの間で和平条約が結ばれる
- 1809年1月6日-05:30|インド| |||ラングート・シングが、イギリス東インド会社軍とアムリタル条約を結ぶ
- 1809年1月9日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>フィンランド担当国務大臣(サクトペ・テルブルク)「ミハイル・ミハイロヴィチ・スペランスキー」(~18111107)
- 1809年1月9日 00:00|イギリス/アメリカ| |||米、対英交易禁止
- 1809年1月9日 06:00|アメリカ| |||ジェファソン、出港禁止法第4次補則、ジャイルズ法案に署名
- 1809年1月14日 03:00|仏領ギアナ/ポルトガル/ブラジル| |||<就任>ポルトガル/ブラジルのギアナ暫定知事「Manuel Marques d'Elvas Portugal」(~10月)
- 1809年1月14日 03:00|仏領ギアナ/ポルトガル/ブラジル| |||ギアナをポルトガル/ブラジルが占領(パラ州知事に従属)(~18171108)
- 1809年1月16日-01:00|スペイン/フランス| |||イギリス人ジョン・ムーア將軍の率いるスペイン軍、ラ・コルニャの戦いでフランス軍と対決。優勢に戦いを進めるも、ムーアの戦死により決着に至らず
- 1809年1月16日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||<死去>イギリスのポルトガル司令官「ジョン・ムーア卿」
- 1809年1月16日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||<就任>イギリスのポルトガル司令官「ウィリアム・カーベレスフォード」(~4.26)
- 1809年1月16日-09:00|日本| ||文化5年12月|<刊行>祐海「祐天大僧正利益記」
- 1809年1月19日-09:00|日本| ||文化5年12月4日|<死去>桂川甫榮(55歳)蘭学者、戯作者
- 1809年1月25日-09:00|日本|京都府京都市|文化5年12月10日|<就任>京都所司代「酒井忠進」(⇒1815(文化12年04月15日))
- 1809年2月-01:00|アルジェリア| |||<就任>アルジェのデイ「ハジ・アリ5世ベン・ケリル」(~1815年3月)
- 1809年2月2日-09:00|日本|青森県弘前市|文化5年12月18日|<高直し>陸奥弘前藩7万石「津軽寧親」⇒10万石(⇒文政3(1825)年4月10日、隠居)
- 1809年2月2日-09:00|日本|岩手県盛岡市|文化5年12月18日|<高直し>陸奥盛岡藩10万石「南部利敬」⇒20万石(⇒文政3年6月3日(18200712)、死去)
- 1809年2月3日 06:00|アメリカ| |||<発足>アメリカ、リノイ準州、設置
- 1809年2月8日 00:00|イギリス| |||<死去>5代アンカスター=ケステイアーン公・第8代リンツェー伯「ブラウンロー・ハーティ」廃絶
- 1809年2月8日 00:00|イギリス| |||<就任>9代リンツェー伯「アルバ・マル・ハーティ」(~18180917死去)
- 1809年2月9日-05:30|インド/イギリス| |||ハティアーラ国はイギリス保護領
- 1809年2月14日-09:00|日本| ||文化6年|<完結>十返舎一九「東海道中膝栗毛」全八編
- 1809年2月14日-09:00|日本|東京都港区|文化6年|松山藩、同藩江戸藩邸内(愛宕)に藩校三省館を設置
- 1809年2月14日-09:00|日本|北海道|文化6年|瘧瘧流行し、尾札部の7、8割が死亡
- 1809年2月14日-09:00|日本|山形県上市市|文化6年|出羽上山藩校「明新館」(のち天輔館と改称)を設置
- 1809年2月14日-09:00|日本| ||文化6年1月|<刊行>山東京伝(歌川豊広の挿画)「浮世牡丹全伝」前編三巻四冊
- 1809年2月14日-09:00|日本| ||文化6年1月|<刊行>式亭三馬「浮世風呂」前編(4年後完結)
- 1809年2月14日-09:00|日本| ||文化6年1月|<刊行>与謝蕪村関係の俳諧選集「蕪村七部集」
- 1809年2月14日-09:00|日本| ||文化6年1月|<出版>牧墨僊「狂画苑」
- 1809年2月14日 08:00|日本|東京都中央区|文化6年1月1日|17時頃、日本橋東中通左内町、家ぬし茂兵衛宅より出火、音羽町・青物町近辺・四日市・小船町・照降町・芳町・甚左衛門町・葺屋町・堺町、此近辺不残、難波町小川橋焼落、浜町山伏井戸辺一円類焼、元柳ばし辺にて焼止まる/中村座市村座、焼失
- 1809年2月17日-09:00|日本|宮城県仙台市|文化6年1月4日|<死去>伊達周宗、天然痘のため(14歳)前陸奥仙台藩主
- 1809年2月18日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Carlos Lujan」(~1810年)
- 1809年2月20日-01:00|スペイン/フランス| |||スペインのサラゴサの反乱軍がフランス軍総督のジャン・ランズに降伏。スペイン側の死者は5万4000、そのうち3万が非戦闘員。フランス軍も死者6000を出す
- 1809年2月24日 00:00|イギリス| |||<死去>初代オーフォード伯「ホーショウ・ウォルポール」
- 1809年2月24日 00:00|イギリス| |||<就任>2代オーフォード伯「ホーショウ・ウォルポール」(~18220615死去)
- 1809年2月24日 04:00|マルティニーク/イギリス| |||<就任>フランス領マルティニーク総司令官「Sir George Beckwith」(~1810年)
- 1809年2月24日 04:00|マルティニーク/イギリス| |||イギリスがマルティニーク占領(~18141209)
- 1809年2月25日 00:00|イギリス| |||<死去>4代ダンモア伯「ジョン・マーレイ」
- 1809年2月25日 00:00|イギリス| |||<就任>5代ダンモア伯「ジョン・マーレイ」先代の息子(~18361111死去)
- 1809年2月25日-09:00|日本| ||文化6年1月12日|<死去>月僊(69歳)浄土宗の僧、画家
- 1809年3月-08:00|インド/ネパール/オランダ| |||<就任>アンボン島樫ト王国総督「Jean-Philippe-Francois Filz」(~18100219死去)
- 1809年3月-02:00|トルコ| |||<就任>オスマン帝国大宰相「ケル・ユスフ・ジャウデイン・パシャ」(2期目~18110410)
- 1809年3月-02:00|ルーマニア/ロシア| |||<就任>ワラキアのティウヴァンのロシア副大統領(モルダヴィアの大統領に従属)「ケリコリー・ケリコ

1810迄 (2641件)

「リエグ・イ・エンゲル」(~1811年)

- 1809年3月1日 06:00|アメリカ| |||アメリカで、出港禁止法が廃止され、通商禁止法が制定/英仏以外の通商再開
- 1809年3月3日-01:00|イタリア/フランス| |||<即位>トスカナ大公「エリガ・ホナルト」(~18140201)フランスがエトリア王国からトスカナ大公国を復興
- 1809年3月3日-01:00|ドイツ| |||<即位>ヘルク大公「ホレオン・ルイ・ホナルト」(~18131201)
- 1809年3月4日 06:00|アメリカ| |||<就任>アメリカ合衆国第4代大統領「ジェームズ・マディソン」民主共和党(~18170304)
- 1809年3月15日 04:00|アンティグア・バブダ/イギリス| |||<就任>リワード・カビニ-諸島総司令官・総督代行「ジェームズ・タイン」(~9.7没)
- 1809年3月17日-02:00|フィンランド/ロシア| |||オラント諸島をロシアが領有(~10.13)
- 1809年3月23日 00:00|イギリス| |||イギリスの劇作家ホワット没/63歳(誕生:17451210)「破滅への道」などを書いた
- 1809年3月24日-09:00|日本|東京都中央区|文化6年2月9日|<大相撲>文化6年2月場所[江戸山王御旅所茅場町薬師境内](10日間)優勝:(西大関)雷電,8勝0敗1預1休
- 1809年3月25日-04:00|ロシア/日本| ||文化6年2月10日|間宮林蔵が樺太とロシアが海で隔てられていることを探検で確認(間宮海峡発見)
- 1809年3月27日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>カザフ総督代理「Franz Adam Mitscha」(~6.13)
- 1809年3月29日 00:00|ポルトガル/フランス| |||<就任>フランスのポルトガル司令官「ダマルチア公ニコラス・ジョゼフ・ド・テュー・ソルト」(~18090512)
- 1809年3月29日 00:00|ポルトガル/フランス| |||スルト将軍のフランス軍がポルトガルのポルトを占領、「ポルトガル王ニコラス1世」を名乗る。彼は1万の民衆を虐殺し、各地で略奪を重ねたといわれる
- 1809年3月29日-09:00|日本|山口県萩市|文化6年2月14日|<死去>長州藩369000石「毛利斉房」(28歳)⇒弟「毛利斉熙」が継ぐ(⇒文政7(1824)年2月27日、隠居)
- 1809年4月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「フランチェスコ・ジヤニニ」 「ウ・インツォ・ベッゾッピ」
- 1809年4月3日-05:30|イット/イギリス| |||ファロコット国はイギリス保護領
- 1809年4月9日-01:00|イタリア/オーストリア| |||オーストリアがトリエステ奪還(~5.16)
- 1809年4月9日-01:00|スイス/フランス| |||和ル農民が蜂起し反仏闘争を開始
- 1809年4月10日-01:00|ドイツ/オーストリア| |||オーストリア軍がバベルンに侵入
- 1809年4月10日-09:00|日本|福井県|文化6年2月26日|敦賀の金ヶ辻子町から出火,125軒焼失
- 1809年4月15日-09:00|日本|東京都中央区|文化6年2月26日|<初演>「松竹梅湯島掛額・紅長」<お土砂>森田座
- 1809年4月18日-01:00|ドイツ/オーストリア/フランス| |||ホレオンが、バベルンのアヘンズブルクでオーストリア軍を破る
- 1809年4月19日 06:00|アメリカ| |||アメリカ、マディソン大統領、通商断絶法の終止を宣言
- 1809年4月22日-01:00|ポーランド/オーストリア| |||オーストリア軍がワルシャワを占領
- 1809年4月25日-09:30|オーストリア| |||シトニ-最初の郵便局、アイザック・ニコルズ邸に開設。ニコルズ、郵便局長となる
- 1809年4月25日-05:30|イット/イギリス| |||ジント国はイギリス保護領
- 1809年4月26日 00:00|ポルトガル/イギリス| |||<就任>イギリスのポルトガル司令官「アーサー・ウェルズリー卿」(~18131007)
- 1809年5月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「サー・ジョン・クラドック」(~8月)ケント公の下で
- 1809年5月 04:00|ケレタダ/イギリス| |||<就任>ケレタダ総督「フレデリック・メイトランド」(3度目~6月)
- 1809年5月1日-01:00|フランス/バチカン| |||ホレオンが、教皇領を併合
- 1809年5月3日-05:30|イット/イギリス| |||マルコトラ国はイギリス保護領
- 1809年5月3日-04:30|アフガニスタン| |||<即位>アフガニスタン大王(ハトシヤ)「マフムト・シヤ」(2回目~1818年)
- 1809年5月3日-04:30|アフガニスタン| |||<退位>アフガニスタン大王(ハトシヤ)「シュジャー-アル・ムルク・シヤ」
- 1809年5月3日-09:00|日本|高知県高知市|文化6年3月19日|<死去>土佐藩20万2600石「山内豊興」(17歳)⇒5月18日、異母弟「山内豊資」が継ぐ(~天保14(1843)年3月7日、隠居)
- 1809年5月4日 03:00|スリナム/オランダ| |||<就任>ホラント王国領スリナム(オランダ西インド会社)チーフ・コミッショナー「チャールズ・ベントインク」(~18111108)
- 1809年5月4日-09:00|日本|愛知県田原市|文化6年3月20日|<死去>三河田原藩12000石「三宅康友」(46歳)⇒次男「三宅康和」が継ぐ(⇒文政6(1823)年2月8日、死去)
- 1809年5月5日 00:00|イギリス| |||<死去>7代リンジー-伯「デヴィッド・リンジー」
- 1809年5月5日 00:00|イギリス| |||<就任>8代リンジー-伯「パトリック・リンジー」(~18390714死去)
- 1809年5月12日-01:00|オーストリア/フランス| |||フランス軍がオーストリア・ウィーンを占領(~11.20)
- 1809年5月12日 00:00|ポルトガル/フランス/イギリス| |||イギリス軍が、フランス軍からリスボンを奪回
- 1809年5月17日-01:00|イタリア/フランス| |||トリエステをフランスが再占領
- 1809年5月17日-01:00|イタリア/フランス| |||ホレオンがローマを占領しローマ共和国、教皇領とフランスの統合が行われる
- 1809年5月18日-01:00|デンマーク/イギリス| |||イギリス軍がアンホルト島を占領(~18140918)
- 1809年5月18日-09:00|日本|青森県黒石市|文化6年4月5日|<立藩>黒石藩1万石「津軽親足」(⇒文政8(1825)年11月5日、隠居)⇒養子「津軽順承」が継ぐ(⇒天保10(1839)年5月16日、本家弘前藩を継ぐ)
- 1809年5月19日 04:30|ベネチア/スペイン| |||<就任>スペイン領ベネチア総督兼総司令官「Vicente de Emparan y Orbe」(~18100419)
- 1809年5月20日 04:00|キューバ/イギリス| |||<就任>キューバ知事「John Thomas Layard」(~18110618)
- 1809年5月22日-01:00|オーストリア/フランス| |||<ホレオン戦争:アスペルン・エスリンクの戦い>(21日~)オーストリアがフランスに勝利
- 1809年5月23日-01:00|スロベニア/フランス| |||スロベニアをフランスが占領
- 1809年5月28日-01:00|クロアチア/フランス| |||フィウメをフランスが占領(~6.3)
- 1809年5月31日-01:00|オーストリア| |||<去>オーストリアの作曲家ハイドン死/77歳(誕生17320331)

1810迄 (2641件)

- 1809年6月-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>カザン総督「Knyaz' Dmitriy Ivanovich Lobanov-Rostovskiy」(~10月)
- 1809年6月 04:00|ゲレタ/イギリス| |||<就任>ゲレタ 総督代行「エイラム・チャールズ・アディ」(3回目~18100725)
- 1809年6月 04:00|ドミニカ共和国/フランス| |||イギリスの支援を受けたサント・ミンゴのスペイン系クオ・ジョ・フランス軍に叛旗をひるがえす
- 1809年6月1日-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「Sir John Francis Cradock」(~1809.8)
- 1809年6月6日-01:00|スウェーデン| |||<即位>スウェーデン王国国王「カール13世」(~18180205死去)
- 1809年6月6日-01:00|スウェーデン| |||<廃位>スウェーデン王国国王「グスタフ4世」/摂政カールの臨時政府が、三権分立の新憲法を制定
- 1809年6月7日 00:00|イギリス/アフガニスタン| |||アフガニスタンがイギリスと友好条約を締結
- 1809年6月8日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの政論家で著述者ペン/72歳(誕生17370129)「危機」を著した
- 1809年6月9日-05:30|インド| |||<就任>コタケ 国ラジャ「デヴァンマジ・ラニ」(~1811年)
- 1809年6月10日-01:00|パチン/フランス| |||教皇国家はフランスに併合(~18140324)
- 1809年6月13日-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>カザン総督代理「Ernst von Kortum」(~12月)
- 1809年6月13日-09:00|日本|東京都江東区|文化6年5月1日|江戸深川三十三間堂通矢「半堂大矢数」で、渡辺弥三郎(14歳)が11,747本(総矢数13,092中)を記録
- 1809年6月17日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド 総督「ミハイル・アントン・レラス・パークレート・トリ」(~18100201)
- 1809年6月19日 07:00|メキシコ/スペイン| |||<就任>ヌエバ・イスパニャ副王「メキシコ大司教フランシスコ・ハビエル・デ・リサ・イ・ボームント」(~18100508)
- 1809年6月21日-09:00|日本|長崎県五島市|文化6年5月9日|<死去>肥前福江藩12530石「五島盛運」(57歳)⇒次男「五島盛繁」が継ぐ(⇒文政12(1829)年12月24日、隠居)
- 1809年6月26日 00:00|アイルランド/デンマーク| |||<就任>アイルランド 共和国元首「ユルゲン・ユルゲンセン・フンテダクソン」独立宣言(~8.22)
- 1809年6月29日-04:00|ロシア/日本| ||文化6年5月17日|間宮林蔵、樺太が島であることを立証。間宮海峡と名付けられる
- 1809年6月30日 03:00|アルゼンチン/ポルトガル/アイウラガ/アイ/スペイン| |||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「バルザール・イタルゴ・デ・シスネロス・デ・タラ」(~18100523)
- 1809年6月30日 04:00|ポルトリコ/スペイン| |||<就任>ポルトリコ知事兼提督「Salvador Melendez Bruna」(~18200324)
- 1809年7月-01:00|コロチア/フランス| |||<就任>コロチアのフランス執事(カルシュタット)「レタルディ」(~11月)
- 1809年7月 04:00|BES諸島/イギリス| |||<死去>セント・ユースタティウス島知事「Albert van Heyningen, Jr.」
- 1809年7月2日 06:00|アメリカ| |||テクムシガ、インディアンの防衛連合を結成。英国と同盟し、米国を攻撃
- 1809年7月2日-09:00|日本|兵庫県佐用郡佐用町|文化6年5月20日|<交替>播磨三日月藩15000石「森長義」隠居⇒養子「森長篤」が継ぐ(⇒文化13(1816)年閏8月23日、死去)
- 1809年7月3日-02:00|リトアニア| |||<即位>リトアニア大公「ミハイル・イラリオン・イッチ・ゴレニシエフ・クトゥゾフ」(2回目~18120417)
- 1809年7月3日 04:00|ドミニカ国/イギリス| |||<就任>イギリス領ドミニカ総督「エドワード・ハーンズ」(2回目~1812年)
- 1809年7月6日-01:00|オーストリア/フランス| |||<ウラムの戦い>(5日~)ウィーン近郊で皇帝ナポレオン1世率いるフランス軍が、カル大帝率いるオーストリア軍を破る
- 1809年7月6日-01:00|パチン/フランス| |||ナポレオン、教皇領を併合し、教皇ピウス7世を幽閉
- 1809年7月7日 04:00|ドミニカ共和国/イギリス| |||<就任>イギリス軍サマ司令官「ヒュー・ライル・カーマイケル」(~8月)
- 1809年7月7日 04:00|ドミニカ共和国/フランス/イギリス| |||英艦隊、サマを占領、9日にサント・ミンゴの港を占領(~8月)フランスは撤退/クオ・ジョ・共和派はいったん独立共和国を宣言/ふたたびスペインの保護下に入る
- 1809年7月12日-01:00|オーストリア/フランス| |||オーストリアがフランスと休戦
- 1809年7月12日 04:00|ポルトガリア| |||<就任>ポルトガリア国王と町の権利防衛委員会委員長「ペドロ・ド・ミンゴ・ムリヨ」(~9.30)
- 1809年7月13日 00:00|セカル/イギリス| |||<就任>イギリス領セカル総督「チャールズ・ウィリアム・マクスウェル」(~1811年)
- 1809年7月13日 00:00|セカル/イギリス/フランス| |||フランス領セカルをイギリスが占領(1800年からゴレで~18170125)
- 1809年7月13日-04:00|ロシア/日本| ||文化6年6月|幕府、樺太を北蝦夷と改称
- 1809年7月16日 04:00|ポルトガリア/スペイン| |||チュキカ(旧ララタ)で独立をめざす蜂起/メスティンの軍人「ペドロ・ド・ミンゴ・ムリヨ」による独立宣言
- 1809年7月23日-09:00|日本|東京都多摩市|文化6年6月11日|<初演>「阿国御前化粧鑑」[作・四代目鶴屋南北,原・山東京傳「浮牡丹金傳」]初代尾上松助、森田座
- 1809年7月28日-01:00|スロベニア/フランス| |||<就任>フランス領スロベニア総督「バラグ・イ・デ・リエ伯爵」(~同年)
- 1809年7月28日-01:00|スペイン/フランス/イギリス| |||ウェルズリー将軍のイギリス軍・スペイン反乱軍が、トラウエラの戦いでフランス軍を破る/ウェルズリー将軍はこの功績でウェリントン公になる
- 1809年7月29日-09:00|日本|鹿児島県鹿児島市|文化6年6月17日|<交替>薩摩藩72万8700石「島津齊宣」隠居⇒長男「島津齊興」が継ぐ(⇒嘉永4(1851)年2月2日、隠居)
- 1809年7月30日-09:00|日本|福井県福井市|文化6年6月18日|<死去>松平重富(62歳)前越前福井藩主
- 1809年8月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「ジョン・スミス」(~10月)ケト公の下で
- 1809年8月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「John Smith」(~10月)
- 1809年8月 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユースタティウス島知事代理「William Charles Mussenden」(~18100221)
- 1809年8月2日-09:00|日本|東京都|文化6年6月21日|<死去>桂川甫周(59歳)奥医師、蘭学者

1810迄 (2641件)

- 1809年8月4日-04:00|モリス/イギリス| |||<就任>イギリスのドミナス島司令官「ヘンリー・シー・キーティング」(~1810年12月)
- 1809年8月4日-04:00|モリス/イギリス| |||ドミナス島をイギリスが占領(~1810年12月)
- 1809年8月8日-09:00|日本|京都府京都市|文化6年6月27日|<死去>上田秋成(76歳)読本作者、歌人、俳人、茶人、国学者
- 1809年8月8日-09:00|日本|千葉県安房郡鋸南町|文化6年6月27日|<死去>酒井忠鄰(63歳)前安房勝山藩主
- 1809年8月9日 06:00|アメリカ/イギリス| |||マティソン大統領、イギリスに対する通商断絶法の更新を宣言
- 1809年8月10日-01:00|スペイン/エカトル| |||ファン・ピオ・モントウアルを先頭とするキートのクリオリョ、フェルディナントの名において独立を宣言、自治委員会が成立
- 1809年8月13日-05:00|パキスタン| |||<死去>パハワル国ナワブ・アミール「モハマト・パハワル・カン2世」
- 1809年8月13日-05:00|パキスタン| |||<就任>パハワル国ナワブ・アミール「サテケ・モハマト・カン2世」(~18260417没)
- 1809年8月14日-05:30|インド| |||<就任>マルコト国支配者(ナワブ)「ムハンマト・ワズル・アリ・カーン」(~18210904没)
- 1809年8月14日-02:00|モザンビーク/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領モザンビーク総督・総司令官「アントニオ・マヌエル・デ・メロ・カストロ・エ・メントンサ」(~18120828)
- 1809年8月15日-09:00|日本|愛媛県松山市|文化6年7月5日|<死去>伊予松山藩15万「松平定則」(17歳)⇒弟「松平定通」が継ぐ(⇒天保6年5月29日(18350624)、死去)
- 1809年8月16日 05:00|エカトル/スペイン| |||<就任>スペイン領キ自治政府議会議長「セルバ・アレグレ侯爵ファン・ピオ・デ・モントウ・ファ・イ・ラリア・ス・ルバノ」(~9.22)
- 1809年8月20日-09:00|日本|福井県福井市|文化6年7月10日|足羽郡勝見村から出火、城下へ延焼、侍屋敷・町家など252軒焼失
- 1809年8月21日-04:00|ロシア/日本| ||文化6年7月11日|間宮林蔵が黒竜江地方のデルンに至り、海峡(間宮海峡)を確認
- 1809年8月22日 00:00|アイスランド/デンマーク| |||<就任>アイスランド 総督代行「マグヌス・オラフソン・ステファンセン」デンマークによるアイスランド支配が復元(~18100727)
- 1809年8月24日-05:30|インド| |||カンガラ砦がシーク教徒に占領される
- 1809年9月3日-01:00|スペイン/コロンビア| |||キの独立政権、スペイン軍に無血降伏
- 1809年9月3日 00:00|イギリス| |||<死去>コグエンリー伯「ジョージ・ウィリアム・コグエンリー」
- 1809年9月3日 00:00|イギリス| |||<就任>コグエンリー伯「ジョージ・ウィリアム・コグエンリー」(~18310326死去)
- 1809年9月7日-07:00|タイ| |||<死去>チャクリ王朝国王「ラーマ1世」フットヤートファーチュラーローク(チュラーローク/鄭華)」72歳
- 1809年9月7日-07:00|タイ| |||<即位>チャクリ王朝国王「ラーマ2世」フットラーナハ・ラーイ(ルトラナハ・ラーイ/鄭佛)」(~18240721死去)
- 1809年9月7日 04:00|アンティグア・バブーダ/イギリス| |||<就任>リワード・カリブー諸島総司令官・総督代行「ジョン・ジュリアス」(1回目~18100720)
- 1809年9月8日-09:00|日本|愛知県犬山市|文化6年7月29日|<交替>尾張犬山藩35000石(尾張藩附家老)「成瀬正典」隠居⇒四男「成瀬正壽」が継ぐ(⇒天保9(1838)年10月27日、死去)
- 1809年9月10日-09:00|日本|福井県大野市|文化6年8月1日|大野藩主土井利義の隠居をめぐって、大野町で激しい百姓一揆「大野大乱」おこる
- 1809年9月15日 06:00|ベリーズ/イギリス| |||<就任>ベリーズ 居留地管理者(ジャマイカの知事に従属)「ジョン・ニュージント・ミス」(~18140720)
- 1809年9月17日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<即位>フィンランド 大公「ロシア皇帝アレクサンドル1世」(~18251201死去)
- 1809年9月17日-02:00|フィンランド/スウェーデン/ロシア| |||ロシア暦9月5日|ロシアがスウェーデンからフィンランド 全土とオーランド 諸島を獲得する(フレリクスハムの和平条約)
- 1809年9月17日-09:00|日本|大阪府岸和田市|文化6年8月8日|<死去>岡部長住(70歳)前和泉岸和田藩主
- 1809年9月18日 00:00|イギリス| |||英ロンドンの歌劇場「ロイヤル・オペラハウス」再建後初公演。値上げも不評で戻す事に
- 1809年9月18日 04:00|チリ| |||チリのサンティアゴで自治委員会が設立
- 1809年9月21日-09:00|日本|岡山県岡山市|文化6年8月12日|<死去>木下利忠(72歳)前備中足守藩主
- 1809年9月22日 05:00|エカトル/スペイン| |||<就任>スペイン領キ自治政府議会議長「セルバ・フロリダ伯ファン・セルゲロ・イ・マテウ」(~10.24)
- 1809年9月23日-01:00|ボスニア・ヘルツェゴビナ/トルコ| |||ヨヴァン・ヤンッチ=サラジリヤ率いるボスニアの地方反乱(~10月)
- 1809年9月25日-04:00|ルネオン| |||<死去>ポナルト島知事「Nicolas Ernault de Regnac des Brulys」
- 1809年9月28日 04:00|モントセロ/イギリス| |||<就任>イギリス植民地モントセロ副総督「Samuel Edward Steward」(~1833年)
- 1809年9月30日-01:00|オランダ/イギリス| |||7月30日にポント王国に上陸したイギリス軍が敗退し、海上に逃れる
- 1809年9月30日 04:00|ボリビア| |||<就任>ボリビア聴聞庁長官「ヒセンテ・ニエト・デ・ラス・ビニャス・イ・ガルスア・サンチェス・デ・ハレンシア・イ・ゴンザレス」(~18101113)
- 1809年9月30日 06:00|アメリカ| |||W. H. ハリソン、ネティグ・アメリカと条約を結び、約300万エーカーを購入
- 1809年9月30日-09:00|日本| ||文化6年8月21日|<死去>天竜道人(92歳)画家
- 1809年10月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「アレックス・マッケンジー・フレザー」(~11月)ケント公の下で
- 1809年10月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「Alex McKenzie Fraser」(~18100816)
- 1809年10月 03:00|仏領ギアナ/ポルトガル/ブラジル| |||<就任>ポルトガル/ブラジルのギアナ知事「Pedro Alexandrino Pinto de Sousa」(~1812.2)
- 1809年10月1日-01:00|サンマリノ| |||<就任>サンマリノ共和国執政「マリア・ノ・ベ・ケニ」「ジョヴァンニ・マルベリ」
- 1809年10月2日-09:00|日本|大阪府高槻市|文化6年8月23日|<交替>摂津高槻藩36000石「永井直進」隠居⇒長男「永

1810迄 (2641件)

井直与が継ぐ(⇒天保13(1842)年11月18日、隠居)

- 1809年10月2日 13:00|日本| ||文化6年8月23日|<文化6年関東一帯暴風雨>夜亥の刻(22時ごろ)から翌日にかけて大風で神社、仏閣、武家屋敷から町家、江戸近郷の民家の多くが破損。大木も多く吹き倒された/東海道筋の松並木も上総、下総、相模の民家も樹木も吹き倒され、多くの人が死亡/江戸へと向かう諸国の廻船、伊豆や房総の漁船の多くが転覆し、大勢死亡
- 1809年10月4日 00:00|イギリス| |||<辞任>イギリス連合王国第20代首相「第3代ホートランド公爵ウイリアム・キャウエンティンク」
- 1809年10月4日 00:00|イギリス| |||<就任>イギリス連合王国第21代首相「スペンサー・パーシヴァル」トリー党(〜18120511死去)
- 1809年10月8日-01:00|オーストリア| |||<就任>オーストリア首相「クレメンス・ウエンツェル・ロタル・グラーフ・フォン・メッテルニヒウ・イェルク」(〜18480313)
- 1809年10月8日 00:00|イギリス| |||<死去>2代アラン伯「アーサー・サンダース・ゴア」
- 1809年10月8日 00:00|イギリス| |||<就任>3代アラン伯「アーサー・サンダース・ゴア」(〜18370120死去)
- 1809年10月9日-04:00|レユニオン| |||<就任>ポナール島知事「Jean Chrysostome Bruneteau de Sainte-Suzanne」(〜18100708)
- 1809年10月9日-09:00|日本| ||文化6年9月|<出版>大阪の春泉斎清秀「二十四輩巡拝図会」
- 1809年10月9日-09:00|日本| ||文化6年9月|<出版>北尾繁昌「狂歌百人一首」
- 1809年10月11日-09:00|日本| ||文化6年9月3日|<死去>辰岡万作(68歳)歌舞伎作者
- 1809年10月14日-02:00|ウクライナ/ロシア/ポーランド| |||西ガリシアはワルシャワ公国に割譲され、タルノボル周辺地域(タルノボラークライスはシェンブール条約(18091020批准)によりロシアに割譲された)
- 1809年10月14日-01:00|オーストリア/フランス| |||オーストリアとフランスの戦争が、シェンブールの和約で終結
- 1809年10月14日-01:00|モンテネグロ/フランス| |||カッチャはイリュリアの一部としてフランスに併合
- 1809年10月14日-01:00|スロベニア/フランス| |||スロベニアをフランスに併合(〜18130929)
- 1809年10月14日-01:00|クロアチア/フランス| |||ダルマチア、フィウメ、ラゲーズはイリュリア地方(イリュエヌ県)の一部としてフランスに併合される
- 1809年10月14日-01:00|イタリア/フランス| |||トリエステはフランスにイリュリア州(トリエステ県)の一部として併合
- 1809年10月14日-01:00|イタリア/オーストリア/フランス| |||トレンティーノ、ティロルがイタリア王国へ編入
- 1809年10月16日-02:00|ギリシャ/イギリス| |||イギリス軍がザンテを占領し、数日後にはケファロニア島、イ・効、セリゴが占領される
- 1809年10月18日-05:30|インド| |||<就任>トリプラーナ国ラジャ「トウルガーマーニキヤ」(〜18130406没)
- 1809年10月25日-03:00|イェメン| |||<死去>ラッシー朝イマム「アルマンスール・アリ1世」
- 1809年10月25日-03:00|イェメン| |||<即位>ラッシー朝イマム「アルムタキル・アフマド」アルマンスール・アリ1世の息子(〜18160909死去)
- 1809年10月25日-01:00|マルタ/イギリス| |||<就任>イギリス領マルタ民事行政長官「Hildebrand Oakes」(18100512まで代理〜18131004)
- 1809年10月30日 00:00|イギリス| |||<死去>3代ホートランド公「ウイリアム・キャウエンティンク」
- 1809年10月30日 00:00|イギリス| |||<就任>4代ホートランド公「ウイリアム・キャウエンティンク」スコット=ベントインク(〜18540327死去)
- 1809年11月-01:00|ジブラルタル/イギリス| |||<就任>イギリス領ジブラルタル総督代行「コリン・キャンベル」(〜18140402)ケント公の下で
- 1809年11月-01:00|クロアチア/フランス| |||<就任>クロアチアのフランス執事(カールシュタット)「トレン男爵レイフィリップ・ジョゼフ・ジ・ロー・ド・ウ・イエニ」(〜1810年11月)、民政・軍政執事(カールシュタット)「フランソワ・ボレスラフ・カシミール・テュヴァルト・シヤスノド・クルセ」(〜1810年)
- 1809年11月 04:00|ポルビア/スペイン| |||リオ・デ・ラ・プラタ副王はアルペルに軍を送り反乱を鎮圧。ムリヨは処刑される
- 1809年11月15日 00:00|イギリス| |||<死去>2代ランス・ダウン侯「ジョン・ペティ」
- 1809年11月15日 00:00|イギリス| |||<就任>3代ランス・ダウン侯「ヘンリー・ペティ=フィッツモリス」先代の弟(⇒18180704兼4代ケリー伯〜18630131死去)
- 1809年11月19日-01:00|スペイン/フランス/イギリス| |||<カニヤの戦い>スペイン領内に侵入した英国・スペイン合同軍は、態勢を立て直したスルト軍に撃破され、その後フランス軍の増援部隊により、ふたたびポルトガル領内に押し込められる
- 1809年11月22日-09:00|日本|東京都江東区|文化6年10月15日|中村歌右衛門、深川浄心寺妙見宮を再建
- 1809年11月22日-09:00|日本|福岡県大牟田市|文化6年10月15日|<死去>立花種周(66歳)前筑後三池藩主、元寺社奉行・若年寄
- 1809年12月-12:00|ニューゼーランド/オーストラリア| |||シドニーを出発したボイト号、ニューゼーランドでマオリに襲われ、約70人の死者をだす
- 1809年12月2日-09:00|日本|東京都墨田区|文化6年10月25日|<大相撲>文化6年10月場所[江戸本所回向院](10日間)優勝:(東大関)柏戸, 7勝1敗2休
- 1809年12月4日-09:00|日本| ||文化6年10月27日|<死去>速水宗達(70歳)茶人
- 1809年12月7日-09:00|日本|東京都|文化6年11月|<完成>北斎, 市村座顔見世興行「貞操花鳥羽恋塚」二番目狂言の招牌一枚画く
- 1809年12月15日-01:00|フランス| |||ナポレオン1世、世襲帝政を志向し、子どもを生まなかったという理由でジョゼフィーヌと離婚
- 1809年12月23日-09:00|日本| ||文化6年11月17日|<死去>6代大橋宗英(54歳)将棋棋士/九世名人
- 1809年12月29日-09:00|日本|和歌山県田辺市|文化6年11月23日|<死去>紀伊田辺藩38000石(紀州藩附家老)「安藤直興(直与)」(20歳)⇒翌年2月29日、兄「安藤直則」が継ぐ(⇒文政6年10月19日(18231121)死去)
- 1810年-13:00|トンガ| |||<死去>トンガ大首長「ファタフエイ・フヌイヤワ」
- 1810年-12:00|ウオリス・ツツ| |||<即位>ウオリス王「Tufele1世」(〜同年死去)⇒「Kulitea」(〜1819年)

1810迄 (2641件)

- 1810年-08:00|マレーシア| |||<死去>アイトゥ統治者(ウンダ・ン・ルアク・アイトゥ)「ダトウク・ランブ・タン・ジヤンタン」
- 1810年-08:00|マレーシア| |||<就任>アイトゥ統治者(ウンダ・ン・ルアク・アイトゥ)「ダトウク・ヌリ」(?)
- 1810年-08:00|マレーシア| |||<就任>ジョホール統治者(ウダ・ンク・ルアク・ジョホール)「ダトウク・ヌリ」(~1820年頃)
- 1810年-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>ベンケルン居住者代表「ウィリアム・Parker」(~1812年)
- 1810年-08:00|インドネシア| |||<即位>シアク・ヌリ・インドラ・ラ・スルタン「Sultan al-Sayyid al-Sharif Ibrahim Abdul Jalil Khaliluddin」(~1815年)
- 1810年-07:00|タイ| |||<即位>ラーマン王国ラジャ「Tuan Tok Nik Tok Leh/Tuan Mansur」(~1836年)
- 1810年-06:00|ブータン| |||<就任>ブータン摂政「ジグメ・ドゥラガ・パ2世」(~1811年)
- 1810年-05:30|インド| |||<就任>コティ国統治者(ライ)「ラル・ド・ウニヤット・シン」(~不明)⇒「ラル・アンフォート・シン」(~1862年没)
- 1810年-05:30|インド| |||<就任>シヨス国統治者(テ・シュムク)「レンカ・パ・イ」(~1822年没)
- 1810年-05:30|インド| |||<就任>ダール国ラジャ「ラムチャンドラ・ラオ2世・パール」(~18331017没)、摂政「マイト・パ・イ・ラジエ・パール」(2回目~1827年)
- 1810年-05:30|インド| |||<就任>ダラワール国摂政「レンカ・パ・イ」(~1822年没)
- 1810年-05:30|インド| |||<就任>トラヴァンコール藩王「ゴウリー・ラクシュミー・パ・イ」(~1815年)
- 1810年-05:30|インド| |||<就任>パガット国統治者(ラ)「ダ・レル・シン」(~1821年)
- 1810年-05:30|インド| |||<就任>パトラー国ラジャ「ハール・チャンド」(~1821年6月)
- 1810年-05:30|インド| |||<就任>マユルハニ国摂政「ラニ・ジャムナ・デウイ」(~1813年)
- 1810年-05:30|インド| |||<就任>マリア国統治者(タロ・サハブ)「サジ・ド・ウサジ」(~不明)⇒「ムルウ・アジ・サジ」(~1875年)
- 1810年-05:30|インド| |||<即位>パティアラ国統治者(マハラジャ・エ・ラジガン)「サヒブ・シン」(~18130326)
- 1810年-05:30|インド/イギリス| |||ジグメニ国はイギリス保護領
- 1810年-04:00|アゼルバイジャン| |||<就任>ナフチアン汗国ハン「アッハス・ケリ・ハン」(5度目~1812年)
- 1810年-03:00|パレールン| |||<就任>パレールン支配者(ハキム)「アブド・ラ・ヒン・ウファイサン(デイルイヤ総督)」(~1811年)
- 1810年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>バグダットのベイ及びワリス「アブド・ラ・パ・シャ」(~1813年2月)
- 1810年-03:00|イラク/トルコ| |||<就任>ハスラのムテッサリフ「アムト・パ・イ」(~1811年)
- 1810年-03:00|イェメン| |||<即位>上ヤファ・サルタン「Umar ibn Qahtan ibn Umar Al Harhara」(~1815年)
- 1810年-02:00|ウクライナ/ロシア| |||<就任>キエフ軍総督兼キエフ行政区域民事主席管理者「Mikhail Andreyevich Miloradovich」(~1818. 8)
- 1810年-02:00|モザンビーク| |||<就任>サクル首長「モリテ・イ・ウスマン」(~1822年)
- 1810年-02:00|シリア・アラブ/トルコ| |||<就任>ダマスカス・ワリス(総督)「Suleyman Pasha al-Adil」(1期目~1812年)
- 1810年-02:00|ジンバブエ| |||<就任>ムベレ統治者(マンボ)「スガ・オスウ・エ・ニヤロ」(~1835年頃)
- 1810年-02:00|コンゴ民主共和国| |||<即位>カバ王国ニミ「ミコ・ムム・ル」(~1840年)
- 1810年-02:00|ルーマニア/ロシア| |||トブルジャをロシアが占領(~同年)
- 1810年-01:00|アルバニア| |||<死去>スクタリ・パシャ国パシャ「Ibrahim Bushati」
- 1810年-01:00|ニジェール| |||<就任>アイル国統治者(アメリカ)「ムハンマド・アト・タ・ニ」(~1815年)
- 1810年-01:00|アルバニア/トルコ| |||<就任>イシュコラのワリス「ムスタファ・レシット・パシャ・ブシャティ」パトのパシャ(~18311009)
- 1810年-01:00|クロアチア/フランス| |||<就任>クロアチア民政・軍政執事(カールシュタット)「コンタデ・ス伯マリ・メー」(~1811年6月)
- 1810年-01:00|ドイツ| |||<就任>リッペ=ヒェステルフェルト侯「Ernst」(~1840年)
- 1810年-01:00|カホン| |||<即位>オルンク王国国王「オグリ・イツク・ウエ・ムロ」(~1840年)
- 1810年-01:00|アルバニア| |||<即位>スクタリ・パシャ国パシャ「Mustafa Sherifi」(~1831年)
- 1810年-01:00|スペイン/イギリス| |||メラをイギリスが占領したが、スペイン政権が続く(~18140530)
- 1810年 00:00|シエラレオネ| |||<死去>パナ諸島首長「ステイブン・カーカー」
- 1810年 00:00|セカール| |||<就任>サルム統治者(フル・サルム)「ンデネ・ジャクサ・ン・ジエ」(~1817年)
- 1810年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>シェンジ首長「ジョーン・ステイブン・カーカー1世」父親であるプランタンのステイヴン・カーカー(シェン族長)から旧カボロ族長の座を与えられた(~1831年没)
- 1810年 00:00|シエラレオネ| |||<就任>パナ諸島首長「トマス・ステイブン・カーカー」(~1820年)
- 1810年 00:00|セカール| |||<就任>ワタ・ト・ロ統治者統治者(アルマニ)「ボカル・ラミン・パ・ル」(~1812年)
- 1810年 00:00|セカール| |||<就任>ワロ統治者(フラク)「クリム・バ・バ・ムボジ」(~1816年)
- 1810年 04:00|アンティグア・バ・ブータン| |||<就任>アンティグア大統領「ジョン・ジュリアス」(~1815年)
- 1810年 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス総督「Sir George Beckwith」(~1815年)
- 1810年 04:00|BES諸島| |||<就任>サバ島副知事「Edward Beaks, Sr.」(~1816年)
- 1810年 06:00|アメリカ/スペイン| |||<就任>スペイン領西フロリダ植民地暫定総督「フランシスコ・コレル」(~1811年)
- 1810年 06:00|ホンジュラス/スペイン| |||<就任>ホンジュラス州暫定総督補佐「カルロス・マリア・カスタンニオン」(~1812年)
- 1810年 06:00|アメリカ| |||カメハメハ王朝がハワイ諸島統一
- 1810年1月-01:00|セルビア| |||<就任>革命セルビア管理評議会会長「ヤコフ・ネドウイチ」(~18110122)
- 1810年1月 04:00|フォーランド/スペイン| |||<就任>スペイン領フォーランド諸島司令官・総督「Pablo Guillen Martinez」(~18110213)
- 1810年1月1日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||<就任>ニューサウスウェールズ植民地総督「ラックラン・マッコーリー」(~18211201)
- 1810年1月1日-01:00|スイス| |||<就任>スイス連合評議会議長「ニコラウス・ルトルフ・フォン・ワッテンウィル」Mod(2期目~12. 31)
- 1810年1月6日-01:00|フランス/スウェーデン| |||スウェーデンがフランスとパリ条約を結び、大陸封鎖体制に加入
- 1810年1月6日-09:00|日本|東京都千代田区|文化6年12月1日|有栖川宮熾仁親王の娘樂宮が徳川家慶(家齊の第4子で、のちの12代将軍)に降嫁
- 1810年1月8日-09:30|オーストラリア| |||タスマニア最初の新聞、『ターウェント・スター・アント・ザ・ヴァン・デ・イーマンス・ランド・インテリジエンサー

1810迄 (2641件)

』、ハートで創刊

- 1810年1月9日 04:00|トリニダード・トバゴ/イギリス| |||<就任>トリニダード 知事代行「ヘンリー・ダンバー・トリー」(~18110425)
- 1810年1月10日-09:00|日本|長野県|文化6年12月5日|信濃国の紙問屋一揆
- 1810年1月23日-01:00|ドイツ| |||<死去>ドイツの化学者ウイリアム・リッター (17761216~) 1801年に「紫外線」発見
- 1810年1月25日-11:30|ノーフォーク島/オーストラリア| |||<就任>ノーフォーク島司令官「Tankerville Alexander Crane」(~18130218)
- 1810年1月30日 00:00|カリブ諸島/スペイン| |||<就任>スペイン王国カリブ諸島総司令官「Ramon de Carvajal y Castaneda」(~同年)
- 1810年1月30日-09:00|日本| ||文化6年12月25日|水戸光圀によって着手された『大日本史』が一部を除き完成
水戸藩主徳川治紀が全397巻を幕府に献上→最終稿完成は250年後の1906年(明治39年)
- 1810年2月-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>モルッカ諸島イギリス軍司令官「Samuel Kelly」(~18111221死去)
- 1810年2月-08:00|インドネシア/イギリス| |||イギリスはモルッカ諸島を占領(~1817. 4)
- 1810年2月1日-01:00|オランダ/フランス| |||ウオルヘンをフランスが併合
- 1810年2月1日-01:00|スペイン/フランス| |||フランス軍が、スペイン南部のセビリヤを占領
- 1810年2月4日-09:00|日本|新潟県上越市|文化7年|<交替>越後高田藩15万石「榊原政敦」隠居⇒長男「榊原政令」が継ぐ(⇒文政10(1827)年、隠居)
- 1810年2月4日-09:00|日本| ||文化7年1月|<出版>宇多川国麿「画図戯場三体誌」
- 1810年2月4日-09:00|日本| ||文化7年1月|<出版>喜多武清「歌仙絵抄」
- 1810年2月4日-09:00|日本| ||文化7年1月|<出版>勝川春扇「身振いろはげみ」
- 1810年2月4日-09:00|日本| ||文化7年1月|<出版>辰斎・北鷺・北馬・北尾重政・長谷川雪旦等「狂歌千もとの華」
- 1810年2月4日-09:00|日本| ||文化7年1月|<出版>東西庵南北、青本「筆始日出松」(歌川豊広の子息金蔵が僅か十二歳にして画)芝の甘泉堂
- 1810年2月5日-01:00|スペイン/フランス| |||フランス軍が、スペインのマカを占領
- 1810年2月6日 04:00|グアテマラ/イギリス| |||<就任>グアテマラ 知事「Sir George Beckwith」(~7.10)
- 1810年2月6日 04:00|グアテマラ/イギリス| |||イギリスがグアテマラを占領(~18141207)
- 1810年2月7日-09:00|日本|東京都墨田区|文化7年1月4日|江戸妙縁寺類焼
- 1810年2月10日-09:00|日本|石川県|文化7年1月7日|<死去>前田治脩(66歳)前加賀藩主
- 1810年2月12日 00:00|ジャバネシア/イギリス| |||<就任>イギリス王領ジャバネシア植民地総督「エドワード・ヘンリー・コロンバイン」(~18110430)
- 1810年2月15日 04:00|セント・マルテン/サン・マルタン/イギリス| |||イギリスがサン・マルタン全島占領(~18150124)
- 1810年2月15日 05:00|エクアドル/スペイン| |||<就任>スペイン領トコパネ総督・議長「ホアキン・デ・モリナ・イ・スレタ(クエンカ)」(~18120709)
- 1810年2月16日-01:00|ドイツ| |||<即位>フランクフルト大公「カール・テオドール・フォン・ダールベルク」マインツ大司教領、アッシュフェンブルク、グエツラ、フルダ、ハーナウ、フランクフルトを統合(~18131026)
- 1810年2月17日-02:00|ギリシャ| |||ギリシャ・イカリオン(マルタ島)地震M7. 8、死者2千
- 1810年2月19日-08:00|インドネシア/オランダ| |||<死去>アンボン島オランダ王国総督「Jean-Philippe-Francois Filz」
- 1810年2月19日-08:00|インドネシア/イギリス| |||<就任>アンボン島イギリス総督「エドワード・Tucker」(~6月)
- 1810年2月19日-08:00|インドネシア/イギリス| |||イギリスがアンボンを占領(ペナガルに従属)(~18170325)
- 1810年2月19日 03:00|ブラジル/イギリス| |||ブラジルが、対イギリス通商友好条約を締結
- 1810年2月21日 04:00|BES諸島/イギリス| |||<就任>セント・ユースタティウス島司令官「Thomas Barrow」(⇒1812. 11、知事~1816年)、知事代理「Scott」(~1811年)
- 1810年2月21日 04:00|BES諸島/イギリス| |||セント・ユースタティウス島をイギリスが占領(~18160201)
- 1810年2月21日-09:00|日本|埼玉県川越市|文化7年1月18日|<死去>武蔵国川越藩15万石「松平直恒」(49歳)⇒次男「松平直温」が継ぐ(⇒文化13(1816)年7月28日、死去)
- 1810年2月22日 04:00|BES諸島/イギリス| |||サバ島をイギリスが占領(~18160222)
- 1810年2月23日 00:00|カナダ/オランダ| |||<就任>オランダ領ゴールト=コースト司令官「アブラハム・デ・ビア」(~18160301)
- 1810年2月25日-09:00|日本|熊本県熊本市|文化7年1月22日|<死去>熊本新田藩35000石「細川利国」(27歳)⇒弟「細川利愛」が継ぐ(⇒天保4(1833)年11月8日、隠居)
- 1810年2月28日-09:00|日本| ||文化7年1月25日|<死去>唐来参和(67歳)戯作者、狂歌師
- 1810年3月3日-02:00|フィンランド/ロシア| |||<就任>ロシア領フィンランド 総督「フアビアン・ゴットホルド・フォン・シュタインハイム」(1823年から代行~18240322)
- 1810年3月3日-01:00|フランス| |||フランスで、国事犯監獄の制度が復活
- 1810年3月4日-08:00|フィリピン/スペイン| |||<就任>スペイン領フィリピン総督「マヌエル・ゴンサレス・デ・アギラール」(~18130904)
- 1810年3月5日-01:00|スペイン| |||<就任>スペイン領セウタ総督「Jose Maria de Alos」(~18130220)
- 1810年3月5日-09:00|日本| ||文化7年2月|<刊行>蘭学者、藤林普山、蘭日辞書「訳鍵」
- 1810年3月7日 04:00|マルティニーク/イギリス| |||<就任>フランス領マルティニーク総司令官「Sir John Broderick」(~18110606)
- 1810年3月8日-01:00|オランダ/フランス| |||<就任>オランダ王国首席大臣(閣僚評議会議長)「ジェイクフ・ヤン・キャンビア」(~12. 31)
- 1810年3月10日 00:00|イギリス| |||<死去>イギリスの化学者、物理学者ヘンリー・キャベンディッシュ/78歳(誕生17311010)水素を発見、静電気の研究
- 1810年3月15日-09:00|日本|岡山県新見市|文化7年2月11日|<死去>関長誠(66歳)前備中新見藩主
- 1810年3月16日-01:00|ベルギー/フランス| |||ドング川の西にあるオランダ王国のブラバント県がフランスに併合され、フレタ地区としてドゥーネートに併合される

1810迄 (2641件)

- 1810年3月19日-09:00|日本|東京都中央区|文化7年2月15日|<大相撲>文化7年2月場所[江戸山王御旅所茅場町薬師] (10日間)優勝:(西大関)雷電, 9勝0敗1無勝負
- 1810年3月29日-04:00|アゼルバイジャン/ロシア| ||ナフパンはロシアに併合
- 1810年3月30日 00:00|イギリス| ||<死去>2代コータウン伯「ジェームズ・ストップフォード」
- 1810年3月30日 00:00|イギリス| ||<就任>3代コータウン伯「ジェームズ・ジョージ・ストップフォード」(~18350615死去)
- 1810年4月-02:00|ウクライナ/ロシア| ||<就任>ガリシア総督代理「Georg Oechsner」(~3日)
- 1810年4月 03:00|ウルグアイ/スペイン| ||<就任>モンテビデオ総督「Joaquin de Soria Santa Cruz」(~18101007)
- 1810年4月 10:00|ハワイ| ||カアイ島はハワイ諸島王国に割譲
- 1810年4月1日-01:00|サンマリノ| ||<就任>サンマリノ共和国執政「ドゥイコ・ベッツイ」 「マリア・ジュゼッパ・マルベリ」
- 1810年4月2日-01:00|フランス/オーストリア| ||オーストリアの皇女マリー・ルイーゼ (18) との結婚式
- 1810年4月3日-02:00|ウクライナ/ロシア| ||<就任>ガリシア総督「Peter Graf von Goess」(~1815.4)
- 1810年4月4日-09:00|日本| ||文化7年3月|<出版>歌川国房「相生百人一首姫鏡」
- 1810年4月4日-09:00|日本| ||文化7年3月|天文方高橋景保(間重富・馬場佐十郎ら協力)「万国全図」完成
- 1810年4月6日-02:00|ギリシャ/イギリス| ||イギリス軍がサンタ・マウラを占領
- 1810年4月7日 00:00|チャネル諸島/イギリス| ||<就任>イギリス王領ガーンジー-島管理人「Peter de Havilland」(~18210414死去)
- 1810年4月8日-04:00|ジョージア/ロシア| ||ゲリア公国はロシアの保護領
- 1810年4月13日-09:00|日本|愛媛県大洲市|文化7年3月10日|<交替>伊予新谷藩1万石「加藤泰賢」隠居⇒長男「加藤泰儔」が継ぐ(⇒天保2(1831)年3月15日、隠居)
- 1810年4月13日-09:00|日本|大分県速見郡日出町|文化7年3月10日|<交替>豊後日出藩25000石「木下俊懋」隠居⇒次男「木下俊良」が継ぐ(⇒文化12(1815)年10月17日、21歳で死去)
- 1810年4月13日-09:00|日本|福井県大野市|文化7年3月10日|<交替>越前大野藩4万石「土井利義」隠居⇒養子「土井利器」が継ぐ(⇒文政元(1818)年5月17日、死去)
- 1810年4月14日-08:00|イントネリア/東ティモール/ポルトガル| ||<就任>ティモール知事代行「アントニオ・ホセ・ホム・ベッラルデス・ペソア」(~同年)⇒「統治ジュンタ(フレ・セルダ・アマシソン/ケレゴ・リオ・ロドリゲス・ペレイラ/ホキン・アントニオ・トウアルテ・ダ・シルバ・ペロ)」(~18120307)
- 1810年4月19日 04:30|ベネチア/スペイン| ||<就任>スペイン領ベネチア総督兼総司令官「Fernando Miyares y Gonzales」(~18120622)
- 1810年4月19日 04:30|ベネチア| ||<就任>ベネチア臨時政府主席「Jose de las Llamosas」(~8月)
- 1810年4月19日 04:30|ベネチア| ||カカスで革命委員会設立され、ベネチア武装独立運動始まる(~18231108)
- 1810年4月22日-09:00|日本|東京都中央区|文化7年3月19日|<死去>初代竹本住太夫(不明)浄瑠璃太夫/2代目竹本政太夫の門弟
- 1810年4月24日-01:00|オランダ/フランス| ||ブラバントをフランスが併合
- 1810年4月27日-01:00|ドイツ| ||ベートーヴェンがピアノ曲「エリゼのために」作曲(テレゼ・マルファッチに贈られた曲?)
- 1810年4月28日-05:30|イントネ| ||<死去>ベンガル太守「ハール・アリー・ハーン」
- 1810年4月28日-01:00|フランス| ||フランスで刑法典が公布される
- 1810年4月29日-09:00|日本|大阪府和泉市|文化7年3月26日|<死去>和泉国伯太藩13500石「渡辺春綱」(33歳)⇒6月2日、弟「渡辺則綱」が継ぐ(⇒文政11(1828)年11月7日、隠居)
- 1810年5月-02:00|ルーマニア/ロシア| ||<就任>モルダヴィアとワラキアのデュークのロシア議長「ウァシリイ・ワノヴィッチ・クラスノミラシエヴィチ」(~1812年11月)
- 1810年5月1日 06:00|アメリカ| ||アメリカで、第2メコン法が制定される/すべての通商を禁止するが仮にイギリスとフランスのどちらかがアメリカの船舶に対する干渉を止めれば合衆国はもう一方への通商禁止を強化する
- 1810年5月3日 00:00|カリヤ諸島/スペイン| ||<就任>スペイン王国カリヤ諸島総司令官「Diego de Canas y Portocarrero」(~1811年)
- 1810年5月8日 07:00|メキシコ/スペイン| ||<就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「ペドロ・カネ(アデューンシア大統領)」(~9.14)
- 1810年5月10日-05:30|イントネ| ||<就任>ラジビプ王国統治者(ラジャ・マハラ)「ナルシンジ」(~18210809)
- 1810年5月20日-09:00|日本|京都府京都市東山区|文化7年4月18日|紀州藩小田金吾(11歳)。京都三十三間堂で半堂総矢数11,910本の内11,760本を通し天下ー
- 1810年5月22日 05:00|コロンビア| ||コロンビアのカタナで、スペイン本国支配に対抗革命的フタガ成立
- 1810年5月23日-04:00|ジョージア/ロシア| ||イメリティはロシア帝国へ編入
- 1810年5月23日 03:00|アルゼンチン/ポルトガル/ブラジル/ウルグアイ/スペイン| ||<解任>リオ・デ・ラ・プラタ総督「バルタザール・イタルゴ・デ・シスネロス・タウ」五月革命により本国から解任
- 1810年5月23日 03:00|アルゼンチン/ポルトガル/ブラジル/ウルグアイ/スペイン| ||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ州暫定統治評議会議長「フエンスアイレス市議会」(~24日)
- 1810年5月24日-01:00|ドイツ| ||<初演>ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン《劇音楽「エグモント」》
- 1810年5月24日 03:00|アルゼンチン/ポルトガル/ブラジル/ウルグアイ/スペイン| ||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ州暫定統治評議会議長「バルタザール・イタルゴ・デ・シスネロス・タウ」(~25日)
- 1810年5月25日 03:00|アルゼンチン/ポルトガル/ブラジル/ウルグアイ/スペイン| ||<就任>リオ・デ・ラ・プラタ州暫定統治評議会議長「コネリウス・ユダス・タテウス・デ・サウ・エドゥアード・リゲス」(~18110923)
- 1810年5月25日 03:00|アルゼンチン| ||ベルグラーノ将軍にひきいられた革命軍、ヌエバ・イスパニヤでの副王軍との戦闘に勝利。実権を獲得(5月革命)、スペインから独立宣言、臨時のフエンスアイレス自治評議会(プリマ・フンタ)コネリウス・サペドらの管理となる(~18110826)

1810迄 (2641件)

- 1810年6月-08:00|インド/ネパール/イギリス| |||<就任>アンボン島イギリス総督「M. ヘンリー・Court」(~1811. 2)
- 1810年6月2日 00:00|イギリス| |||<死去>12代ロイス女伯「シエン・エリザベス・レスリー」
- 1810年6月2日 00:00|イギリス| |||<就任>13代ロイス伯「ジョージ・ウィリアム・イヴリン・レスリー」先代の息子(~18170211死去)
- 1810年6月4日-01:00|ドイツ| |||<就任>プロシヤ王国首相「カール・アウグスト・フォン・ホルンボルク」(~1822. 6)
- 1810年6月4日-09:00|日本|東京都中央区|文化7年5月3日|<死去>十代目中村勘三郎(中村座座主)
- 1810年6月5日-05:30|インド| |||<就任>ベンガル太守「サミュエル・アラー・ハーン」(~18210806死去)
- 1810年6月12日-04:00|ロシア| ||ロシア暦11月6日|<就任>全ロシア国務院議長・閣僚委員会委員長「ゲラフ・ニコライ・ペトローヴィチ・ルミヤンツェフ」(~18120401)
- 1810年6月12日-09:00|日本|東京都中央区|文化7年5月11日|<死去>大屋裏住(77歳)狂歌師
- 1810年6月13日-02:00|ルーマニア| |||<廃位>モルダヴィア公「スカラツ・カリマキ」ロシアにより
- 1810年6月15日-09:00|日本|兵庫県たつの市|文化7年5月14日|<死去>脇坂安親(73歳)前播磨龍野藩主
- 1810年6月15日-09:00|日本|福島県いわき市|文化7年5月14日|<死去>陸奥磐城平藩6700石「安藤信成」(68歳)⇒次男「安藤信馨」が継ぐ(⇒文化9(1812)年10月22日、死去)
- 1810年6月16日 04:00|バミューダ/イギリス| |||<就任>イギリス直轄植民地バミューダ総督代理「サミュエル・トロット」(~18110831)
- 1810年6月23日 06:00|アメリカ| |||ジョン・ジェイコブ・アスター、太平洋毛皮会社設立
- 1810年6月28日-01:00|フランス| |||<死去>ジョゼフ・モンゴルフィエ/69歳(誕生17400826)無人熱気球を開発したフランス
- 1810年7月-01:00|フランス/ポルトガル| |||フランス軍がポルトガルのシダート・ド・トリゴを占領
- 1810年7月1日-01:00|オランダ/フランス| |||<即位>ポルト王国国王「ロデウエイク2世(ホレオン・ルイ・ホナルト)」ハルク大公・ルイ・ホナルトの次男・ホレオン3世の兄(~13日、ポルト王国はフランス帝国に併合)
- 1810年7月1日-01:00|オランダ/フランス| |||<廃位>ポルト王国国王「ロデウエイク1世(ルイ・ホナルト)」
- 1810年7月3日-01:00|オランダ/フランス| |||<就任>ポルト王国摂政代行「ハウルス・ヤコブ・ファン・テル・ハイム(摂政暫定評議会議長)」(~13日)
- 1810年7月3日-09:00|日本|静岡県掛川市|文化7年6月2日|<死去>遠江掛川藩5万石「太田資言」(29歳)⇒婿養子「太田資始」が継ぐ(⇒天保12(1841)年6月3日、隠居)
- 1810年7月4日 05:00|コロンビア| |||アグエ・カリヤルト・デ・ビリヤミヤルの指導するパンプ・ウの議会、独立を宣言
- 1810年7月6日-03:00|マダガスカル| |||<死去>メリタ王国君主「アンチ・アナン・イメリタ」
- 1810年7月6日-03:00|マダガスカル| |||<即位>マダガスカル王国君主「ラマ1世」(~18280727死去35歳)
- 1810年7月6日-09:00|日本|山梨県|文化7年6月5日|<死去>木喰(93歳)仏教行者、仏師/1,000体以上の木彫仏を残した
- 1810年7月7日-04:00|レユニオン/イギリス| |||<就任>ポナルト島知事「Henry Sheehy Keating」イギリス司令官(~7. 9)
- 1810年7月7日-01:00|アンゴラ/ポルトガル| |||<就任>ポルトガル領西アフリカ総督「リオ・コンプリト・子爵ホセ・デ・オリヴェイラ・バルサ」(~18160703)
- 1810年7月9日-04:00|レユニオン/イギリス| |||<就任>ポナルト島知事「Robert Townsend Farquhar」イギリス(1期目~12. 20)
- 1810年7月9日-04:00|レユニオン/イギリス| |||イギリスがポナルト島占領(~18150405)
- 1810年7月10日-04:00|ジョージア| |||<就任>アフハズ公「サファル・アリ・ベイ(1810年から、ギオルジ1世)」(~18211113)
- 1810年7月10日-04:00|ジョージア/ロシア| |||ロシアはスフム(スミ)を占領しアフハズはロシアの保護領となる
- 1810年7月10日 04:00|グアドループ/イギリス| |||<就任>グアドループ 暫定知事「Sir Hugh Lyle Carmichael」(~8. 30)
- 1810年7月11日-09:30|オーストラリア/イギリス| |||マッコリー島はフレデリック・ハッセルローによって英国領土宣言、ニューサウスウェールズに併合
- 1810年7月13日-01:00|オランダ/フランス| |||<就任>フランス領オランダ 総督「ブルザン公爵シャルル・フランソワ・ルブラン」(~18131120)
- 1810年7月13日-01:00|オランダ/フランス| |||ポルト王国がフランスに併合される
- 1810年7月16日 04:00|チリ/スペイン| |||<就任>チリ総督・司令官代行「コンキスタ伯爵マリオ・デ・トロザン・ラノ・イ・ウルタ」(~9. 18)
- 1810年7月20日-05:30|インド| |||ジャワ島条約によりカンガラ国が消滅し、パンジャブ(ランバゲラオンのジャギールを与えられた王朝)に併合される
- 1810年7月20日 04:00|セントビンセント/イギリス| |||<就任>イギリス領セントビンセント総督代行「ロバート・ポール」(4回目~18120807)
- 1810年7月20日 04:00|アンティグア・バブーダ/イギリス| |||<就任>リワード・カリビ-諸島総司令官・総督「ヒュー・エリオット」(~18131112)
- 1810年7月25日 05:00|コロンビア/スペイン| |||<就任>ヌエバ・グラナダ 最高統治政府議長「ホセ・ミゲル・ペイ・イ・ガルシア・デ・アントラテ」(~18110401)
- 1810年7月26日 04:00|グレタダ/イギリス| |||<就任>グレタダ 総督「フレデリック・メイトランド」(4回目~10月)
- 1810年7月26日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化7年6月25日|<就任>大坂城代「大久保安芸守忠真」(~文化12. 4. 16)
- 1810年7月27日 00:00|アイルランド/デンマーク| |||<就任>アイルランド 総督「委員会:ステファン・トル・アリンソン/イスレイル・エイナルソン/ラヌス・フライテンズベルク」(~1813年7月)
- 1810年7月30日 04:00|バルバドス/イギリス| |||<就任>イギリス領バルバドス元帥兼総督「ジョージ・Beckwith卿」(~18140623)
- 1810年8月 04:30|ベネチア| |||<就任>ベネチア臨時政府主席「Martin Tovar Ponte」(~18110302)
- 1810年8月3日-09:00|日本| ||文化7年7月4日|<死去>初代鶴賀新内(64歳)新内節太夫
- 1810年8月7日-04:00|レユニオン/イギリス| |||ポナルト島からブルバドス島に名前を戻す
- 1810年8月8日-09:00|日本| ||文化7年7月9日|<死去>初代植村文楽軒(60歳)人形浄瑠璃の文楽座座元
- 1810年8月8日-09:00|日本|山形県山形市|文化7年7月9日|<死去>出羽山形藩6万石「秋元永朝」(73歳)⇒五男「秋元久朝」が継ぐ(⇒天保10(1839)年4月13日、隠居)
- 1810年8月9日 04:00|バミューダ/イギリス/オランダ| |||イギリス軍がネラのオランダ 砦ベルギー-砦を占領し、パング 諸島の支配権

1810迄 (2641件)

を獲得

- 1810年8月10日 05:00|エクトル/スペイン| ||| スペイン軍、反乱の首謀者を処刑/キ市民は蜂起し数日間におよぶ市街戦 /アゲイエンシア長官を名目的トップとして承認し、実権をクリオージョの評議会が握る臨時政府を樹立
- 1810年8月13日-04:00|モリスヤス/イギリス| ||| マニエル・ピムの下、イギリス軍がポート・イン・リアルムの港にあるパース島を占領 (~28日)
- 1810年8月13日-09:00|日本|兵庫県小野市|文化7年7月14日|<死去>一柳末英 (53歳) 前播磨小野藩主
- 1810年8月15日-01:00|フランス| ||| 1805年のナポレオン軍の勝利を記念して、ヴァントーム広場に記念柱が作られる
- 1810年8月16日-01:00|ジブラルタル/イギリス| ||| <就任>イギリス領ジブラルタル知事代理「Colin Campbell」 (~18140825死去)
- 1810年8月28日 00:00|イギリス| ||| <死去>9代マリ伯「フランス・ステュアート」
- 1810年8月28日 00:00|イギリス| ||| <就任>10代マリ伯「フランス・ステュアート」先代の息子 (~18480112死去)
- 1810年8月30日 04:00|グアドループ/イギリス| ||| <就任>グアドループ知事「Sir Alexander Forrester Inglis Cochrane」 (~18130626)
- 1810年8月30日-09:00|日本| ||文化7年8月|<刊行>八隅蘆庵「旅行用心集」
- 1810年8月30日-09:00|日本| ||文化7年8月|<刊行>洋画家・思想家、司馬江漢「独笑妄言」
- 1810年9月9日 01:00|アリス諸島/ポルトガル| ||| <就任>アリス諸島総司令官「Aires Pinto de Sousa Coutinho」 (~18170514)
- 1810年9月9日 05:00|エクトル/スペイン| ||| <就任>スペイン領キ自治政府議会議長「カルロス・デ・モントウファー・イ・ラレア・スルバノ」 (キ大審問院王室委員) (~22日)
- 1810年9月14日 07:00|メキシコ/スペイン| ||| <就任>ヌエバ・イスパニヤ副王「ヌエバ・イスパニヤのレニオン侯爵フランシスコ・ハビエル・ベネクス・デ・サベドラ」 (~18130304)
- 1810年9月15日-09:30|オーストラリア| ||| シドニーとハママツ間の馬の競争が50キニーをかけて行われる
- 1810年9月16日-01:00|ドイツ| ||| <初演>カール・マリア・フリードリヒ・エルスト・フォン・ヴェーバー 《歌劇「シルヴァーナ」》
- 1810年9月16日 07:00|メキシコ/スペイン| ||| メキシコで、イタルゴ神父の指導するインディオの反乱が起こる/スペインに対し独立戦争開始
- 1810年9月18日 04:00|チリ/スペイン| ||| <就任>チリ総督・司令官「(第1)軍事政権:ラコンスタ伯爵マテオ・デ・トロ・イ・ザンブラノ・イ・ウレタ (軍事政権大統領)/サンティアゴ 司教ホセ・アントニオ・マルティネス・デ・アルト・ウナー・デ・イ・カリス/ラ・フータ・イ・ロスコ侯爵フェルナンド・ファン・マルティネス・デ・ロサス・コリア (1回目)/イグナシオ・デ・カラ・クエパス (1回目)/ファン・エンリケ・ロサス・フエンテス (1回目)/フランシスコ・ハビエル・デ・レイト・フェルナンデス」 (~18110704)
- 1810年9月18日-09:00|日本| ||文化7年8月20日|<死去>清原雄風 (64歳) 歌人
- 1810年9月21日-09:00|日本| ||文化7年8月23日|<死去>近松徳三 (60歳) 歌舞伎・狂言作者
- 1810年9月22日 05:00|エクトル/スペイン| ||| <就任>スペイン領キ上級政府議会議長「ルイス・デ・カスティージャ伯爵マニエル・マリア・ホセ・ホアキン・ベニート・ハスカル・クレメンテ・フェルミン・ルイス・ウリエス・デ・カスティージャ・イ・フエーハダス」 (~18111011)
- 1810年9月22日 06:00|アメリカ| ||| <就任>西フロリダ 共和国会議議長「John Rhea」 (~10. 10)
- 1810年9月23日 07:00|メキシコ/スペイン| ||| イタルゴの率いる群集、グアナフアトを占領/ベニコンサルと富裕クリオージョ数千を虐殺し、財産を略奪
- 1810年9月24日-09:00|日本|大阪府大阪市|文化7年8月26日|<死去>5代芳澤あやめ (56歳) 歌舞伎役者
- 1810年9月25日 06:00|日本|秋田県|文化7年8月27日|<文化7年羽後地震>8つ半 (15時頃)、マグニチュード 6. 5クラスの大地震/死者57人とも163人とも、家屋、寺全壊1003戸、同半壊400戸、同大破387戸
- 1810年9月29日-09:00|日本|愛知県田原市|文化7年9月|田原藩、文武学校成章館を創立
- 1810年10月 04:00|グレナダ/イギリス| ||| <就任>グレナダ 総督代行「エイブラム・チャールズ・アディ」 (4回目~11月)
- 1810年10月1日-01:00|サンマリノ| ||| <就任>サンマリノ共和国執政「アントニオ・オフリ」 「マリノ・フランチェスコニ」
- 1810年10月1日 00:00|ポルトガル/フランス| ||| <就任>フランスのポルトガル司令官「リヴァリ公・エリック 大公アントレ・マセ」 (~18110305)
- 1810年10月1日 00:00|ポルトガル/フランス| ||| コインブラとポルトガルの一部をフランスが占領 (~18110305)
- 1810年10月7日 03:00|ウルグアイ/スペイン| ||| <就任>モンテビデオ総督「Gaspar de Vigodet」 (1期目~1811. 1)
- 1810年10月8日 05:00|エクトル/スペイン| ||| 執行部、サンタフェからの分離を宣言/ついで最高評議会が独立を宣言
- 1810年10月10日 06:00|アメリカ| ||| <就任>西フロリダ 共和国条約議会議長「John Hunter Johnson」 (~11. 21)
- 1810年10月10日 07:00|メキシコ/スペイン| ||| イタルゴの軍勢サテカス、サンルイス・ポトシ、バリアトリ (現シダ・イタルゴ) を落とし、メキシコシティに接近
- 1810年10月11日 05:00|エクトル/スペイン| ||| <就任>スペイン領キ上級政府議会議長「キ司教ホセ・デ・クエロ・イ・カセド」 (~18110909)
- 1810年10月11日 07:00|メキシコ/スペイン| ||| ホセ・マリア・モロス・イ・パボン神父 (当時45歳)、イタルゴに続きメキシコ南部で蜂起
- 1810年10月12日-01:00|ドイツ| ||| <開催>第1回カトバーフェスト (ミュンヘン) ビール祭り
- 1810年10月15日-09:30|オーストラリア| ||| シドニーの大スポーツ大会開始。最初の本格的競馬の開催。闘鶏、拳闘、徒競走などが行われる
- 1810年10月17日-01:00|ドイツ/ロシア| ||| ロシアとプロシヤが反仏の軍事協定を結ぶ
- 1810年10月17日-09:00|日本|東京都|文化7年9月19日|<死去>加藤遠塵斎 (77歳) 狩野玉燕の門人、経文を以て仏像を画く
- 1810年10月20日-09:00|日本|滋賀県高島市|文化7年9月22日|<死去>近江大溝藩2万石「分部光邦」 (25歳) =>11月19日、長男「分部光寧」が継ぐ (=>天保2 (1831) 年3月10日、隠居)
- 1810年10月27日 06:00|アメリカ/スペイン/メキシコ| ||| マティソン米大統領、西フロリダの併合を宣言/ルイジアナ州知事クレアボーン、パ

1810迄 (2641件)

ルイイット川まで進み、ルイジアナ領を宣言

- 1810年10月28日-01:00|ドイツ| ||プロシエンのルデンベルク首相が、経済再建のためギルト制(ツフト)を廃止し、営業の自由を承認
- 1810年10月30日 07:00|メキシコ/スペイン| ||イダルゴの革命軍、メキシコ市に迫りモンテ・デ・ラス・クルセスでスペイン軍と対決、反乱軍側の勝利/犠牲者の多さからメキシコ市占領を断念
- 1810年11月-01:00|クロアチア/フランス| ||<就任>クロアチアのフランス執事(カルシュタット)「ジョルジ・伯ウァーノ」(~1811年6月)
- 1810年11月 04:00|グレナダ/イギリス| ||<就任>グレナダ総督「フレデリック・メイトランド」(5回目~18110506)
- 1810年11月2日-01:00|ドイツ| ||<死去>ホエントツォレルン=ヘンゲン侯国「Hermann」
- 1810年11月2日-01:00|ドイツ| ||<就任>ホエントツォレルン=ヘンゲン侯国「Friedrich」(~18380913死去)
- 1810年11月3日-01:00|イタリヤ| ||<初演>シヨアキーノ・ロッシーニ《歌劇「婚約手形」》
- 1810年11月3日 05:00|ハイチ| ||アンドレ・リゴアがヘンションに対し反乱。南部諸県をハイチ共和国から分離
- 1810年11月6日 07:00|メキシコ/スペイン| ||メキシコ軍が反撃を開始し、メキシコ反乱軍がメキシコ市から撤退
- 1810年11月7日-05:30|インド| ||<就任>ティルヴァタムコ王国摂政「ラニ・ガウリ・ラクシュミー・バイー」(1回目~18130416)
- 1810年11月7日-05:30|インド| ||<即位>トラヴァンコール王「ウーリ・ラクシュミー・バイー」(~1815年)
- 1810年11月8日-09:00|日本|千葉県安房郡鋸南町|文化7年10月12日|<死去>安房勝山藩12000石「酒井忠和」(36歳)⇒次男「酒井忠嗣」が継ぐ(⇒嘉永4(1851)年9月11日、死去)
- 1810年11月10日 00:00|イギリス| ||<死去>3代ダートマス伯「ジョージ・レック」
- 1810年11月10日 00:00|イギリス| ||<就任>4代ダートマス伯「ウィリアム・レック」先代の息子(~18531122死去)
- 1810年11月10日 04:00|アルバ/イギリス| ||<就任>アルバ島イギリス司令官「John Harrison Church」⇒「Hartmann」
- 1810年11月11日-01:00|ルウェー| ||<就任>ルウェー総督代行「ヘッセン=カッセル方伯フリートリヒ」(~18130522)
- 1810年11月11日 05:00|コロンビア| ||カタヘの参事会、「カタヘ共和国」の独立を宣言
- 1810年11月11日-09:00|日本|茨城県土浦市|文化7年10月15日|<死去>常陸土浦藩95000石「土屋寛直」(16歳)⇒翌年11月23日、養子「土屋彦直」が継ぐ(⇒天保9(1838)年12月7日、隠居)
- 1810年11月12日-01:00|スイス/フランス| ||スイスのヴァレー地方がフランスに併合される
- 1810年11月12日 00:00|フェロー諸島| ||<就任>フェロー諸島首長(コペンハーゲン)「Verner Jasper Andreas」(~18160522)
- 1810年11月13日 04:00|ホーランド| ||<就任>ホーランド聴問庁長官「ファン・セル・カステリ(革命政府)」(~1811年)
- 1810年11月16日-09:00|日本|東京都墨田区|文化7年10月20日|<大相撲>文化7年10月場所「江戸本所回向院」(10日間)優勝:(西大関)雷電, 7勝1敗1分1休
- 1810年11月17日-01:00|スウェーデン/イギリス| ||スウェーデンがイギリスに宣戦布告
- 1810年11月21日 06:00|アメリカ| ||<就任>フロリダ州知事兼軍最高司令官代理「John Rea + John Hunter Johnson」(~29日)
- 1810年11月29日-04:00|モーリシャス/イギリス| ||<就任>イギリス軍モーリシャス司令官「ジョン・アバークロンビー」(~12. 3)
- 1810年11月29日 06:00|アメリカ| ||<就任>フロリダ州知事兼軍最高司令官「Fulwar Skipwith」(~12. 10)
- 1810年12月-04:00|ロシア/イギリス| ||ロシア、「大陸封鎖令」に背き、「対英貿易」を再開
- 1810年12月 07:00|メキシコ/スペイン| ||バリアドリで地方代表による議会結成をよびかけグアラハラに進軍し新政府を設置、奴隷解放と、農民への土地付与を実施
- 1810年12月3日-04:00|モーリシャス/イギリス| ||<就任>イギリス植民地モーリシャス総督・最高司令官「ロバート・タウンゼント・ファーカ卿」(~18230612)
- 1810年12月3日-04:00|モーリシャス/イギリス/フランス| ||イギリス軍が仏領フランス島(ポートルイス)を占領
- 1810年12月3日 04:00|グアドループ/イギリス| ||イギリス軍が、フランスが支配しているアンティル諸島のグアドループを占領
- 1810年12月4日 06:00|コスタリカ/スペイン| ||<就任>コスタリカ総督「ファン・デ・デ・イオステ・アヤ・イ・グティエーニョ」(7. 3から軍総督~1819年没)
- 1810年12月6日-07:00|タイ| ||<即位>ナン王国第8代国主マナーワート(~18250413)
- 1810年12月6日-09:00|日本|熊本県熊本市|文化7年11月10日|<交替>肥後熊本藩54万石「細川斉茲」隠居⇒三男「細川斉樹」が継ぐ(⇒文政9(1826)年2月12日、30歳で死去)
- 1810年12月10日 06:00|アメリカ| ||西フロリダ共和国はルイジアナに組み込まれた
- 1810年12月13日-01:00|ドイツ/フランス| ||<離脱>ライン同盟:オランダ公国、ザルム=キルブルク侯国、ザルム=ザルム侯国⇒フランス帝国に併合
- 1810年12月20日-04:00|レユニオン/イギリス| ||<就任>ブルボン島知事「Henry Sheehy Keating」イギリス(1期目~18110426)
- 1810年12月21日 04:30|ベネチア| ||ベネチア憲法が公布され、第一共和国(ベネチア諸州連合)がスタート
- 1810年12月23日 00:00|イギリス| ||<死去>4代クィーンズベリー公・3代マーチ伯「ウィリアム・ダグラス」
- 1810年12月23日 00:00|イギリス| ||<就任>4代マーチ伯「フランス・ウィームズ=チャーチス=ダグラス」(⇒18260808兼8代ウィームズ伯~18530628死去)
- 1810年12月23日 00:00|イギリス| ||<就任>5代クィーンズベリー公「ヘンリー・スコット」3代ハル公(~18120111死去)
- 1810年12月23日 00:00|イギリス| ||<就任>6代クィーンズベリー侯「チャールズ・ダグラス」(~18371203死去)
- 1810年12月26日-09:00|日本| ||文化7年12月|小通詞末席の吉雄権之助が英語研究書「諸厄利亜語和解(あんげりあごわけ)」第1巻を編集
- 1810年12月26日-09:00|日本| ||文化7年12月1日|<死去>初代歌川国政(38歳)浮世絵師/特に役者の似顔を描く
- 1810年12月26日-09:00|日本|東京都千代田区|文化7年12月1日|<加増>清水徳川家「徳川菊千代」賄料3万俵(⇒文化12(1815)年2月9日、「徳川斉順」に改名)
- 1810年12月29日-09:00|日本|東京都|文化7年12月4日|<死去>3代瀬川菊之丞(60歳)歌舞伎役者
- 1810年12月31日-08:00|インドネシア| ||<即位>シヨグジャカルタ・スルタン「Hamengkubuwono3世」(~18111228)